

わが国唯一の
空飛ぶ円盤専門誌

UFOと宇宙 第18号 昭和51年6月1日発行 定価350円 購読料250円 郵送料別 2月28日印刷 印刷部 印刷部 印刷部

UFOと宇宙

UFOs & SPACE
隔月刊・1976・6月号

UFOと宇宙科学

No.18

— 森林伐採工 —
トラビス・ウォルトンのUFO同乗事件 高梨純
UFOは地球の救済に来るのか(完) UFOは放射能汚染を浄化した? O・ウィンダー
私は宇宙人のクビをすげかえた! 深夜の国道で起きたコ
ンタクト事件レポート
連載科学記事 **(続)宇宙・引力・空飛ぶ円盤(1)** レナード・クランプ

UFOインタビュー/岡崎友紀

四国・高松に空飛ぶ円盤飛来!
■解説99頁■

好評発売中

UFO写真300とその解説!

●空飛ぶ円盤シリーズ●

高梨純一著 ¥900
空飛ぶ円盤騒ぎの発端

黒沼 健著 ¥900
空飛ぶ円盤の謎と怪奇

G・アダムスキ・久保田八郎 ¥900
空飛ぶ円盤の真相

平野威馬雄編 ¥980
ヒューマノイド 空飛ぶ円盤乗者

高梨純一著 ¥850
空飛ぶ円盤の跳梁

A・ミッシェル・田辺貞之助訳 ¥900
空飛ぶ円盤は実在する

世紀の謎をとらえる!

世界のUFO写真集

高梨純一 編著

B6・美麗カバー付308頁 ¥1500

世界各国で撮られた驚異のUFO写真を広く収録・網羅し、体系的に構成すると共に、その1枚1枚に詳細・正確な解説とデータを付した、UFO写真集の総まとめの決定版。円盤ファン、専門研究者にとってはまさしく貴重な写真資料集として必備の書といえる。

写真/一二〇頁 極上A
ト紙使用 収録写真三〇〇
枚(カラー六枚)
解説/8P2段組一八〇頁

●東京都文京区本郷5-30 振東6-141750●

高 文 社

●京都市左京区百万遍 振京23523●

鷹書房“空とぶ円盤”シリーズ

宇野哲二著

B6判 ¥780

空とぶ円盤

古代文明と宇宙人

出版社の取材旅行に同行した著者が、イングラント、ブルターニュの巨石文化遺跡に見たものは何であったか? 異遊星人の痕跡は、イースター島にもギョレメにもパピロンにもモヘンジョ・ダロにもあった。古代史を引き考古学に照らし、空とぶ円盤への旅を語るこれは、UFOエッセーに新分野を開いた推理的紀行といわれる。他に「モンテビデオの円盤基地」「円盤の殺人」「洞窟にすむもの」等海外円盤リポートを収める。

“円盤”大陸

アフガニスタン農村調査隊に参加した著者が見たパミール高原の爆発と、遊牧民が描いた黒い円盤とは関係がないか。シルクロードにかつてすんだと伝えられる「驚獅子」の出土にふれた著者がたどる、チベット地底伝説―南極極地化異変―アマゾナ洞窟都市のコンテクステイが語るものは何だろうか? 円盤人の可能性を試みた立論として注目されるシリーズII。他に、十字軍にかかわる円盤リポート、大戦秘話に関する円盤リポート、地中海・中東における円盤リポートを収める。

地下のUFO海のUFO

タッシリの、顔のない岩絵はサハラ地下海から来たもののモニュメントではないか。エトシヤ水湿地の砂クラゲと水惑星との関係! サハラ洞窟人とクラゲ形巨石との関係! 地底と宇宙との逆説的相関を示唆する事件の顛末を語るサハラ・ルポ。北スコットランドの孤島の旅に始まる、北海の葉巻形UFOとバイキングのUFOに関する歴史的エッセー。パミューグ島の「少女の死」事件を手がかりに構成する。海のUFO。リポート。火星人に会ったあとのアリンガム氏はどうなったか。スイスのサナトリウムに現われた一英人との接触の糸をたどり、その遺著を手がかりに数奇なる運命をさぐる伝奇的エッセーを収む。

鷹書房
東京・文京・後楽一四一
電話〇三(八一五)五五二三
振替 東京 一三二五三



《口絵写真》 金剛山にUFO出現つづく
●カラー 雲間から強烈な光跡キャッチ
青葉山から垂直に上昇
突如、星が動き出した！
金閣寺上空にオレンジ色の飛行物体



「田中君ふたたび撮影に成功！(P26)」より

同僚6人の眼前で彼は消えた！

森林
伐採工

トラビス・ウォルトンの

高梨純一 8

UFO同乗事件

〈写真〉発光体、箱根から富士へ直線飛行

19

UFOは地球の救済に来るのか(完)

20

UFOはすでに放射能汚染大気
を浄化し地球を救っていた？

オットー・B・ワインダー

田中君ふたたび撮影に成功！

26

UFO
インタビュー

私はUFOを見た

☆岡崎友紀さんの巻☆

28

アダムスキー型円盤が大接近！

32

ミュージシャン二人の頭上に数秒間静止した

私は宇宙人のクビをすげかえた！

38

本誌特別取材 世にも不思議な事件が発生

■月で何があったのか—アポロ情報再検討

葦沢潤一郎

46

アポロ飛行士とNASA—ナゾの交信

マヤと飛鳥を結ぶ宇宙人の遺産

竹田茂生

53

《UFOアンケート》 UFOの飛行目的は地球観測と旅行？

54

地軸が傾き大変動がやってくる

石井順造 56

コマの運動をモデルに地球自転軸の重要性を考察

墨田公園でのおかしな体験

60

UFO目撃レポート 62

UFO情報 68

科学ニュース 74

連載科学記事

レナード・クランプ

(続)宇宙引力か空飛ぶ円盤(1)

81

空飛ぶ円盤は重力場推進方式で飛ぶ！ 英国の科学者ク
ランプが画期的な推進法を発見、見事な理論を展開した。

声—OPINIONS 94

〈表紙写真説明〉

四国・高松に空飛ぶ円盤飛来！ 99

目次イラスト 松岡吉樹

本文イラスト 松岡吉樹

池田雅行

作 園 石坂 清



撮影データ・アサヒペンタックス F1.4 開放 40秒 スカイライトフィルター使用

奈良県

金剛山

金剛山にUFO出現つづく



奈良県吉野郡の金剛山周辺では2、3年前からUFOらしいオレンジ色の飛行体が地元住民によってたびたび目撃されてきた。西吉野村の小学校教員・弓場武さん(31歳)も目撃者のひとり。彼は昨年夏以来多数の写真撮影に成功している。右の写真は昨年11月3日午後7時50分頃、西吉野村の東側山上から光体が下降してくるところをとらえている。途中から別の光体が現れ同一方向へ移動している。上の2枚は今年3月27日午後8時10分頃撮影されたもの。光体は途中で旋回を始め北の空に消えたという。

雲間から強烈な 光跡キヤッチ



東京
八王子

撮影データ・コニカC35 開放 40倍ズーム望遠鏡使用(2枚共通)

宮 城 県

仙 台

青葉山から 垂直に上昇

東北・仙台市の会社員・赤間昭夫さん(28歳)は昨年10月以来今までに10数回もUFOと思われる物体を目撃してきたが、11月2日の夜、初めてこの飛行物体をカラーフィルムにおさめた。赤間さんによると、この物体は青葉山の山腹のあたりからほぼ垂直に上昇し、南に向かって次第に光度を変化させながら飛行し、やがて視界から消えたという。この間、約2分。光跡の下に写っている白い光は火星らしいということである。

昨年10月のある日、時刻はおそらく午後8時頃、向山正二さん(東京都八王子市在住、37歳、公務員)は自宅近くの上空に強烈な光を発見、カメラにおさめた。空はかなり厚い雲であわられていたが、光はその雲をつき通して地上にとどいた。この光はいったい何を意味しているのだろうか？



突如、星が動き出した!

群馬県桐生市の伊藤日出夫君(15歳)は天文好きの工業高校1年生。3月7日深夜11時50分頃、彼は仲間の手薙誠一君と夜空を見上げていて見えない星を発見した。ところが、星と思ったその光体は突如オレンジ色の光を出しながら動き出し減光したり点滅しながら約2分後に南の空に消えた。前日も同じような光体を見ていた伊藤君はその夜、用意した小型カメラで左の写真の撮影に成功した。



京 都
金 閣 寺

この2枚の写真には同一の物体が左上に写っている。ネガにキズ、ゴミの付着などがないことから、なんらかの飛行物体ではないかと思われる。昨年11月2日、京都旅行中にこれらの写真を撮った名古屋市の増田学さん(電力会社勤務・26歳)は「飛行船かもしれないが、それにしては斜めに傾いて飛行するのはおかしい」という。

群馬県

桐生



金閣寺上空に
オレンジ色の飛行物体



同僚六人の眼前で彼は消

森林伐採工とラピス・ウォルトン
のUFO同乗事件

一本の青緑色の光線が 閃いて……

昨年（一九七五年）の十一月五日の夕暮時、アリゾナ州ヘーバーの南十五マイルばかりの所にあるアパッチ・シットグリーブズ国有森林で、朝からチェイン・ソウを使って木を伐り倒していた七人の労働者たち——監督のマイケル・ロジャーズ（28）、ケン・ビーターズ・ウォルトン（22）、デューイン・スミス（19）、アレン・ダリス（21）、ジョン・グレート（21）、ステイプ・ピアース（17）の六人——は、それから半刻もたたぬうちに、そんな途方もない出来事が起ころうとは、予想もしていなかったにちがいない。

この一団の森林労働者たちは、営林局との契約で、同森林の木を伐り倒し、適当に間引きするために働いていたもので、伐り倒した幹から切り取った枝などは、後で燃やすために、あちらこちらに高く山盛りしてあった。

やがて、黄昏時が迫ってきて、太陽が西に傾き始めたので、一同は仕事を片づけ、ロジャーズが運転するトラックに乗って、家路につき始めた。

トラックは、デュアル・キャブ（複座席）の一九六四年型インターナショナル・クリュー・キャブ・トラックで、

空飛ぶ円盤搭乗者による人間の誘拐事件がまた起こった。誘拐されたのは二十二歳の森林伐採工トラビス・ウォルトン、場所は米国アリゾナ州スノウフレイクの森林地帯である。しかも、今度の場合、六人もの目撃者がいたのである——

前の操縦席には、ハンドルをにぎったロジャーズの右側に、ピーターズをばさんでトラビス・ウォルトンが座り、残りの四人は後の座席に座っていた。

そのトラックがほんの二〇〇ヤードばかりしか行かなかったとき——時刻にしてちょうど午後六時十五分ごろ——後の座席に坐っていたダリスが、トラックの前方の右手の方向に、松の木の茂みを通して、何か黄色っぽい輝きが見えるのに気がついた。

それを聞いて、その方向に目をやったウォルトンは、初め夕日の輝きだろうと思ったが、よく考えてみると、その輝きは北西の方向に当たっていて、太陽の沈む方向とは少しずれていることに気づいた。

その間にも、トラックは、時速五マイルばかりのゆっくりした速度で、高い丘のわん曲した道を右曲がりによつとゴトと登って行き、その向こうの光景がパッと一望に見渡せる切り開きの

場所に出た。

そのとき、前方に展開していた光景は、まことに驚くべきものであった。

トラックの右手二〇米から三〇米後の所に、ちょうど二個のバイ焼きナベを上下向かい合わせにくっつけたような形をした明るい輝いた物体が一つ、切り枝などを積み上げた山の上空わずか四米半から六米位のところに、ゆっくりと滞空していた。

その「ナゾの飛行物」の大きさは、切り枝の山の大きさと同じ位——つまり、直径四米半位で、高さは二米半位に見え、「今点灯したばかりのコールマン灯の光」のような色に輝いており、その胴体の輝きは、図のようにいくつもの仕切りで区切られているように見えた、という。

この思いがけない光景を目にするや否や、ウォルトンは、やにわに「車を停めてくれ！」と運転しているロジャーズに向かって叫び、それが完全に停まらない前に、扉を開けてトラックから

跳び降りて、早足で、その物体が滞空している方向へバタバタと近づき始めた。

そのとき、トラックの中に残っていた人々は、その物体の方向から何か民間旅客機の客席についている警告ブザーの音のようなピーピーというような音が無気味に聞こえてくるのを耳にし、またその後、ウォルトンが切り枝の山の手前で立ち止まって、そのナゾの物体の方向を見上げたとき、急に「発電機が動き始めたときのような音」がまき起こったのを耳にしている。

車を運転していたロジャーズは、車の操縦に気をとられていて、他のものたちが気がついたその物体には始め気がつかなかったが、「車を停めてくれ！」と叫んだウォルトンの声に応じてあわててトラックを停めた後、見上げて、前記のような音のほかに、さらにゴロゴロというような音をも耳にしている。

そういう音と共に、突然その物体は、ユラユラとその中心軸のまわりに揺れ動き始めた。

その次の瞬間、数秒間その物体の手前に立ち止まって、その物体を見上げていたウォルトンが、切り枝の山の向こう側にまわろうと、右手へ足を一歩ふみ出したとたん、ピカリッと一閃、まばゆい青緑色の強烈な光線が一つ、その物体から放射されて、ウォルトンの頭が胸かのどこかをうった。とたん

に、ウォルトンの体全体が、パッと明るく輝くのを一同は見た。

次の瞬間、ウォルトンの体は、両手を宙にひろげ、頭をうしろにのけぞらせた格好で、約三十センチばかりも宙にとび上がった！

そのとき、ロジャーズは、そんな現場からいつでも逃げ出せるようにと車にエンジンをかけていたので、その光線がウォルトンを射たときの光景は目撃していないが、その光線の輝きがピカッとあたりの木に反射したのに気がついて、あわててその方向に目をもとしたとき、ちょうどウォルトンの体からのもんどりうって浮かび上がったという光景を目撃した。

それを見ると、ロジャーズはあわてて車をスタートさせ、一同は命からがらの思いで、現場から全速力で逃げ出した。

その最後の瞬間、仲間の中の一人だけが、宙にもんどりうったウォルトンの体が、地面に強く叩きつけられるのを目撃していた……

その間、わずか一分足らずの短い間の出来事であった。

ウォルトンはどこへ行ってしまったのか

命からがら恐怖の現場を逃げ出した労働者たちは、四分の一マイルばかり

行ったところで、ようやく気持をおししめて車を止め、これからどうしようか、と話し合った。

そのとき、ロジャーズは、今来た方向の木の間にぐれに、明るく輝いた光りものが一つ上昇し、北東の方向に向かって飛び去るのを目撃した。

そこで、一同が、これからすぐまたもとの現場へもどって、ウォルトンがどうなっているかを見るべきだ、ということに意見が一致して、すぐさま車をひきかえして、ものの十五分もたたぬうち（その出来事が起こってから）もとの現場にたどりついたのだが、もうそのときには、どうしたことが、その不思議な飛行物の姿はももちろん、ウォルトンの姿も、全くどこにも見つからなかった！

これは一同には全く予想外であった。彼らは当然ウォルトンがそこにぶっ倒れているものと予想していた。なのに、彼は一体どこへ行ってしまったのだろうか？

あれだけ強烈な光線の直撃を受けたのに、彼は起き上がってどこかへ立ち去ってしまったのだろうか？ それとも、あの奇怪な飛行物（空飛ぶ円盤?!）にさらわれていったのだろうか？

ともかく、これは届け出ておかなければいけない、と結論した彼らは、近くのヘーバーの町まで行って、その日の午後七時三十五分ごろ、同町に駐在しているナビジョ郡の保安官補チャック・アリソンにこの出来事を届け出した。

アリソン保安官補が後に言っているところによると、その時一同は非常に興奮しており、一人などは涙を流していた、という。

だから、アリソンが言うのには、もしそのとき一同がウソをついていたのだとしたら、「彼らは途方もなくうまい役者たちだ」というわけである。

そこで、現場を見にいこう、ということになったのだが、一同のうち三人は、どうしてもあんな恐ろしいことのある現場にもどるのは嫌だ、と言って拒否した。

そんなこんなで、保安官たちが彼らと共に現場にたどりついたときにはもう午後九時半ごろになっていたが、案の定、ウォルトンの運命がどうなったのか、という手掛りは何一つ発見できなかった。

そこで、翌十一月六日の早朝から、早速そのあたり一帯の大規模な捜索が開始された。

その捜索のために、四十人から五十人位の人々が動員されて、その現場を中心にして約二マイル半の範囲にわたって徹底的な捜索が行われたが、どこにもウォルトンの姿は発見されなかった。

やむなく、午後には捜索が打ち切られて、正式に行方不明者名簿に記入されたが、その週末の十一月八日（土）と九日（日）には、さらにヘリコプタ

ーも用いて、その辺一帯、特に現場から南四分の一マイルから一マイルの範囲内にある地区を念を入れて捜索が行われたが、やはりウォルトンの姿はどこからも発見されなかった。

こうして、二十二歳の一森林労働者の姿はその恐ろしい出来事の後、こつぜんとして人々の前から消えうせてしまったのであった……

すすんでウソ発見器のテストを受けた六人の目撃者

しかしこの出来事は、本当に現実起こった出来事だったのであろうか？

それとも、ひょっとして、その六人の森林労働者がしめし合わせて演じた狂言だったのではないだろうか？

これは、だれでも胸に浮かばせる疑惑で、事件が起こった翌日の十一月六日にはもう早くもそんな疑惑が口にされていたのである。

それを耳にしたロジャーズは、憤然として、自分たち六人をウソ発見器にかけてくれ、と申し出た。

このテストは、十一月十日（月）、同所のホルブルックで、アリゾナ州公衆安全局のウソ発見器の専門家サイ・ギブソンの手で行われたが、その結果、六人のうち五人は何の苦もなくこのテストをパスした。ただ、残りの一人、アレン・ダリスのテスト結果だけ



●トラビス・ウォルトン

は、ちょっとどちらともはつきり結論が出せない、ということになったが、サイ・ギブスの見解では、これは多分、その目撃者だけは、その出来事をあまりくわしくは見ていないせいではなからうか、という。

したがって、彼の見解では、各人が、自分が見たと言っている事柄を、少なくとも自分自身では、たしかに見たと信じていることはたしかであった。これだけ沢山の人が、ウソをついて

いながら、こんなにうまくこのテストをパスするということは、到底考えられないことだ、という。

なお、この二日前の十一月八日には、米国の世界的なUFO研究団体APRO（宇宙現象調査機構。筆者はその日本特別代表）の調査員レイモンド・ジョーダン氏が現地に行つて、現場でロジャーズを中心とする六人の目撃者にインタビューしている。その際、各人の陳述は基本的には完

全に一致しており、また各人別々にその飛行物の図を描かせたところ、全く同一の飛行物の図を描いたという。

また、六人の目撃者のうち、ウォルトンと十二年間もの古いつき合いであるロジャーズなど、その恐ろしい出来事の際の陳述の際、特に強烈な光線がウォルトンをうつた前後の描写の際など、眼に見えて震えているのがみとめられたという！

ただ、空飛ぶ円盤の接近目撃や着陸の際などによく発見される各種の物的証拠（着陸痕、折れた木の枝、遺留物など）や物理的效果（電磁的效果など）については、今度の場合、何も発見されなかった、という。

また、よく着陸跡や滞空跡などで検出される水準以上の量の放射能についても、アリスン保安官補は、十一月六日の捜索の際、調査を行ったが、何ら異常な量の放射能は検出されなかった、という。

こつぜんと戻ってきた トラビス

こうして、空飛ぶ円盤からのナゾの光線の直撃を受けて倒れるという恐ろしい出来事の体験者ウォルトンの消息は、まる五日間何の手掛りもなく不明であったが、十一月十一日の早朝になって、全く思いがけない展開をした。

その朝の真夜中をほんの二、三分まわった頃、トラビス・ウォルトンの妹夫婦の家であるグラント・ネフ家の電話がジャンジャンと鳴った。

出てみると、相手の声は非常に低く、弱々しく、その上何か混乱していて、一体だれがかけているのか、よくわからなかったが、二言三言、言葉を交わしているうちに、それが消息不明だったトラビスの声であることがわかった。おどろいて、問いただしてみると、トラビスはヘーバーの町へ来ていて、そこのあるガソリン・スタンドの公衆電話からかけていることがわかった。

そこで、ネフ氏と、弟の消息をたしかめるためにフェニックスの町から仕事をほったらかしてスノウフレイクまで来ていたトラビスの兄のデュエイン・ウォルトンとが、とるものもとりにあえずヘーバーの町までとんで行って、探してみたところ、案の定、知らせてきたとおりのガソリン・スタンドの公衆電話ボックスの中にくったりと崩れ倒れているトラビスを発見した。その位置は、トラビスが消息を絶った地点から実に十二マイル隔った場所であった！

気がついてみると円盤 の中！

早速ネフ家まで連れもどって、いろ

いる介抱しながら聞きだしてみると、実に思いがけない彼の体験が明らかとなってきた。

トラビスが言うところによると、トラックに乗っていた一同が目撃した青色の強烈な光線が頭に当たったとたん、まるで頭をガンとぶったたかれたような感じがして、気を失ってしまった。気がついてみると、どこか部屋の中で、テーブルの上にねかさされており、胸の下部あたりに何か器具様のものが置かれていた。

その部屋は天井が低いようで、天井がすぐ目の前にあり、そこから明るい光が照射されていた。

体を動かそうとすると全身が痛み、特に頭にはげしい痛みを感じた。

あたりを見まわしてみると、おどろいたことに、彼のまわりには、身長一

・五メートル位の奇妙な外見をした人間類似の生きものが三人つつ立って、彼の様子をうかがっていた。

それらの生きものは、眼だけがギョロッと大きく、鼻や口や耳は異常に小さく、頭には毛がなくて、それらを見たたん、彼は人間の胎児の格好を思いついたという。

体には、褐色のオーバーオールのようなものを着ていたという。

気がついてみると、部屋の中の空気は、重く湿っており、呼吸がしにくかった。

こういうあたりの状況を見てとった彼は、自分のおかれている立場と、それらの奇つ怪な生きものの姿に完全に気持が転倒してしまい、いきなり胸の上の器具をぶっとばして立ち上がるのと、彼らの方へ向かって行った。

はねとばした器具が床に当たったたん、部屋全体がユラユラと揺れたのを覚えている、という。

しかし、生き物たちの方は、彼のこういう激しい反応によっても別にびっくりにした様子もなく、しずかに部屋を出て、すぐ外にある廊下を右手の方へ曲がって行った。

その後、彼はつづいて部屋の外へ出て、生き物たちとは反対の左側の方へつき進んで行ったところ、一つの部屋があったので、中へはいってみると、部屋の真ん中に、腕かけのところにいくつもの押しボタンのようなものがあった椅子があり、まわりの壁面は透明らしく、外の夜空の星のようなものが見えた。

彼は、急に大胆になって、その椅子に坐り、腕かけのところのボタンをあ

れやこれや押してみたところ、外の星が急に動きはじめたので、びっくりして、指をはなした。

そんなことをしていると、突然、青色の衣服を着け、透明な宇宙帽（コスモヘルム）のようなものをかぶった「人間そっくり」の、男の人のようなものはいってきて、自分について来い、というようにジェスチュアをするので、ついて行くのと、エア・ロックを通して外に出、昇降階段をおりて、円盤の外に彼を連れ出した。

そこは、大きな囲いの中で、その中のあちらこちらに、いくつもの円盤状をした物体がとまっているのが目撃された。それらのいくつかは、外見がなめらかで、金属的に見えた。

そこは、照明も内部より明るく、空気も新鮮で、そこへ来てはじめて、彼

は普通に呼吸することができた。

ただ、そこまで来る途中、彼は何度も相手に話しかけて、疑問に答えてもらおうとしたが、相手はたえず微笑は浮かべていたが、彼の問いかけには全く応じようとしなかった。

男はさらに彼を導いて行って、別の円盤の中へ連れこんだ。

その中には、何と、もう三人、人間そっくりのものがいて、その中の一人

は女、あとは男であったが、お互いによく似ていたので、トラビスは、彼らはきつと同一家族のものにちがいない、と思った。

それらの人たちは、彼をそこまで導いてきた男と同じような青色の衣服を

着ていたが、宇宙帽のようなものはかぶっていなかった。

その後、男は、その宇宙帽をぬぐうともせず、そのまま彼をそこへ残して外へ出て行ってしまったが、その後、突然酸素マスクのようなものが彼の顔にかぶせられたと思うと、彼はたちまち意識を失い、気がついたときには、

冷たい地面の上にあおむけに倒れていた、という！

しかし、彼はその際、地面の冷たさと共に、彼の真上をぐんぐん夜空に向かって上昇して行く円盤状の物体から放たれている熱を感じ、またその物体の底面の扉がゆっくりと閉まるのを目撃した、という！



その後、彼が起き上がって見たところ、その道がヘーバーへ通じる道であることがわかったので、その町まで行き、そこのあるガソリン・スタンドに公衆電話があるのを見つけたので、そこから早速妹の家へ電話をかけた、というわけである。

医師による精密検査と 休養

トラビスの妹むこのグラント・ネフと兄のデュエインとが、彼をネフ家まで連れもどしてきてまずしたことは、彼に衣服を着がえさせ、それまで着ていたものを一切、一つの袋につめたことである。

それは、彼がそういう異常な体験をしたという証拠が、何かそれらの衣類に残っていないかどうか、法医学的に調べてもらおうと思ったからであった。

そのとき、彼が少しやせたように思われたので、風呂場のはかりで計ってみたところ、一五四ポンドであった。(ただし、彼が平生何ポンドあったかは報じられていない。ちなみに、彼の身長は六フィート一インチ(約一八五センチ)あるという)

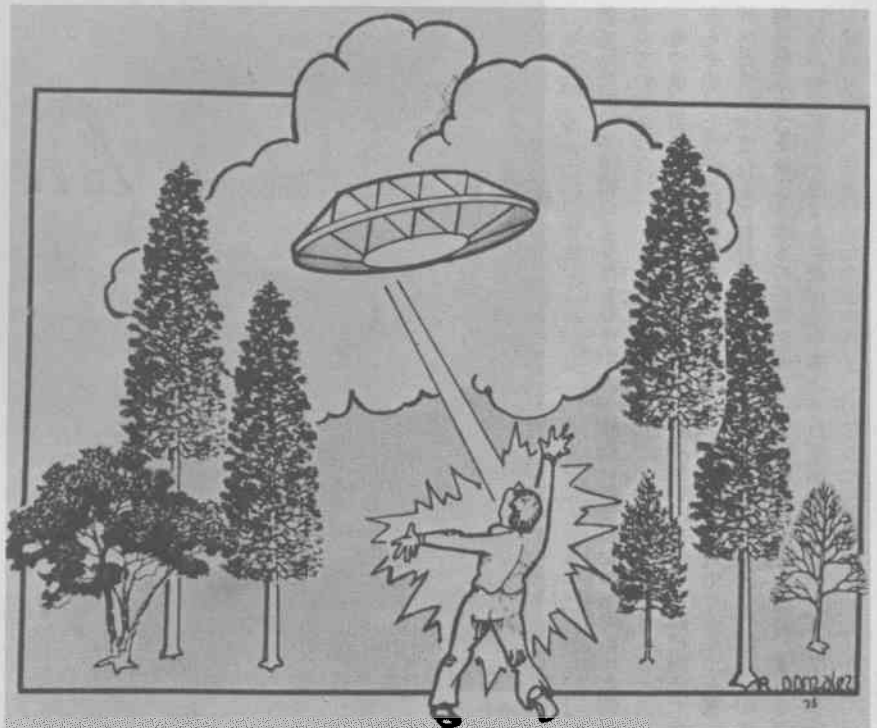
その後、彼は水をガブガブのみ始め、またコッテージ・チーズをいくらか食べたが、急に吐き気がすると言

だした。

そして、その後も彼の言うことは、かなりあいまいで、混乱していたので、兄のデュエインは、彼をフェニックスの自分の家まで連れて帰って、専門の医者にもてもらうことにした。

そこで、早速トラビスをフェニックスまで連れもどってきて、さてどの医者にもてもらうか、と考えたが、ちょうど適当な心当たりがないので、それまでスノウレイクにいたあいだに、「グラウンド・ソーサー・ウォッチ」のビル・スポールディングという人が、NICAPとAPPROと並ぶ米国の三大UFO研究団体の一つ、MUFON(相互UFO研究網)と、アレン・ハイネック教授の「UFO研究センター」(センター・フォー・UFO・スタディーズ)の調査員としてやって来て、いろいろ調査していたのを知っているの、その人に連絡をとって、だれか適当な専門家を紹介してもらい、徹底的な精密検査をしてもらおう、と思った。

ところが、スポールディングは、トラビスがおちいっている危険な健康状態のことは考えないで、ただこういう異常な体験は(これまでの実例から言っても)催眠術をかけて調査する方がよいのだろう、と考えたのだから、精密な健康診断ができる普通の医者を紹介しないで、ウェスト・ホー・ホテルに居をかまえているレスター・スチュワードという怪しげな催眠治療家を



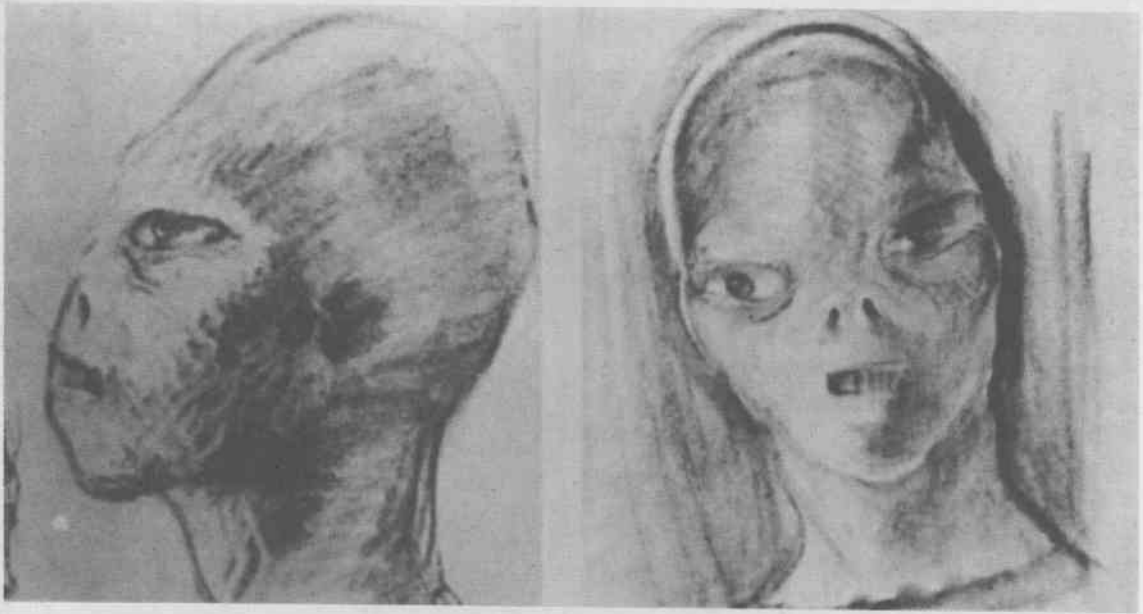
●トラビス・ウォルトンが円盤からの青緑色の光線の直撃をくってのけぞっているところ。APPROのアーチスト、ロバート・ゴンザレスが描いたもの。

紹介してきた。一応そこへトラビスを連れて行ったものの、どうしても一度専門の医者に全身の精密検査をしても

らう必要があると考えたので、同治療師に電話でそういう医師を探してもらったが、なかなか適当な人が見つからず、そのうち、どうも同治療師の資格に疑問があるように思えてきたので、

ほんの十五分か二十分位、同治療師のところに行っただけで、トラビスを連れもどってきてしまった。

ところが、その間に、トラビスがもどってきたということが一般に知れわたったので、同家の電話がジャンジャン鳴り出し、マスコミや一般の好事家からの問い合わせが次から次へとか



●ヒル夫妻を誘拐した宇宙人、2人の陳述をもとに描いたもの。(NICAP会報より)

つてきて、トラビスの気持をしずめることが全くできなくなつてしまったので、ついにやむなく「トラビスはツーソンのある病院にいられてしまった」というウソの情報を流して、やっとその騒ぎをしずめることができた。

しかし、どうしても一度医師の精密検査を受けさせなければいけないので、どうしようか、と思つていたところ、ちょうどそこへ、一度はトラビスがツーソンの病院へ入れられていたという情報にまどわされてツーソン中を病院に当つてみたがどうしても見つからないので、これはやはりまだデュエインの家にいるのだろう、とヤマをかけてきたAPROからの電話がかかつてきたので、そういう事情を説明したところ、それなら自分のところの会員中に適当な人がいるから、それを紹介しよう、ということ、同会員中の専門医師二人を紹介してもらうことができた。APROからの連絡で、そこへ行けば必要な診断が受けられることとなり、またちょうど折よくAPROのところへ、ここ数年来この問題に大きな関心をもっている「ナショナル・エンクワイアラー」紙からの問い合わせがあったので、その事情を話し、同紙の好意で、二日後、ウォルトン兄弟を、マスコミその他からの大騒ぎから避けるために、フェニックス・ホテルに部屋をとつて、そこに移らせることができた。

こうして、この驚くべき出来事の体験者トラビス・ウォルトンを、マスコミやその他のうるさい影響から隔離して、くわしくその話を聞き、またいろいろ調査して、まとめられたのが、上記の詳細である。(同会報一九七五年十一月号にもとづく)

だから、それ以前やそれ以後にそれ以外で発表されたこの出来事に関する報道とは、あちらこちら少しくいちがっている点もあるが、この報道の方が最も真実に近いものと考えてよいと思う。

この出来事の真実性

では、この出来事は、どこまで信用できる出来事なのであるだろうか？

それについては、実は、その後、この出来事が本当に起こったというのは、どうも少し疑わしい………という意見が少し現れてきている。

その根拠とするところは、たとえば、同地では、この出来事の起こるちょうど半月ばかり前の十月二十日、NBCテレビで「UFO事件」という特集番組があり、その中で有名なバーニー・ヒル夫妻の宇宙人による誘拐事件のことをとり扱ったが、その事件とこの事件とはいくつかの点でよく似ており、しかもウォルトンをはじめとするこの事件の目撃者が皆その番組を見ている、ということ、あるいは、デュエインとトラビスの兄弟は前からUFOファンで、これまで何度もUFOを見たことがあると言っており、特にトラビスは「一度それに乗りたい」とまで言っていたこと、など、それに、特に、NICAP(米国空中現象調査委員会)の会員ウィリアム・ビッケル博士が同会に知らせてきたところによると、トラビスは、この出来事の以前にあるラジオ番組に電話をかけてきて、自分は近い中に空飛ぶ円盤に乗る、と言ったので、「頭がおかしい奴」だとわられたので、この出来事を経験した後、また同番組に電話をかけてきて「さあ、一体だれが頭がおかしい奴なんだ」とこねたという噂がある、ということ



●1961年9月17日夜、カナダからの帰り途、空飛ぶ円盤に追いかけられ、ついにつかまって円盤の中へつれこまれ綿密な身体検査をしたうえで記憶を消してもどされたというバーニー・ヒル夫妻。

われる。

その反対に、これまでに紹介したAPROの調査にもとづくこの出来事の詳細を吟味してみると、これまでの同様の実例との幾多の類似点から考えて、たしかに本当に起こったものと考へても無理でない上に、幾つかの点において、たしかに真実のひびきを放っていることに、トラビスの円盤との遭遇については、六人の目撃者のうち五人までが、すすんで受

なのである。
この最後の件については、APROがビッケル博士にたずねたところによると、ビッケル博士はこの噂を保安官代理ケン・コプランから聞いたというのだが、そのコプランにAPROが聞いた話してみると、コプランは、そんな噂は話したことも聞いたこともない、と答えたという。
そんなわけで、これらの報道がどこまでたしかか判然とせぬ上に、これらだけで、この出来事がそれらの人々の共謀によってデッチ上げられたものだと断定するのは、少し無理なように思

けたウツ発見器のテストを楽々とパスしているし(残りの一人については、テストの際、あまりにも興奮しすぎていたせい、とも考えられている)、またトラビスが円盤内に拘留されていたということについては、発見されたとき、彼がやせて、髯ぼうぼうで、疲労感ばいしており、水をむさぼりのみ、その後まだ頭が混乱していてまとまった話ができず、こういう症状は全部その後APROがあっせんした専門の医師の診断で確認されていること(その上、尿検査と血液検査の結果、トラビスが事件当時アルコール類や薬品類などを

摂っていないことも確認されている)、それに最初六人の労働者がトラビスの遭難を保安官事務所へ届け出たとき、皆非常に気持が転倒して、涙を流しているものさえもあり、その後現場へ行ってみようと云ったときにも、その中の三人が、どうしても嫌だと拒否した、ということなど、たしかにこの出来事が単純な共謀作偽の作り話でないことを立証しているように思われる。

例…… 続々と現れる同種の

ところで、これまでの類似実例というところになると、まず思い出されるのは、一九七三年の十月十一日の夕方、米国ミズーリ州のバスカグーラで起こったあの有名な二造船工の誘拐や、前述のベティ・ヒル、バーニー・ヒル夫妻の誘拐などであるが、同種の実例とみなすべきいろんな奇つ怪な出来事は、その前にもその後にも、いくつも起こっている。

その中、その後起こった顕著な実例をあげてみると、一九七三年十月二十八日の早朝、アルゼンチンのバイア・プランカの近くで起こった長距離トラックの運転手ディオニシオ・リヤンカの誘拐(空飛ぶ円盤研究「第七三号参照」、一九七四年十月二十五日の午後、米国

ワイオミング州のリバートンの近くで起こった狩猟中の石油採掘工カール・ヒグドン)の誘拐、それにそれから二カ月と十日ばかり後の一九七五年一月四日の早朝、またまたアルゼンチンで突発した、アルバイトの給仕人カルロス・アルベルト・ディアスの誘拐(この後の二つは「空飛ぶ円盤研究」第七五号か、筆者の近著「UFO日本侵略」(スポーツニッポン新聞社出版局刊)を参照)などであるが、APROは、そのほかにも最近同様の実例がいくつも起こっており、いずれもくわしく調査中であるが、それらとくらべてみた場合にも、今度の出来事は幾多の類似点があり、そのことから、今度の出来事が真実だと考えられる、と述べている。

こういう誘拐はかなりの頻繁に起こっているのではないか?

それらの類似点の中で最も注目すべき点は、そういう「誘拐」の前後において、被害者が普通意識を失い、またその間の体験についても何か夢心地で、そういう体験のほんの一部分しか覚えていない(ときによると、催眠術をかけてその記憶をよみがえらせないと、全く何も覚えていない)ということである。

今度のトラビスの場合も同様で、彼



のに、その間わずか二時間位の記憶しかない、という。

したがって、彼は、無意識のまま円盤の中でいろんな調査や検査の対象となっていたのか、あるいは、今度の場合に限り、いつもの場合とは違って、円盤に突然あまり近寄りすぎた彼を強烈な光線で倒してしまったので、これでは可哀そう、とばかりに円盤の中へ収容して、治療に当たっていたのが、やっと意識をとりもどしたので、人間世界へ帰してくれたものかもしれない。

だが、それはともかく、彼が円盤の中、および別の円盤の中で遭遇した、青色の衣服をつけた人間そっくりの四人の男女は、一体何を意味するのであるのか？

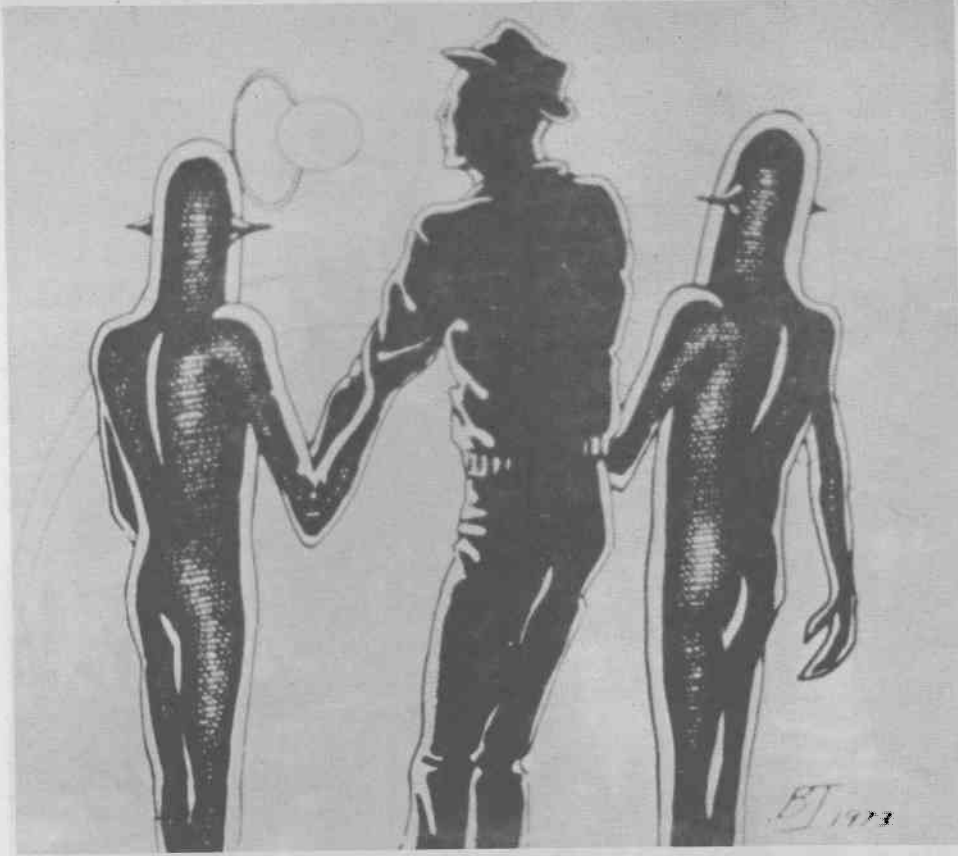
ここで思い出すのは、前記の一九七四年十月二十五日の米国ワイオミング州でのカール・ヒグドンの誘拐の際、彼が何か宇宙船のようなものに乗せられて、彼らが「故郷」と呼ぶ天体へ行ったとき、そこにも五人の人間そっくりの老若男女をみとめ、またその建物の中へ連れこまれて何らかのテストを受けた後、彼が「残念だが、あなたは我々が求めていたような人ではなかったから、地球へ連れもどしてあげる」と言われて、地球へ連れもどされたことである。

では、トライブスが会った四人の男女は、彼らによって誘拐されて、そのま

ま彼らの下で働いている地球人ではないだろうか？……ここでまた思い出すのは、もう十五年以上前、米国各地で、休暇などで自動車で出かけた家族がそのまま車ごと完全に消息を絶つ、という出来事がいくつも起こって、ひょっとするとこれは、空飛ぶ円盤が家族ぐるみ人間をさらったものではないか、と憶測されたことである。(拙著「空飛ぶ円盤の跳梁」(高文社刊)第七章「円盤は舞い襲う」参照)その場合、なぜ家族ぐるみさらうのか、の理由としては、家族ぐるみさらった方が、さらわれたものの気持の動揺が少なくすむ、ということがあげられたが、今度の実例はまさしくそれを立証しているのではないだろうか？

ともかく、前記のカール・ヒグドンの体験談が、真実のものとするれば、彼らは彼らのテストに落第して、「彼らの求めていたような人」ではなかったのだ、地球へもどされたのだが、同様の誘拐が他にも沢山起こっていて、彼らのテストにパスした人々が、そのまま彼らの手許にとどめておかれている……ということが、いくつも起こっているというところが十分考えられる。

それに、他の天体からの飛来者による人間の「徴発」とその利用、ということとは、論理的にも当然考えられることだし、また現に原因不明の蒸発が山ほど起こっているのだから、こういう誘拐がかなり起こっていて不思議では



●1973年10月11日の夕方、米国ミズリー州バスカゲラの波止場跡で魚釣りをしていた造船工チャールズ・ヒクソンを近くに着陸した円盤に連れこむ宇宙人（APROのブライアン・ジェームズが描いたもの）

ない。
また実際、二、三年前、中米で、着陸した円盤から出てきた人が、実は自分は何年か前に消息を絶っただけだれだ、と言って、それが心当たりがある

と言われたという実例が報じられていた。
この実例がどの程度確かなものかは今早急に断定することはできないけれども、論理的に考えた場合、そういう

ことが起こって少しも不思議ではない。

また一方、APROは、この種の実例の場合には、誘拐された人々がその間の記憶をほとんど、または全く残していない実例がかなりあることから、実際には、そういう経験に会って、それに全く気がついていないか、または「時間的な記憶の空白」を不審に思いながらもだれにも話さずにいる場合が、かなりあるのではないかと憶測している。

つまり、本人の知らぬ間に、いろいろと身体検査やテストなどをしてもとされたり、あるいはカール・ヒグドンの場合のように、何らかのテストをして、それにパスをしなかったものを、記憶を消してもどす、ということが、予想以上に起こっているのではないかと、というわけである。

なにも断定することは
できないが――

そこで、問題なのは、そういうふうにして誘拐された人が、今日までどの位いるのだろうか？ということである。また、そういった人々が、どんなふうに使われ、利用されているのだろうか？ということである。

そうなってくると、そういう人たちが、人間との「リエゾン・マン」

（両者の間に立つて連絡をとる人）として利用される、ということも考えられるし、またそういう人々が密命を受けて、人間社会の中にまぎれこみ、いろいろの情報収集を行ったり、何らかの工作に従事する、ということも当然考えられる。

この後者は、もうかなり前から空想的に憶測されてきたことであるが、こういう事態となってくると、そういう想像がかなりの現実味を帯びて我々に迫ってくる。

だが、といっても、こういうことがたしかにもう始まっている、と断定することはできない。

また前記のその他の事柄についても、それらがたしかに現実だ、と断定することはできない。

しかし、いずれも十分に可能性のあることであり、今後十分に留意して、今後の実例の吟味をしなければならぬ。

したがって、ここで私は強調したい。空飛ぶ円盤の研究は遊びではない。

それは、御都合主義的にゆがめてもてあそばされてよいものではない。それは真剣にとり組まなければならない重大問題である。

なぜなら、それには我々地球人類の未来の運命がかかっているのかもしれないからである！

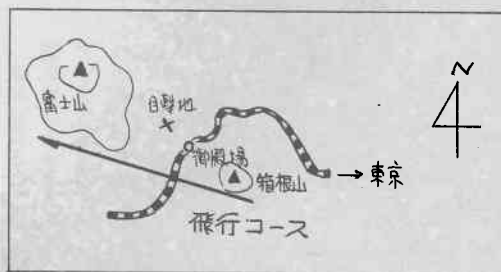
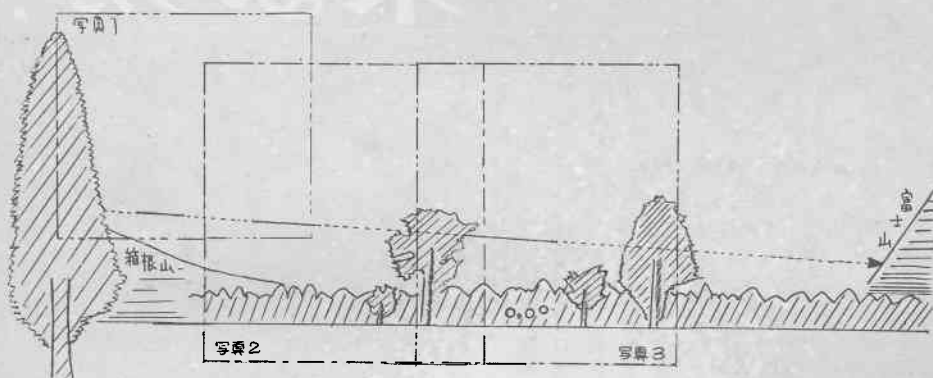
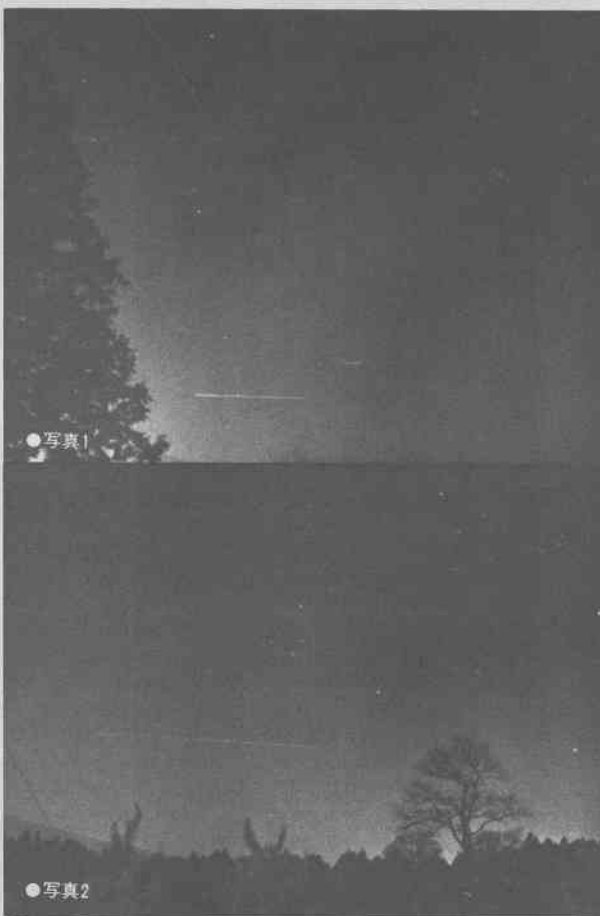
★ ★ ★

発光体、箱根から富士へ直線飛行

御殿場

星屋正君は横須賀市御幸浜に住む少年工科学校の生徒。彼は春休みを利用してUFO観測を行っていた。そして三月二十二日、静岡県御殿場の山中で遂にオレンジ色に輝くUFOを発見、撮影に成功した。時間は午後七時十五分〜三〇分、マイナス二等星ほどの明るさの物体が東南東から西北西（箱根から富士山方向）に向かって一定速度で移動していたという。

（撮影データ・キャノン110E ポケットフジフィルム 露出 一〇〜十五秒。イラストも星屋君が描いたもの）



●写真3

UFOは地球内部に グリッドを建設?

オーストラリアのブルース・キャンパー大尉が書いた書物の中に奇妙な手がある。彼は複雑な計算で裏付けをした説得力のある理論を展開しているが、それによるとUFO群は地球全体にわたって「グリッド」を建設しているというのだ。あるいは古代から再建していたのかもしれないという。この「グリッド」は地中深く埋められた「エネルギー受信装置」から成っており、このグリッドが地球内部から莫大なエネルギーを引き寄せるだろうとキャンパー大尉は考えている。何らかの謎の方法でこれを応用するのか、または地下の危険な潜在エネルギーを吸い出すというのだ。

彼は述べている。

「地球は太陽系の軌道を進行し続けている。それで、もしUFOの乗員たちがグリッドの再建を完了させて破壊を防止しない限り、他の惑星群も大破壊に直面するだろう。このような状況下でUFO群が地球の周囲に來ているのは喜ばしい。グリッドの完成が早ければ早いほどよいのである」

磁力計その他の装置を用いてキャンパーは地下または海底深く埋められた装置である「グリッド」の「交点」を少々発見したという。この説はUFO研

●オホー・B・ワインダー

UFOは 地球の救済に 来るのか!

(完)

UFOはすでに放射能で汚染された地球の大気を浄化していた。近づく自然の大変動からも地球を救済するか?

究界で最も有名な一人であるフランスのエンジニア、エーメ・ミシエルの「直線説」と強く結びつくものである。

(直線説というのはUFOの飛行コースや目撃地点などを結び合わせると、これらが地球の大きな周期(複数)に沿ってある「交点」に集中するというもので、キャシーの「グリッド」説と一致する)

エドガー・ケイシーの予言

さて今度は眼を転じて、切迫した地球の運命に関する別な手がかりを見ることにしよう。これは物的証拠は少ないが、最も確実であるかもしれない。すなわち超能力者の予言である。有名な「眠れる予言者」であるエドガー・ケイシーは次のような予言をした。(この予言では世界の終滅と二十世紀の終末とが一致している)

●地球は米国西部が崩壊して、カリフォルニアは完全に海中へ沈下する。

●東海岸、特にフロリダ州近辺で海底が隆起する。これは古代アトランティスの再出現である。

●ヨーロッパ北部は「瞬時にして変化する」。つまり山々は崩壊し、土地は沈下し、海水がなだれ込んで、地形は完全に変わるのである。

●地軸の傾きにより、両極地帯で巨大な地盤隆起と、熱帯地方での火山爆発

が起る。

●ロサンゼルス、ニューヨーク、その他多数の沿岸都市は壊滅して完全に消える。

ジョン・ペンドラゴンの予言

こんな恐るべき予言をしたのはケイシーだけではない。今日の予言者たちは互いにしのぎを削ぎあっているらしいが、いずれも非常に真剣で、超能力によって高度な知識を得たと称しているようだ。

英国の高名なジョン・ペンドラゴンは一九七〇年の死の前に、次のような予言をした。

「ボストンからバルチモアに至る(米国の)大西洋岸の諸都市は消滅するだろう……私はロンドンが部分的に水中へ没するという予言を発表しているしイングランドの低地帯も海中へ沈むとも述べた」

世界的な大変動で多くの場所も等しくやられると彼は予言している。

超能力者たちの予言

「予知」に従って未来をのぞいてみよう。プエルトリコのアマヤ伯夫人は言う。

「人々は大変動に対して準備をしなければならぬ。大地震、飢餓、疫病など——地球の極の変化が始まろうと

している……圧力が高まって未来の大破壊が起ころうとしている」

●南西部の超能力者「とうたわれたテキサス州ダラスのバーティ・キャッチングズも大変動を予知しているが、それによると地球表面を粉碎するような大地震、数百万の人をのみ込む巨大な津波、広い地域を襲いまくるハリケーンなどがあるという。

カリフォルニア州のアーネスト・モングメリー博士は、大地震の発生時はまず地底の大轟音から始まるものと考えている。この轟音はあまりにも恐怖すべきもので、多数の住民はショック死するだろう。地表はねじれて、巨大な割れ目が突如バックリと口を開き、都市や町は底知れぬ暗黒の奈落へ吸い込まれるだろう」

UFOに乗って来るS I (知的生命体)の「声」であると公言しているテッド・オーウェンズ(訳注「本誌17号掲載記事「奇蹟を起こす方法」参照)は次のように語っている。

「未来の地球の変化(複数)はさまざまなものだろう。世界中にもすごい力が加わりつつある。大地震による破壊は想像を絶するものだろう」

また彼は「猛り狂った自然の力(複数)が人類、動物、鳥、昆虫などの絶滅に手を貸すだろうと予言している。

他の予言者としては、カナダのマルバ・ディー、シカゴのジョーゼフ・ド

・ルイス、イリノイ州オークパークのハロルド・シュロツベル、ニューヨーク州ヨンカーズのイングリッド・シャーマン、ミズーリ州のデルセント・クレアー、シカゴのルース・チンマーマらがいる。興味深いことにこの人々はほとんど異口同音に同じ考え——地球の大変動——を臆することなく公衆に表明しているのだ。しかも彼ら全員が暗殺や政変などを気味わるいほど予言しているのである。このなかには超心理研究所などで科学的にテストされて、その超能力が本物であることを立証された人もある。

未来を見ることのできる人々が恐るべき出来事を語るのを聞くに身震いする。ジョン・ディクソンは我々の文明の終末を予知している。

数世紀昔のこの名高いノストラダムスは、ある解釈によれば二十世紀に諸都市が壊滅すると予言している。

こうした世界の大変動の予言類を科学者はバカげたデマとみなしている。

しかしソ連のペロウゾフという地球物理学者は、一九六〇年にフィンランドのヘルシンキで開かれた国際地球物理学会議で次のような大胆な発言をして皆を驚かせた。現在生きている人間の生涯中に、地球はものすごい地球物理的な大隆起というもう一つの魔力の方向に進んでいる科学的な証拠があると

いうのだ。彼の陰惨な予告の裏付けは、大量の

マグマが流動中という事実があり、それが地球表面の大部分に巨大な隆起を生ぜしめるというのである。

そうすると大きな疑問が起こってくる。超能力者や予言者はみな間違っているのか？そして科学者が正しいのか？

一体に科学者は「漸進主義」という積年の教義に執拗に固執する。それで地球の物理的变化は数万年かかって、おだやかに起こると見るのである。山々は五千万年で形成され、海洋はきわめて緩慢に沿岸線を変えてるので、国境の設定に危険はなく、ただ移動するだけである。地震や火山活動は数千年間にうましく分布するので、人間に対する脅威はほとんどないという。

ペリコフスキーの警告

しかしこの楽観的見方に真っ向から反対するのは、イマヌエル・ペリコフスキーの不吉な「大変動説」である。一九五〇年以來問題の人となったペリコフスキー博士は、地球の大変化は数百万年を要するのではなく、数時間または数日であつというまに起こることがよくあるのだと声明して、科学界に爆弾を破裂させた。博士によれば、古代の世界中の神話は必然的に「大洪水」について語っており、これはバイブルのノアの箱舟と全く同様だという。更に証拠として、都市のすべてが破壊さ

れ、国家群は消滅して、万軍は死んだというバイブルの物語がある。古代のあらゆる文化は類似した大量絶滅の物語を持っていた。

ペリコフスキーが打ち出した別なポイントとは、ときどき古生物学者が大量の動物の骨を掘り出して驚くという事実である。一時に四千万個の標本を発見することがあるが、これは事実上一夜にして死滅したのだ。

これやあれやの手がかりから、ペリコフスキーはオースドックスな科学界に対してショックングな発表をした。「現代と同様な文明が過去に存在したが、消滅した。古代エジプトのいわゆる古青銅器時代は世界的な大変動で壊滅したのだ……」

そこで彼は予告する。今の世界と文明は、狂暴な自然の力が強大になるまでにはいつか壊滅するかもしれない、と。

ペリコフスキーは「大変動」説の最近の人にすぎない。突然変化説をとなえた科学者はまだ他にもいる。

セード・キユビエールは言明した。「重大問題を語りたい。繰り返されるこの(土地の)爆発と海岸線の変化は緩慢でもなければ漸進的でもない。それどころか、大変動は突然発生している……」

そこで今度は気になる考えが起こってくる。

UFOが現代の世界を救いに来ているとすれば、なぜ彼らは過去の失われた文明を救わなかったか？

救ったのかもしれない。少なくともある程度まではやったのだろう。たしかに人類はまだ生き続けているし、完全には消されなかった。またペリコフスキーも地球の大変動は一万年と二万三千年昔の二度の機会に発生したと言いつ、これらは範囲に限度があつて、世界の文明の破壊までも起こしたのではないと語っている。

「良きサマリヤ人」たるUFOは大昔に地球救済計画を実施したのだろうか？彼らは実際上、地球内部の破壊的力(複数)を鎮める技術を完成してきたのだろうか？そして今度は彼らは定期的に地球を圧倒した大破壊をまのがれることに成功するだろうか？

以上は単なる推測かもしれないが、UFOミステリーでただ一つ別な要素があることを見のがせない。それは人間がつくった非運からUFOが世界をすでに救出したと思われつつあることである。それは一九四五年以來、核実験禁止協定まで米ソがむこうみずに行つた核爆発の結果から言えるのである。

UFOが死の灰を吸収した？

大気の放射能汚染が数百万の人命を失うことになるという科学者の警告がなぜ実現しなかったのか？多数の科

学者の中の一人は言う。「数メガトンの核爆弾(複数)が大気中で無慮に爆発させられたら、死の灰が雨とともに世界中に降りそいで、一年以内に恐るべき結果を生じらう」

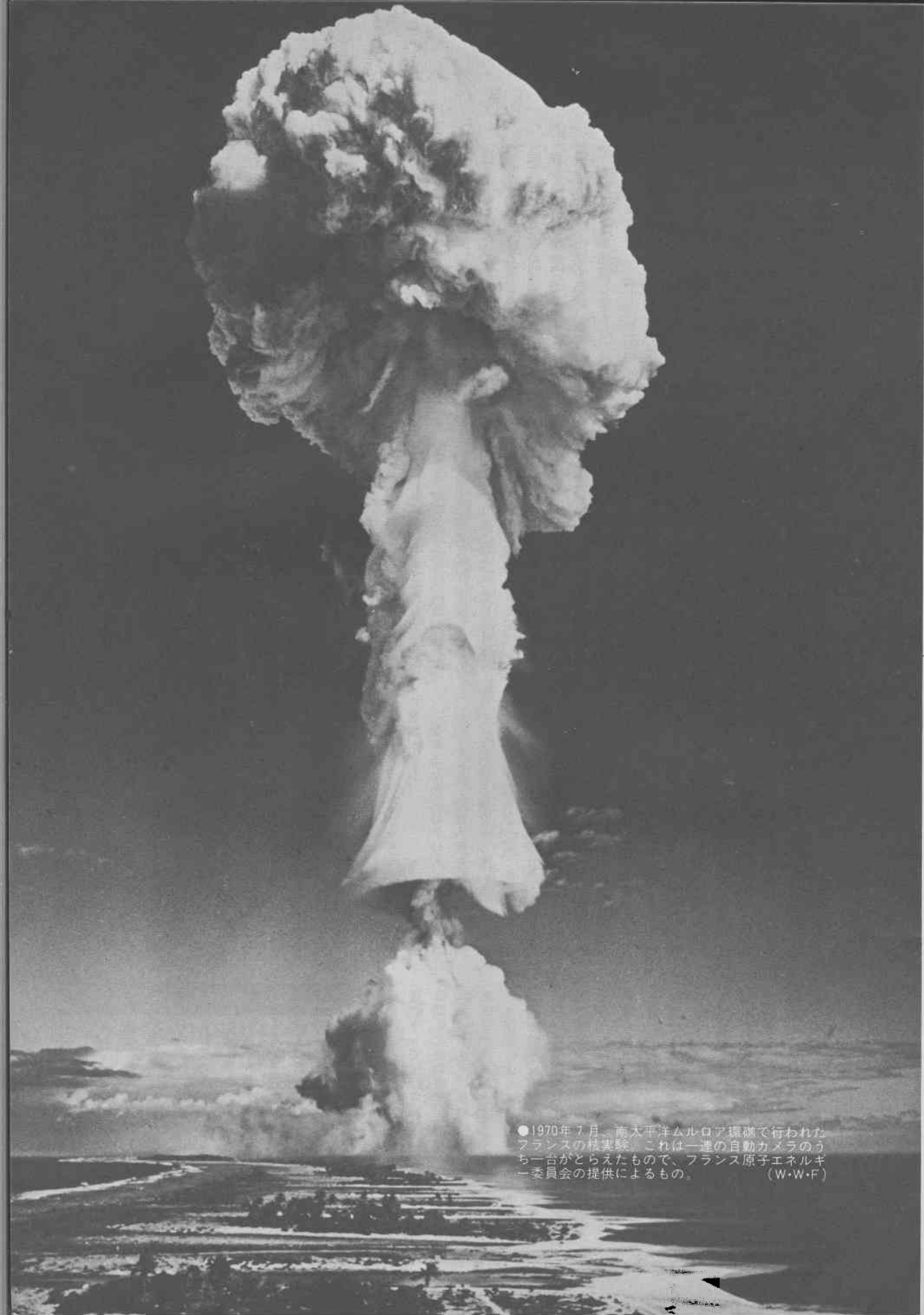
こうした非運を予告する科学者たちは、それが数学的生物学的には確実であつたにしても、実際には「核爆発による殺戮」が起こらなかつたことを、狂喜したことだろう。

重要な糸口は「緑の火球」である。これは一九四八年の秋に出現した。ちょうどニューメキシコ州とネバダ州の原爆実験がますます大きなプルトニウム核爆弾に発展して定期的に始まつたときで、大量の放射能チリを放射するようになつた頃である。

この謎の大小の緑の火球は年々夜空に燃えるがごとく出現し、一九五一年には最高潮に達した。

九個の輝く火球が出たと報告されたのである。これらは空軍、または米南西部の各原子力関係施設に関係していた技術者たちによって目撃されたのである。

国防省はすぐに関心をもち、この驚くべき緑の物体の正体をつきとめようとして一九四九年に「プロジェクト・トゥインクル」が開始された。しかしこのプロジェクトの科学者メンバーたちは何も発見しなかつたし、決定的な論も出さなかつた。



●1970年7月、南太平洋ムルロア環礁で行われたフランスの核実験。これは一連の自動カメラのうち一台がとらえたもので、フランス原子エネルギー委員会の提供によるもの。(W・W・F)

謎の緑の火球

緑の火球とは何だったのか？ 多くの科学者が肩をすくめるように、この燃える物体は単なる異常な流星かイン石にすぎなかったのだろうか？ しかしデータは完全に流星説を否定する。

●火球の色は「燃える銅」の緑色であり、しかも当時空中で発見された銅の破片は通常の量の十倍もあった。地上へ落下する流星は銅をほとんど、または全然含んでいない。

●流星は下方へカーブを描いて落下し、しばしば地面に撃突する。ところが緑の火球は頭上を直線で進行し、決して地上へ落下せず、通常は消滅するか、破片を落とさずに空中で爆発する。

●空中で爆発する流星は数十マイルの四方に響くほどの爆発音を発する。しかし緑の火球は無音で爆発する。

●流星は年々出現するが、緑の火球は一九五二年以来出現しなくなった。

すると即座に科学者から別な説明が出た。火球はイナズマ球だというのである。だがこの説もデータの綿密な調査の前にドスンという鈍い音を立てて墜落した。イナズマ球というものは緑の火球ほど大きく見えるものではないし、十五分以上も長続きしないのである。数個の緑の火球が米国教州の上

空で目撃されたが、十五分どころか、はるかに長時間滞在していた。イナズマ球は電気嵐の最中か、または雷雨の終わりに現れるにすぎないが、緑の火球は嵐などのない晴れた空に出現するのだ。

しかし科学者自身の言葉は流星と緑の火球とのあいだの混乱を排除するのに役立つ。火球の謎を解くために派遣された政府調査員リンカン・ラパスは一九五一年の巨大な九個の火球について事情を聴取した後に行った。

「一年間で（ある特定地域以上にわたって）九個の輝く流星が落下したとすれば、これは異例と考えられる」

九個の緑の火球全部は南西五州の地域上空で三週間以内に出現したものである。一九五二年四月七日のライフ誌にはこの現象の納得のゆく説明がつかないらしい二人の科学者が、結局次のように述べた。

「緑の火球は核実験による大気の中がみではないし、オーロラの異常現象でもない。磁気嵐でも説明のつかないものだ」

このあと説明の言葉はなかった。ここで我々が緑の火球目撃事件の比較的短期間（一九四八年―一九五二年）を米南西部の原子力関係施設付近の地理的位置と、その地域全体にわたる多数のUFO目撃事件とに結びつけるならば、我々は驚くべき一致を見出すの

である。つまりUFOが何かの目的で緑の火球を作ったと信じられるのだ。この目的は何であったか？

簡単に言うと、この緑の火球は、原爆実験地上空の大気を浄化し、放射能チリが拡散する前にそれを「吸収」する目的で作られたのである！ このような説明はコンタクトティータチ（UFOの乗員と会ったと称する人々）から何度も出されてきた。

またカリフォルニアで高く尊敬されている超能力者マーク・ロバートが、地球を守っている「高度な知的生命」から受けとったといわれている多くのコミュニケーションの中に次のような言葉がある。

「保護者たち（UFO人）は宇宙の法則のもとに、地球人類を援助するため、あらゆる事をやっている。彼らは大気中に火球を放って、危険な放射能を除去している。火球は放射能を集めて人体に無害な形に変えているのである」

一九四五年に恐れおののいた科学者達は明確な計算をし、汚染チリで世界中の大量死を予測したが、驚いたことにこの大破壊は来なかった。米国の南西部核実験場で緑の火球が出現してからは――。かつて世界を救った人道主義的なUFO人たちは、またも地球を救助しようとしているのだろうか？ 今度は地理的な大災害から救ってくれるのだろうか？

ノーマ・キャシー

のメッセージ

結論としてノーマ・キャシーから筆者が受けとったテープを引用しよう。彼女はスペース・ブラザーズからテレパシーによるメッセージを受けたと言っている。彼らは（UFO人は）彼女をコミュニケーションの「チャンネル」と呼んでいる。ノーマは科学技術の教育を全く受けていないが、高度に技術的な内容を含むテキストを作っておりその多くは地球のものでない言葉使用で表現されている。ここにその一部分をあげてみる。着陸した円盤とその乗員によって遂行されているUFO活動に関して次の言葉が洩らされている。

「スペース・ブラザーズは再度あなたにコンタクトします。

ご存知のように私たちはこの太陽系の別な惑星（複数）と地球の高原地帯に研究所を設立しています。今日私たちはネバダ州レノの南東の秘密の場所で会合を行っています。以前私たちは地球の放射能汚染大気を浄化しましたが今は米科学者の手で行われた地下核爆発の危険な影響を除去しようとしています。

また私たちは大気を安定させるために巨大な真空箱（複数）を用いて気象状態を正常にしようと試みています。しかしこれには日数がかかるでしょうし、一方、地球全体の雷雨の増加も考

えられます。

しかし私たちにとつてもっとも重要な問題は、地球内部の溶けた中心部と地殻の間に、未知のエネルギーがあるということ。地球は太陽系中で、バランスのとれたフォース・フィールドを失つて「苦しんで」います。あらゆる惑星の軌道は現在アンバランスな状態にありますが、これは宇宙空間の磁気ピン（たぶん太陽フレアで生じる惑星間磁場の意味だろう）と引力が衝突するためです。私たちは地球の周囲に保護エネルギーの輪を設けて（バンアレン帯のごとき物か？）安定化を図ろうとしているのです。

しかし私たちは別な方法でこの問題に取り組む必要があります。地球上で私たちは、地震を発生させる活断層のまわりに、それを弱めるフォース・フィールドを放っていますし、また、磁力線を追跡してパワー・ゾーンを二等分する巨大な鉱脈地帯を探り出しています。こうした地球の変動を（地震などを）防止する目的で、地下に大工場を建設しました。この中には地震を防ぐ各種の装置が作られています。それは次のとおりです。

(1) 私たちは円錐型の熱探知器を設置しています。これは巨大な温度計のような物です。これで地球内部の熱エネルギーのあらゆる変化を記録します。

(2) 私たちは地球内部の震動や危険な溶岩の移動を記録する「ロッド」を持っています。

(3) 私たちの「光学望遠鏡」はテレスコープに似た物ですが、固い岩石をつらぬいて遠方の光景を見ることができ。ある視覚ビームが直角に放射されて、地中深い位置の四次元的光景が見えるのです。

(4) 地震を防ぐ方法のなかに、超音波応用技術がありますし、あなた方が宝石と呼んでいる各種クリスタルの分子結合法もあります。

もし私たちの計画が成功すれば、地震やその他地殻内の破壊的エネルギーを次第にコントロールできるようになるでしょう。こうして地球人類の世界的な大破壊を防止できると思います。私たちの目標時期は間近に迫っておりそれは大体に人間の一世代先です。

コンタクト終わり

かつてノーマ・キャシーはソ連の超能力研究の大興奮を的確に予言したことがあるが、これは西欧側に対抗してソ連が用いた不気味な力を意味するのではないかと科学者は心配している。彼女の新しいメッセージも同じように正しいものなのだろうか？

UFOは地球の救済に来る!

近年における不気味かつ狂暴な異常気象、地震、火山爆発、その他自然の災害の気味わるい増加、地球に影響を与える太陽の異常な活動、UFO目撃の四十パーセントは地球の活断層に沿って起こるという統計的事実、予言者たちの予言の大体の一致、それにノーマ・キャシーのメッセージ、その他スペース・ブラザーズからの警告なるものは、筆者の解釈が正しければ、人類が絶滅するか、少なくとも二十世紀の終末までに現文明が消滅することを指摘している。円盤や着陸したUFOの乗員の活動がこの問題にあてはまるかどうかについて、別な確証を見い出すのは困難である。次のように説明すれば役立つだろう。

● UFOはあなたも地球内部のトラップ地点を探そうとしているかのよう。しばしば数時間も一地域上空に停止する。

● 強烈なサーチライトで地上を照射する。そしてまるで地球のスリッパを探知するかのごとく地表内を探る。

● UFOからの電磁効果により、車のライト、ラジオ、エンジンなどをストップさせるが、これは彼らの強力な電磁エネルギーを地中に放射する際の副作用なのかもしれない。

● 時折「熱線」が目撃者にヤケドさせることがあるが、その真の目的は地表の土や岩石に対する加熱実験なのかもしれない。

● 着陸したUFOから人間が出て来て光ったり音がしたりする奇妙な道具を持つている。これは地下の危険な状態を調査する探知器かもしれない。

コンタクトティータちが交わした多くの会話に、地球の核爆発、切迫した大破壊などの警告が含まれている。「新時代」というのは幻覚ではなくて、円盤に乗った「保護者」からの誠実な予告なのだろうか。

以上は単なる推測か。そうかもしれない。しかしこれは「なぜUFOが来るのか」の考えられる限りの最上の理由として、地球を救済する動機の証拠となるものである。

久保田八郎訳

宇宙問題探求者必読の書

★★なぜ空飛ぶ円盤は来るのか★★

フレッド・ステックリング/久保田八郎訳
好評発売中! ￥650 円160

宇宙人から伝えられた人間の生き方を詳述

テレパシー ■ 生命の科学

ジョージ・アダムスキー/久保田八郎訳

￥450 円160 ￥550 円160

文久書林

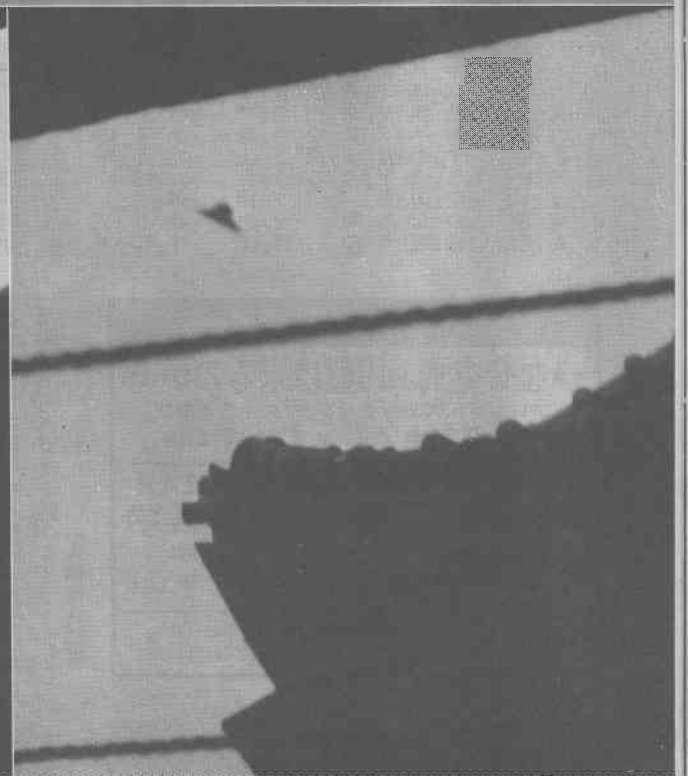
東京都文京区白山1-29-12
振替・東京2521 Tel. (813) 2495

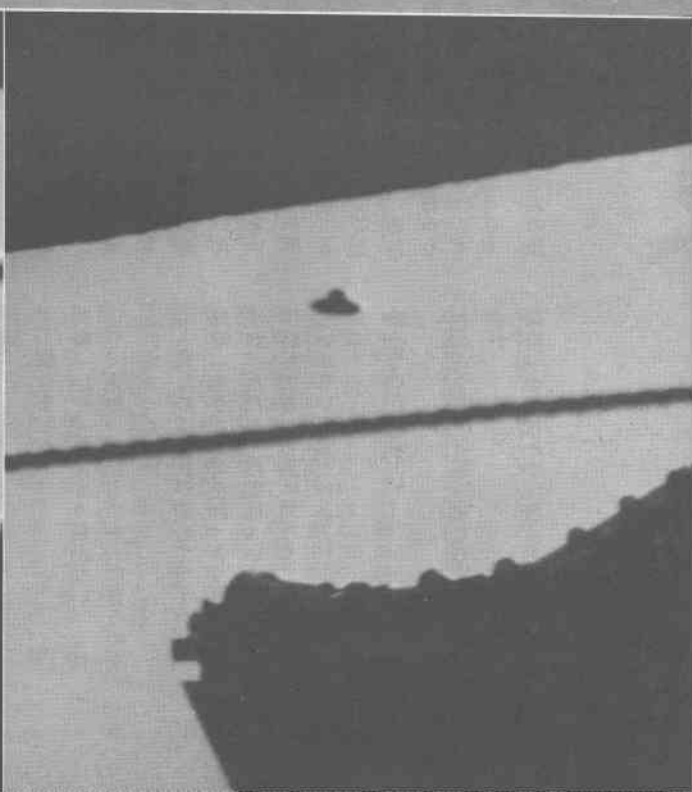
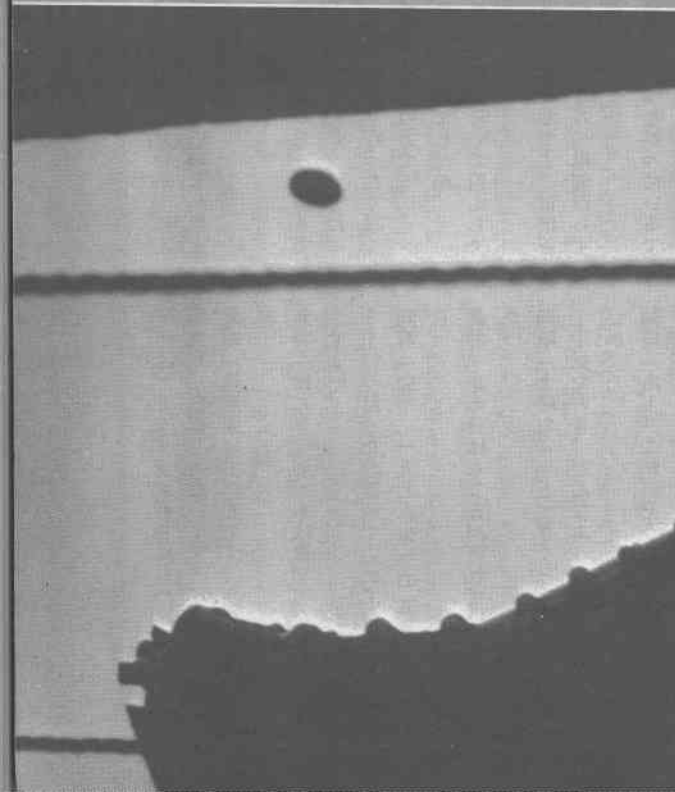
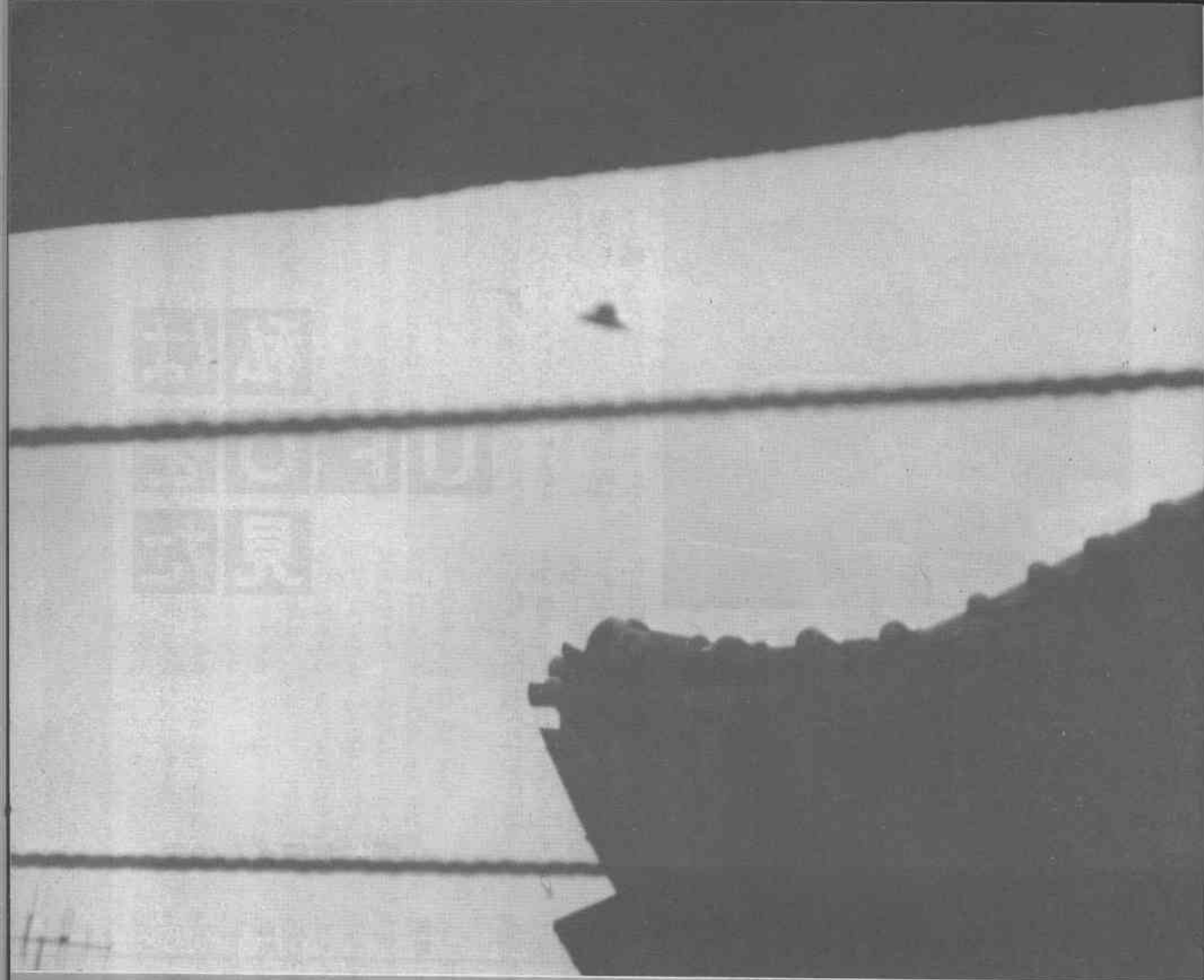
田中君…

ふたたび撮影に成功!

田中博人君（十三歳）がふたたびアダムスキー型円盤の撮影に成功した。四月九日午前十二時十分頃、自宅上空に飛来したアダムスキー型円盤を目撃、手元にあるカメラを構えて部屋の窓から連続的に撮ったのがこの写真である。円盤はおよそ数分にわたって木の葉運動、ジグザグ飛行をした後、やがて視界から消えていったが、その不規則な飛行振りには全く驚いたという。田中君の話によると船体の色は黒く、全体にボーツとほやけた様子で、アダムスキー型円盤にあるような船体の丸窓や着陸ギヤは確認できなかったという。また部屋にいたのは田中君だけで、そのほかに目撃した者はいなかった。

（田中君のアダムスキー型円盤撮影の記事は本誌16号に既報）





プロフィール

岡崎友紀——昭和二十八年七月三十一日
生まれ。一人っ子。
浦和市立針谷小学校、大阪女学院、明治
大学付属中野高校を経て、日大芸術学部映
画部に入学したが仕事のために中退。
小学校三年頃から舞台に上がり、昭和四
十五年三月に歌手としてデビューした。
現在テレビ四本、ラジオ一本のレギュラ
ー番組をもっている。

小学校の五、六年から中学一、二年ぐ
らいたったんじゃなかったって記憶あ
るんだけど」

——だれかから話を聞いたのですか。
岡崎「いえ。よく学習雑誌にときとき
そういう特集載っているでしょ？そ
ういうのを読んで——だから、その頃
からもうパミュウダの三角地帯なんか
知ってたの。

私、小学校の最後の方と中学校のと
き浦和にいたんですね。そのときにね
商店街のちっちゃな展示場み
たいなところでUFOの写真展をやっ
てたんです。そこでどこかのUFO研
究会みたいのが勧誘してただけど
それに入ると宇宙人から狙われると思
ってやめた。そういうのは入ったこと
がない」

——今でもそう思っていますか。

岡崎「今はねー、やっぱり狙われるっ
てより注目されるとヤでしょ？用事
かなんかあって現れたりなんかすると
突然」

——なぜ、いやなのですか。

岡崎「こわいでしょ？だってどんな
顔してるかわからないから——(宇宙
人から)最初にお手紙いたたいて写真
同封していただきたいんです。アダ
ムスキーのあの金星人みたいに美しけれ
ば歓迎するんですけどもね。だけど、
いろんなどっかの、車から円盤へつれ
られてって、あとで催眠術でやってみ
たらこんな顔してたとかってあったで
しょ？ああいう顔だとこまるんです
よね、ビクビクしちゃうから」

世の中の不思議なことには
すべて興味ある

——アダムスキーについてはどこで知
ったのですか。

岡崎「どこでだろう——。やっぱり本
だとかテレビだとか、そんなんじやな
いかなー」

——彼の本を読んだのですか。

岡崎「いえ、アダムスキーの本は読ん
でないです。——恐ろしいというウワ
サで。エー？っていう感じだっという
から。読みたいと思っってますけどまだ
読んでません」

——そのようなウワサはどこからはい
ってくるのですか。

岡崎「なんとなくですねー。特にそう
いうUFO友達はいないけど。

うちの母が好きなんです、やっぱり
ね。年中空を見て待ってるんですけど
ね、宇宙人に会いたいって。なかなか

来ないんだけど。うちの母がよくノン
フィクションものの単行本を読みあさ
ってまして、そのお古を私も読んで
ます。

私はだけどね、空飛ぶ円盤と宇宙人
だけに焦点を絞って考えてないんで
すね。

ですから、私は次元だとか時間だ
とかいろんなことを組み合わせて考え
ちゃうでしょ、つい。アトランティス
明とかね、それから地底文明説とか地
球空洞説とかね、それからムー大陸と
かね、それから四次元とかね、もう全
部いっしょくたに考えちゃうんです。
タイムトラベラーとか。だから話がめ
んどくさくなっちゃって長くなっちゃ
うんですよ。

とにかく世の中の不思議なことは全
部関連性があると思っってます、私
は」

——UFOはどこから来ると思いま
すか。

岡崎「だからそれもね、UFOは空の
彼方の違う星から来るといって普通の
プレインな説と、地球の中から出て来
るんだっという説と——地底人がいて
ね。それと、タイムトラベラーで時間
を超えてやって来るといっていう説と
それから、アトランティス人の生き残
りだっという説と——ね、いろいろあ
るじゃない？だからよくわからない
んです。全部考えられるから。もしか
したらその全部がUFOで見えるのか

もしれないし——わかんないもね」

生まれ変わりを信じる

——最近、日本に大変動が起こるんじ
やないかという説が流れていますが、
それについてどう思いますか。

岡崎「それは今まで地球上がやっぱり
変わってきたんだろうからありうるか
もしれないけど、でもあんまり危険を
感じないからいいんです、別に」

——危険を感じないということは何？

岡崎「なんていうんでしょうね。それ
はもちろん地震があったりすると『キ
ャー！こわい』とかなんとか言いま
すけどね。でも、よくよく考えて
つきつめて考えると世の中不思議なこ
とばかりだし、生まれて死ぬまでっ
てすごく短いでしょ？だからそれだ
け考えて狭く狭く考えてると悲しくな
っちゃうから。そうじゃなくって？
生まれ変わりを信じてみたり。そう
いうふうになるとあんまりこわくな
いから平気」

——生まれ変わりを信じる本かなにかで知
ったのですか。

岡崎「私は映画で見たんです。それが
ミュージカルでね、バーブラ・スト
ライザントがやった『晴れた日に永遠が
見える』ってのがあって、それが生ま
れ変わり論の映画だったの。催眠術か
けると『私は……だった』っていう
——そういう話で、すごくすてきだっ

たんです。でも、そういう考え方ってわりとすてきでいいなあと思う。

岡崎「もしかしらありうるんじゃないかと思うのはね、全然知らないことなのに前から知ってたような気がしたってことがある人がいるでしょ？ 私はあるんじゃないけど。でも、なんか初めて来た場所なのに前にも知ってるような気がしたりとかね、あつ、この街角どっかで見たことがあるなと思ったり——っていうことがあるからね。それがなんでだかわからないし、前にちゃんと本で見たのかもしれないし、それはわからないんだけど、そういうことはあるのかなーとも思うんです」

眼の前でユリ・ゲラーが

鍵を曲げる

——超能力についてどう思いますか。
岡崎「私、全然ないんです超能力が」
新井「超能力がある子が、うちのファンクラブにいるんですよ」
岡崎「清田君。ファンクラブの会員なのよ、うちの」

——すると、超能力はあると思ってるのですか。
岡崎「あ、それはもう絶対的にあると思います。確信しています。だってユリ・ゲラーに眼の前で鍵を曲げられたらやっぱり思うものね。時計も動きまし

たけど、そのあとテレビ番組で会ったとき、『自分で持ってやりなさい』って言われてみんなやったときに曲がった人がいたけど私は自分で持ってるときには曲がらなかったの。それで、どうしても曲げてほしいからしつこく帰り際にね、ユリ・ゲラーに『どうしてもこれを曲げて下さい』って言ったら、最初ちょっと『固そうだからやだ』って言ってたんだけど最後に曲げてくれたんです。パッと持って三秒間くらいでグニャッと曲がったんです。それを眼の前でやっぱり見るとね、信じざるをえないというか、大体信じてるけど、ますます声を大にして『あるぞ！』って言いいたくなっちゃう感じもするけど」

不思議な穴に入り込む

——小さい頃、何か不思議なことはありましたか。
岡崎「あのね、夢なんだろうと思うんですけど、おかしなことは二回ほどあったんですよ。今だによくわからないのはね、皇居のまわりに住んでたんです。私、皇居にわりと近いところ。靖国神社のそばに、ちっちゃい頃。小学校あがるかあがらないかぐらいのときね。それでお手伝いさんと、うちにいたマミっていう小犬とお散歩してたんです。靖国神社を。いつも行かないよらなところをひょこっと歩いてたんで

すよね。参道じゃなくて、ちよつとはずれた庭のところを。そのうちに、なんか穴みたいところへ——土がどうなってたかよく覚えてない。あんまりよくわからないんだけど——穴みたいところへスーッと入ってちよつと、『あれーっ』なんて思ってた。パッと明るいところへ出て、もうそこはやっぱり同じところなんです。同じとこっていうか皇居につながってんです」

新井「本当の話？ 夢なわけ？」
岡崎「それは本当の話なの。帰ってうちのママに報告したらいいのね、私がちよつととき、それで皇居の……、それが不思議なんですけど、本当のお掘のね——みんなお花見してるわけ。サクラが咲いてて——石垣のちよつとあいたところのこれくらい（手を広げたくらい）のところへ出ちゃったの。すぐ下がお掘なの。たかーいところ。下がお掘で道路が向こう側にあつて、だから石垣にベタツとしてないと落ちこつちゃうわけ」
新井「犬も一緒に来たの？」
岡崎「そう。それで犬をだっこしてお手伝いさんと私と三人でそこを石垣づたいにこちやつて（横ばいに）歩いて、どうやってそこから逃げ出したかわからないでとにかく歩いてたの。そしたら少し向こうの石垣のちよつと上の低くなったところでお花見してるお兄ちゃんたちがいて助けてもらった

の、そこから。引つ張り上げてもらった」
新井「どうしてそんなとこ歩いてたの？」

岡崎「どうしてそこに行つたかわからないの。それがなぜだかよく覚えてない」
——あとからその場所へ行ってみましたか。

岡崎「行かなかつた。でも帰ってすぐその話を私、うちのママに言つたっていうから夢じゃなかつたんだろうと今思うんですけどね。

引つ張り上げられたという記憶はあります。そのときの感覚も覚えてます。それに、そんな危ないところへわざわざ出て行くことはないからね。迷っちゃうってそんなつちやつたものじゃないけど」

眼が覚めると銀色の服を着た宇宙人が横にいた！

もう一つは、ついこのあいだ週刊誌に変なふうに出ちゃつたんですけど、夜、全部こちやつと明りをつけて寝てたんです」

——いつ頃ですか。
岡崎「去年（一九七五年）かおとしの暮れぐらいですね。
寝てて、パッと眼が覚めて「アッ、こちの方になんかいるな」と思ったの。左を向こうと思つたんだけど金縛



●「円盤は“いる”って、私は信じてるから……」

りで動けない。眼だけで一生懸命見たら——それがおかしいんですけど——この机よりちょっと小さい(約一メートル)ぐらいの銀の円盤がいるんです。そこに二人、私から見て頭側と足側に銀のウェットスーツを着た小さな宇宙人がいるんです。『あれっ』と思って、私がどのくらいUFOを研究しているか本を見に来たのかなって思った」

岡崎「ちようど本箱の前にそれがいたもんだから」
岡崎「それでどうしようと思ってるうちにUFOが、カーテンも締まってる窓も締まってるのに、その窓の方向にヒューッと消えてっちゃったんです」
——顔は覚えていますか。
岡崎「わからない。見えなかった。たぶん夢ですね、これは。それを絶対来たっていうふうに書かれちゃった。ちよつと違うんですね。夢かどうかかわ

からないんです、自分では。研究する暇もないし。でも好きです。そういうことは。とても夢があるというか」

イエス・キリストは超能力者

岡崎「前にオーストラリアへ行ったんです。エアーズロック(オーストラリア中央部の広大な原野にある奇岩)のところに行ってきたんですが、不思議な文字とか鳥人間のような絵がいっぱい描いてあった。その場所にいる人でもだれがいっぱい描いたかわからないんですけど。他にも宇宙文字といわれるもの——たとえば昔、こういうのがあって、それと同じのが送られて来たというアダムスキーのがあるでしょう」
新井「よく壁に描かれた紀元前の絵とか、あれ見ますと宇宙船の格好してるんですね」
岡崎「だって本当にパイロットが乗ってロケットを操縦してるようなのがいっぱいあるでしょう、昔の壁画で。だから、現在学校で教えている歴史っていうのはメチャクチャなんでしょうね。きつと。なんか、もつと昔があったんじゃないかと思うけど。」
だから、昔からいう「かぐや姫」とか「桃太郎」とか「浦島太郎」とか「ビーターパン」とかはみんな宇宙人なんでしょうね。もしかすると「イエス・キリスト」も宇宙人だったんじゃないか」

ないかなって気がします、超能力者で」

——超能力者だと思えますか。

岡崎「そう。ユリ・ゲラーのもつとすごいみたい。だって、手を当てただけで病気が直ったりするんだから。」

浦島太郎「なんか絶対そうだと思う。彼自身がそうなのかわからないけど、亀に乗って海の底っていうのは宇宙船に乗って宇宙じゃないかなって気がする。」「かぐや姫」は完全にそうですよね、月へ帰って行くんだから」
新井「いつそんな話を聞いてくるんでしょう——あなたテレパシーでそんな話を聞いてくるんじゃない？」

岡崎「都下の方で母船が見えるところがあるんですけど。私の友達でUFOをよく見る人がいるんですが、その人は『カプセルが遠くから飛んで来て母船に入って行ってライトがパッとつくのが見えてとでもきれいだよ』って言ってました。だから私も行きたいな——って思ってますけど」

新井「こわいって言いながら見たいんですよ。いつも夜、車の中で今日はいいかしらってしよつちゅう見ているの」
岡崎「空ばっかり見てるんです。そういうときに限って出ないけど。自分でも時がたつにつれてもう一回見ないと信じられないなっていう疑いが起こってくるんですね。絶対見たのに。でも本当に来ちゃったらどうしよう」

アダムススキー型円盤が大接近!

それまで全くUFOに興味のなかった若いミュージシャンが突然「UFOを見たい」という衝動にかられた。強烈に念じて一カ月。ついに彼は目撃に成功した!

証言1

バンドの練習を終え、中央線武蔵境駅から自宅に向かって歩いていた竹内さんと友人の渡辺さんは駅から二、三分歩いた④地点(地図参照)で、東方の上空に浮かぶ不思議な光点を発見した。

(以下、竹内潤さんを「竹内」、奥さんの竹内成子さんを「成子」、渡辺康一さんを「渡辺」と表記する)
竹内「何か豆電球が光っている感じで、最初は星だと思った」

——色は?
竹内「オレンジ色というよりも普通の

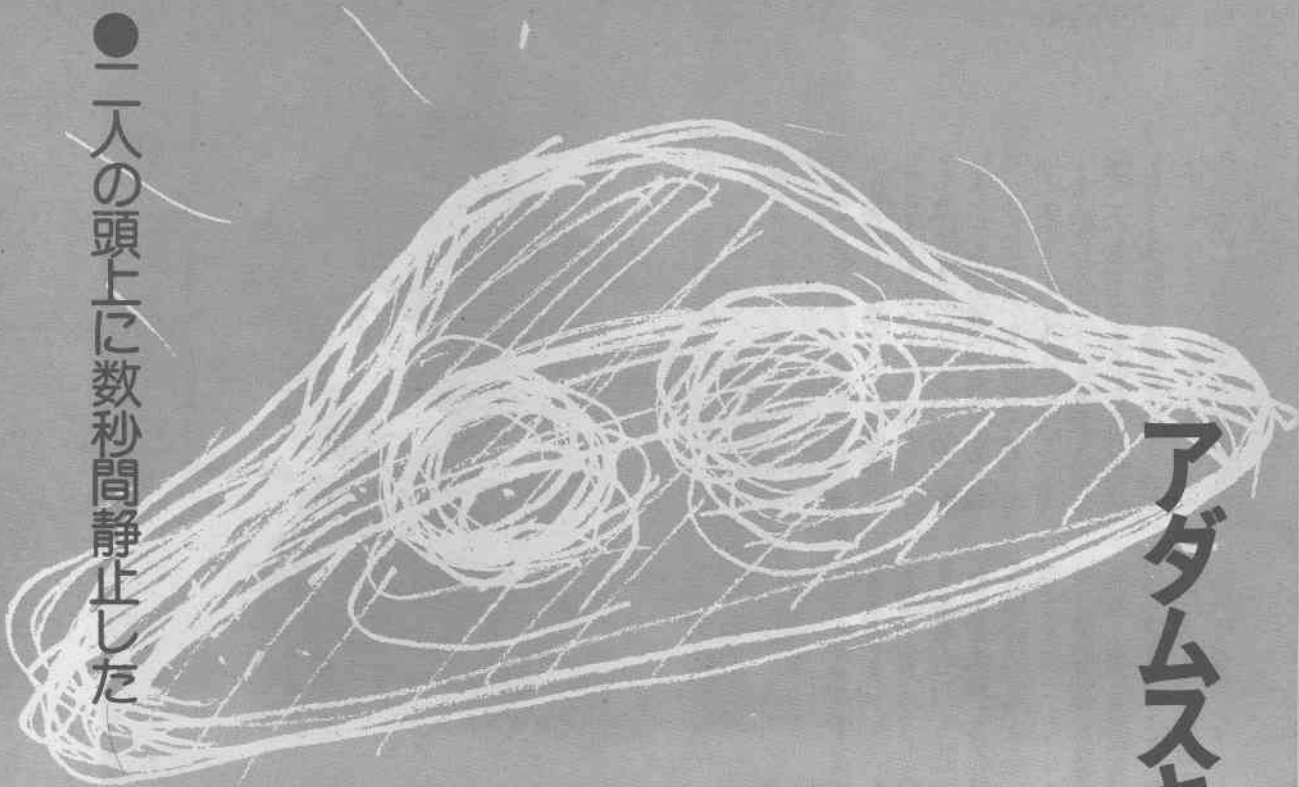
最近、アダムススキー型円盤が全国各地で目撃され話題となっているが、今年(一九七六年)二月十一日午後九時頃、今度は東京都武蔵野市上空に出現した。目撃者は武蔵野市に住むミュージシャン竹内潤さん(二十一歳)と静岡県裾野市に住む渡辺康一さん(二十四歳)の二人である。報告を受けた本誌はさっそく現地を訪れて竹内さんから事件の詳細を聞いたが、渡辺さんは最近静岡の方へ引っ越したとかで東京に不在のため別の機会に話を聞くことにした。

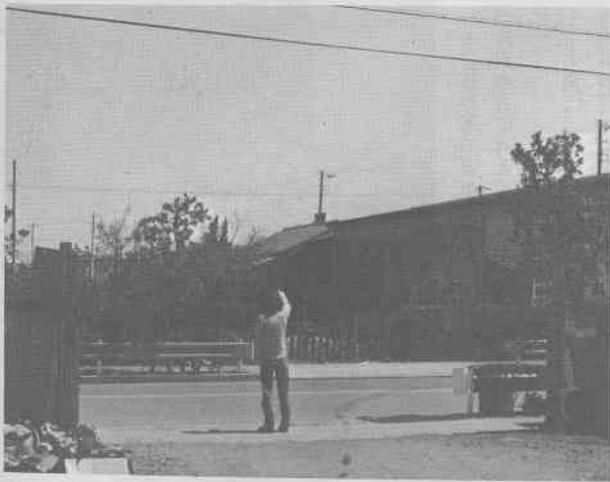
それで、まず竹内さんの証言から事件を追ってゆくことにする。

ライトのような色。それがちょうど東の方角に見えた。渡辺君が(④地点で)立ち止まって『あの星はおかしい。星ではないんじゃないか。UFOだ』と言うけれど、そのときまで私はまだ信じていなかった。よく見ているとゆっくりこちらの方へ移動してくるが、飛行機じゃないことはすぐにわかった。爆音も全くないし、東の方向からは絶対飛んで来ないから」

——すると一定の方向があるわけですか。
竹内「そう。いつも見るのは北から

●二人の頭上に数秒間静止した





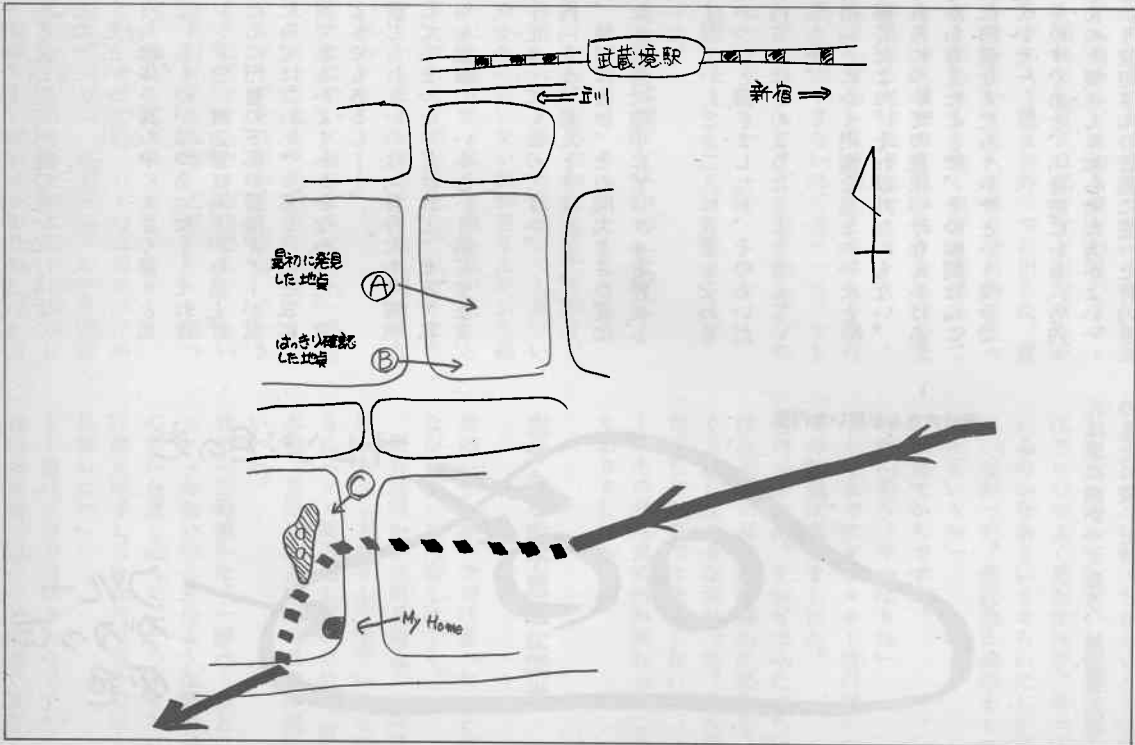
●最初、このあたりで光を発見した。(真ん中にあるのは竹内さん)

そのすぐあと、UFOをもっとよく見ようと南の方角へ走り出した二人は自宅から約三百メートル手前の曲がり角(◎地点)にさしかかった。竹内「何気なく空を見上げてビックリした。そこ(◎地点)までは家や木の陰にかくれて見えなかつただけで急に、そ

南。その日も駅を出た直後に似たような光を見てUFOではないかと騒いだけれど、それは飛行機だった」
 ——音はしましたか。
 竹内「聞こえた。がっかりして歩いていたら今度は本当に見つけたわけ。遠くなので音がしなかったのかもしれないが動き方が全然違う」
 ——どのような動き方をしていたのですか。
 竹内「ユラユラと左右にゆれ動く感じ。そこで彼が、テレビでよくやるように『念じよう』と言った。来てくれと集中して思えば絶対に来るといふので私も一緒に念じていると光が

二つになった」
 ——どのように？
 竹内「分裂するというよりも一つの物体が二つの光を発し始めたという感じ。片方が点滅をしていた」
 ——どちら側ですか。
 竹内「こちらから見て右側。飛行機も点滅するけれど飛び方がユラユラとしているし——ここで初めてUFOだという確信をもった」
 ——他に目撃者は？
 竹内「いない」
 ——人通りはなかったのですか。
 竹内「アベックが一組だけ私たちの目の前を通ったけれど全く気がつかなかったみたい。普通、夜道の真ん中で空を指差していればだれもおかしいと思うでしょう？ それがそのまま素通りして行くので面白いなあと感じた」

●現場付近の地図





●上・竹内潤さん ●下・竹内成子さん(妻)

れも自分の家の真上あたりに現れた。当然東の方に見えると思っていたのに」

——方角は。

竹内「西南かな——西南というよりも自分の頭上近くという感じ。だからこんな飛び方をするのはUFO以外の何ものでもないと思った」

——高度はどのくらいでしたか。

竹内「よくわからないけれどアップで見えましたという感じ。アダムスキー型の円盤があるでしょう？あれとそっくりだった。見ているあいだ二人は無言で、あとからお互いに意志表示をしたわけ。だから彼が何かを言っているがそれを信じこんだのではない。しばらくして私が『アダムスキー型の円盤じゃないか』と言って彼も『そうだ』と言った。それから一つずつ確認し合った——どういう色でどういう形

をしていたかって」

円盤は停止した

ここで竹内さんは絵を描きながら説明を始めた。

竹内「全体が一色で灰色がかったブルー——でもいうのかな。ブルーに灰色を混ぜた感じで、灰色ともいえるしブルーともいえるし。ただ空の色との違いははっきり区別できた」

——そのときの天候は。

竹内「意外と晴れていた。快晴といえるほどではなかったし曇りでもなかったし普通に晴れている感じ」

——星は見えましたか。

竹内「星は見えた——ある程度」

——物体の輪郭ははっきりと見えませんでしたか。

竹内「いや、ボーッとしていた。物質

的な凸凹の感じはよくわからなかったけれど光と空と円盤の違いだけはよく見えた」

——光というところ？

竹内「物体の真ん中に大きく赤々と光っているものが二つあった——それはオレンジ色。渡辺君は『下から見上げたために円盤の下部の着陸ギアが見えたのではないか』と言うけれど私は何であるかよくわからなかった。窓のようでもあるし——」

信じられないのは（自分たちで解釈をしてしまったのだけれど）まるで私たちを観察しているという感じで止まっていた」

——止まっていたのですか。

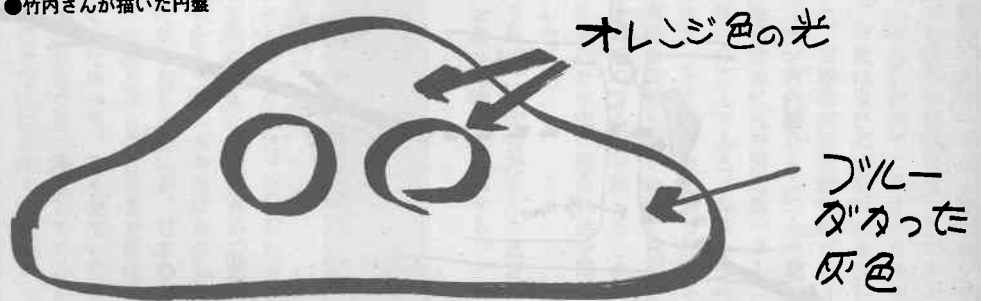
竹内「そう。見たときは止まっていた。時間は数秒。その間大きさの変化はなく無音で空中にピタリと停止していた」

——見ていたとき二人は言葉を交わさなかったと聞きましたが、そのあいだ竹内さんはどのようなことを考えていましたか。

竹内「とにかく円盤を見ちゃったという感じだよね。それ以外なものもない。それらについての意味づけなんかはあとから考えたことで、その瞬間は『これは円盤なんだろうか』という気分で見えていた」

そのすぐあと、「自宅にいる（竹内さんの）奥さんに知らせた方がよい」という渡辺さんの言葉に従った竹内さ

●竹内さんが描いた円盤



んは家に向かって走り、渡辺さんもそのあとに続いた。



●ここで円盤を目撃した。

竹内「とにかく全力で走って行って行って成子(奥さん)に知らせたわけ。ドアを開けて『UFOだ!』とどなりながら中に入り彼女を外へつれ出した。彼も追いついて三人で家の前の角に立ったときにはもう遠くの方へ飛び去ってしまったって最初のときのような二つの光が見えるだけだった」

成子「だから私が見たときはもう飛行機と区別できないほど遠かった。でもユラユラとしてすごく動きが変なのね」

竹内「そう」

今までは信じなかったのに:

——かなり冷静だったようですが。

竹内「わりと疑いの眼でいつも見ているから。だいたい私が言うんだから確かだと思ふよ。私の友達も私が見たと言えばみんな信じるもの。私はあまりそういうことを言うような人間ではないから」

これについて彼の友人は、「一番信じにくそうな人(竹内君)が見ているでしょう。それが非常に面白い。そういう強烈なショック療法でもやらない限り引き込まれない人だから」と語っている。

竹内「今まで全くUFOに興味がなかった。去年(一九七五年)の十月頃渡辺君や他の人たちと知り合ってからUFOについて知るようになったばかり

でそれまではどっちかという哲学とかヨガをやっていた。UFOに関してはテレビでよく見たけれど、やっぱりいるのかなあというぐらいにしか思っていないなかった。最近急に興味をもち始めたというか」

——見てからですか。

竹内「そう。やっぱりね」

——今までアダムスキー型円盤についての知識はありましたか。

竹内「あった。テレビでみたぐらいだけれど。ただこれは確かに灰皿をひっくり返したような形だった。先入観とだぶらせたのでは決していない」

——その日は他に何か変わったことでもありましたか。

窓外からの不思議な閃光

竹内「それが一つだけあった」と言いながら語った内容とは——。

同日昼頃から立川基地近くの中神に住む友人(木村さん)宅でいつものようにバンド練習をしていた竹内、渡辺、木村、立川の四人は一回目の休憩にはいった。

竹内「三時頃かな。一瞬パッとフラッシュをたいたときのような閃光が窓の窓から差し込んだ。そのとき木村君は席をはずしていたので残りの三人が目撃した」

——窓はどの方向にあるのですか。

竹内「東南。窓のそとはすぐ道路で、



●上 渡辺さんによる“円盤”の図。左右どちらの形にも思えたという。
●右 図を描きながら説明をする竹内さん(左)と奥さんの成子さん(右)。



その向こうは立川基地(米軍が撤退したため現在は使用されていない)になっている。車が通るけれど光の反射とも思えなかったし。
そのときは『何だ今のは』ぐらいで他の話題に移ってしまったがあとから考えると不思議だ。その夜円盤を目標撃した二人は、「ひょっとすると何か

知らせのようなものだったのでは——すると彼らも目撃したのではないかと思い次の日の練習のときに尋ねたが他の二人は見えないとのことだった。

——その日UFOを見たあととは？
竹内「興奮が続いてその話しかしなかった」

——最近になって変わったことはありますか。

竹内「見間違いではないかと思うけれど似たようなのを二回見た。でも、はっきりとは見なかったし飛行機と間違えた可能性もあるから。」

場所はやはり同じところ——。この頃、帰りはいつも同じコースを通って同じ方向をキョロキョロ見まわすようになった。

前にも言ったようにそれまで「UFOを見たい」とはあまり思っていなかったし、渡辺君がその前から見たようなことを言っていたけれどそんな話を聞いてもピンとこなかった。ところが、実は一カ月ほど前から見たいという気持ちが強烈に起こってしきりに「見たいな見たいな」と思っていた」
成子「言ってたわね」

竹内「そうしたら見てしまった。なにか見たことが自分の中ですばらしい体験となって残っている」

——また見たいと思っていますか。

竹内「思っていますよ、当然——見れるような感じがしますか。」

世にも不思議な事実が発生

私は宇宙人の

クビをすげかえた!

一昨年九月、岡山県宇野港に通じる国道三十号線の峠で、トラックを運転していた静岡市の運転手の眼前に突然、宇宙人が現れ、自分のクビをすげかえてくれないかと頼んだ。運転手は呆然として宇宙人の言われるままに行動したが、その首は全部機械で出来ていた。その宇宙人は住み慣れた自分の星を離れ、新しい星を求めて地球に着陸した。やがて運転手がわれに帰ったとき、トラックはすでに四キロも離れた宇野港に到着していたのだ。

一昨年九月三日午前五時頃、夜も白々と明けはじめ、人々も深い眠りから覚めようとしていた。静岡市の軍転手、福田雄治さん(三十一歳)はトラックのハンドルを握って九年になるベテランである。家具を満載したトラックは前日の夜、静岡を出発して名古屋、

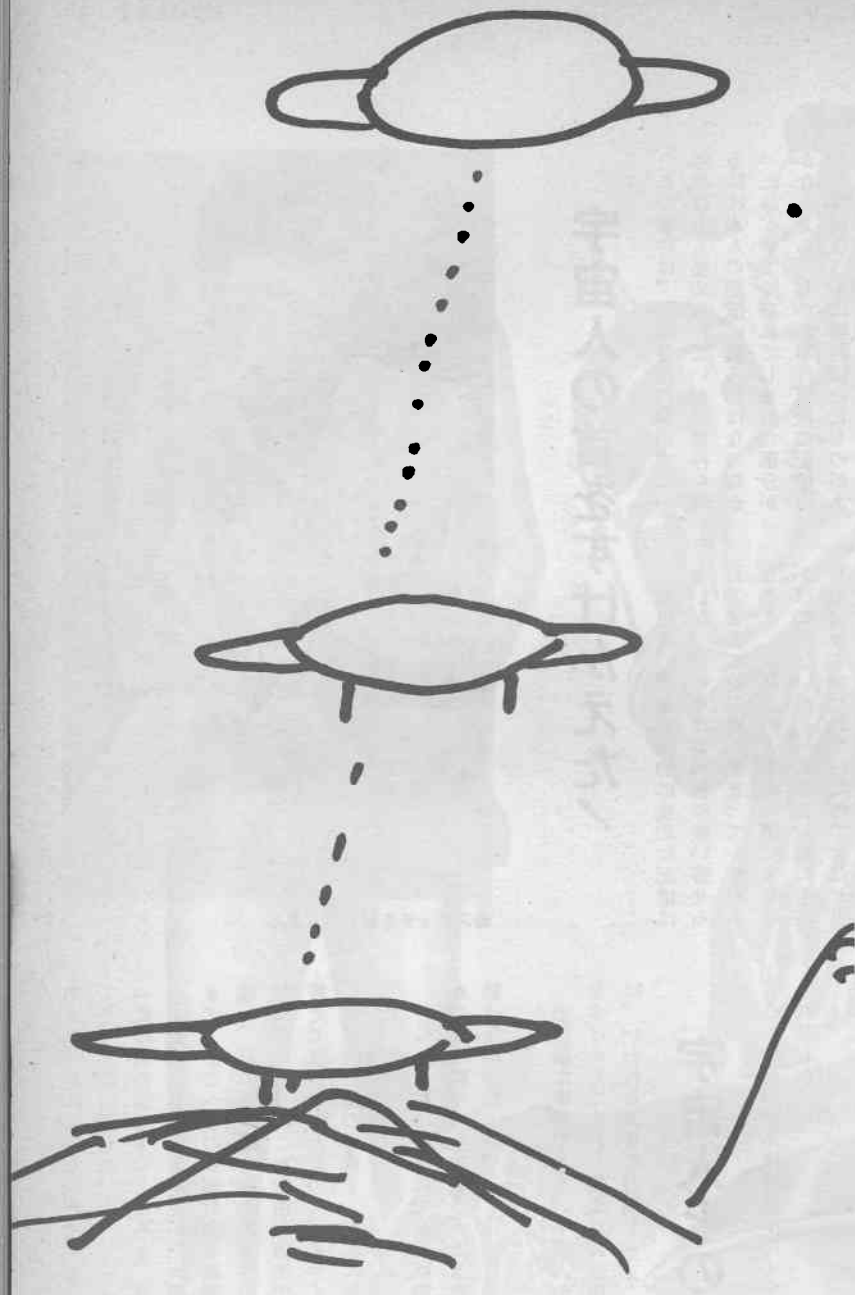
屋、大阪と抜けてきた。いまは四国の高松に午前七時に着くためにカーフェリーの出る宇野港目ざして、岡山市内の国道二号線から山間を抜けて宇野市に出る国道三十号線へと入って来た。今までにも月に何度となく高松市に家具を運ぶため通い慣れた道だが、さす

がにここまで来ると長時間運転した疲れか、すれ違う対抗車の音も、遠くで聞こえる耳鳴りのように響くのであった。

岡山市内を通り抜けてすでに三十分は過ぎたであろうか、カーフェリーの出る宇野港まで、あと一息である。船に乗ってしまえば高松まではあとわずか、船中で眠ることもできる。峠に入る前に、福田さんはいつものように車を止めて自動販売機のうどんを食べた。

まもなく車を走らせると、やがて宇野港まで三、四キロメートルの、道路の両側が岩に覆われた小さな峠に差しかけた。ここまで来ればカーフェリーに乗ったも同然、すぐにも夜が明けようとしているし、さつき食べたうどんの匂いも心地よく鼻の先をくすぐる。さきほどまでしつこくつきまとっていた睡魔もウソのように消え去って、ハンドルを握る手にも自然と力が入っていた。すれ違う車もなく、センチラインの白い帯が福田さんの視界の中に飛び込んで来るだけだった。

すると突然、車のフロントガラスを透して見える見慣れた光景の中に、異様に輝く一つの光体が眼についた。初めて見るその奇妙な物に自然と注意をうばわれていた。光体はますます近づいて来る。家具を積んだトラックも次第に光体の方に吸い込まれて行くような気がする。やがて、異様な光体はゆ



●図① 福田さんが描いた円盤のスケッチ

つくりと左手前方にある突起の激しい岩山にある上部の平たい大きな岩に、小鳥が木の枝に止まるようにして（本人が語った言葉）、音もなく降り立ったのである。

一見、土星のように般体の周囲に輪を持つこの物体が岩場の上に降り立つときには、明らかに幾本かの足を船体の下方に伸ばして着陸したことを覚えていた。まああたりに見るこの不思議な物体が空飛ぶ円盤であるということには福田さんにも十分理解できた。

光景を福田さんは脳裏に深く焼きつけたにちがいない。だが、福田さんにとって鮮明な記憶を保っていたのはここまでの出来事であった。このあと次々と起こった光景は、あたかも作爲的に記憶を消されたかのごとくモウロウとしたものになっている。そして再び我に帰ってハンドルを握ったときには、すでに車はカー

フェリー乗り場のすぐ近くまで来ていた。たった今まで、あの岩に覆われた峠をひた走っていたのに、それがどうしたわけでごくまで運転して来たのか記憶が全くないのだ。それにしてもカーフェリー乗り場には予定どおりに到着した。不思議なこともあるものだ。記憶の消えた空白の時間中、一体自分は何をしていたのだろうか、カーフェリーに乗ったあとも福田さんはいぶかるのだった。

このフェリーは、高松に午前七時に着くために乗り込もうとしていたものだし、時間的におかしなこともない。すると記憶を失った空白の時間はせいぜい二十分といったところだろう。それにしても、よくここまで事故もなく来たものだ。思い返しても不思議だが夢でも見ていたのだろうか。やがてさまざまな光景が思い出されてきた。

福田さんにとって、それは全く未知の体験だった。これまでも職業柄、日本全国を走り回ってきたし、いろいろと不思議なこともあった。幽霊現象かどうかかわからないが、富山から名古屋に抜ける国道四十一号線のヒダ川と呼ばれる路上で、真夜中の二時だというのに三、四歳の子供が立っているのを見て、あわてふためいて帰って来たこともあるが、今度のような事はなかった。



●スケッチを描く福田さん

宇宙人の首をすげかえた!

この事件は、福田さんの胸の中に一年半以上も秘められていた。事件を知るには本人の記憶に頼らねばならなかったが、すでに忘れてしまった部分が多かりある。しかし事件直後の記憶のまだ鮮明なうちに書き留めたものがあるので、それを紹介しよう。

：「もうすぐフェリー乗り場だなあ」
私が一人ごとを言いながら車を走らせているとき、左手前方、沼の奥方岩山の方から銀色の光を発しながら金属板のようなものが近づいて来るのに気がついた。金属板の大きさは直径約八メートル位で、私の前方左手の十メートル位のところへ着陸した。

私自身、車を意識的に止めた記憶はないが、私の車は金属板に吸い寄せられるようにその場へ止まっていたのか

なあ? 金属板のどこから出て来たのかは知らないが、一人の女(髪の毛が肩の辺りまでたれていた)で女だと思(う)が無言のまま助手席に座った。私は恐怖心とひどいショックのため、放心したようにその女を見つめた。やがて女はその人相に不似合な声で話し始めた。よくテレビでコンピューターの声が出て来るが、それに似ていたようだ。

「私は地球へ来てかなりになるが、頭の調子がおかしいので、かわりの頭と取り替えてほしい」。私は恐ろしさの

あまり、声にならない声で「どうやって?」と問い返した。

「私の首の少し下のところと、首と肩の中間あたりの両方に点が三カ所あります。そこへこの金属針金を直線的に通し、首の下の点を押し下さい。そして、かわりにこれを逆の方法でつけ替えてほしい」と言って、そっくり同じ顔、同じ頭の生首? を私に差し出した。

とにかく私は魔法にでもかけられたかのようにその女の言うがままにしか動けなかった……。

不思議な事件である。宇宙人から首をすげかえてくれと頼まれた福田さんは、いわれるままに行動したそうだが

宇宙人との対話

ここで福田さんは言葉少なく宇宙人と対話した。

私はこの星へ来てイチャルイになるが、頭の調子がおかしいので、かわりの頭と取り替えてほしい。(宇宙人)

——どうやって?

私の首の少し下のところと首と肩の中間あたりの両方に点が三カ所あります。そこへこの金属針金を直線的に通し、首の下の点を押し下さい。そしてかわりにこれを逆の方法

が、終始呆然としていて恐ろしさなどは忘れていた。宇宙人の姿にしても特長にしても思いつけないと語っているが、座っていた座高から判断して、百六十センチ前後の身長だろう。男女の性別は髪の長さからみて女性。角のようなアンテナが突起している頭部は二つの眼を除いてマスクをしたように見えた。

図②を見ればわかるように胸に三つの黄色に輝く押しボタンがついていて、このボタンを押すことによって頭部がはずれたらしい。身体を包んでいる衣服はゴムのように肌と密着している。靴をはいていたかどうかなどその他の細かい部分を思い出すことは困難である。

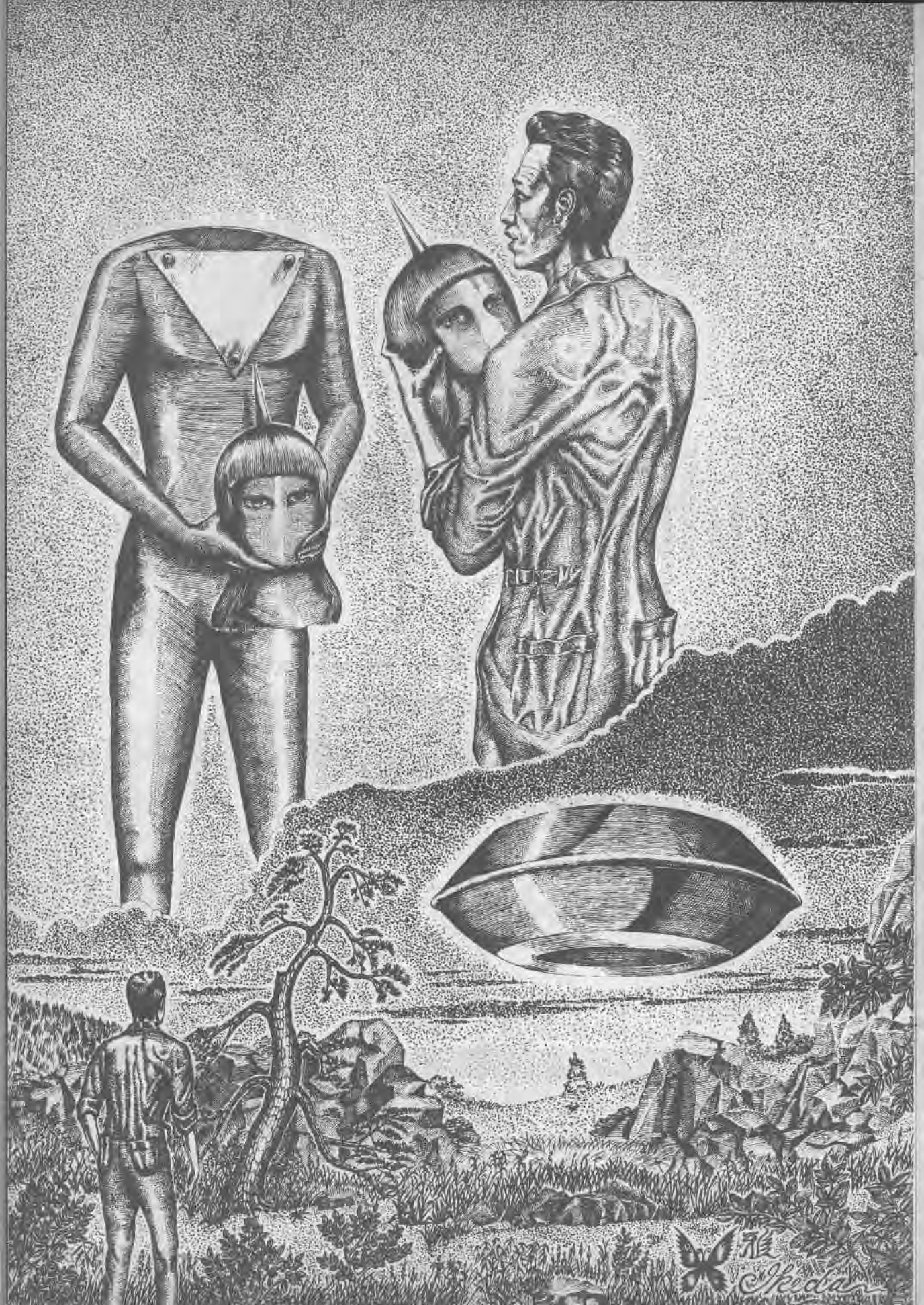
でつけ替えてほしい。

私たちはこの星を征服に来たのでは無く、私たちの星が他の星と衝突してなくなってしまう。その直前に宇宙船に乗った仲間だけがこの星へやって来て住みついているのです。

——どこで仲間たちと住んでいるのか?

今は言えない。私たちをこの星の人々が理解してくれたときに、私たちの代表がこの星の代表と話し合い、住む場所をきめてもらいます。

——私たちの星の言葉とあなたたち



後 Keda



●図② 福田さんが描いた宇宙人のスケッチ

福田さんとのインタビュー

これから先は、事件を思い出して語る福田さんとのインタビューである。

——事件が起こるような、そんな予感があったのですか。

「いいえ、全くそんな感じはありませんでした。今までに何度か通っていた峠で、偶然、あんな事件に出会ったような感じですよ」

——宇宙人は一人だけですか。

「一人だけでしたね。円盤だってあれ一機しか見てないし、あの円盤の中には一人しか乗っていなかったんじゃないかなあ」

——どこから来た宇宙人ですか。

「さあ、話してくれなかったし、私も質問しなかったから。ただ、自分たちの星がなくなるので、その直前に仲間たちと逃げて来たと言っていた。

多数の宇宙船で逃げたらしいが、この地球に偶然たどりつくまでに強い太陽光線によって燃え落ちたりしたものがかなりあったようです」

——その仲間は、今どこにいるのですか。

「今でも地球上のどこかに、集団で住んでいるようですが、その場所までは教えてくれませんでした」

——それは、どうしてなんですか。

「なんでも、彼らの宇宙船は一つあれ

ばこの地上のすべてのものを破壊できるほどの力があるので、万が一にもこの星の人々と争い事をしたくないからだと言っていました」

——そんなに彼らの科学水準は発達しているのですか。

「彼らの科学水準はわかりませんが、地球上のあらゆる科学よりも進んでいるというふうなことでした。宇宙人の様子ですと、地球上のことならなんでも知っていて、すでに知りつくしているような感じを受けました」

——どうして首のすげかえを福田さんに頼んで、仲間に頼まないのですか。

「それは私にもよくわかりませんが、ただ首をすげかえてほしいと言われたもので、そうしただけですから」

——やはり福田さんとコンタクトした目的も首のすげかえにあったわけですか。

「そうじゃないかと思っています。頭が故障して痛むからすげかえてくれないかといわれました」

——福田さんの前に現れた宇宙人はロボットですか、それとも私たちと同じような人間でしょうか

「人工的に作られたものじゃないかと思っています。ただロボットと考えるよりは人間とロボットの中間のように思え

の星の言葉で、なぜ話し合えるのですか？

私たちの星は、全てにおいてこの星より進んでおり、私の頭の中はコンピュータが詰まって造られた機械なのです。私たちの一人一人がこの星のすべての事を知るだけの能力を持っているからです。

——今まで何人もの人がキラキラ光る円盤を見たと言いますが、あなたがたの物ですか？

そうです。私たちの住んでいた星は、わずかな明るさの星でした。だからこの星のように強いエネルギーを持った星では、私たちはエネルギー（太陽光線）の弱い夜でなければ

行動できないのです。私たちの宇宙般も光エネルギーで動くのです。私たちがこの星へ来た初めの頃、仲間の宇宙船が強いエネルギーのため、いくつも燃えて落ちました。私たちは弱いエネルギーの所でなければ滅びてしまうのです。

私たちは一度あった星の人とは必ずや再び会うことになっています。またいつかは必ずあなたの前へ姿を現します。

ここで対話は終わっていて、宇宙人がこの後、どうやって姿を消したのか、また円盤に乗って飛び去ったのか全く福田さんの記憶にない。



●宇宙人の首をすげかえた様子を語る福田さん

「生活環境などの具体的なことは聞いていませんのでわかりませんが、彼らの住んでいた星は光が少なかったの
で、光の強い所では生きて行けない。
そして円盤も機能を果たせないよう
で、地球上に着陸したのも太陽光線が
強すぎて他の宇宙船などが燃えたり、
故障したりして仕方なく着陸したよう
でした」

「——いまでも、地球上に住んでいると
思いますか。」

「——やはり日本語で話し合ったのでし
ょうか。」

「私は日本語しか知らないから、おそ
らくそうだと思います。宇宙人が言う
には、この地球上のすべての事、すべ
ての言葉が理解できると言いました」

「宇宙人の首はどのような方法です
げかえをしたのですか。」

「座っていたものだから、互いに体
をひねり合ってやったんですが、首を
はずすときには胸にある三つのボタン
を上から下へ順番に押していったよう
に思います。取り付けるときは、全く
逆の順番でボタンを押していったよう
でした」

「——取り付けるときには音がしました
か。」

「たしか、はずしたときも取り付ける
ときも、ガチャンと金属的な音がした
ように思う」

「——宇宙人の首をはずしたときには、
首のない宇宙人の体の内部をのぞいて
見ましたか。」

「あまり良く覚えてないけど、のぞか
なかったようです」

「——その首は重かったですか。そして
冷たかったですか。」

「どうだったか覚えていない」

「——福田さんは宇宙人に記憶を消され
たのですか。」

「消されたんでしょうか。今までにそ
んなこと考えてもみなかったです」

「——やはり宇宙人は福田さんを選んで
コンタクトしたのですか。」

「私が偶然にあの峠を通ったので宇宙
人と会うことになったと思います。特
に私を指定したというようなことはな
いと思う」

「——福田さん以外にもコンタクトして

★UFOファンに贈る! ぴんちのきいたサウンド!!

500枚
限定盤!

17cm LP ステレオ ダブル盤
¥1,000 (荷造送料共)

大宇宙の息吹きが躍動するファン待望のレコードが初めて登場しました!!

- A面=オオ! UFOの歌入りとカラオケを収録しました。
B面=現実再現ドラマ「UFOと斗った男」のジャック付で
「ゴッドマン空軍基地のその日を描いたマンテル事
件」を収録しました。出演は塩銅清史他です。
- 作詞/星乃銀平 作曲/明星 宏 編曲/指揮/入江重幸
歌/山下 豊 演奏/ザ・フォースフィールドとルナマン
ドリンアンサンブル
- 500枚の限定盤です。ご希望の方はお早めに1,000円 (荷
造送料共)を下記に直接現金送金して下さい。着きだい
すぐレコードをお送りします。
- 宛 先 〒673-03 神戸市垂水区神出町五百蔵142-161
日本UFO研究会 レコード係宛
- 監修・選定・発売/日本UFO研究会
録音・製作/阪神録音社

G&F



●福田雄治さん（右）と夫人の和江さん

——福田さんが会った宇宙人の仲間もやはり同じ姿なのでしょーか。

「それはわからないです。他の仲間には会っていないから」

——先ほど争い事を好まないと聞きました。彼ら宇宙人は平和主義者ですか。

「そうだと思います。地球を攻めたり日本を攻めたりすることはな

いと思います」

——地球人に対するメッセージなどはあったんでしょうか。

「そのような話はなかったように思いますね」

——宇宙人の年齢についてはどうでしょう。

「年齢についてはわかりませんが、なにか時間の単位らしい言葉を話しましたよ。たしかイチ、イチルイとか言っていました」

——どのくらいの長さに相当するのでしょうか？

「さあ、それはわかりませんがね。たしか地球に来てからイチルイになると言っていました」

——宇宙人の態度は福田さんに対してどのようなものでしたか。

「友好的といった感じではなかったね。私自身あとになって考えてみるとゾーッとするんだけど、私は命令されるままに動いたような、そんな感じがしたがね。二、三質問もしましたが、それについては答えてくれたように思います」

——宇宙人とは二十分ほど会っていたんですね。それにもかからずトラックは予定通りにカーフェリー乗り場の近くまで来ていたというとは、どういうことなのでしょう？

「そうなんです。その辺のことが私自身、不思議に思っているんですが。我に帰ったときには正常に運転していました」

——宇宙人にとって首のすげかえは自分自身で不可能でしょうか。

「どうでしょうか。たしか頭全部が機械で作られていて、故障したため、自分自身ですげかえることができないら手伝ってほしいということだったと思います」

——交換するための首は用意してあったんでしょうか。

「私が首を上につけてはすしたらすでに全く同様の首を両手の中に持っていましたね」

以上が宇宙人と福田さんの対話である。この事件はすでに、事件後一年半以上を経過しているため、これ以上詳しい情報や物的証拠などの資料は入手

できなかつた。

事件当日、帰宅した福田さんの様子を妻の和江さんは次のように語っている。

「興奮して帰ってきましてね、主人が『おれは今日、宇宙人と話をした』とか『宇宙人の首をすげかえてやった。気がついてたらフェリポート乗り場のすぐ近くまで来ていたんだ』などと言うもので、いよいよ疲れて頭がおかしくなったかと思っていました。突然なもので、私もそうですが、ふたりの子供も笑ってしまいましたし、全く聞き流しにしていたんです。あとになって主人が自分で編集している会社の社内報に発表したんですが、会社の人も笑って

いましてね、私も気がおかしくなったんではと心配したんです。その後はいつもの主人と変わりません」

事件を体験したのちも、福田さんによると、精神的、肉体的にも別段変わった様子はなく、UFOに対して、これといって興味起きないそうで、インタビュアーには終始、淡々とした口調で語った。宇宙人の存在についてははっきりと肯定して、自分以外にコンタクトされる可能性を強調した。

またその宇宙人の仲間の集団が地球を離れて他の惑星に移住する可能性についても肯定している。

これは蛇足だが、この取材にあたって福田さんは静岡市内の病院に交通事故のため入院していた。

いる様子はありますか。

「それは聞いてないのでわかりませんが、一度あった人にはもう一度会いませうと言いました」

——もう一度会いましたか。

「この事件の数カ月後に岡山県の三石でトラックを運転中に見たのがそうだと思うのだが、別に話をしたわけではありません」

——円盤の推進力については？

「私も聞かなかつたし、宇宙人も必要以上のことは話さないようにしていたようだから……」

私は円盤に乗った！

驚異のホワイトサンズ事件

ダニエル・フライ著／久保田八郎訳



一九五〇年七月四日夜、米ニューメキシコ州ホワイトサンズのロケット実験場に突如一機の円盤が着陸し、内部から響く不思議な声に誘われて乗り込んだ科学者フライは、ニューヨーク上空までを三十分間で往復する！ その間、円盤の推進法や宇宙人の故郷と超絶した科学、哀れな地球の現状等を知らされるというこの驚異的事実物語は、本誌第二号に掲載されて当時の読者を熱狂せしめたが、いま新装なった単行本として同著者によるすばらしい関連記事三篇をあわせ収録しあらためて読者に贈る！ UFO研究者必読の書。

付・宇宙人アランのメッセージ／進歩の曲がり道／原子・銀河系・理解

B 6判
272頁
¥ 750
〒 160

ユニバースUFOシリーズ

パプア島の円盤騒動

宇宙人の劇的出現事件

ノーマン・クラットウェル神父著／増野二郎訳



ニューギニア島パプアで一九五九年に一大UFO出現ブームが発生した。島内の各所に円盤が低空で降下し、堂々と姿を現したが、特にポイアナイにおける出現は劇的であった。地上数十メートルの位置に停止した円盤の上部から、数名の「人間」が、歓声をあげて手を振る島民たちに手を振ってこたえる。この驚異的事実を現地在住のクラットウェル神父が徹底的に調査報告し、大事件の全貌を克明に伝えたすばらしいドキュメント！ 更にフランスで発生した「火の玉UFO事件」と「多条光線を放つ円盤」他四篇を掲載した！

付・フランスの怪奇・火の玉UFO事件／多条光線を放つ円盤

B 6判
268頁
¥ 750
〒 160

ユニバースUFOシリーズ

書店にない場合はユニバース出版社業務部へ直接ご注文ください。

これは本誌前号「アポロの飛行士は月で地球外文明を見た？」に続くアポロ情報分析の第二弾である。真空に近いはずの月面で、ほとんど星が見えない、あるいはホコリが舞い上がる、などの現象は、我々が知らされていない宇宙の真相を解き明かすカギになるかもしれない。

一九六九年という年は、人類が地球以外の天体に到達した非常に意義深い年であった。五月にアポロ十号が月への往復飛行に成功し、七月にはアームストロング飛行士が十一号でついに月面上に降り立ち、更に十一月に入って

から二度目の月旅行をやり終えてしまった。ソビエト側の注目すべき動きが聞けなかったものの、十一号での初の月着陸をピークに、まさに宇宙元年の名にふさわしい一年であったといえよう。

我々にとって最も関心のあったことは、これらの輝かしい宇宙開発によって、どれだけ宇宙の真実が明らかにされてくるだろう、ということであった。ややもすると、表面のはなやかさに気をとられてしまっ、そこでどのような事実が観測されているのかということを見過ごしやすいうのである。私も十号、十一号頃はおもだった新聞記事を切り抜いておくくらいで、たいした注意もしてはいなかった。また当局でも極力さしつかえる情報は流さなかったとみえて、表面的なことしか報道されなかったようである。

これが十二号頃になると、一般の興

と思わせるようなことが出てくるようになった。

アポロ十一号の三飛行士が来日したり、月の石が日本でも公開され、十二号が月から帰って来たこの年の暮頃、私の知人でどうも発表されている情報の中におかしなところがあるようだと言ってくる人がいたので、さっそく集めた新聞記事や雑誌などの整理をやってみたところ、アダムスキー等によって知らされている月面の状態を裏付ける多くのことが出てくることに気付いた。そしてあの素晴らしいニュースが日本にもたらされたのである。

アポロ十号

ぬれた粘土のようだ

月への旅行に際し、まず月の周りを回って無事地球へ帰って来るといふことが試みられたわけである。

月で何があつたのか

アポロ飛行士とNASA

ナゾの交信

荻沢潤一郎

味もうすらいでき
ており、はなやかな記事は少なくなり、観測データなどがひんばんに出るようになり、我々の目にもおやっ

アポロ情報再検討



飛行士はスタッフフォード、サーナン、ヤングの三人で、日本時間五月二十三日の早朝、月面から一五、二〇〇メートルの距離まで接近し、月の裏と表をつぶさにその目で観察したわけである。

このくらいの距離だと四、五階建てのビルくらいのもも判別できるようなのである。

また、こうして月を回りながら二千枚の白黒写真と映画十八巻を撮影しているが、その一部が公けにされているだけである。おそらくは、あのアポロ八号が写した、湖と思われるツイオルコフスキーの近影以上に素晴らしい写真がたくさん撮られたにちがいない。

しかし、報告されているだけでも、いくつかの興味深いことがある。

まず第一は、いわゆる「サイドワインダー」(ガラガラへび)と命名された、例のひからびた川のような「流れ」

である。それらはちょうどニューメキシコ州やアリゾナ州にあるような砂漠地帯の干涸った川にそっくりであったということだ。この流れの原因については「月に昔あった水によってできた」とする説や「火山の溶岩流のあとだ」などといわれているが、私はそれらのあるものの中に、底の蛇行の具合が、水の流れによってえぐられたようになっていることから、水によってできたものもあると考えている。

また月の表面について「ぬれた粘土のようになめらかだ」と報告してきているのは実際どのような状態だったのであろうか。ヤング飛行士は「月がどんななかは実際に見てみないとわからないよ」と言っている。水の存在については後の方でも取り上げてみる。

もうひとつ十号の観測で面白いのは月面上の光点についてである。特に裏でそれらが見られたようだ。

「クレーターの内には、中心がポイントと光るものがある。放射線で照らされたみたいだ。とても弱い光だが……」(アポロ)

これは、アポロが太陽光の中から明暗境界線を越えて暗い部分に入ると、それまで真黒に見えていた月面がポイントと光り出すこととは別のもののようなのだ。それは地球がどの位置にいたかによるだろうが、地球からの照り返しによるとも考えられる。しかし、裏側に回ってしまえば絶対に地球は見えないはずだから、発光は何か別のものということになる。

地球上で、夜どこかの大会の上でジェット機で飛んでみたら、ちょうどこの宇宙飛行士が発したのと同じ言葉が聞かれることだろう。「クリスマス・ツリーのようにはキラキラと街の明りが見えて何と美しいことだろう」と。そして遠のくにつれて、たぐさんのイルミネーションやネオンが、その地区全体をポイントと明るく浮き上がらせて見えるだろう。

「宇宙からの訪問者」(G・アダムスキー著)などによれば、山から水を引

いて、谷や山腹に大小多くの都市があるとされている。そして都市に隣接した比較的広い地域、すなわち火口の内側に彼等の宇宙船の格納庫である巨大なビルディングが建てられていると。

したがって、夜であった月の裏側を見たアポロの飛行士たちは、当然それらのいくつかを見ていることになる。

このほか、火口壁の地層の発見、風化現象、まるで雪をかぶったような白い頭の突き出した富士山のような山など、もつと詳しく知りたい情報がたくさんでていた。

アポロ十一号

動物がいたら

観察するよ

それからわずか二カ月後に、地球人類の造った宇宙船で初めて我ら地球人が月面に降り立ったわけである。だれのために読ませようというのか、着陸船の足に「我々はすべての人類のために平和裡にやって来た。ここに地球より、人類初めて月に立つ」とうたった記念プレートを付け、アームストロング、コリンズ、オルドリンの三人が月に向かったのであった。

まず月へ行くまでの宇宙空間の様子、ヒューストンの管制センターとの

交信として伝えられた。

アポロ「空は黒いというよりバラ色に輝いているところもあるの。星01号は見えない。六分儀をいろいろ操作してみたが、やはり見えない……」

ヒューストン「いま汚水を船外に飛ばしてしまっているから、星を手掛りに運行をする地点に到達するまでに約一時間かかる……」

アポロ「望遠鏡はあまり役に立たないね。六分儀を使えば、水滴と星を見分けることができる。動きがそれぞれ違うからね」

ヒューストン「それはたくさん水滴はまだ船外についているが、星との見分けはつくということかい？」

アポロ「そうだ」

アポロ「また星が見えるようになり今度の飛行で初めて星座を識別できた。空は星でいっぱい。地球の夜と全く同じだ。しかしこちらではときどきしか星が見えない。また星の散らばり具合はわからない……」

宇宙空間で星が見えないというのは以前から彼等が持ち帰った写真に一枚も星が写っていないことから私が推測していたことであつたが、これはアダムスキーがすでに体験していることで、彼は「宇宙空間が完全な暗黒なのに驚いた」という表現であらわしている。このことが十一号の飛行士た

ちによっても、ほとんど宇宙空間では星が見えないということでも明らかにしたわけである。更に、バラ色に光っている所があるというのはどういふことなのであろう。実に不思議なことである。あるいは、真空の宇宙空間に出た水が、水滴のままでも何時間も船外に付着しているということは理に合わない。

この答は、実はアダムスキーの体験によつて解かれるのである。彼は巨大な宇宙船の外に何の宇宙服も身につけずに出歩いている。これは、宇宙空間にある物体の表面には必ずある程度ガスが発生するのだとブラザーズ（宇宙人）から教えられていたからであらう。

いわゆる真空とされている宇宙は、我々が考えている以上の何かを含んでいると認めなければならぬ。

アポロ「窓のまわりに何か小さな粒子のようなものが踊っているのが見える。いま窓ぎわで微粒子を見ているところだ」

アポロ十一号が着陸する予定の地点から約千キロほど離れたアリストアル火山口で、ちょうどこの頃発光現象が起きていた。これはソ連の天文学者コズイレフ博士やオランダ国立天文台等が発見して警告していたものだが、これを飛行士たちは見ている。

アポロ「アリストアルコスに面してい

るのかどうかこの距離ではわからないが、かなり明るくなっている地域がある。ケイ光のように見える。クレイター地帯の中の一つのクレイターが全く明るい。全く明るい地帯があるよ。リン光かどうかわからない……」

この光は火山活動でシアンガスが出ているとコズイレフ博士等は言っているが、十号の飛行士が見たクリスマスツリーのような光もあり、正体が何であるか、私たちには写真一枚ないのでわからない。

しかしこの辺は多くの発光現象などの変化が観測されるところで、地球側に面している地帯の中でも我々の注目すべきところの一つだ。

危機を押ししての

着陸強行

さて、いよいよ月面着陸態勢に入る

ここで重大なトラブルが発生した。

高度約九千メートルからコンピュータの故障が起き、これはそれまで飛行士が模型装置で行ったすべての想定訓練で一度もなかった故障であつた、とアームストロングは言っている。発表ではコンピュータのオーバーワークだとされているが、計器類は着陸放棄の警報を告げていたのだ。

このトラブルが、円盤が航空機に接近したときに起きる計器の狂いと同じではないかと思われる。地球の人類が初めて他の天体に到達せんとして月に近づいていたとき、月在住の宇宙人が近づいて見守るといふことは考えられることである。

しかし、それにしても、この危機を押しなぜ着陸を強行できたのか。最初の警報が伝えられたとき、地上管制チームのメンバーの一技師が、この際着陸レーダーの作動に関する乗組員の質問に答えないで強行を決断したといわれているが、これは他によほどの確信がなければ下せるものではない。宇宙人から何らかの連絡があつたのではなからうか。

着陸の際のこのトラブルの推測を裏付けるかのように、その後やはり飛行士たちが、一般向けでないチャンネルで近くに着陸船以外の宇宙機が見えることを報告していたというニュースが伝わってきたわけだ。事実、着陸後ハッチを開くまでなど、だいぶ空白の間がある。我々としては何としてもこの事実の確認を得たいものである。

月面に降り立ってから、月表面がどのような状態であつたかは、以前と同様、非常に漠然とした情報しかなく、後の分析結果の発表も、実に当たりさわりのない内容のものであつた。



●内部は湖水ではないかといわれているツィオルコフスキー・クレーター

イーグル「我々は忙しかったし、特に圧力の変更は予想よりもむづかしくて、実際予定したよりも月面歩行に出るまでの時間が長くなった」

イーグル「ここからは(月面着陸後)星は見えない。だが頭上のハッチを通して地球が見える。……オールドリオンが何とか星を見つけようと光学装置をのぞいている。

月面歩行活動は温度もかなり上がったが、宇宙服のおかげで非常に心地よかつた」

船外の気温は寒いらしい。「気温は

どうか」との地上の問い合わせに、宇宙飛行士は「Oh」と声をふるわせて寒いことを示す。

アームストロング「イーグルの影に入るとちよつと感じが違う。宇宙服を着ている、影の方がやはり涼しいような感じだ」

イーグル「標本は十分つまっている感じだ。コア・チューブにくつつく様子は、いわば湿っている、という印象だった」

ヒューストン「湿った感じ、了解。こちらでは船外活動の前に君たちが描

写した情景を記録してある。月の地質についてはそれ以上の説明はないか」

イーグル「その考えは明日まで待ってもらえまいか……」

注目される通信内容を例記してみた。最初のは、船内気圧を「真空」にするのに手間どつたというのと、星が月面では見えないというものだが、この両者の記録の裏に、ある一つのこと

が共通して隠されているのではないだろうか。

すなわち、ある程度の大気が存在である。全くの真空ではないために、船内気圧をそれと等しくするのに手間がかかり、また昼間、といっても朝方だが、とにかく日が昇っていると星が見えない。

これは大気のせいで、少なくともエベレスト山頂くらいの気圧があるのではないであろうか。エベレストくらいだと昼間でも星が見えるということである。

次に気温が暑いとか寒いとか言っているが、実際外は何度だったのかは発表されていないようだ。

また、土が湿った感じだというのは実際はどうなのか、問題である。

地球へ土を持ってきて、真空の中へ入れてから調べても、土中に含まれた水素ガスもみな発散してしまい、すべて味もそつけないものになるのはあたりまえで、そうした分析結果で満足

している大衆こそごまかされているといわねばならない。

だいたい月物質をたくさん積んで帰ってくるまでの船内は相当な温度になっていたという事実が、十一号の場合も十二号のときもあつたのである。

アポロ十二号

テレビカメラは

なぜこわれたか

月面状態についての情報は十二号になるとがぜん豊富になってくる。一般では十一号の際の方が騒がれ、十二号はあまり見向きもされなかつたといわれているが、実質的な内容がよりたくさん公表されたのは後者の方であつた。

特に、近くに以前月に行つたサーベイヤー三号が残っており、また、より充実した観測機器と、夜でも使える原子力発電器などがそろつていたことなど、地味ではあつても多彩な情報が流れた原因であつた。

観測装置類の中に、大気測定器と電離層測定器もしくは月雲計というのがあつた。まさしくこれは大気存在を前提としたもので、この真の数値を知りたいものである。後に地球の百万分の一の大気が観測されたと発表された

が、これでさえ多すぎると学者連から反発され、結局、この数値は機械が狂って誤った報告をしてきたものだといふふうには撤回されてしまった。

さて、月に着陸したのはコンラッドとビン飛行士で、着陸地点の東南わずか百八十メートルのところ二年七カ月前に到着したサーベイヤー三号があった。

またこのときは、カラーテレビで地球へ生中継することになっていたが、どうもおかしな操作をして故障させてしまい、結局ほとんど月面の様子は一般へは見せずに終わってしまった。だいたい中継を始めてじきにカメラを逆さまにさせてしまい、三十分もほっておいて、それが直ってチラッと月面の様子が流れたかと思ったらブツンともう切れてしまった。ヒューストンではカメラが太陽光線で焼けたといっているが、我々にとってはおかしな臭いがブツンする。

どうも着陸船からの通信内容を調べると、このカメラの故障の裏には大きな別の理由があったように思われる。それは「風が吹いていた」のである。もちろん大気存在が裏付けられてくる。

まず着陸してからの第一声がこれである。

着陸船「ヒューストン、十一号のときよりすごいホコリが舞い上がっている」



●月から帰還した直後のアポロ飛行士たち。彼らは何も語ろうとしない。

る。外はすばらしくきれいだ」
あたりがほこりっぽいのは相当なものだったようだ。
コンラッド「歩くときホコリが舞い上がる」

装置類をおろして連んでいる足元でホコリが上がっている様子を写したカラー写真がその後発表されている。また、この装置類をおろして、その包装してある紙をとろうとしたとき、次の

ような会話が交わされている。
コンラッド「包装紙をとると、まるで風に吹き飛ばされるようだ」
ビン「いまボンと投げたら三百フィート(約九十メートル)も遠くに飛んだ」

真空中の月面で、どうして紙が風に飛ばされるのだろうか。

こうしたホコリで、おそらく観測装置がよごれたらしく、ビンがさかんにこぼしていた。またこの月面の風に吹かれたホコリは別の痕跡を残している。それは例のサーベイヤーである。

これは本体が白く塗られ、台が水色をしていたのだが、飛行士が近づいて行ってみると全体に茶色に変色していたという。

これは一時、太陽の光で焼けたのだろうと報道されたが、これは間違いで、アポロの科学観測担当者が記者会見で言ったように「月面物質が舞い上がって表面にくっついたもの」なのだ。なぜなら、その表面には月の土と同色のこまかいホコリがついていて指でこするとぬぐえて、下から地の色が出てきたからである。以上の事実、このサーベイヤーが月に降りてから、この時までの二年七カ月の間に、何かの現象によって月の土ホコリが舞い上げられたことを意味する。いったい何が舞い上げたのか。真空だとすれば、いったい何が考えられるだろうか。

ホコリと音が

大気存在を裏付け

実際は真空でなかったからこそ、風によって舞い上げられたと推測されるわけである。コンラッドが月面活動の初めの方で緊急サンプルを採取中、次のようなことをいつている。

「何か音が聞こえる。なぜだろう」

いったい何の音だと言っているのだろうか。レシーバーが耳に当たっているはずだしヘルメットもかぶっているのだから、不思議がるような音とは何だろうか。不思議な音は外からのものではないだろうか。

そしてそれは、外気がなければもちろん聞こえないはずである。

またヒューストンから次のような興味深い発表がなされている。

〔十一月二十日。AFP〕使用済みの月着陸船イントレピッドを月面に衝突させた際、科学観測装置が、空間を伝わってきた衝撃波を記録したことが明らかにされた――

この衝突は、本来は月で一種の人工地震を起こして地殻構造などを調べようというものだった。しかしこの場合の「空間を伝わってきた波」とは、いったい何であろう。それは「音」ではないか？ しかも、衝突した地点は、十

二号の観測装置のあるところから七十里も離れ、そんなに遠くの音さえ伝えるだけの媒体、すなわち大気が月表面にはあるということになる。

舞い上げられたホコリの件にせよ、空間を伝わって来た音にしろ、いずれも大気存在を裏付けることになるわけだ。

いずれにせよ、カメラの故障はこの風が原因だったようだ。機械をひどいた包装紙が風でバタバタしたり、吹き飛んだり、あるいは打ち立てた星条旗がはためいたりすれば、地上で見ている方にもすぐわかってしまうわけで、大問題となる。

しかし、少しの間だが着陸船を覆うものが風で揺れていたのをテレビで実際見たという人もいる。とにかく当局はこれを中継するわけにはいかなかったのである。

次は、土の性質と水の存在が問題になる。

土は相当こまかい粒子で、ちよっとしたはずみで舞い上がるほどかわいた感じである一方、やわらかく、またべとつくような粘土質であるとの報告もあった。

これは、着陸地点がようやく夜が明け、霜が溶け出して日のあつた表面だけがかわいて、日陰や土中にはまだ水分が残っているような状態であったと推測される。飛行士が実際月面を歩いている様子を後で映画で見たが歩み

進むとき、上がったカカトには土がベトベト付いて、ちょうど少し固めのどろんこの中を長グツで歩いているような状態だった。それでいてバタバタ走るとホコリが上がるのである。

船外活動の最初の方でコンラッドは「……何だか足が下にくっつくような感じだ」と言っている。着陸船の近くはビーンが言っているように「……表面はともなめらかで、ホコリもあまりない」状態であった。またやわらかく「……もしかしたら、月面は固くないかもしれない。固さが感じられないのだ。どこにでも転んでしまうような気がする」というようだった。また粘土のようであったという事は「土に

打ち込んだ地中標本採取管を引き抜いても周りの土はあまり跡の穴の中にくずれない。みぞを掘っても、周りのカベはくずれなかった」という事実が証明している。

また、この粘着性の原因を水に求めると、地表にわずかの水の流れを発見できる。通信の会話では「月着陸船から斜めに浅い堀のような跡が走っている」と言っているが、状況は次のようなものであった。

「着陸地点には幅一・三〜五ミリ、高さ一・五ミリほどの細い筋が走り、クレーターの中へ通じていた。月面には筋や雨だれのような跡のある比較的固いところ、シャープクレーターのそば

日本超科学会雑誌

超科学

第4号 特集 超科学実験装置
主要記事 UFO探知機の製作
キリリアン写真機の製作
オーラ測定器の製作

現在6号発売中 超科学3号を除き特売5割引
1〜6号 特價250円 (送料1冊140円、2〜5冊300円)
四次元図鑑 定価2500円のところ1750円 送料200円
超物理学入門 定価600円のところ450円 送料200円
エスパー入門

超心理学実験用機械器具

- 四次元波受信機(4Dメーター) サボテンの歌が聞け、ウン
定価39,000円 送料1,000円 発見機としても使用できます。
- 超心理学実験機(念力測定器・サイメーター)
定価15,000円 送料1,000円 (小型)9,500円 送料500円
- ESPカード 定価500円 送料120円
- 魔法の振子 定価400円 送料120円

〒248 鎌倉市小町1-15-17 TEL0467(25)3035
(橋本電子研究所 所長・橋本 健)

日本超科学会

のように土の細かいやわらかいところ、サーベイヤー・クレーターのようなくらいの細かいところの三つのタイプがあった。またクレーターの底に何か溶けたようなものがあった（ヒューストンIIコンラッド、ビーンの記者会見）——」

これはまさしく水の流れた跡と溶けたドロと推測される。粒子の細かいところは水が早く地下に流れ、かわきやすく、固い土ほど粘着性が残るということになる。しかし、ここでは雨が降りしたというようなものではないと思われる。それは、サーベイヤーの足跡がほとんどくずれず残っていたからである。あるいは粘土が堅く固まっていたのかもしれない。

このように水と大気（酸素）の存在の可能性が考えられると、サーベイヤーの部品の次の変化の状態が説明される。

コンラッド「サーベイヤー三号の電線の一部を切りとる。電線をいま引っぱるところだ」

ビーン「よく切れた」
コンラッド「材質がもろくなっていたのかな。簡単によく切れるよ。とれた……」

これは後の記者会見で次のように説明されている。——サーベイヤーのアルミニウムの管や配電線の金属は結晶化が進んでいるようで、地上で考えていたより案に切りとることができた——

ここで、この結晶化によって金属がもろくなるとはいったいどういう現象であろうか。それは「サビ」である。大気や水があるからこそ酸化現象としての「サビ」が考えられるわけである。

こうなってくると、実にゆゆしき問題である。さらにその後報道されている情報によれば、岩石の中にはリンや硫黄のような揮発成分が発見されている。これらは昼間一三〇度Cにもなる月面ではすぐ真空中に逃げ出してしまふものだという。また月の石の半分は酸素でできていることが判明している。もちろん鉄やアルミとの酸化物としてである。実に微量のチタンや鉄の存在が騒がれて、この酸素の存在が無視されているのは意外である。

岩石の形成過程も、ハワイのキラウエアの溶岩と似た一〇四〇度から一一〇〇度くらいの温度で固まり、熱的によく絶縁された中（真空中ではないの意）で、ゆっくりと冷えて固まったことを示しているといわれ、それは水素、水、炭酸ガスなど揮発性の物質のたくさん（一気圧程度）あるところまできたと考えられること、月物質予備研究チームのデビッド・ウォーンズ博士や小沼直樹分折化学研究員等がいっている。

その他、種々の報告がなされているが、今後の解明に期待したいと思う。

ただ、月の岩石にも土にも水が全くなかったと報告されているが、これも当局の態度からしてあやしいのである。アメリカではすでに岩石から水や酸素を作り出しているといい、また月面物質を積み込んで地球に帰るとき、十一号の場合と同様、船内の湿度が高くなっていた。帰途は月の水による湿気と乾いてただようホコリに悩まされどおしだったのである。

コンラッド「予想してはいたが、船内の湿気は相当なものだ。船内に月のホコリが漂っていて鼻がすぐぐったくなつたため、昨夜もやっただが、今朝もあちこちふき掃除しなければならなかった」

水分を含んだ土がついている機械や標本を積み込んだ狭い船室内は、そんなふうになるに違いない。

月面上における生物について調査されたかどうかであるが、実はサーベイヤーの二年七カ月放置された足に、地球からバクテリアを入れたチューブが取り付けてあり、これがいま回収されている。この実験では当然この微生物は月面空間に触れており、いわゆる外気にあてられたものと思われる。また

温度変化が激しいとされる月面の昼夜を何度も通っているわけで、この結果がどうであったか関心がもたれると同時に、この実験をした意図というものが問題になってくる。すなわち、月面

で生物の存在が可能と思われるからこそ、行われたのではないかということである。

月の土が後に実験されたところによれば、植物の成育を早めるということだが、これは非常に肥えているということを示すことにもなる。

最近アメリカ空軍の円盤調査機関であるブルック計画が中止され、UFOの存在を否定したといわれるが、これはだいたい最初から円盤をもみ消すために計画されたようなもので、当局がこの宇宙問題をやっきになっておおい隠そうとしている以外の何ものでもない。

月探査も当初から同様のことがいえるのであって、このアポロシリーズでも、一回として、撮影フィルムを置き忘れたり、カメラがこわれなかったことがない。必ずいいわけがましくトラブルを起こして、特に重要な写真、逆にいえば、一般公開はさしつかえるというようなものが強調されているようなのだ。

地球が宇宙に「開国」されるためには地球人類がその資格を得ることが必要だろう。事実が解明されるにともない我々は一步一步それに近づいていっているのだ。金星、火星、木星、土星……まだまだ先はある。地上がその世界を一日も早く受け入れられる日が来ることを……。

マヤと飛鳥を結ぶ宇宙人の遺産

●竹田茂生

今さら驚くにあたらないが、同じモンゴロイド（類蒙古族）に属するマヤ民族と大和民族はその容貌は非常によく似ている。そしてマヤ文化も飛鳥文化もその最盛期は、A・D 7～8世紀である。

◎酒石・亀石・猿石

飛鳥には“酒石”といったものがある。大きな岩に幾何学的に刻まれた溝があり、一見何なのかさっぱりわからぬ。字のごとく、酒あるいは薬を製造したものだという事になっている。そしてこれと全くといっていいほど似ているものが、メキシコのチョルラにも見られるのである。その石に対しても日本の“酒石”と同等の見解が述べられている。マヤでは荷車、動物をいっさい使用しなかったが、一種の麻薬をこれにより製造し人民を働かせたのではないかと考えられているのだ。飛鳥野をゆくと、田畑のあぜ道に忘れられたかのように巨石が置いてある。“亀石”と呼ばれるそれは、ヘンリー・ムーアの彫刻のように自然をそこなわぬ程度に彫られたすばらしい芸術品だ。首をすくめた亀は不気味な笑みをたたえている。そしてこれも中南米ホンジュラスのコパン遺跡のなかにもみつけることができる。コパンの亀石は多少リアルにでき上がっているが、それにしてもよく似ている。コパンのほうは祭祀の広場に置かれた祭壇であるのだが、飛鳥の“亀石”は笑みをたたえるだけで何に使われたのか謎である。

●飛鳥路に残された古代遺跡の一つ“石舞台古墳”

最後に“猿石”であるが、これに関しては別段とりたてていうほどもなく、マヤの文化のいたるところに類似物が見られるであろう。

こうした遠く離れた地点を結ぶものは一体何であろう。マヤの文化が、エーリッヒ・フォン・デニケンのいうように宇宙一神と呼ばれていた一の残した文化遺産だとすれば、日本の飛鳥に残されたそれらの石の遺跡類も、宇宙人が日本に飛来した証拠といえるのではないだろうか。

◎もう一つの共通点

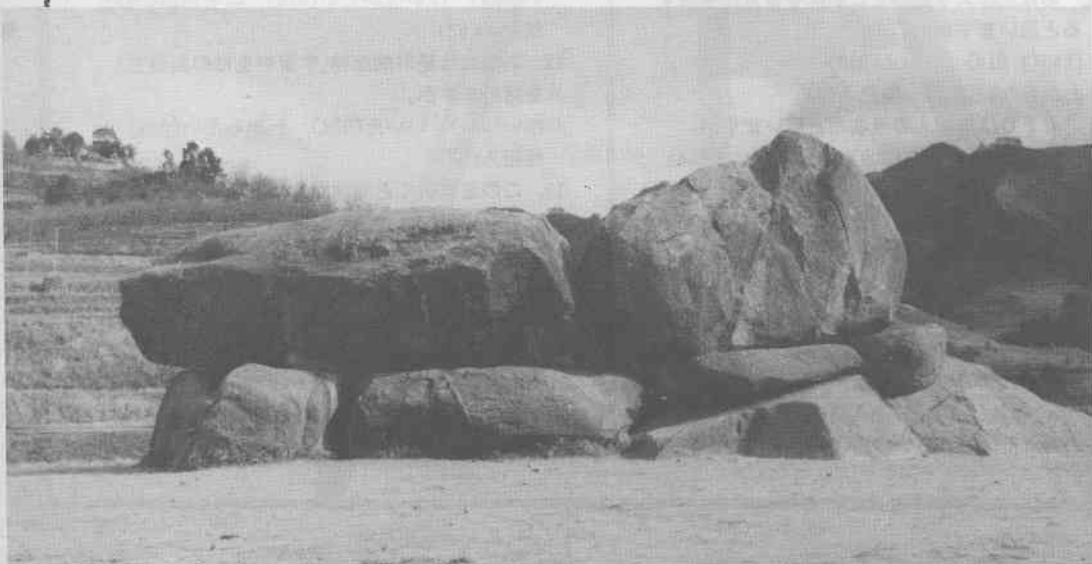
—マヤ文字と日本文字—

マヤ文字—神聖文字・絵文字—は表意・表音を併用しており、甲骨文字の流れをくむ漢字と日本特有のひらかなは表意・表音であり類似している。

◎古墳は宇宙人への

サイン・シンボルか

共通項はこれぐらいにして最後に、マヤの神殿およびピラミッド、エジプトのピラミッド、ナスカの地上絵がデニケンのいうように宇宙人へのサイン・シンボルとすれば、日本の巨大な古墳—前方後円墳にしるピラミッドに似た方墳にしる—も同じ意図でつくられたのではないだろうかと思われてくる。多分に調査不足のところがあるので、いずれあらためてしっかりした内容のものを書きたいと思っている。



UFOアンケート

UFOの飛来目的は地球観測と旅行？

長野県・上田市の高校生2,091名が回答

本誌5号(コズモ)に京都大学UFO・超心理研究会が行ったアンケートの結果を紹介したが、長野県・上田高校3年生柳沢明彦君らはこのアンケートの質問事項を参考に、上田市内の高校5校のうち3校で全日制生徒約3100名を対象に同様のアンケートを実施した。以下はその集計結果である。

全回答者数：2,901名

1. あなたはUFO(いわゆる空飛ぶ円盤)について知っていますか。
はい(1,690) いいえ(350) 無記入(51)
2. あなたはUFOの存在を信じますか。
はい(902) いいえ(297) わからない(459) 無記入(433)
3. あなたはUFOを見たことがありますか。
はい(355) いいえ(1,370) わからない(163) 無記入(203)
4. あなたは大宇宙のどこかに宇宙人が存在すると思いますか。
はい(1,614) いいえ(218) わからない(253) 無記入(6)
5. UFOは宇宙人の乗物だと思えますか。
はい(915) いいえ(309) わからない(754) 無記入(113)
6. 宇宙人に会ったというG・アダムスキーという人を知っていますか。
はい(847) いいえ(1,210) 無記入(34)
7. UFOの飛行目的は何だと思えますか。
a. 地球人を援助するため(104) b. 地球侵略のため(432) c. 観測, 旅行のため(908) d. その他(468) 無記入(179)
8. あなたはUFOや宇宙に関して関心がありますか。
ある(1,088) あまりない(761) ばかばかしい(172) 無記入(70)
9. 金星や火星など、この太陽系に人類が存在すると思いますか。(地球以外)
いる(561) いない(1,177) その他(211) 無記入(142)
10. あなたは超能力(テレパシー, 念力)を信じますか。
はい(1,483) いいえ(508) 無記入(100)
11. ソ連やアメリカなどではすでに多額のお金をかけてそれらの研究をしていますが、あなたはどう思いますか。
a. 良いことだ(1,121) b. あまり関心がない(534) ばかばかしい(318) c. その他(56) 無記入(62)
12. あなたは絶対的な神(宇宙や生命の創造主)を認めますか。
はい(551) いいえ(924) わからない(562) 無記入(54)
13. このままいくと地球は危いと思えますか。
はい(1,227) いいえ(475) その他(283) 無記入(106)
14. あなたは生まれかわることを信じますか。
はい(1,006) いいえ(928) 無記入(157)
15. あなたは超能力や幽霊などに関心がありますか。
はい(1,205) いいえ(653) 無記入(233)

お望みの機種が
お求めになれます
メーカーから
ユーザーへ!

サテライト 天体望遠鏡

- ★ヤマモトの天体望遠鏡は
海外(アメリカ、フランス、
イタリア、ベルギーetc.)
で絶賛を博しております。
- ★この他多機種とりそろえてい
ます。詳しくは 250円切手同
封の上カタログをU係へご請
求ください。

株式会社 **山本製作所**

〒174 東京都板橋区大原町5-3
☎(03)966-2408

AE-108

- 有効径：108mm
- 焦点距離：1600mm



● コマの運動をモデルに地球自転軸の重要性を考察

地軸が傾き 大変動がやってくる

石井順造

「この太陽系中の全惑星が異常な気象状態を体験しつつあるのですが、地球だけは「地軸傾斜周期」と太陽系の変化との両方から影響を受けています」とG・アダムスキーは述べている。

また偉大な予言者エドガー・ケイシーは、二〇〇〇年頃にはどんな変動が起こるだろうかという質問に答えて、「両極が移動し、新しい回転が始まるだろう」という予言をした。

その他にも「UFOと宇宙」第一六号誌上において、三原市のある高僧が宇宙人とコンタクトし、地軸の傾きにもないやがて大変動が起こるだろうと伝えられた内容が報告されている。

これらから予想されることは、もし今世紀末に地球上において大きな変動

が起こるとするならば、地軸傾斜の変化はその大きな要素のひとつだろうということである。

しかし、地軸の傾きが異常気象、地震、火山活動等の原因というのではおそらくなく、それらはすべて同じ一連の地球の変動過程の延長線上に位置するものと思われる。(ただし、ここでは地軸という表現は文字通り地球自転軸と解釈しておくことにする)

地震で極が移動

地軸の移動は主に二つあげられる。

その一つは、地球の極点が星座に対し

て約二万六千年周期で旋回する歳差運動によるものであり、天空上に頂角約四十七度の円錐を描く。(図1)

もう一つ、もっと短い周期で極が星座の間をさまよっていることがわかっている。これはチャンドラー揺動と名づけられている不規則な微小変動である。このチャンドラー揺動と地震とは相関関係にあると考えられている。事実、今世紀に発生した大地震の際に、極の位置がかなり移動したことがわかっている。

このように地軸の傾きと地球上の異常とに関連があるとすれば「地軸の変化にともない、やがて地球上に大変動がおこるぞ」という宇宙人の警告にもうなずけるものがあるといえそう



●図1

をもたらずというものであった。

ここで地球の軸のまわりの回転(自転)の他に、図1のような歳差運動(つまり遠方の恒星(星座)に対する地球の運動を考えるのである)。

この地球の首振り運動がコマの振舞いに似ていることはコマをまわした人ならだれでも気づくはずである。そこで一応、重力下で運動するコマについて考えてみよう。(図2)

固定点Oに関する剛体の角運動量を→L、剛体に働く力のモーメントを→Nとすると、

$$\frac{dL}{dt} = N$$

すなわち、加えられた力のモーメントは角運動量の時間的変化に等しいと

だ。

かつて、本誌第六号誌上において自転速度の変化が異常気象につながることを説明がなされていた。簡単にいえば、地球の全角運動量

$$(I_3 \omega_3) \times e$$

であるから、自転速度 ω が変化すれば大

気の慣性モーメント

I_3 が変化し、ひいて

は地球の大気圧分布

が変化して異常気象

いう関係がある。

図3を見ていただきたい。コマに作用するモーメントは重力 $F = -Mge_z$ からだけのもので、

$$N = OG \times F = (e_3 \times (-Mge_z)) \dots \textcircled{2}$$

ここで \times はクロスと読み、ベクトルのかけ算であって、普通のかけ算とは意味が違う。(図4参照)

図3を見ていただければわかるように→NはZ方向に成分をもたないから

$$N_z = 0, \text{ゆえに関係式}\textcircled{1}\text{より、}$$

$$\frac{dL_z}{dt} = 0 \rightarrow L_z = \text{一定(変化なし)}$$

ここに、 I_3 はコマの x_3 軸まわりの慣性モーメントであり、 ω_3 は x_3 軸まわりの角速度である。

このコマにおける関係式を地球の運動における関係式として、もし仮に採用できるとするならば、

θ .. 地球の傾斜角

(二十三・四度)

I_3 .. 地球の自転軸

まわりの慣性

モーメント

ω .. 自転角速度

という対応がつくであらう。

本誌第六号において飯島氏が用いた関

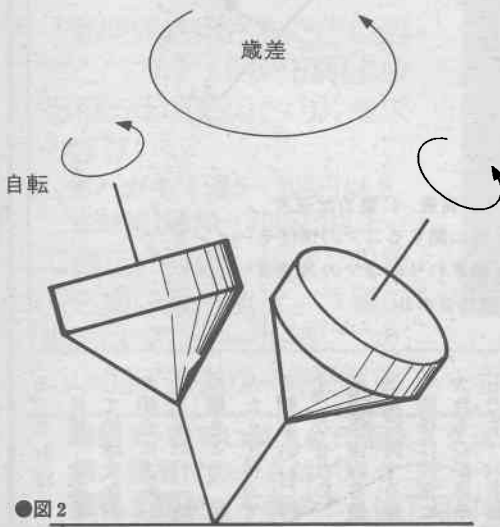
地球の首振り運動

係式(11) $e = \parallel \omega$ は(3)において $\omega = 0$ とおいた場合、すなわち歳差運動を考えない場合に一致するのである。

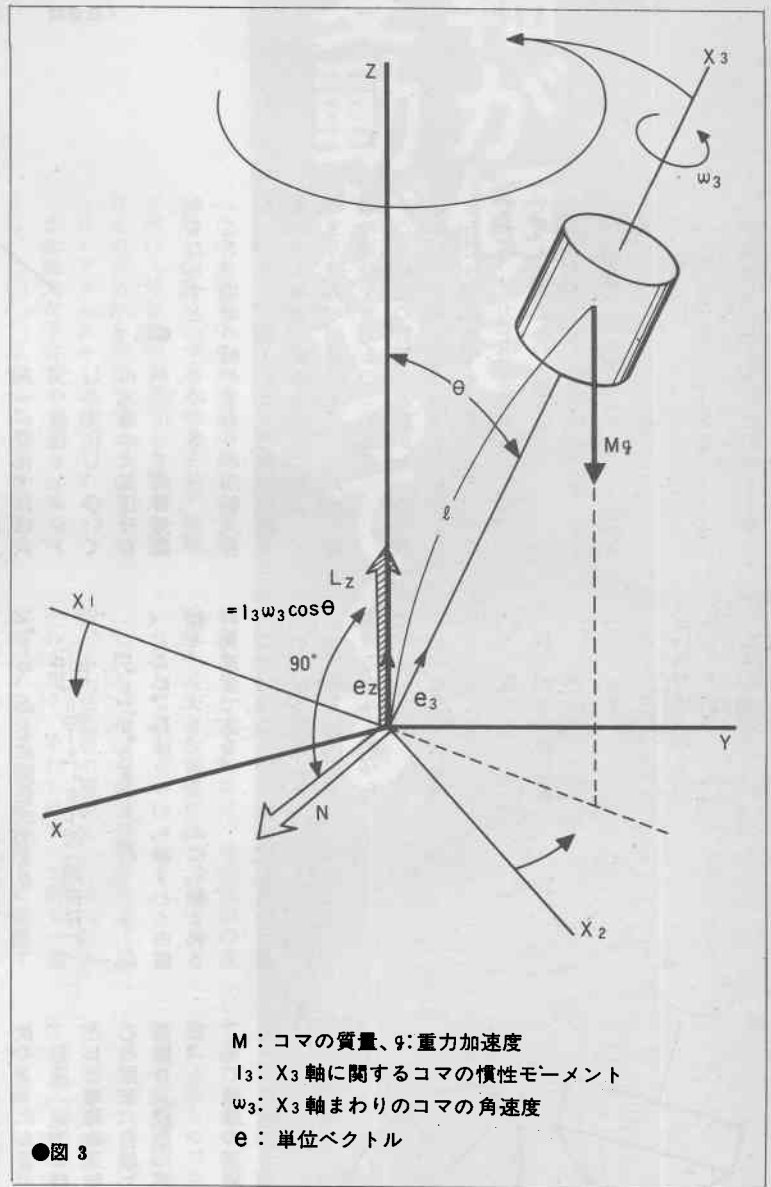
ここで以上のことをまとめてみると次のようになる。

星座(遠方の恒星群)を不動の座標として地球の運動を考えると、地軸中心の回転(自転)運動と、その地軸の首振り(歳差)運動があることになる。

その地球の運動の一つのモデルとしてコマの運動を調べると、一つの不変



●図2



M : コマの質量、g : 重力加速度
 I_3 : X_3 軸に関するコマの慣性モーメント
 ω_3 : X_3 軸まわりのコマの角速度
 e : 単位ベクトル

●図 3

量 $L_z = I_3 \omega_3 \cos \theta$ が導き出せるのであ
 った。

コマの運動と地球のそれを同等なも
 のとすることはできないだろうが、こ
 こでは角度 θ (地軸の傾き) が地球の
 状態を決める一つの要素になっている
 であろうことが示されればよいのであ
 る。

つまり、地軸の恒星群に対する傾き
 は地球にとって一つの重要な要素にな

っていることが予想される。
 それではなぜ恒星を基準に地球の運
 動を考えるべきなのだろうか。前にも
 述べたように、地球の首振り運動の一
 周期は約二万六千年であり、これは地
 球進化の一大周期といわれる二万六千
 年と不思議に一致するのである。

そこで地球の運動にとって二万六千
 年の周期をもつ首振り(歳差)運動は
 無視できない要素であろうと思われ

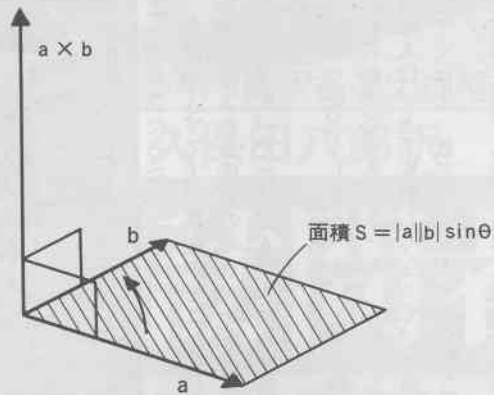
る。

いま地球の角運動量において、仮に
 $(+I_1) \times \omega \times \cos \theta = -I_3 \omega_3$
 が成り立っているとすると、

もし、地軸の傾斜角 θ が変化したと
 すれば地球の慣性モーメント $(+I_1)$
 と自転角速度 ω も変化するだろう。そ
 れとともに、大気圧分布や地殻構造に
 も影響は及び異常気象や地震、火山活

動を促すだろう。

る。これは恒星
 (星座)を基準と
 して地球をながめ
 た場合にあらわれ
 る。また、「地球
 の傾きこそ、私達
 がたえず行ってい
 る観測の目的で
 す。なぜなら、銀
 河系宇宙内の他の
 遊星に対する傾き
 の関係は非常に重
 大なものがあるか
 らです」(宇宙か
 らの訪問者)とい
 う進化せる宇宙人
 の言葉からも「地
 軸の傾き」という
 要素の現れる座標
 系で地球の運動を
 表示する方がよい
 と思われるのであ



ベクトル $a \times b$ は a, b 両方に直角で a から b へ右ネジをまわす方向をもち、大きさは $|a||b| \sin \theta$ をもち

●図4

このような変動を起こす原因についてエドガー・ケイシーは次のように述べている。「もちろん、その原因は地球をめぐるさまざまな運動なのだ。つまり、内部的なものと、そして宇宙の活動、いいかえれば他の惑星のさまざまな力と恒星との影響のことである。……」

またケーシーは、そのような地球の大変動が今世紀内に起こると予言しているのである。予言者の主張のみならず、今日の科学的データも様々な異常現象を記録しつつある。

このように、一大変動期の始まりの様相を呈しつつあるようにみえる現在において、UFO目撃数が急増している事実は偶然ではないのである。我々もはやUFOだ、宇宙人だと騒ぎだてる段階を卒業し、宇宙の友人たちの真の友情に気づくべき時期にきているのではないだろうか。

高価買入 WANTED!

送り先 〒233 横浜市港南局私書箱3号 横浜洋行 UFO係

古手紙(封筒) (ハガキ)

郵便に使用された古い封筒とハガキ(明治初期より昭和25年頃迄のもの)を求めます。

古ハガキ 1通5~200円以上
古封筒 1通30~1000円以上

で厳正に評価します。少量でも買い受けます。大量の場合はダンボール箱につめて小包でお送りください。



上記のような古手紙がお倉や納屋にないか探してみてください!

- 誠実・親切に買入れ代金はすぐ送金します。
- 大量送付のときはブックごとか小包便で。
- 買上額がご不満のときは7日以内に返金・解約。

- ★日本切手の単片とシート業者の最高値で買入れ使用済(戦前)も買入れ
- ★外国の未・済切手、貿易会社よりの済切手はとくに求む。小型・ラベルは不用
- ★古銭と紙幣(良品のみ)
- ★記念乗車券
- ★乗車券(使用済品)大量
- ★宝くじ(昭和25年頃までのもの特に求む)
- ★初日カバー、ハガキ類
- ★絵ハガキ(戦前のもの、通信省のものに限る)
- ★たばこ空箱、昔の古い空箱(外地のものも)、現代の記念、観光たばこ
- ★古書・古地図・浮世絵等々

最近おもしろい話を聞いた。私の家と親類続きになる東京の某家の息子が昨年の秋(九月中旬)のある夜、九時頃、友人と近くの墨田公園に散歩に行ったところ、公園内で突然、自分のまわりに白いモヤモヤとしたものが出現し、意識を失った。

やがて気がつくとは自分はある部屋の中に倒れていた。その部屋は全体に白色をしており、家具な

墨田公園 でのおか しな体験

ど一切見当たらなかった。

しばらくすると、部屋のどこからかマイクを通したような感じのギコチナイ日本語が聞こえてきた。それは二人の人物の会話であった。

「こいつをどうしよう」と、一人の声。「若いから助けてやるか?」と、もう一人の声。本人は、とても恐しくなって、大声で「助けてくれ! 放してくれ!」と何回も叫んだ。

そして再び意識を失った。

気がつくと、公園内の、先刻友人と散歩していた場所から少し離れたところに自分が倒れていた。衣類は泥まみれになっていた。

しばらく茫然としてみると彼の友人が現れた。「お前、十分間位、どこに行っていたんだ。ずい分探したぜ」と友人は言った。

「実はおれ、今どこかの部屋の中にいたんだ。無理矢理つれ込まれたらしい。大声で助けを



イラスト・阪上清久

求めたら放してくれたんだ。何だかさっぱりわからん……」

本人はそう言っている。彼は私の実姉の亭主の実兄の息子で高校生である。

この体験後、本人は恐怖症になり、夜一人で自分の部屋で寝ることができなくなり、以来弟と一緒に寝ている由。

私が思うに、彼のこの体験はあるいは受験勉強で心身が疲れた本人が友人と公園を散策

中の白昼夢的なものだったかもしれない。こういう瞬間的な夢というものは実際によくあるからである。

しかし、衣類が泥まみれになっていたこと。後に友人が本人に言ったことでは、彼は突然、友人の前からいなくなったこと。本人が意識を失うとき、自分のまわりに白いモヤモヤが現れたこと。部屋の中に倒れていたというハッキリとした感覚を本人がもっていること。ギコチナイ日本語(それも不気味な感じのする)が、部屋のどこからかハッキリと聞こえてきたことなど……の点から考えて、この体験は幻覚ではなく、本人が確かに何かの中につれ込まれたのかもしれない。

それにもしも幻覚だったとしても、本人がその後恐怖症になることが本当にあり得るかという点も気になる。

この話は東京在住の私の姉から聞いたもので、姉は「○○ちゃん(本人)は、円盤の中にテレポーションでつれ込まれ、テレポーションで再びつれ戻されたんじゃないかしら。○○ちゃんは自分が円盤の中につれ込まれたとは一言もいっていないけど、彼のまわりの人たち(家族や友人)がそう言っている」と言っている。

私もひょっとしてひょっとするんじゃないかなあと思っている。

(匿名希望)

ユニバースUFOシリーズ第2弾!

全国書店で絶賛発売中!

改訳合本決定版

米ジョージ・アダムスキー財団より翻訳合本出版権獲得

ジョージ・アダムスキー著 久保田八郎訳

宇宙からの訪問者

—偉大な惑星人との会見記—

●B6版 342頁 / 本文厚手上質ク
リーム紙使用 / 写真頁極上コー
ト紙使用 / 美麗カバー付保存版

定価1,300円+160

●空飛ぶ円盤は実在する! 遠い惑星から偉大な進化を遂げた人類が大宇宙船を駆って地球の救援に飛来する! 壮大きわまりない宇宙空間の大スペクトルと驚異的事実を伝えた本書はまさに20世紀最大のドキュメントであり、UFO研究者のみならず全人類必読の永遠の古典である。

●本書はかつて「空飛ぶ円盤実見記」「空飛ぶ円盤同乗記」として知られた名高い2点の記録書をアダムスキー研究者として著名な久保田八郎が流麗平易な訳文により全面的に改訳、「実見記」の内、アダムスキーの手記と「同乗記」全文を合本として事件の理解を容易ならしめ、また未発表の写真類を加え50点以上の写真・図解を一挙掲載した。なかでも金星人オーソンの肖像写真、金星のシンボルマーク2点、その他の貴重な写真類は読者をして遙かなる惑星群に限りない憧憬と畏敬の念を抱かせるだろう。

〒110 東京都台東区
上野5-1-6 ヤマトビル

株式会社ユニバース出版社

電話(832)1341(代表)
振替 東京1-119478

●書店にない場合はユニバース出版社業務課へ直接ご注文ください。

UFO目撃レポート

●一家全員がたびたび目撃

我家では一家全員が一九七四年十二月よりUFOをたびたび見ております。最近変わったものを見ましたので報告します。

I

大野美智子 37歳 主婦

目撃日時 一九七五年10月26日午後3時頃

目撃地点 自宅の庭

天候 晴

目撃継続時間 約7秒

同時目撃者 近所のおばさん(吉岡)

観測方法 肉眼

物体について

黒くてヘリコプターより小さいもの。動きが早過ぎて確認できなかった。

飛行状態その他

ヘリコプターのわきに突然現れ(ヘリコプターから放たれたように見えた)、動きのはやいジグザグ飛行、ヘリコプターと共

に去った。
北から南へ飛行。(図I)

10機編成

鮮紅色
二枚羽の
ヘリコプター



II

大野竹夫 6歳 原田小学校

目撃日時 一九七六年1月6日午後12時50分頃

目撃地点 交通公園(葛飾区新宿)

天候 晴

目撃継続時間 約7秒

同時目撃者 家の近所の子供2人(7歳、5歳)

観測方法 肉眼

物体について

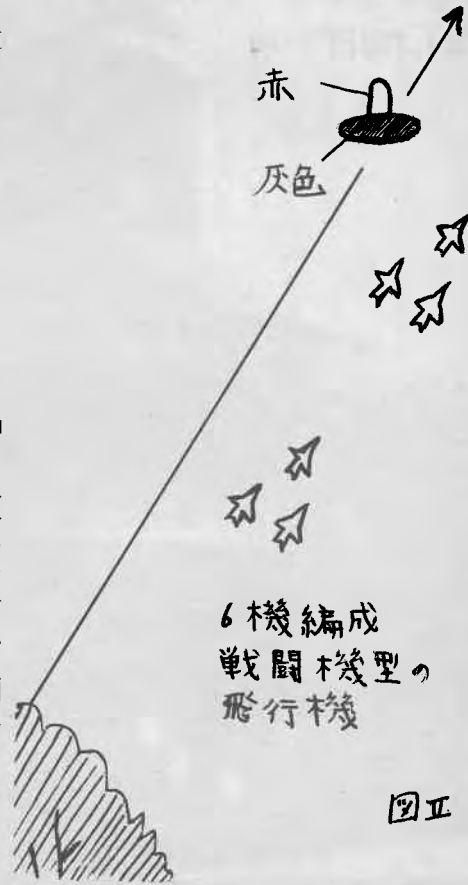
灰色の円盤型で上に赤い突起物があった飛行状態その他

6機編成の戦闘機型の飛行機が飛んでいるのを見ていると、木の後ろから突然現れて6機を追い越し、飛行機と共に去った。北から南へ飛行。

あとでよく聞いてみたが、あのような物は今までに一度も見ることがないと三人共

赤

灰色



6機編成
戦闘機型の
飛行機

図II

口をそろえて言う。(図II)

●五、六機がジグザグ飛行

高柳茂昌 67歳 保養所管理人

目撃日時 昭和49年8月13日午後8時20分

から9時10分頃まで

目撃地点 伊東市八幡野伊豆急分譲地

同時目撃者 衣笠正芳(12歳)、衣笠優子(10歳)

天候 無風晴天

物体について

当日、前記孫二人を伴い散歩に出かけ、南の方(さそり座の頭部付近)に火星よりも大きい発光飛行物体五、六機がジグザグにフワフワと右に左に、あるいは交叉して飛んでいました。赤橙色の光を放ち、音は聞こえず、あるときは停止するようにも見えました。ときどき立木にかくれたりして見にくいので20分ほど芝生に入って見るの

凡例

- ①氏名(年齢)職業 学校名
 - ②目撃日時
 - ③目撃地点
 - ④天候
 - ⑤目撃継続時間
 - ⑥同時目撃者
 - ⑦観測機器・方法
 - ⑧物体について
 - ⑨飛行状態その他
- (一)内は目撃者の住所

●見るたびに記録

(伊東市伊豆高原一区 帝国興信所保養所)

小森浩敏 14歳 山方中学校

目撃1

目撃日時 昭和50年12月16日午後5時20分

をやめて急いで近所の帝国ホテルの保養所に行き、管理人杉山氏に話して一緒に屋上に登り、五、六機の飛行状態を不思議なものだと眺めていましたが、だんだんと数も減ってきたので約100メートル離れた自宅へ帰り妻に急いで表に出るように言って誘い出しました。妻も2機位見たと言っています。なお、定期航空便は毎日(散歩を日課にしていたので)、同時刻頃時間をおいて二、三機西から東へ飛行するのは見慣れていますので、飛行機の飛び方と違うことは判別できません。

孫はUFOのことを知っていてあれは間違いなくUFOだといっていますが、もしや航空隊の夜間訓練かも知れないと思い、帰宅してすぐ浜松航空隊に夜間訓練の飛行があるかどうか問い合わせましたが宿直の係官は本日は一機の飛翔もないと返事をしていました。孫はUFOやテレパシーの信者です。念波を送れば必ずくるよといっていましたので翌日から毎晩同時刻に南の空を観察しましたが定期便だけでUFOを再び見ることはありませんでした。

報告が遅れたのは、どこに送ってよいかわからず、先日貴社の雑誌を初めて買い、宛先がわかったのでご報告申し上げる次第です。

目撃地点 自宅近くの国道118号線

天候 晴

目撃継続時間 約2秒間

同時目撃者 木村徳道(14歳、友人)

観測機器・方法 肉眼

物体について 物体の色はオレンジで尾をひいて西へ飛んでいった。

飛行状態その他 私はUFOをなん度となく見ている。そのたびに見た記録をしている。そのときは学校帰りで友人と話をしながらふと空を見上げた。するとオレンジ色の物体がものすごいスピードで私の上を尾をひいて西へ飛んでいった。形はたまごのようで、大きさ3〜4cmくらいに見えた。



音はしなかった。

目撃2

目撃日時 昭和50年12月18日午後5時30分

目撃地点 自宅近く

天候 晴

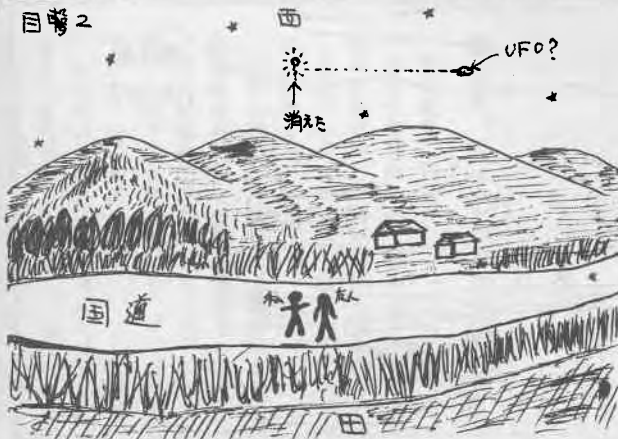
目撃継続時間 約3秒

同時目撃者 木村徳道(友人)

観測機器・方法 肉眼

物体について 色はオレンジ色で一度強く光って消えた。

飛行状態その他 はじめ飛行機が低く飛んでいるのかと思ったが、音はしないしすぐ消えてしまった。物体の速さは飛行機の約2分の1。





●誰も信用してくれない

遠藤敏親 33歳 会社員

目撃日時 一九七五年九月二十四日午後五時40分頃

目撃継続時間 約8秒

目撃地点 自宅付近の矢田川提防

同時目撃者 なし

天候 晴

観測方法 肉眼

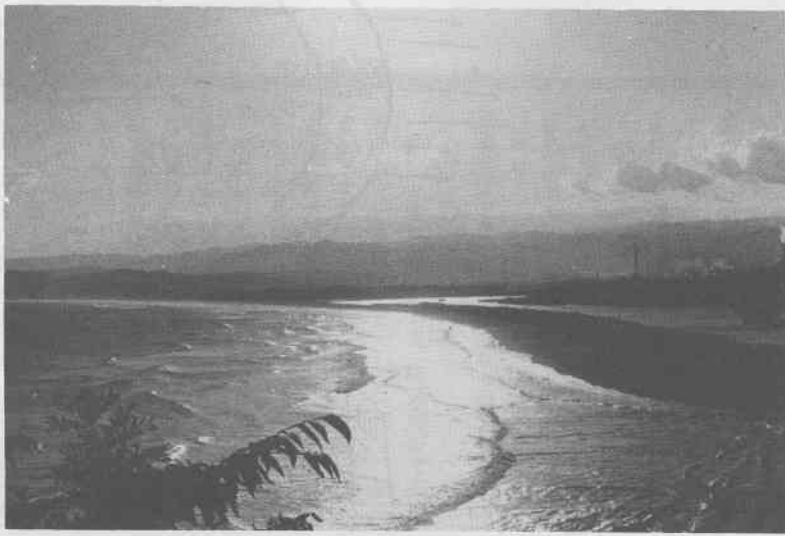
物体について 葉巻型、大きさは飛行機の4

分の1位、色は黒
飛行状態その他

子供(1歳半)が泣くものだから眠らせようと背中におぶって近くの矢田川提防を歩いていたら夕焼があまりにも美しいので立ち止まってながめる。しばらくすると飛行機がいつものコースで飛んできて夕焼雲



の中へ入り、出てきたと思う間もなく右手の湯の岳上空近くでピカッとまぶしく光るものがあつた。なんだろうと思つて見ると2秒位光つた後、黒い細長い物体が飛行機の方に近寄っていく。UFOらしき物体は飛行機の高度より約2000~3000メートルくらい上を飛行機のコースを横切るよう



に飛ぶ。速度は飛行機の約2倍。飛行機の後方約200メートルくらいのところを横切って夕焼雲の中に消えてしまった。私は初めてUFOらしき物を見た。9月24日は秋分の日で翌日の25日は新聞は休刊。それで26日の朝刊を見たがUFO関係の記事は出ていない。だれか同時に目撃した人はいないかと気になり新聞社に電話してみたがUFOに関する報告なしとの返事あり。会社で同僚に話したらみんな笑うだけで本

気にしてくれない。残念である。

目撃日時 一九七五年9月28日午後5時35分頃

目撃継続時間 約10秒間

同時目撃者 なし

天候 晴

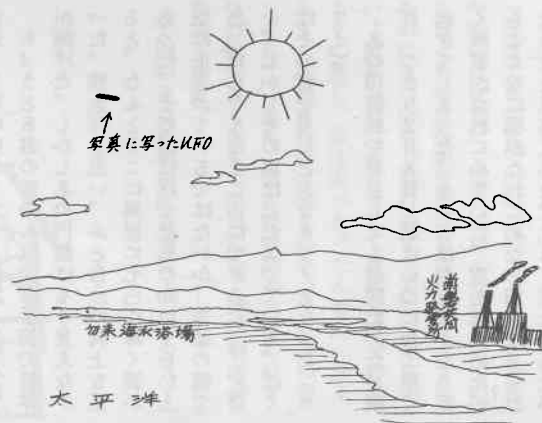
物体について 形状は葉巻型(棒型)、9月24日の物体と同じ型、同じ位の大きき。色は黒。

観測機器・方法 肉眼およびカメラ(望遠135ミリ付)

飛行状態その他

9月24日に目撃したことを話してもだれも信用してくれないのでこの日はカメラを用意して陣取る。この前より時間は少し早目だったが、24日と同じコースで西の方角でピカッと発光する。それとばかりカメラのシャッターを切ろうとしたが緊張して簡単にはいかない。シャッターを一回押したとき付近で遊んでいた子供が土手の下へ滑り落ちたので引き上げる。二回目を押そうとカメラをのぞいたときは姿を消していた。

5〜6秒だったが姿が見えず、しまったと思いつながらシャッターを押した。二週間後に写真が出来上がったので見てみると葉巻型(棒型)の物体しか撮影してないはずなのにピカッと発光した場所に2機の小型物体が写っているではありませんか。私は全然気がつかなかったのに不思議です。(千引 いわき市鹿兒島町御代字柿境34)



●数百、数千のUFO編隊が!

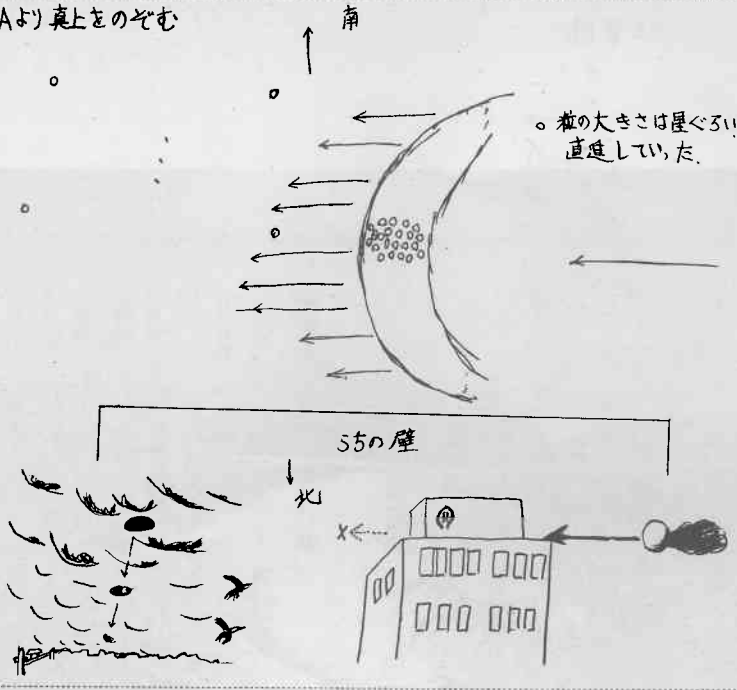
大迫典久 15歳

UFO発見について報告します。以前からUFOに対して非常に関心をもっていました。その日までは一度も見たことがなかったのです。

一九七六年1月31日、土曜日の6時6分私の弟は友だちと自転車整備をやっていました。日が暮れ暗くなったので弟の友だちは帰ったが、弟は庭の電燈をつけてまだ続いていた。弟の話によると「いったん落ちついたのでいつも見ている番組が始まるから見るつもりであった。しかし急になんとか見る気もなくしておお続いていた。する

※ この写真を撮るとき飛行機の音は聞えず、車のエンジンも止めてあったので周囲は静かだった。車には私の妻と3人の子供が乗っていた。

Aより真上をのぞむ



と、ふと空を見たくなり見上げると何か気をひく星があった。見た瞬間はなんとなくきれいな星だと思ったが、次の瞬間その星の光は小さくなり色も白色から黄色に変わった。そして急に動き出した。(あとで考える)これは僕に知らせるためのUFOの信号だったかもしれない)しばらくじっとみつめてそれをUFOだと確信すると家の中にとびこみ「円盤だ、円盤だ」と叫んだ。その声には私は驚いて、あわてて外にとび

出した。弟の指さす方向を見ると確かにあった。もうずいぶん移動していた。そのとき弟は「円盤はじごくぐ飛行している」と叫んでいたが、私にはそうは見えなかった。円盤は確かに回転している感じをうけさせた。しばらく見ていると、かなり遠くに行きながら黄色い光がまっ赤に変化したのだった。しばらく見ていると遠くかあなたに見えなくなった。このときはただこれが円盤なんだな、こんなものか、と思っていた。初めて見たことからの興奮がさめないまま家の中に入ろうとして応接間の戸に近づいた。弟も工具をおいてかたづけに入ろうとしていた。空は雲一つない快晴でオリオン座がくっきりうかがっていた。異様な飛行機の爆音がしてきた。私が戸に手をかけようとしたとたん、弟のうわずった「ウワッ」という叫びが聞こえた。私も急いで庭の中央へ行つて空を見上げた。その瞬間「ウッ」、虚脱感。そして恐怖からくる寒気が全身を襲い鳥肌がたつた。そこには数百から数千のUFOが編隊をなしていたからだ。よく見ないと光がブーメラン状になっているようにも見えるが、よく見るとたぐさんのつぶつぶが重なり合うことなくブーメラン状をなしている。その光の色ははつきりした黄色ではなく、うすぼけた黄色で、そのブーメランの端から端まではちょうどオリオン座の一等星を結んだ四角形の対辺の長さに近かった。後に母と父を呼んだがあまりに移動が早くてすで見ることが不可能になっていた。このことが終わったあと、弟の目が充

血し目の両端がまっ赤になっていた。この事件の前にも弟は円盤を見ていた。その事件の2〜3週間前の土曜日の同じ時刻ごろのことである。(弟の話)その時、なにかが起きると感じた。そしてS君に「地震が起きるかもしれない」といった。そのことはS君も証言してくれるだろう。横断歩道を渡り、S君と別かれた地点でふとまたあの雲を見た。すると、その雲のちようど真ん中ぐらゐのところに銀色に光る円盤を見たのだ。ぼくの心はふるえた。あれは絶対円盤なんだぞ、飛行機とは違う。かなりでっかいぞ、とぼくは感心するとS君のところまで走っていった。S君の位置ではビルに邪魔されて空を見ることはできない。S君に向かって、「走れ」と叫んだ。ちようどS君の家のちようど手前で視界が開けた。しかしあの円盤はもう見えなかった。残念だと思い、ふと自分の真上を見ると、なんとそこに異様に七色に輝く雲があった。その雲はぼくたちの50mくらい上空に止まっているのではない。普通の雲であつたらそんなところにできるわけがない。しかしその雲はただよっている。ぼくはその雲を見たときガタガタとなった(コワイ)。あの円盤群を発見して1週間たった日曜日、つまり2月8日、私はいつになく早く起きてしまった。その日は曇りでかなり低く雨雲がたれこめていた。窓をながめながらこんな雲がたれこめたら円盤は見られないなと思っていた。けれど寝ながらためしに呼んでみようと、円盤よ少しでよいか

らあらわれてくれと何度も続けてから窓を見たら鳥が2、3ばとび立ったと思つたとたん窓の上から下に向かって(つまり窓は家の南の所について中からながめているので北から南に向かって飛んで来たことになるが)黒い物体が通過していった。初めは鳥かと思つたが、鳥にしては円型すぎるしスピードが速すぎるのもしやと思つて窓をあけて見たときはかなり遠方を飛んでいた。

が、ときたまピカピカと光を反射するの
で回っている様子がよくわかつたし、猛スピードであつという間に真直ぐに行つてしまつたので円盤だとわかつた。大きさは鳩くらいであつた。

次に見たのはきょう、つまり一九七六年2月7日、学校から帰る途中の5時10分、5時20分の間、自転車上でのことである。視界の開けた空き地を通っていると東の空の夕焼のしているところに一筋の飛行機雲があつた。次の見えるところでもまた見たらその筋が2、3倍に太くなってさらに一本平行してあつた。このとき、オヤと思つて注意しながら走っていると、その線の下部にあたる部分がピカッとひかつている。自転車を走らせながら飛行機かな、と思つてまた見るとその光がみるみる動いているではないか。しかも、しばらくまっすぐに動くと左に直角にまがって、またまっすぐ進んでさらに右に直角に曲がってまたそのまっすぐの直線上の位置にもどつて進み出した。少し視界がとぎれ(数十秒)、見たらもう最初にあつた飛行機雲の他は消えて

いた。

そのあと、その雲はみるみる大きくなつて、風のせいもあるだろうが、数分後には空の見える範囲の三分の一ぐらいの大きさになつた。

肥大するまえは夕焼けの光によつてまっ赤だったが、肥大したらふつうの雲と同じよになつた。

(〒180東京都武蔵野市吉祥寺南町一の二九)

●消えた瞬間、UFOの輪郭が

村上博子 17歳 板橋高校2年

一回目

目撃日時 一九七三年夏の午後8時半頃

目撃地点 自宅付近

天候 晴

目撃継続時間 晴

同時目撃者 なし

観測機器・方法 なし

物体について 赤っぽいオレンジで円形。2等星くらいの大きさ。

飛行状態その他 仰角30度前後で東の空の暗い中を北東に向かって飛行していた。上下運動はゆるやかに下降しかつたと思うとカーブをして視界から消えた。

二回目

目撃日時 一九七六年2月12日午後6時5分頃

目撃地点 板橋高校付近

天候 晴れていて星がよくでていた。

目撃継続時間 約1分

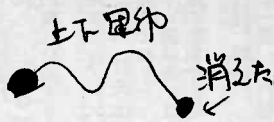
同時目撃者 木村美恵子(同校2年)

観測方法 肉眼

飛行状態その他

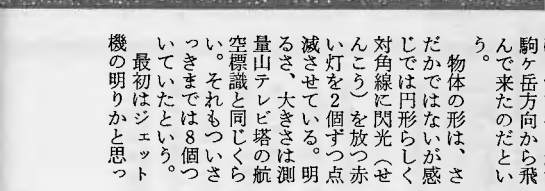
星がきれいなので見ていると、北の空に一等星より大きく白に近いオレンジで光度の強い星を見た。前方100mくらい歩いていると、その星が水平飛行をゆっくりしてゐるのに気づいた。飛行機よりもはるかに遅い。南東方向にカーブして速度をはやめたように感じ、私は走つた。だんだん(消えるまで三秒くらい)消えかかっているのをよく見ていたら、消えた瞬間黒っぽくUFOの輪郭らしきものが見えた。楕円形で仰角35〜45度。

(〒174 東京都板橋区東新町1の10の3)



目撃地点

情報



満天の星座がきらめく 頭上にUFOが出現!

●爆音もなく赤い灯を点滅し飛行

師走の寒気のなかを帰宅し飛行機もなく、玄関のベルが鳴った。対応に出ると息はずませた近所の奥さん、日頃の波(しと)やかなあひさつもそこそこ「あれUFOじゃないかしら」と言う。

それッーとばかりに、私とたまたま居合わせた若夫婦が外へ飛び出す。女房だけは「テレビの見過ぎネ」ととり合わない。

彼女にとっては、UFO、つまり未確認飛行物体より現実の夕食の支度(したく)のほうが当面の問題というわけである。

おりしも時刻は夕暮れが闇に変わる「逢魔が時」というヤツ。見上げる空は、全く風もなく満天の星座がきらめいている。なるほど、その物体はいましも私たちの頭上、つまり私たちの住む沢町の山の手の上空を通過中であつた。その奥さんの話では、つい今しがた駒ヶ岳方向から飛んで来たのだとい

う。

物体の形は、さだかではないが感じでは円形らしく対角線に閃光(せんこう)を放つ赤い灯を2個ずつ点滅させている。明るさ、大きさは測量山テレビ塔の航空標識と同じくらい。それもつきさつきまでは8個ついていたという。最初

はジェット機の明りかと思つ

北海道

たが、灯がゆつくり回つていくとみえたのですぐ円盤に結びついた。もし、これが高々度の航空機とすれば光が手に取るようだし、また低空だとすると機影も見えず爆音が全く聞こえないのが不思議である。

物体はユラユラした感じでかなりのスピードで八丁平方向に飛び去った。まさにアレオアレオという間の出来事である。見る方で興奮したのはその奥さんばかりではない。気がついた私もチンパのサンダルを履いていたら日頃の修養もあまり当りしからぬ。しかもかくにもUFO(らしきもの)を見たことは間違いない。

実は、これに似た経験が4年前にあった。そのときは驚別方面から恵山の方へオレンジ色の炎が水平に十数秒流れて消えた。窓から目撃したのは女房と2人だけである。翌日「ぼんたい」号墜落のニュースを聞いたがなにか関係があつたのだろうか。これは職場のアマチュア天文家O君にこれらのことを話した。

しかしO君の専門的質問に対しては曖昧(あいまい)さが残つた。やはり瞬間の驚きのほうが強かつたせいである。せめて「12月某日逢魔が時UFO発見」と、日記には書いておこう。

「未確認飛行物体過ぎて星座濃し」(室蘭市都市建設審査室長・高崎幸雄) (一九七五年12月20日付、室蘭民報夕刊)

●「ナゾの飛行体」阿武隈山系上空を北へ一直線!

の目撃者があつた。県立福島医大医師の志賀俊明さんで、同市東浜町、福島交通診療所で診察中に目撃した。金属のようないま白っぽい円形の物体で、同属のよう正面で見れば阿武隈山系上空を北へ一直線に流れたという。一緒にいた看護婦さんも目撃、約30秒間ぐらいつつと飛行、黒っぽく変色したあと雲のなかに消えた。

志賀さんは「変な物体なのでよく見たが、飛行機や鳥とは全く違つていた」と言っているが、ナゾの飛行物体、また初冬の空の話題になりそうだ。

(一九七五年11月26日付、福島民友)

ジャズに耳を傾けてUFOの出現を待つ

●仙台でUFOコンサート

UFO(未確認飛行物体)をジャズで呼ぼうーと風変わりな目的の音楽会が一九七五年12月4日夕、県庁前の勾当台公園屋外音楽会で開かれた。題して「きいてみる界、みて見る界、未確認コンサート」というもの。集まつた約50人のUFOファンは、レコードのジャズに耳を傾けながら夜空を見上げ、UFO出現を首長くして待つていた。

このコンサートは、去る9月12日付、河北新報夕刊で紹介された。UFOファン「の集まり「円盤村」佐藤嘉剛(33)君が開いたもの。村民がまだ20人と少ないが会場では参加者全員が手をたないで大きな輪を作り「仙台上空を飛行中の円盤よ、姿を現して下さい。ペントラ(友人という意味)。」と、じゅ文まがいに夜空に呼び掛けていた。

(一九七五年12月5日付、河北新報夕刊)

●宮城県「円盤村」
「宮城県東磐城村」地図を開いても載つてはいないが、50年8月に村政施行。つづみ、西小田原、東小田原、大幌の4地区から成り村民約40人。「本村は、UFO(未確認飛行物体)が三度の飯より好きな狂人たちが未知の力で招集され、自然発生的に組織された」と村の案内板。実は空飛ぶ円盤狂いのグループなのだ。

あごびげの村長は広告プランナーの佐藤嘉剛(33)君。村民は、佐藤村長が仕事を通じて知り合った仙台市に住むデザイン関係者がほとんどで、他にすし屋の板前や主婦、学生も。

村長を始め、村「勤務の公務員」の仕事は月に一度、「円盤目撃報告」「円盤専門講座」「〇〇で写真撮影に成功した」など記事満載した「円盤村広報」を発行すること。これがエラく面白い。まさに「ウルトラC」開く。

「ロマンなんですよ、ロマン。現代はロマンが無すぎる。いるかい、ないかわからない。が、広い夜空を仰げば満天の星が包む。ワイワイ騒いだあげく、「さっばり出て来ねえや」となつても、未知の世界にあこがれて羽ばたいた想像力は、がっちり円盤、何をとも興味をもつて大事だと思つてます。何にでも聞く耳をも。浅いつもりが結構深くなる。」「月にウサギがいる」とはもうだれも信じない。だが、そういう世の中は殺伐としている。「円盤は危険じゃないか。人の話に耳を貸さなくなる。佐藤村長が語るロマンは、甘っちょろい感傷やノスタルジアのたぐいはひと味違う。今年には会員を増やし、情報を豊富にして、東北6県の円盤地図を作るのが希望。」

「宇宙人に会つたら、両腕に抱きしめて親愛の情を示して……」と、日

めて親愛の情を示して……と、日
宙友好のため、宇宙語はできなくとも心伝心で会話のできるテレパシー(念力)の開発にも余念がない。ばかなこと、というなけれ。ロマンを失つた証左ですぞー。村民たちは今夜も空に向けたカメラをのぞき、ロマンを捜している。

(一九七六年1月12日付、読売新聞宮城版)

仙台上空に葉巻型UFO出現

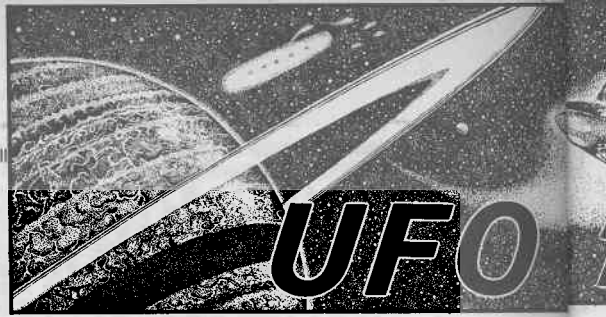
●白色で音もなく飛行

UFO(未確認飛行物体)をめぐる話題が最近またにぎやか。各地で「目撃者」が現れにぎやか。「一九七六年1月18日の日曜日午後2時頃、仙台上空を北から南の方へ葉巻型の白っぽいUFOが音もなく飛んで行つた」と仙台市文化町九ノ五、デザイン熊谷聡(22)君が、撮影したばかりのカラーフィルムを持って河北新報社へ。

「最初飛行船だろうと思つたのですが、それにしては胴体が細いし、あれは間違いなくUFOです」と熊谷さん。航空自衛隊松島基地や仙台谷津は「あの時間、仙台上空を飛行機やヘリコプターは飛んでいませんでした」ということ、証拠写真が期待されたが、よほど慌てて撮影したのか、2階の物干しから撮つたという3コマには何も写つていなかった。

(一九七六年1月20日付、河北新報夕刊)

八戸市にもUFO現る!
●青光の円盤を小学生がキャッチ
八戸市根城の小学生が、正月早々かなりはつきりしたUFO(未確認飛行物体)をカメラにおさめた。この小学生は根城五丁目、商業長根蔵さんの長男茂君(11)君。根城小5年。



茂君は一九七六年一月七日朝7時頃、起きかけに2階の窓から外を見たところ、すぐ家の前にある東北電力八戸火力発電所のアパートの上を青白く光る円盤が東の空から西の空へ飛び一瞬停止した。お父さんから1年ほど前にもらったカメラを手に急いで外へ飛び出した茂君が夢中でシャッターを切ったところ円盤は写っていた。近くの写真屋さん「間違いない円盤のようだ」と話しているほど。

茂君は円盤は初めはジグザグに飛び、そして空中で停止、西の空へ飛び去るときは、かなりのスピードでアツという間に消えた。去年(一九七五年)の8月も円盤を見たことがある」と話っていた。デーリー(一九七六年一月25日付、東北)

赤城山のすそのに空飛ぶ円盤?

●白い物体がジグザグに動く
「私たちも、空飛ぶ円盤」を見ました。一九七六年一月9日午後6時ちょっと前、赤城山の南側のすその上に卵のカタをつぶしたような、白っぽい物体が浮いていました。月が出たというので2人で飛び出し、東の方を見ていたら、月のそばからジグザグに動き出し、間もなく雲の中に消えてしまいました。こんな変なものを見たのは初めてです」
茨谷市金井南町の渋川北小4年

小池佐江子ちゃん(10)、同1年寿郎ちゃん(7)の姉弟から。
(一九七六年一月12日付、上毛新聞)

前橋でも、だ円型のUFO

●みかん色の物体が北の空から東へ「ぼくも、UFO」を見た。一九七六年一月19日午後5時40分頃、父の車の中で北の空から東へ向かうだ円型の「空飛ぶ円盤」を見たんです。場所は前橋市上泉町の広場近く。みかん色で、スーッと東の方へ消えて行った。この間、2〜3分だったと思います。
初めは流れ星かと思ったが、父にも見てもらったところ、違うのがはっきりわかりました。いったい何だろう?

「UFO」は謎の王様

●70カ国以上で目撃されている
UFO(未確認飛行物体)——子供から大人まで論議を呼んでいる「空飛ぶ円盤」。雪男や怪獣ネッシーを上回る「ナゾの王様」だけに、話題は尽きないが、正体は依然として「ナゾのナゾ」。近頃、ブームも過熱気味……

自動車町の町、愛知県豊田市の杉浦二浦さん(47)が、何気なく円盤を「捕まえて」しまった。「あの、黒い風船は300〜400メートルの空中に浮かんでいました。ブルブルと振動してました。ジグザグと左右に動きます。変な風船だな」と思っ、自宅の窓から4枚続けて写真を撮りました。その後、別の細長い物体が現れ、2枚写したら急に上昇して見えなくなりました。昨年8月3日の夕方、わずか1分間の出来事だった。

この写真を会社の同僚に見せたところ、「円盤だ」と大騒ぎ。これが新聞にも報道され、事態は「思わぬ方向に」急転回。
「早速、マニアが来ましてね。色や形をしつこく聞くので参りました。新聞社から、連続写真という点が貴重である。なんて、お墨付きまでいただきました。『本物の写真をぜひ送ってほしい』と、手紙の山ができました。おまけに会社からもボスターに使いたいと話がありまして」とまじらでもなさそう。

ついに、「ネガに保険をかけては……」といってくる人も現れる始末。近所では「円盤のおじちゃん」とすっかり評判になった。
ここで、円盤研究で知られる中岡俊哉氏に登場してもらおうと、「新聞に出たものだけでも昨年1年間で全国で6000件を超す」という。どこかで1日2回は現れている計算だ。

なかには「円盤に連れ込まれ、宇宙人と話した」(北海道)、「宇宙人に肩をたたかれた」(山梨)という体験派もいる。
「これまでに70カ国以上で目撃されている」(中岡氏)円盤だが、話題になり始めたのは一九五一年のこと。アメリカ人、ジョージ・アダムスキーさんが、多くの写真を発表したのがきっかけ。それで、この年が「円盤元年」ともいわれている。

アダムスキーさんはその後、「ロサンゼルス郊外から円盤に乗り、金星まで行った」と、衝動的なレポーターを発表、たちまち論議の渦を巻き起こした。「素直に認めるべきだ」の賛成派と「もう想狂のキチガイ」という反対派で論争はエンエンと続き、アダムスキーさんが死んだ今も「結論」は出ていない。

果たして円盤は実在するのか——「現代の科学水準で否定するのはナセンスだ」と、これまで4回もUFOを見たという中岡氏。

「外国では、存在する可能性はある」との前提で研究が行われており日本とは力の入れ方が違いますよ。特に米、ソでは天文学者や物理学者が中心になって、ますデータの分析から、と熱心にやっています。その「違い」のエピソードとしてスプーン曲げが話題になったとき、湯川秀樹博士にコメントを求めたら「ノーコメント」と。ところが、アメリカの江崎玲於奈博士からは「ありうることだよ」の言葉が返ってきたと話す。

それでは、宇宙研究の専門家たちの意見は——。「円盤など信じてはおりません。写真は見ましたが、明らかにレンズのゴーストやトリックです。なによりも信ずるに足るデータがありません」「遊びとしては結構なことですよ」と、古在由秀東大理学部教授はニベもない。
また、堀源一郎同助教授も「我々はおもろんのこと、毎夜観測を続け天体の動きを暗記しているアマチュア天文家からも、見た」という話は聞いたことがないですね。幽霊と同じで、納得できる証拠がほしい」

「科学的な心構えを忘れず、冷静に見てほしい」と、飛行機、人工衛星、流星などの誤認例をあげる。国立科学博物館の村山定男氏は「雑誌のインタビューに応じたら、『イナイとはナニゴトだ』と脅迫がありました……」と、ノーコメント。

こと、UFOに関する限り、学者先生の反応は冷たい。これに対し、「科学を絶対視しすぎていますよ。できない」のではダメかと、やらない「のではありませんか」と、中岡氏は手厳しい。五島氏は「人がどう思うかを気にしすぎるのが日本の学究だ」と、その「体質」を批判する。

しかし、マニアにも問題はありそう。UFO研究団体は全国で300余。それぞれが「我が目撃こそ本物」。「こちらの主張が……」と、自説をがんこに主張し合っている。

なかには過激派並みの対立もあるという。「こんなことではいつまでたっても、証拠」を突きつけられない」と、中岡氏のため息を吐く。さて、あなたもたまには空をゆつくりながめてみませんか。キラリと光る「何か」が見えるかも……。(一九七六年、時事通信社配信1地方各紙掲載)

岡崎市でUFO騒ぎ

●小学生が「光る飛行物体」を発見
「あれは絶対UFOだよ」——一九七五年12月22日夕、岡崎市元能見町で小学生ら数人が光る飛行物体を見つけ、大人を巻き込んだ空飛ぶ円盤騒ぎとなった。

午後4時半頃、最初に見つけたのは4階建てのマッシュンの屋上でたこ揚げをしていた広幡小6年、武生博華さん(11)。東北の空中に一等星より更に明るい光がゆっくり中央に向かって動いていた。「UFOかもしれない」と、いっしょにいた同級生の南志保さん(11)ら数人に知らせた。

見ているうちに西の方にも東の方にも現れ、計3つ。それぞれサーッと速く動いた。ジグザグや三角を描いたり複雑な動き。そのうち3つが東の空に集まって二等辺三角形を作り、また離散。近所の大人たちも集まり、10人ほどが目撃。「星だ」といや星が動くか」とにぎやかな議論。

結局、3つの光の物体は午後6時頃、中空から南に寄ったところで雲に隠れたが、子供たちはすっかりUFOと信じ込んだようだが、「大人たちは信用してくれないんだもの、いやだ」と否定的な大人たちに不満顔だった。
(一九七五年12月23日付、朝日新聞名古屋近郊版)

UFOは聖書や元禄時代の
本にも記録がある

●錯覚と言いつれ切れぬ世紀の大事件
新春の読みものとして、きょうからこの欄で、宇宙科学物語「宇宙のナゾ」を掲載します。キミたちも星屋、流れ星、空飛ぶ円盤などいろいろなものを知っているでしょう。なにしろ、何万年、何億光年という知恵を超えた神秘とナゾに包まれた話ばかりです。筆者は名古屋市立科学館技術課長の平沢康男さん。

「それは真上にある。巨大な飛行体だ。高度二万フィートまで追ってみる」。アメリカはケンタッキー州ゴッドマン基地をP51戦闘機で飛び立ったトーマス・マンテル大尉は、この無線を最後に連絡を断った。しばらくしてみつかったのは、燃えもせずバラバラに飛び散った飛行機の残骸がいたのである。一九四八年一月七日のことである。

このような情報は、それからしばしば報告され、はじめフライングソーサー(空飛ぶコヒーサー)のあだ名で呼ばれた怪飛行体は、その名のような円盤形だけでなく、あるものは巨大な万年筆のような形、あるものはアポロ司令船のようなジョウゴ形、ときにはたつた数十センチの光の玉といろいろ種類があることがわかり、未確認飛行体の頭文字、UFO(ユーフォー)といわれるようになった。UFOは、ものすごく速さで進むかと思うと、急に止まったり、木の葉が落ちるようにヒラヒラゆれ落ちるような動きをしたり、急に方向をかえたり、人間の作った飛行機ではとまねができないような飛び方をするという。UFOのようなものは、実はかなり昔から人々にみられていたらしく、聖書の中ゼキエル書にも、それらしい記事がある。

日本でもいろいろ記録がある。私

の手もとに分厚い本がある。テレビの元禄太平記でも有名な大石内蔵助が、主君のあだうち騒動をおこした頃、名古屋城にいた武士の日記で「鷲籠中記(おうむろうちゅうき)」といふもので、その中にたびたびUFOが登場するから愉快だ。一つだけご紹介しよう。

「この頃日暮れどき、東の猿投(さなげ)山の方向に、毎夜赤い光ものが飛び立って行く。見物人で大さわぎだ。猿投からみると、もっと東にみえるという」。これなど、りっぱなUFOだ。

UFOの写真でいちばん有名なものはアダムスキーのもの。お正月の重ねもちのようなものに窓がつき、底には3つのピンポン玉のような脚がある。

UFOはなんだろう。これについては、幻覚、錯覚、気球などが見えやま、大流星や人工衛星、大気中の温度のかわり目が鏡のような動きをして、自動車、ヘコドライブなどを反射する現象など、ささまさまあるが、地球外生物の訪問という説もある。全部インチキなデマだときめつける人も多い。

「もしもし、科学館ですか。アノ、私、UFOをみたんですけれど」「はい、い、もう少しくわしく話してください。」「あ、お、きのう夕方東をみてたら、3センチぐらいの赤い円盤が昇ってきて雲へ入っていったんです。時刻は……。しらべてみると、ちょうどその時刻に満月がスモッグのかかった空へ昇ってきてすぐ雲へ入ったものには違いなし。わざわざしらせてくれるが、ほとんどこのようにものだ。しかし、全部の報告が誤りとして一方的にきめこんでよいものだろうか。実は、私も見たのだ」

昭和41年1月7日の夕方、午後6時7分、名古屋の真ん中、テレビ塔南の教会前バス待ち中、真直から真東に、カシオペア座を突っ切って、教会の屋根にかけられていた満月の方へ、音もなく通りすぎた巨大な葉巻型のものはなんだったろう。一列に並んだ6、7個の窓があった。飛行機なら黒いシムエツにみえるはずだが、にぶく光る黄土色。識灯もない。シムエツもちがう。新年早々の静かな街だが、完全に無音。前にたバス待ちの年配の人と大学生が驚き顔で上を指さしたので、私も気づいた。手早く正確な観測ができた。高度500メートル、長さ40メートルの飛行機なみの大きさとする。速度はマッハ3だ。絶対に飛行機ではなかった。

昨年1月18日、名古屋の中川区の中学生3人が真剣な声で電話をくれた。田んぼの草むらに、ちよんこと置かれていた直径十センチの飛行機が、みんなの目で見える前まで去ったというのだ。これも錯覚といっているのだろうか。しかし、テレビで紹介されたからみんさんご存じだろうが、四国の高知県で、中学生たちがなんとも、つかまえた。物体とあまりにも似ているのはなぜだろうか。

UFOは世紀のナゾだ。その報告全部がウソかもしれない。でも、1件でも本当のことならば、あるいは人間の宇宙に対する考えかたをかえてしまう大事件だ。(一九七六年1月4日付、中日新聞)

羽島の夜空を流れた
オレンジ色の物体!

●いん石か? 落下地点を調査
一九七六年1月16日、岐阜県羽島市内の夜空で、ゆっくり降下し、地上近くで消えたオレンジ色の物体を数人の市民が目撃、話題を呼んでいるが、岐阜天文台(羽島郡津町高桑、正村一忠台長)は、この現象はいん(隕)石の落下に類似しているとして、このほど調査に乗り出した。いん石は人類が宇宙の神秘をさぐる貴重な資料となるだけに、同天文台では更に落下地点などを詳しく割り出すため他の目撃者の情報提供を呼び掛けている。

さる1月16日午後5時45分頃、同市正木町の市営総合グラウンドで同市竹鼻町下町二丁目スポーツ店経営大曾根親次さん(33)と同町大西町が織物業妻田邦一さん(43)の2人が中学生の硬式野球の練習を指導中、目撃したもので、2人の話によると、火花を打ち上げるときに出るような尾を引いたものがオレンジ色に光り南方上空を西から東へ約20度の傾斜でゆっくり降下し、地上付近でパツと消えた。その間、2、3秒だつたという。またその直後、物体について2人で話し合っている消防車が走り、火事現場は物体が空中で消えたのと同じ場所で、同町地内の木曾川右岸堤防の芝草約600平方メートルが焼けていた。また、同時刻頃クラウネル同市竹鼻町梅ヶ枝町、県立羽島高校のバスケット部員ら生徒6人もこの物体を目撃、キャプテンの浅井三重子さん(2年)は「クラブ活動を終えたと同時に消防車のサイレンが聞こえたので、どこか火事かと見回したら、オレンジ色に輝きながら斜めに走る物体を見つけ、流れ星かなと思いましたが」と話している。

6人も目撃したのは同じ南方上空で、約30度から35度ぐらいの傾斜で、2、3秒の間、オレンジ色に光り、消えたという。

この物体落下を1月17日付の岐阜日日新聞紙上で知った同天文台では早速、大曾根さんら目撃者から更に詳しく状況を聞き、降下する状況、物体の色(温度)などから、いん石が落下した可能性があると見ている。しかし、物体と芝草火災との関係については地球上に光速の10倍から200倍の超スピードで突入する際、空気抵抗との摩擦熱の加減で可燃物に着火する可能性はあるが、この場合は羽島高校の生徒が消防車のサイレンを聞くと同時に目撃しているなど、時間的にわずかのズレがあり関係は薄いとみている。

いん石の落下は、最近では昨年に瀬戸内海に落下したとして、先に水中テレビカメラを使って調査を行うなど、国内ではこれまでに30件ほど確認されている。うち県下では明治42年7月24日に美濃市を中心に関市や武儀郡、山県郡で当時27人が発見された、美濃いん石、昭和13年3月31日には羽島市の隣接、羽島郡笠松町の箕浦大吾さん方の屋根に落下するといった世界でも珍しい落ちかたをした、笠松いん石(710グラム)、また落下時は不明だが、大正13年に揖斐郡坂内村で発見された鉄分を90%以上含む、坂内いん石(4・18キログラム)など3件が確認されているのみ。その後、美濃いん石は同天文台の正村、野田両理事の手で新たに3個発見され、現在東京・国立博物館で分析調査されている。

このように、いん石の発見はきわめて珍しいうえ、現在の一般的に宇宙説では、いん石は太陽系の火星と木星間の小惑星の一群の一つが砕け、その破片とされており、現時点で人類がその一群の生成をさぐる貴重な物的材料だけに、同天文台ではこの羽島市内で目撃された、羽島いん石の発見に全力をあげている。し

このように、いん石の発見はきわめて珍しいうえ、現在の一般的に宇宙説では、いん石は太陽系の火星と木星間の小惑星の一群の一つが砕け、その破片とされており、現時点で人類がその一群の生成をさぐる貴重な物的材料だけに、同天文台ではこの羽島市内で目撃された、羽島いん石の発見に全力をあげている。し

このように、いん石の発見はきわめて珍しいうえ、現在の一般的に宇宙説では、いん石は太陽系の火星と木星間の小惑星の一群の一つが砕け、その破片とされており、現時点で人類がその一群の生成をさぐる貴重な物的材料だけに、同天文台ではこの羽島市内で目撃された、羽島いん石の発見に全力をあげている。し

かし落下地点をより正確に割り出すには目撃者の、証言が多いほど効果があるため、目撃者の情報提供などの協力を呼びかける。
(一九七六年二月三日付、岐阜日日新聞)

富山で「火の玉」が尾を引きながら飛ぶ

●巨大な流星、火球、か UFOか火の玉か、はたまた流星か。目で見えた自分の状況を判断して結論を出してほしいと、11月26日午前、富山市呉羽山の市立天文台へ国鉄機関士、佐々信正さん(38)ら数人から連絡があり、倉谷同天文台主任が、「現場」の同市富山操車場に出かけ、くわしく状況を聞いた。

佐々さんが目撃したのは、さる11月12日午前4時43分頃で、南の方向の高さ約30度から南東方向地上約5度にかけて巨大な火の玉が7秒間にわたって長い尾を引きながら飛んだという。明るさは満月(マイナス12・5度)より明るい感じし。倉谷主任が判定したところによると、これは巨大な流星、火球、と言つて、31年9月に同天文台ができてからこれに似たものが1回あったきり、非常に珍しい天体現象。
同天文台では、このことを日本流星研究会に報告するが、データを確実にするため「ほかにも見た人がいるのでは」と新たな届けを待っている。
(一九七五年11月27日付、北日本新聞)

魚津市上空をクラゲ形の物体が飛ぶ

●目撃者は自信に満ちた話しぶり
(一九七五年12月3日早朝、国道8

号線早月大橋の上でUFOを見たという人が同日、北日本新聞魚津支社へ通報して同日。
この人は、宇奈月町音沢、土石業山本昭夫さん(38)。同日午前6時20分頃、早月川の砂利を取りに来てたばこをすうため橋の上で車を止めて、ふと北の空を見上げたところ、魚津市の西魚津沖合から天神山方向へかたりの上空をクラゲのような形の黒っぽい物体が青い光の尾をひきながら、雲間に消えたという。

「すでに夜が明け、空もすつきりしていたので飛行機など見連えることは絶対ない。写真や絵で見た。空飛ぶ円盤」では?と直感した。きつとはかにも見た人がいるはず」と山本さんは自信に満ちた話しぶり。証人を探している。
(一九七五年12月4日付、北日本新聞夕刊)

福井県鯖江市内の女性も二度もUFOを撮影

●赤光を放ちジグザグ運動する物体 「あれは確かにUFOだったと思います」一鯖江市内に住む17歳の女性が2度わたってUFOを目撃、いづれも写真撮影に成功した。この女性が見た、ナゾの物体、は本当なのだろうか。ホットなUFO談義が、いま真つ盛り。
この女性は同市水落町四丁目、家事手伝い上田真佐美さん。1回目もUFOを見たのは去る一九七五年12月2日午後6時頃。友達同市平井町店員、加藤和代さん(17)と2人で清水町片粉の清水グリーンハイツ内の空き地を散歩していらしたとき、2人で話をしながら歩いていたら突然、足羽山のテレビ塔の辺りに赤いものが光った。その物体はジグザグ運動を繰り返しながら、しだいに左に動き、福井市の市街地の上空辺りで一時停止、再び上下左右に不規則な動きを見せながら、グリーンハイツ北方の山並みにスッと消えて行

った。この間、40分から50分。この物体の形は上が丸く、下がとがっていてちょうどかまのよう、動きを止めているときはオレンジ色の鮮やかな光を放ち、動き始めると同時に赤い色を帯びだしたという。
上田さんは初め、これはテレビ塔の光かそれとも飛行機ではないかと思つたそうだが、これにも動き方がおかしいので「これはいつかテレビで見たのと同じだ。UFOに間違いはない」と思い、持っていたカメラで夢中になって9回シャッターを押した。上田さんのほか、加藤さんと同場近くで働いていた2人の若い男の人もこの物体を見ている。
2日目に上田さんがUFOを目撃したのは12月9日午後11時20分頃。鯖江市内の西山公園の上空に、円盤型の物体と清水町で見たのと同じ似た物体2つが飛んでいるのを自宅の前の道路で発見。このときもカメラを放ちながらジグザグ運動を繰り返していたという。
フィルムを現像した武生市内の店では「トリックの跡は見られない」と言っており、上田さんの友だちの間で夢いづばいのホットなUFO談義が展開されている。
(一九七五年12月11日付、福井新聞)

京都の宇治付近に不思議な物体が浮かぶ

●三角形の物体が半円に変化し消滅 宇治・城陽の境、大竹町の住宅団地でUFOを見かけた、毎日新聞宇治支局に連絡があった。主婦のA子さん(47)は、一九七五年12月16日午後5時半頃、すっかりうす暗くなった頃、外へ出ると、チン、デン、デン、という音がして、空を見るとオレンジ色をした物体が浮かんでおり

三角形をして一辺が長くなったり短くなったりして、そのうちクラゲのような半円形になった。あまり不思議なので、家の中にいた高校生の娘さん(17)を呼び、2人で観測しているとこちらに近づいて来るようだったので、こわくなって家の中に入った。10分ほどして外へ出てみると、相変わらず空中に浮かんでおり、これこそナゾの円盤ではないかと望遠鏡を持ち出して詳細に観測すると、UFOに少し離れて、また小さな円盤があったという。そのとき、知人が通りかかって「こんばんは」とあいさつしたとたん、チンデンの音もぶつと切れ、円盤も消滅したそう。お二人とも、身心ともに健全な方で、やはり不思議なことという以外になさそう。
(一九七五年12月20日付、毎日新聞京都版)

琵琶湖大橋の上空に浮かぶアダムスキー型円盤

●確認した人は百人を超える 一九七五年9月から10月末にかけて、琵琶湖上空に空飛ぶ円盤が現れ、確認した人は大津市本堅田町の市営住宅臨湖団地に住む古物商、今井賢吾さん(31)、奥さんの佐代子さん(34)をはじめ100人を超えた。今井さん夫婦が4階建てアパートの2階にある自宅の窓から琵琶湖大橋の上空に浮かぶ円盤らしきものを発見したのは昨年9月5日午後9時頃。「オレンジ色をしたドーナツ型の物体が琵琶湖大橋の上を浮かんでいる」と滋賀日日新聞社へ電話で知らせてきた。

「何かの見間違いではありませんか。琵琶湖大橋にはオレンジ色をしたナトリウム灯もついています。……」と聞く本社記者の電話応対にも今井賢吾さんは「いや、もっと上の方ですよ。星よりはずっと上の方です。ときどきすうと上へ上がります。横へ移動したりしているの

空飛ぶ円盤のように思うのですが」と真剣な声。
それではと、本社に残っていた記者ら4人が、屋上へ上がってカメラを構えて待っていると、今井さんのいうナゾの飛行物体が目の前に現れたのだ。場所は本社屋上から見えて琵琶湖の反対側、県庁横にある知事公舎のちょうど真上あたり。まるで大きな電灯がついたようにポツカリと現れたあと、ゆっくり西へ移動し始めて。時間は午後10時半頃。肉眼で見てもニワトリの卵くらい大きな大きさを放つ子船らしきものが2つ。それが同じ早さで、約30分の間に1回、本社カメラで連続4枚、ナゾの物体の姿を撮ることに成功した。

この写真が本紙に載った日から県内でもガゼン、UFOの話でもちぎりが訪れ、フィルムなどの分析の結果「空飛ぶ円盤に間違いない。新聞社が撮影したという意味も含めてかなり信びよう性が高い」と太鼓判。「こんなハッキリした写真は珍らしい。型は一九五二年にアメリカで目撃されたアダムスキー型に似ていて大きさは周囲の対照物から見て50メートルから80メートルぐらい」と日本空飛ぶ円盤研究会代表の荒井欣一さん。その後、9月から10月末にかけて南湖上空に10回近くも円盤が現れ、守山市方面から「目撃した」という人が本社に電話連絡してきた。
一九七五年10月20日午前4時半頃守山市内の国道1号線を車で走っていたレストラン経営の猪俣幸雄さん(31)「大津市堅田町天神山」は「仕事を終えたあと家に帰る途中、運転している車の中からハッキリ見えました。やはり琵琶湖の方へ飛んできました」と、目撃したあとすぐ本

社へ電話してきた。飛行ルートは目撃者の話を総合してみると三上山の上空から琵琶湖大橋の上空まできたあと琵琶湖上空をそのまま南下、大津市の音羽山上空で消えることが多いようだ。

いばら目撃者の多かったのは琵琶湖大橋近くの湖岸に建っている第一発見者今井さん夫妻の住む臨湖団地。3階に住んでいる会社役員西村正さん(32)と奥さんのむつみさん(27)、それに1階に住む今井賢吾さんの親類にあたる会社員、今井美さん(27)、奥さんの美智子さん(19)たちは「9月から10月末にかけて10回近く見ました。そのうち1回は琵琶湖すれすれまで下りてきて、本当にこわかった。大きさは10メートル以上もあったみたい。みんなで湖岸へ出て見たのですが、着水した様子もありませんでした。もう気味が悪くて、そのうち夜中に宇宙人が家に入って来るんじゃないかというような気がして」と不安な表情で言う。

(一九七六年一月一日付、滋賀日日新聞)

定着したUFO関係の本

●写真中心の本が主流で人気がある
一九七五年11月13日夜、岡山、香川両県でナゾの飛行物体を見たという、火の玉騒動は、ファイアーボール(火球)とされ、目下学者の間で「地点の究明が急がれている。一時はUFO(未確認飛行物体)ではという見方もあったが、このところ岡山市内の書店ではUFO関係の本の人氣が良く、改めて宇宙問題への反応の速さ、関心の深さを物語っている。

UFO関係の書籍は、一昨年くらいからブームを呼び、市内の書店では「UFOコーナー」も登場、常時

150〜160冊をそろえているところもある。
最近の傾向では、カメラの普及に合わせて、鮮明なUFO撮影も多いため写真中心の本が主流だそう。UFOそのものを捕えた写真でなくとも地球上のナゾを探る形で、古代文明とUFOを結びつけたものなど、写真があるように。読者層もこれまで高校生くらいまでの若年層が主流だったが写真入りの本が増えたことで、層はグーンと上がったらしい。

「興味のなかつた大人も写真なら信じざるを得なくなった」と丸善岡山支店売り場長代理、安井毅さん(43)も言う。
UFO読本の歴史は、アメリカを中心に古くからあるが、日本では戦後10年くらいたってから。昭和25年頃、新聞や雑誌にアメリカでのUFO目撃例が掲載されたのがはじり。昭和30年頃から科学雑誌などで外国目撃例の翻訳もみられ出した。日本空飛ぶ円盤研究会(東京)刊行の「空飛ぶ円盤展覧会」など専門書の発行はこのころから始まったが、一般書では昭和33年9月、朝日新聞社刊行のパンフレット「空飛ぶ円盤なんでも号・事実かまぼろしか」などが最も古い方だ。

戦後早くからUFOを追っている岡山市弓之町、就実高校の畑野房子地学教師は「宇宙の神秘はだれにも興味があり、複雑になるばかりの世界の中から精神的な一つの救いでもある。学生など若い人の中には熱心な人も多く、その人たちが大人になつたらもっともつと理解されるだろうし、今でもナゾが否定できず一般的になりつつある」と話すように書籍も一時的な爆発的ブームから、細く程度浸透したとみる店もある。細謹舎表町店ではUFOの本を示す展示コーナーの店内看板ははずしてしまつた。同店の店員堀さへみさん(42)は「大人の読者も増え、売れゆきはすでに定着してしまつた」と

いう。小説や実用本と並んでUFOの本も書籍の一分野を完全に占めてしまつたようだ。
(一九七五年12月13日付、山陽新聞夕刊)

宇宙やUFOへの関心は現代不安の一反映

●人間は宇宙に夢と真理をさぐる
いくら暖かくとも暦のうへでは、すでに冬。星座も秋から冬へと、その彩りを変えてゆく。星の観察には絶好の季節となる。「寒星の天の中空はなやかに」(誓子)という情景に、ふと目をとめたくなる季節も、そう遠くはない。

これさえわたり、華やきを増す。古代から、人間は星を航海の指針とし、季節の変化を知るよすがとし、多くの物語や伝説を生み出した。多、更に星によって、未来の運命をも占おうとした。中国に渡って密教を学んだ弘法大師空海は、インド曆書の集大成ともいえる「宿曜経」を持ち帰つたという。仏教曆学として日本に伝わつた。

だが、現代人は頭上に天の広がりがあることを、やまもすれば忘れがちだという。星と云えば、歌謡曲に歌われた涙のうか。それでも、ブラック・ホールやUFO(未確認飛行物体)騒ぎなどに、神秘的な心のときめきを感じる人も少なくないという。週刊誌などの星占いも、多くの人たちの興味をひいている。

宇宙への関心は、地上の終末感との結びつくこともあり、また現代不安の一反映かもしれない。逆に複雑な人間関係や、地上の人間社会では満たされぬ夢を、宇宙とか天体に求め、大きくぐんぐんしているのかもしれない。ところで一時的であるにせ

よ、11月13日夜、香川、岡山両県を中心に目撃された「天体ショー」は人の心を天上にクギづけにした。「せん光とともに、衝撃音を耳にしただ人もあると聞く。これは流星より一まわり大きいファイアボール(火球)と呼ぶ物体とか。明治42年の「美濃いん(隕)石」以来、66年ぶりの大規模な現象。だとみられている。香川大学の三沢邦彦教授はじめ米果した国立科学博物館の村山定男理化学研究部長が目撃者の証言などから落下点を推定している。

これによると、高見島、栗島周辺の海上に落ちた可能性が強いというが、ファイアボールは数百個の破片が数キロにわたって飛散するそうだが、人間は宇宙に夢と真理をさぐる宇宙からの物体は逆に、地球の何たるかを教えてくれる。いん石発見で研究に協力したい願いや切である。
(一九七五年11月19日付、四国新聞)

中学生がUFOを撮影

●黒い帽子のような物体
香川県下では、いん石騒ぎが一段落したようだが、今度はUFO(未確認飛行物体)の撮影に成功したという中学生がいる。この少年は三木町池戸、三木中3年、藤川正浩君14。一九七五年8月28日午後2時頃、自宅2階の物干し場からカメラで撮つた。ちょうど自宅近くの西徳寺北方の屋根の上に黒い帽子のような物が写っている。

フィルムを見せてもらつたところキズやゴミではない。父親の薬局業正視さん(49)は「鳥が飛んでいたのでは」というが、前後して同じ物を撮影した友だちもいるとか。
(一九七五年12月7日付、四国新聞)

香川県にUFOの飛来が増える

●すでに数十回飛来?
UFO(未確認飛行物体)が、地球の空を騒がせ始めてから四分の一世紀が過ぎた。雪男や怪獣ネッシーを上回る、ナゾの王様。だけに、ブラジル海軍省やスウェーデン国防研究所の公認UFO写真が出るなど、話題は尽きない。だが、その正体は依然、ナゾのナゾ。「空飛ぶ円盤の裏を信じる」人がいる半面「夢物語、検討に値しない」と一笑する学者もいるなど、世論も相半ばしている。しかし、肝心のUFOは、人間もその騒ぎを知ってか知らずか最近「宇宙の片田舎の地球、そのまた田舎の日本、香川」への飛来が増えているという。四国でも唯一のUFO研究団体、四国学院大(UFO)研究サークル(代表、武田雄児さん)の活動を紹介しながらUFOの歴史と県下の発見状況、そのナゾなどをまとめてみた。

今世紀最大のナゾの一つ、UFO
空飛ぶ円盤騒動は、さる昭和22年(一九四七年)6月、米国ワシントン州上空で、実業家ケネス・アールド(当時32歳)が自家用機で飛行中、目の前を飛翔(しょう)する9個の輝く円盤状の物体を目撃した。ことに端を発している。アールドはこの物体を「コーヒーカープの受けさらのような」と形容したため、「空飛ぶさら」、すなわち、フライング・ソーサーと名付けられ、わが国では空飛ぶ円盤と訳され今日に至っている。

その後、米空軍がこの変てこな物体は「Undentified Flying Object(未確認飛行物体)だから、その頭文字をとってUFOと呼ぶのが妥当」と宣言した。しかし、アールドの発見によってUFO熱が起つたとはいえず、UFOの発見は、決してアールドが最初ではない。

太平洋戦争中、日米両国のパイロットが戦闘機にまつわりつくように飛ぶナゾの飛行物体を確認。お互いに相手の、新兵器、と思つていたと

いう話もある。また、ロケットの操縦席についている人物を描いたと思われるマヤ王国(紀元前二〇〇〇〜三〇〇〇年)の「ロケット設計図」(三〇〇〇年)の「ロケット設計図」を、洋の東西を問わず、UFOをばじつつるナゾ、記述は尽きない。それがまたUFO熱を、より一層高めている。

宇宙からみれば、地球などはケン粒以下の存在。そのまた一部のまた一部である香川などは、大宇宙からいえば、あるか無きか、の存在。しかし、そんな讃岐つ子に心を示したのか、ご多聞にもれず県下でもここ数年「UFOの飛来が増えている」という。県下でただ一つのUFO研究団体、四国学院大UFO研究サークルのまとめでは、最近では昭和43年に満濃町と観音寺市で各一回確認されたから年ごとが増え、昨年はついに13回、通算では50回を超えている。

これでも「ことUFOに関しては県下は必ず存在する」という。「UFOは遅れ存在する。でなければ一連のナゾが解明されない」と説くUFO研究サークルの代表、同大文学部4年武田雄児さん(22)に登場してもらい、その目、情熱を通じ、県下のUFO熱をまとめてみた。

武田さん自身、UFOに興味をもったのはごく最近だ。琴平高3年の夏のことだった。「夕方頃、金毘羅さんの上からゆっくり飛んで来て、ある地点から急上昇した円形の物体を見た」のがきっかけ。それまで「UFOなんてマユツバさ」と思っていたのが、これを契機にカラリと変わった。それ以来、UFO関係の本を読みあさり「UFOを見た」という人がいると、出かけて行ってデータを集めるほどの熱心さ。

「円盤に乗って金星へ行ったというジョージ・アダムス、アダムスキー型円盤は日本でも観測されている。現在の地球文明だけから考え、UFOすべてを否定するのはナンセンス

だ。大宇宙には光以上の速さのものが存在するかもしれない。自然界にはUFO飛来を暗示するものが多いが、それを「科学的裏付けがない」ということで片付けしないで、追求するのが僕たち若者の使命だ。またそれだけの価値がある」というのが武田さんの持論だ。

また、UFOを通じ武田さんと知り合い、今では同サークルの良き理解者となっている葛西崇岡大講師(絵画)・志志が「理論研究として古代インカ文明やマヤ・アステカ文明を研究しているが、これら古代遺産の中には、円盤に乗って来た他天体人の「足跡」のようなものがたくさんある。そのほか宗教的儀式、伝説などにもUFOにまつわるものが多い。興味本位に始めた研究が大きな成果を生む場合もある」と話している。

では「UFOはどこからやって来るのか。そして、なぜやって来るのか」。この素朴な質問に答えられる人は少ない。また「毎夜、観測を続け天体の動きを暗記している天文家の間にも、UFOを見た」という人がない」など、UFOにはまだまだナゾ、未知の分野が多い。

確かにUFOを人類文明で考える限り「銀河系内で太陽系以外の恒星で一番近いシリウスでさえ8光年(1光年は光の速さで飛び続けて1年間かかる距離)かかる。銀河系外なら最も近いアンドロメダ星でも二百万年光年要する。現実的話ではない」という結論に達する。

また、天文学者の多くが指摘するように「UFOを見た」「写真をとった」という人の中には、故意なトリックや、そうでないにしても知識不足のための誤認、誤解などが多いのも事実。過去の例から考えても「UFOと誤認されやすい物」には、人工衛星の大気圏再突入、電離層中での実験、観測用気球、雲に始まりライトの反射、セント・エルモの火、はてはコン虫の大群、渡り鳥の

群れ、クモの糸まであることを考え合わせれば、宇宙研究の専門家たちが「円盤など信じておりません。写真は見たが、明らかにレンズのゴーストやトリックです。なによりも信じるに足るデータがありません(古在由秀東大理学部教授の話)と一笑するものも、あながちのはずれとはいえないかもしれない。

「現代の科学水準で考えることそのものがナンセンス」と、科学万能見解を批判するのは、UFO研究で知られる中岡俊哉氏。

「私が見たことがないからなんにもいえないが、古代には確かに宇宙人が来たと思えます。インカやサハラ砂漠などにはその証拠が残っています。でも、最近のUFO熱は一種の流行です。地球は宇宙の中では田舎ですから、宇宙人にとってはある魅力ある星とは思えない。たまたま通りかかって目撃され、話に尾ヒレがついて大騒ぎになったのかもしれない」と、いささかクールな受け止め方をしている。

「地球の発想」から抜け切れなければ、UFOは確かにまだ夢物語にすぎない。だが、広い宇宙どこかには、光速以上のスピードを持つ生物が存在するかもしれない。現に米・ソ両国の第一線宇宙科学者の間では「宇宙空間の未知の文明から発信される宇宙空間の未知の電波を捕え、解読しよう」との共同コミュニケーションさえ交わされている。

UFOを否定するのも肯定するのも自由だ。だがその前に、もっとU

F0について多くのことを知っておく必要はないだろうか。もしUFOが「外宇宙より飛来して来る」とすれば、重要な問題である。彼らの目的は？ その推進原理は？ 彼らの故郷は？……。ナゾ、興味は尽きない。

武田さんも認めているように、たとえ現時点では「単なる夢物語」であっても、それをきわめてみる価値も十分ある。「文明とはそういうものだ。ナゾ、興味から出発し、徐々に進歩していく。その意味ではUFOも、あながち夢物語とはきわめつけられない」とみる学者もいる。(一九七六年一月一日付、四国新聞)

UFOの幻に気をつけよう！

●世界各地で増加するUFO信者 UFO(ユニフォー)と読む、未確認飛行物体、別名では空飛ぶ円盤)の信者が、世界各地を通じてますます増えつつある傾向にある。彼らはお互い、同士に目撃の体験を交換し合い、国際的な情報網を張りめぐらしている。

そこまではぜんぜん人畜無害だが最近アメリカのある州で、こんな事件)が起こった。UFOに乗った1人の宇宙人が立ち現れて、数百人の聴衆を前に、脱地球の怪言伝をお話始めた。早くこんなせちがらいい移住しよう、という宣伝である。するとたちまちその甘言に乗って、20人ぐらゐの人が、家庭を捨て、財産を捨てて、こつ然と姿を消してしまったのである。この集団蒸発、べつに捜索願いが出ているわけでもないのに、警察としても、いかんとも手の下しようがなかった。そしてその宇宙人というのは、地球人と寸分違わぬ顔形をしていた、というのがオチである。

だが考えてみると、これは地球上のどこでも起こり得ることのようにも思う。こんなせちがらいい地球を捨てて、他の星の楽園へ移住しようと言われたら、ふらふらとつとつと一言に乗る人は、どこでも20人や30人は出てきそうである。 事実、脱地球、楽園行きの企ては古来、何度も繰り返されてきた。日本でも大正時代に、「新しい村」という名の地上の楽園を日向の国に建設しようとする人が現れて、数千人の同志を集めたが、今から考えればあれもUFOの幻に似ていた。(一九七六年二月八日付、高知新聞 閑人調)

九州

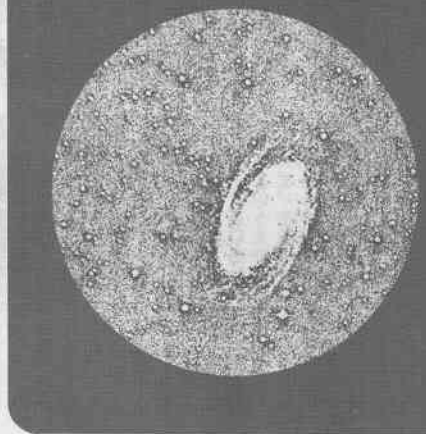
夜空に浮かぶナゾの光体！

●けい光灯のような光り暗やみに螢光灯がついている？ そのうちではありません。「これぞ宇宙の使者UFOなのだ」と写真を書いた青年は言っているのだが、正体はいぜんナゾに包まれています。

写真を写したのは鹿児島市伊敷町一写真業、泊平八郎さん(28)。一九七五年11月22日の午前3時頃、友人たちと家で酒盛りをしていたところ、外がなんだか明るいの。夜空をすかしみると、大きな星ほどの明るい物体がゆっくりと上昇していた。形は三角形のようだったと泊さんは言う。さっそく愛用のニコンFに200ミリ望遠レンズをセットし、絞りをいっぱいあけて一分間シャッターを押せばなしにして撮影した。

先端の三角形の部分がUFOの本体？で、一本の螢光灯が三つにくびれたようになっているのが光彩だろと泊さんは主張する。UFOの権威たちが泊さんの家に集まり「ホンモノだ」「いやニセモノだ」と議論しているが、だれか写真で鑑定できる名人はいませんか。(一九七五年12月6日付、南日本新聞 閑夕刊)

科学ニュース



海の中に発電所を建設

●海水の温度差を利用した発電を研究中!

現在、米国の研究開発局（ERDA）では、照りつける太陽によって暖まった海水と深海との温度差を利用して、洋上に発電所を建設する研究が進んでいる。すでに概念設計は完了し、出力二万五千ワットの原型発電所を一九八一年までにハワイ島沖に完成、一九八五年には十萬キロワットの実用発電所を運転させることになっている。

温度差発電はフランス人ジョルジュ・クロードが一九三〇年、キューバ沖で十キロワットの発

電に成功したものの、経済的に引き合わず、どの国でも実用化しなかった。現状では、石油や原子力発電にはまだおよばないが、一九八五年には石炭火力と同等ぐらいまでにすると思気込んでいる。

設置場所として、風も波もなく雨の少ないハワイ島ケアホーロポイント沖が有望視されているが、これは海水の温度差を利用しやすいためで、熱帯の海の表面は、冬でも三十度くらいあり、圧力をうんと低くしてやれば、この温度でも水は沸騰する。その水蒸気でタービンを回して発電させるわけだが、タービンを回してご用済みになった

水蒸気を冷やして元の水にもどすのに、深海の冷水を使うというわけ。

海面と水深五百メートルの深海との温度差は約二十〜二十五度あるが、この程度の温度差で十分発電に利用できるとい

最も重い新素粒子を発見

●米、共同実験グループが発表

二月五日、米物理学会総会でこれまで見つかった素粒子のうちでもっとも重い新素粒子を発見「アップシロン」と名付けたと発表した。

米コロンビア大学、国立加速器研究所、ニューヨーク州立大学の共同実験グループ（代表者リーダーマン・コロンビア大学教授）は理論物理学界を根本から揺るがし、完全に新しい考え方を要求する新発見と述べ、アップシロンの発見は原子核内における素粒子の種類が無限に存在する可能性を示していると説明している。

アップシロンはこれまで発見された最大の素粒子の一・五倍以上の質量があり、寿命は正確には測定されていないが、十億分の一以下と推定されている。また発表によると、この発見は加

トピックス

氷河期の兆候はみえず

●米政府の海洋・大気局（NOAA）が、このほど過去九年間の調査にもとづき、「氷河期到来説は立証されなかった」と研究報告書を発表した。（一月二十一日報道）

昨今、地球が再び氷河期を迎えつつあるのではないかと叫ばれているが、NOAAは人工衛星を使って、九年間にわたって北米とユーラシア大陸の積雪と凍結状況を観測、その記録を分析した結果、九年間を通じて積雪量などの漸増傾向は認められなかった。ユーラシア大陸では、一九七一年から七二年にかけて二年連続して記録的な積雪と凍結が観測されたが、それも、その後二年間のうちに平常にもどったという。「もし、地球が氷河期に近づいていれば、積雪や凍結は着実に増大するはずだ」とNOAAの研究者は言っている。

レーザー光線で野菜の収穫量をふやす

●ソ連のカザフ共和国の科学者は、強力なレーザー光線を当てた普通の真水を野菜にそそぐと収穫量が五十パーセント以上もふえることを明らかにした。（一月二十六日報道）

これはレーザー光線によって水の生物学的活性が高まり、その浸透圧が上がったためと思われる。その作用は数カ月にわたって保持される。また、この水を鉱泉療法に使うと薬効があるというデータも出た。

カザフ国立大学の生物物理学者はレーザー光線を使って水を処理した場合、その費用は水一立方メートルあたり一コペイカ（四円）足らずという。

速器研究所の加速器で素粒子反応を起こして六十億電子ボルトの一对の電子・陽電子が生成された際に、衝突破壊された粒子の破片から見つかった。この新素粒子はこれまでに十二回存在

が確認されている。

十〜二十年前は、素粒子の種類は約三十と推定されていたが、その後大型加速器の発展で新素粒子が次々に発見され、クォーク模型が素粒子構成の仮説

●肉眼で見えたウエストすい星

肉眼で見える大型のすい星が三月上旬から中旬にかけて日本各地の東空に現れ、観察された。明るさは一昨年正月のコホーテクすい星をしのぎ、七年前のベネットすい星級。

太陽系の起源のナゾを解くカギにもなると、各国の専門家が注目、大がかりな観測を行った。このすい星を発見したのは南米チリにある欧州南天文台のウエスト博士。昨年十一月に登

録され「ウエストすい星」と名付けられた。

このウエストすい星は、その後、しだいに太陽に近づき、二月二十五日には、水星の軌道より内側、太陽から約三千万キロのところ以最接近した。頭部の直径は十数キロメートルとすい星の中では大型のものに属する。夜明けの空に出現したウエストすい星は、今世紀で最も見事なすい星のひとつとなった。

(UPIサン＝共同)

として予言されるようになってきた。スタンフォード大線型加速器センターのパール氏は「原子の下部構造自体が極めて多数の種類素粒子を包含していることが明らかになったが、おそらく素粒子の最終的な種類は発見できないかもしれない」と述べている。

発電衛星はエネルギー

ギ―自給の秘密兵器

●発電衛星を打ち上げて太陽光線を電気エネルギーに変換して地上に送電すれば、全米の必要電力は三十個で満たすことができると言い出したのは、米ボーイング社のラルフ・ナンセン氏である。ナンセン氏は二月十日に米フロリダ州タラハシーで開かれた州議会関係者の会議で、この計画を発表した。

同計画は、軽いプラスチック皮膜の巨大な鏡を静止軌道に打ち上げて、太陽光線を発電機に照射、電気エネルギーに変換して超短波で地上に送電するというもの。

地上の六倍という太陽熱を有効に利用したうえ、環境破壊の心配がないクリーンエネルギーが手に入ることになる。

試算では五十一平方キロメートル

マヤ文字の解読に成功

●レニングラード二月二日の報道によると、言語学者の間で長年ナゾとされてきたマヤ古代文字が、ソ連の学者、ユリー・クノゾフ氏によって解読されたという。

マヤ古代文字はメキシコのユカタン半島に住んでいた古代マヤ人が使っていた文字で、十六世紀に跡形もなく消滅した。その後、各国で多くの学者によって解読のための研究が行われていたが、いずれも失敗に終わっていた。解読に成功したクノゾフ氏の話では、このたびの成功は象形文字の一般的な法則を応用したことがその一因だという。

マヤ文字の存在が明らかになったのは十九世紀になってからで、これは十六世紀に米大陸に渡ったスペイン軍によって、そのほとんどのマヤ文字文書が焼失したためといわれる。また二年ほど前にニューヨークで民間人のコレクションの中から四番目のマヤ文字文書が発見されていた。

アラビア半島は動いている

●昨年七月のアポロ・ソユーズ宇宙飛行で撮影した地表写真の解析の結果、アラビア半島全体がゴラン高原付近を軸として、ゆっくり左へ回転していることがわかった。

写真解析チームのリーダー、F・エルバズ博士(米スミソニアン地球・惑星研究センター)によると、V・ブランド飛行士が撮った写真に「未発見の地殻の割れ目」が認められたという。その割れ目はレバノン付近から三方に伸び、一つは東方のイラクへ向かいユーフラテス川へ。

ルの鏡を浮かせれば一千万キロワットの電力が得られ、三十個あれば全米の必要電力を満たすことができるという。実用化を九〇年代に目ざしてナンセン氏ははりきっている。

金星の表面は地球と同じ

玄武岩で構成されていた

●二月二十一日付のプラウダ紙によると、昨年十月に相次いで金星に着陸した無人探測機「金星九号」「金星十号」が達成した「新たな、目覚ましい成果」として次の点を発表した。

金星の岩にはカリウム、トリウム、ウランなど天然の放射性物質が含まれていることが判明した。これは地球の表面に最も多く存在する玄武岩が金星の表面を構成している事実が明らかにされたことになる。なお、この事実は金星の岩から放射されるガンマ線を分析した結果わかったものである。

スペース・シャトル計画の

科学観測に日本も参加

●オーロラ現象の解明に一役

米航空宇宙局(NASA)は宇宙連絡船(スペース・シャトル)の開発を現在、進めているが、国際協力を基調にしているスベ

ース・シャトル計画は、これを利用して科学観測や応用実験への参加を世界各国に呼びかけていた。そのため日本でも、その意向に応ずる動きがあったが、このたびスペース・シャトルに日本の科学機器が乗ることが本決まりになり、東大宇宙航空研究所の大林辰蔵教授を中心にしたグループが機器の製作に取り組んでいる。

同教授らが最初にスペース・シャトルに積み込もうと試作している機器は、直径二十センチ高さ八十センチくらいの本体に一立方メートルほどの電源を取り付けたプラズマ銃、この銃によってプラズマ粒子を宇宙空間に打ち出し、人工オーロラを作っている。いろいろ観測してみようというものだ。

スペース・シャトル計画では宇宙での生命科学の研究や地球観測など約十項目が具体的検討の段階に入っている。大林教授らの仕事はその中の大気科学、プラズマ物理の分野に属するものだ。略称でAMPS計画と呼ばれ、この分野だけで世界各国から二百件もの応募があり、その中から同教授を含め五十人が選ばれた。

難治ガンに新兵器

●サイクロトロン治療を開始

科学技術庁放射線医学総合研究所(千葉市六川四)のわが国初の新しいガン放射線治療装置「医療用サイクロン」が二月二十一日から本格的な治療試験を開始した。原子核物理の大型実験装置で知られるサイクロトロン(円形加速器)を、ガン制圧に使うのは英、米に次いで三番目だが、医療専用としては世界最大の施設。

サイクロトロンの特徴は、これまでの放射線の治療の多くは「波」であったのに対し、「粒子」(中性子または陽子)の放射線を放つことである。粒子放射線は、高エネルギーで粒子を打ちこむため、ガン細胞に対する破壊力が強い。またガンの病巣だけを集中的に破壊するうえに、ガン以外の健康な細胞組織に対しては「素通り」してほとんど副作用を起ささないため、ガンだけを選択的にやっつけることができる。

昨秋、米国で開かれた国際会議では「局所再発の防止に優れた効果がある」と結論づけられており、世界が初めて治療に用いた英国ハーマスミス病院の最

トピックス

一つは北東の山岳地へ。もう一つは北のトルコへ続いている。このうち、トルコへ伸びた割れ目は先頃、大地震のあったリジエの町の南で終わっており、同博士は「割れ目を起こした地殻の動きを監視すれば、地震予知に役立つだろう」という。

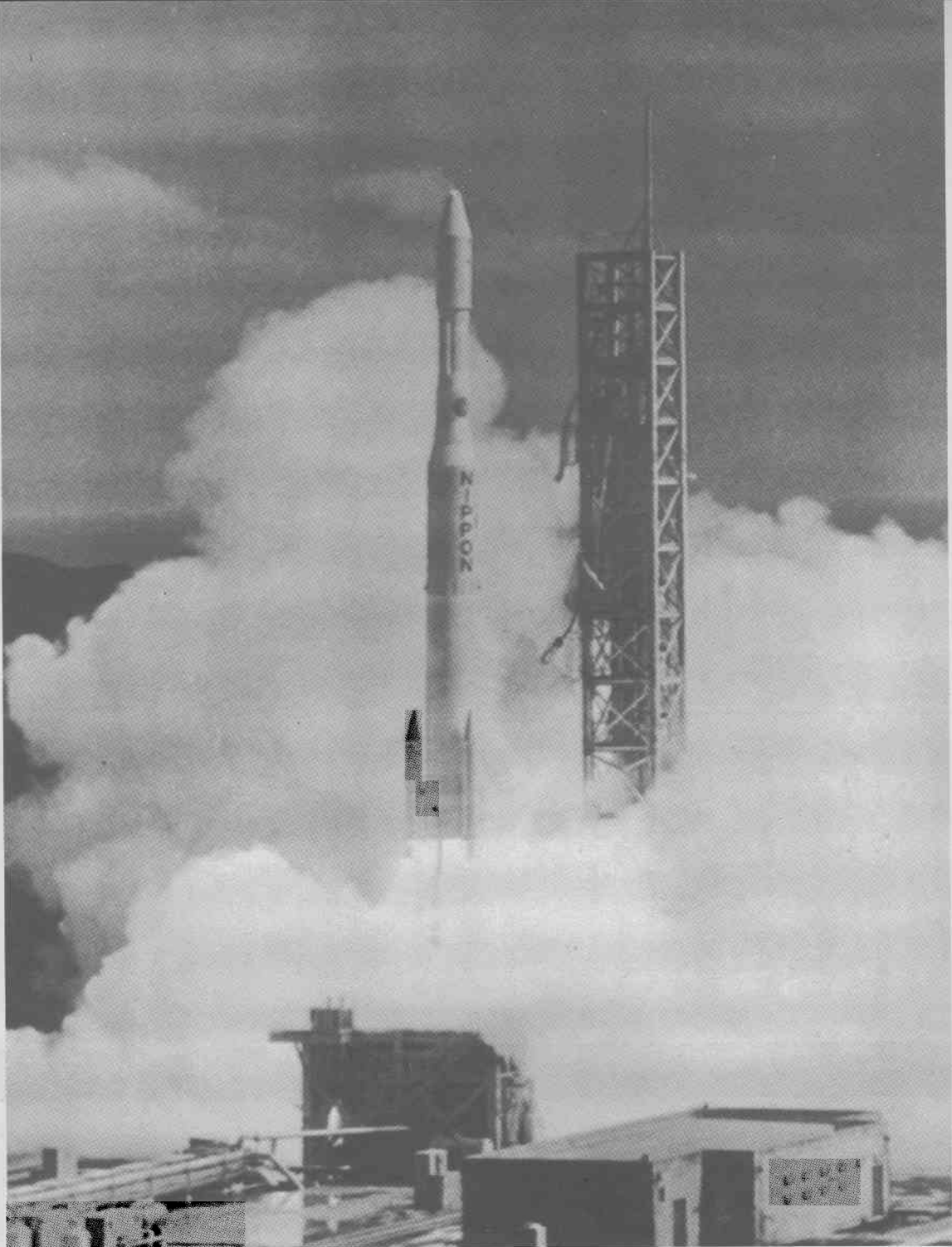
このアラビア半島の動きで、紅海は年間五センチのスピードで広がり、逆にペルシャ湾はどんどん狭くなり、約一千年後にはペルシャ湾の南端は閉じて、ペルシャ湾は塩水湖に変わってしまうことになる。

活発な脳神経は生後一年で止まる

●生まれたばかりのヒトの赤ちゃんは、一カ月くらいというもの眠っていることがほとんど、泣いているか乳を飲んでいるときだけ目がさめている状態である。ところが、ヒトを除く他の哺乳類、たとえば牛や馬の新生仔(じ)は生後数時間でみずから立ち、みずから母親の乳を探しあてる。なぜこころも同じ哺乳類でありながら違うのだろうか。

現在わかっているところでは、ヒトの赤ちゃんは「脳神経系の組織が未完成」のまま生まれてくるからだとされている。それに対して他の哺乳類たちは、ほとんど完成した状態で生まれてくるから、すぐ立ち、行動ができるわけだ。

それもそのはず、ヒトの赤ちゃんは、これから脳、神経系が成長するのだ。とくにヒトの脳、神経系の中心となる「神経細胞」は、生後一年くらいはまだ細胞分裂をしてふえていく力をもっているが、一年以降はまったくその力を失う。生後の一年間にその運命がほとんどきまってしまうことになる。なぜならば、神経細胞が



●初の実用衛星「うめ」打ち上げ成功

宇宙開発事業団は去る2月29日、わが国初の実用衛星・電離層観測衛星（ISS）の打ち上げに成功した。事業団では昨年9月の技術試験衛星「きく」に次いで2番目、衛星の愛称を「うめ」と名付けた。

衛星は電離層の電子密度、高度を調べる電離層観測装置、電波に雑音を与える雷の発生状況などを調べる電波雑音観測装置などの観測機器を積んでいる。打ち上げ約1カ月後から本格的な電離層観測を始めるが、データは郵政省電波研究所などに送

られ、海外放送や航空機用通信、漁業無線など短波通信向けの電波予報に利用され、通信の精度向上、確保などに期待されていた。

だが、その後の宇宙開発事業団の発表によると、3月30日まで完全に作動していた「うめ」は4月2日午前7時48分からの第449周目から電波送信が途絶えた。原因は衛星が全日照軌道に入ったため、衛星の電源温度が急に上がってしまったのではないかと考えられている。

（共同提供）

近の成果では、再発患者はゼロとなっている。

装置自体は仏トムソンCSF社製で、施設設備に巨費を要するため、各地の大病院ならどこでもやれるという治療法ではないが、患者の身体を切開してガンを摘出する苦痛を解放することができるとため粒子治療は、今後の期待が大きい。

世界最高の磁界発生に成功

●このほど百七十五キロガウスというこの種の電磁石では世界最強の磁場を発生させることに成功したと二月二十六日、科学技術庁の金属材料技術研究所は発表した。

同研究所は、筑波研究学園都

●世界最大の天体望遠鏡、ソ連に完成

ソ連科学アカデミー天体物理観測所でこのほど世界最大の直径六メートルの反射望遠鏡(写真)が完成した。

この反射望遠鏡はソ連のカフカズ山系の標高二千メートルのカラチャイ・チェルケス山頂に建設されたもので、実視観測によると、二三等星が連夜安定して見え、さらに低い光度の天体を写真撮影することができた。

(三月三十一日報道)
望遠鏡の高さ四十二メートル

市に建設した超電導マグネットによる強磁界発生装置でこの記録を達成したのだが、超電導マグネットは従来の電磁石に比べて、ケタ違いにわずかな電力で強い磁場が得られることから、各国が開発を競っており、今回の成果が新しい種類の船舶推進用モーターや、磁気浮上列車などの実現を飛躍的に進めるものとして関係者から高い評価を受けている。

今回の実験で使われた超電導の材料は、バナジウム・ガリウム化合物とニオブ・スズ化合物を組み合わせてつくったもので同研究所の太刀川恭治電気磁気材料研究部長らが開発した。

超電導マグネットによるこれ

鏡筒の総重量は三百トンあり、これに厚さ六十五センチ、重さ四十二トン、焦点距離二十四メートルの主鏡がついている。また経緯儀方式を採用するなど、この種の大型望遠鏡としては初めて、望遠鏡全体が圧力をかけて注入される薄い油膜の上

に、いわば浮かんだ状態で、天体の複雑な運動をなめらかに追跡できる。

(TASS)

までの最高記録は、英オックスフォード大の装置が二年前に出した百五十八キロガウスだが、その装置に使われたのはニオブ・スズ化合物だけだった。今回、世界記録を樹立した秘密はバナジウム・ガリウム化合物を採用した点にある。

このたびの研究の成果によって、超電導材料に負うところが多い時速五百キロ以上のスピードで運転される磁気浮上列車、磁気分離装置、核融合などへの寄与が期待されている。

宇宙は果てしなく

永遠に膨張し続けるだろう

●米国の科学者が一致した意見

このほどボストンで開かれた米科学振興協会(AAS)の年次総会で、「宇宙永久膨張説」に米国のトップクラスの天文学者が一致した意見を出した。

これは「宇宙は、やはり、果てしなく、永久にひろがり続けるだろう」という結論におさまったが、最近までの天文学研究で得られたデータを分析し、宇宙の膨張率や密度などを検討した結果にもとづくものだ。

コーネル大学天文・電離層センターのフランク・ドレイク所長の子想によると、おそらく三

トピックス

ふえるということは、とりもなおさず活発な脳、神経作用(頭脳がよいかどうかは明白でないが)をもつヒトになるからである。

ガンに特効の鉱泉水

●エーゲ海のコソ島で、あらゆるガンに効くという放射線を帯びた鉱泉が発見された。

二月十一日、同鉱泉で治療を行っている医師グループの代表がアテネでの記者会見で、「これまでで一万人以上の患者に「奇跡の水」を飲ませた結果、その八十パーセントに治療効果があらわれた」と発表して、ガンに苦しむ患者には無料で鉱泉水を配ると述べた。

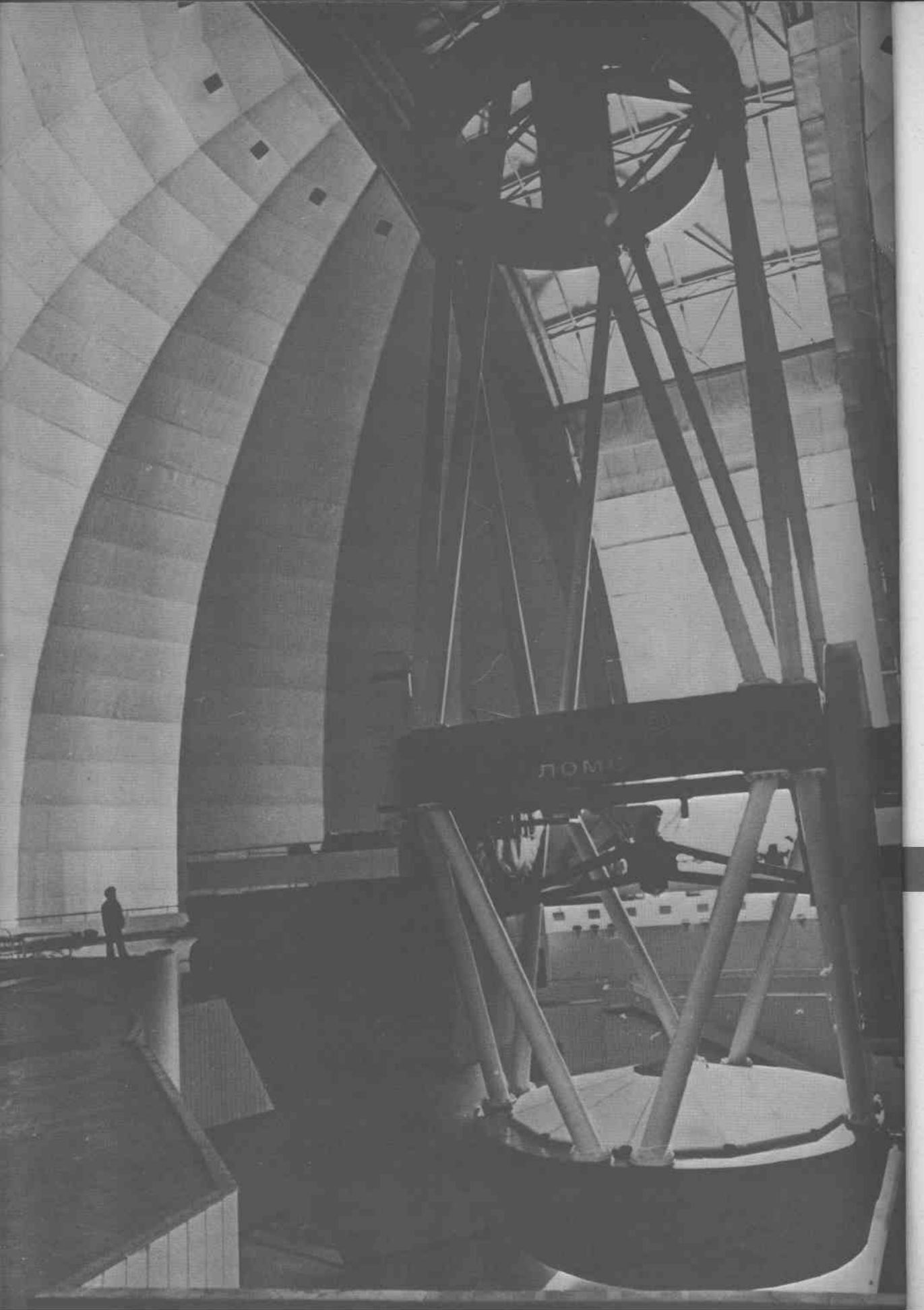
このニュースにわきたアテネの新聞に驚いたギリシャ厚生省は、同医師グループの要請もあって、正式に薬能テストを行い、薬理的にその効果が証明されるまでは、つつしむように注意を促した。

盲人にも点字が見える

●目の見えない人に光を感じさせようという実験が米国のユタ州立大学で行われている。

視覚を受けもっている脳の部分に、ごく細い針のような電極を埋め込み、点字タイプライタをたたたくと、コンピュータからの電気刺激が送られて点字の形が見えるというもの。

現在、この研究は同大学とカナダのウエスタン・オンタリオ大学との共同で進められているが、実験に参加している盲人のクレイグさん(三十三歳)は、脳の中にコンピュータから接続された六十四個の電極を埋め込んだ結果、十年ぶりに光を見ることができた。そのときの喜びを忘れられないという。



百億年後には、宇宙は今、我々がながめているものとは、すっかり変わり果てた姿になっているだろうという。

宇宙の年齢は、八十億年から二百億年の間だとされているが、その誕生の前はどうだったのか、果てがあるのか、といった問題は天文学者の論争のマトになっている。

カリフォルニア工科大学のジームズ・E・ガン教授によれば、現在、天文学者が見ている宇宙が、本当の宇宙の一部にすぎないとすれば「崩壊」もありうるという。我々は部分的に広がっている宇宙を観測しているだけで、全体としては宇宙は閉じているのかもしれないのだ。

しかし、今回の会議の結論によると、宇宙が初めに単一のかたまりから爆発してでき、広がり続けているという「ビッグ・バン理論」を裏付けることになった。(二月二十五日報道)

無公害のフライホイール

動力自動車開発中

●燃料を使用しない動力源

このほど米国では、燃料を使用せず、フライホイールの回転によって理論的には時速百六十キロまで出すことが可能な自動

車が開発されている。

南カリフォルニアの二つの会社はこの開発計画のために政府と四百五十万ドルの契約を締結したと発表した。この二つの会社リアモーター社とUSフライホイール社はフライホイール動力車を二年以内に実現できると語った。

公害と無関係のこの車は時速九十六キロで八十キロ連続走行でき、最高百六十キロまで出せるといふ。このフライホイール方式は、自動車用動力として長年その可能性が知られていたものだが、現在まで、実際に試作されたことはなかった。

この方式の車は、二個のフライホイールをもち、家庭用電源で回る小型モーターがこのフライホイールを高速で回してフライホイールに動力エネルギーをためる。フライホイールは重量があり、また空気抵抗のない真空室の中に固定されるため長時間回転が落ちないというわけ。このエネルギーはトランスミッションを介して車の車輪に伝えられる。

人工衛星で

大地震を予知しよう

●米国が今年末に打ち上げる？

地震予知は現代の科学力をもつても容易に予知できぬものとされているが、このほど米アラバマ州ハンツビルのマージナル宇宙飛行センターの科学者は、今年末の打ち上げを目ざして「地震予知衛星」の製作に取り組み始めた。

この衛星は、レーザー光線を使って地表の小さな動きを測定する方式。宇宙から常に地球の一定地域を観測、その地点の微小な動きをつかまえて地殻変動のパターンを知ることによって人口密集地の地震予知に役立てようというもの。

原子力電源を

使った人工衛星打ち上げ

●将来の衛星は原子力電源か？
これまでの太陽電池に変わって、原子力エネルギーを通信用電源とする初の人工衛星を三月十四日の夜、米国が打ち上げた。

これは太陽電池を使ったこれまでの人工衛星はどうしても放射線妨害を受けやすかったが、この敵からの妨害を防ぐ研究の一環として行われたもの。もしこの実験で好結果が出れば、米国は将来の衛星に原子力電源を使う方針である。

トピックス

ロケットを撃ち込んで落雷を予防

●ソ連ではこのほど、ロケットを撃ち込むことによって、落雷の被害を予防するため雷雲を消してしまおうという実験に成功した。


レニングラードのボエイコフ地球物理観測所のシンキン教授らが開発したこの方法は、実はロケットの中に化学薬剤が仕込まれている。ロケットが雲に命中すると、薬剤がばらまかれ、水蒸気の凝結を促す。その結果、帯電したエーロゾル粒子のまわりに氷の結晶がつくられ、粒子は運動性と電荷を失ってしまふ。こうして落雷の被害から免れるわけだ。

植物と話せる！

「緑の舌」コンテストが開かれた

●植物と話しかけられる人のコンテストが、このほど発国のロンドンで開かれた。英国では、特別園芸の才ある人を呼ぶときに「ミドリ指」(グリーン・フィンガー)という言葉があるが、これをもじって植物に話しかけられる人を「ミドリ舌」をもつとされた。この人たちは針植えの草花に話しかけ、生長を早めたり、色ツヤをよくしたりできる「特殊能力」をもっているようだ。このたびの大会に参加した選手の一人は「私はときには草花をしかけたりする。相手は花卉や葉を落とすことで反応したり、しおれた」と語った。

結局、この大会では、フランス・ジョージ夫人(六十一歳)が優勝、もともすばらしい「ミドリ舌」をもっていることになったが、同夫人は「私は植物のために歌をうたったり、一度はお風呂に入れてやるんです」と述べた。



空飛ぶ円盤は重力場推進方式で飛ぶ！ 英国の科学者クランプが世界中のUFO資料を徹底的に研究調査した結果、画期的な推進法を発見、見事な理論を展開した。

この記事は本誌第6号より6回にわたって連載し、大好評を博した「宇宙・引力・空飛ぶ円盤」の続編であり、UFOを科学的に追求する人たちへのすぐれた道標となるものである。

〈連載科学記事〉

レナード・クランプ

(続) 宇宙・引力・空飛ぶ円盤①



読者のなかには記憶しておられる方もあろうが、重力場理論という見出しは筆者著「宇宙・引力・空飛ぶ円盤」の中に出てきたもので（訳注「本誌第6号より第11号まで連載済」）、同書で述べたテーマの続きとしてここで再度繰り返すものである。前書を出してから十二年後の今日までにUFO目撃事件が激増しているので、今は空飛ぶ円盤の活動に関する考察がより以上に可能になった。

しかし今は先に述べた重力場宇宙船の基本的結論をもう少し広い意味で解釈してみよう。これはあの重力による操作で開発できるかもしれない宇宙船の研究というかたちでうまくやれるだろう。技術的見地から役に立つUFO目撃類を含めたのは、筆者の理論に興味深い裏付けを与えるためであり、あとで技術的に確証できるような見地からそれらの目撃例をもっと詳細に分析してみることにする。

まず、はっきりさせねばならないのは、私が考えた宇宙船は地球の重力場と相殺し合ったり遮断したりする意味でのいわゆる「反重力船」ではないということである。というのは、これが

可能であったにしてもそのような宇宙船はせいぜい大気を排除して浮上するにすぎないだろう。すでに調べたタウゼンド・ブラウン効果のごとき種類の付加揚力と方向性をもつ推力がなければ、どうみてもこれは宇宙船の部類に入らないだろう。

私の宇宙船は地球の重力場を相殺するのではなくてむしろそれに「対抗する」フィールド（場）を放射し得るものと仮定する。先に私は引力なるものは空間を創造した放射線（複数）の変調すなわちアンバランスな慣性かもしれないと述べたし、そのあと、この状態は電氣的に、または他の方法で助長されるのかもしれないとも述べた。ここでは一宇宙船を操作するのにこの技術を応用することに関して純粋な力学を基本的に扱っているのです、わが宇宙船は船体の周囲の空間にこのような状態を作り出しているという前提のもとに始めることにしよう。

そこで浮揚に際して「無重量」になるために、この重力場が船体の上方に作られていると仮定する。そうすると質量のないある一つの根源の方へ物質の船体が「引き寄せられる」状態を想

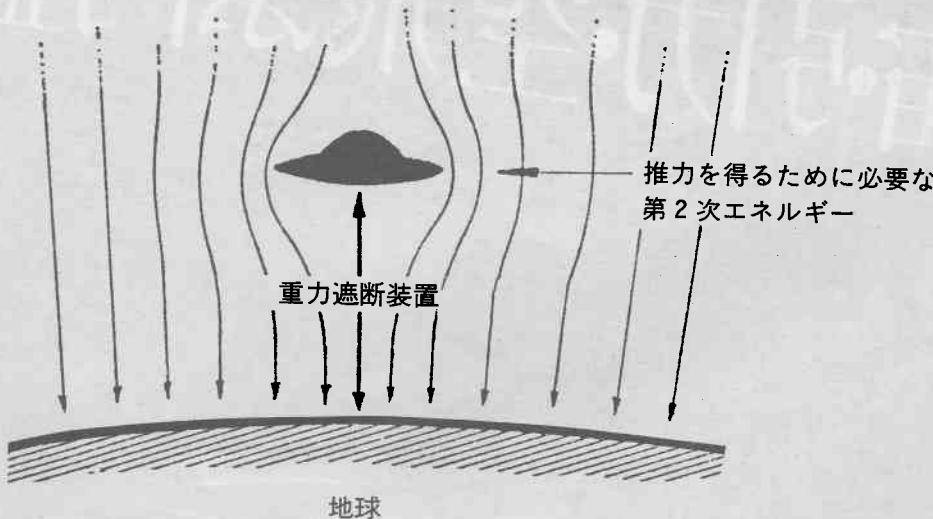


図1 単なる反重力船では一般の航空力学的飛行体と異ならず、方向性をもつ推力を出すことはできない。

重力場理論 1

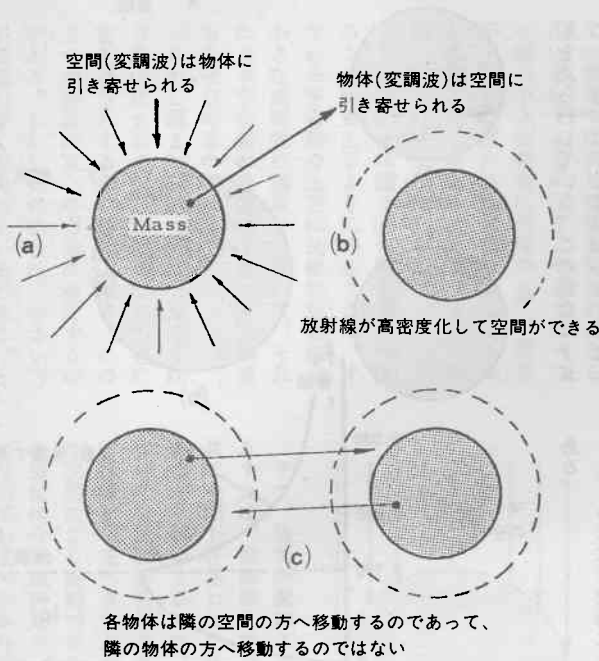


図2 物体と空間との相互作用

像するのはたしかに困難であるが、この困難さは我々が知っている空間というものの一般的な概念が修正されれば除けるのである。私は講演のときなどに話す場合、次のような広い意味でその状態を説明すると有益であることをよく知ってきた。これによって少なくともも研究者はその概念に従うようになるのである。基本的には私が以前に述べたことだが、もっと譬^{たと}のかたちで話すことにしよう。

もし現代物理学が物質を「なにかある物」とし、空間を「ない物」（これは言葉の矛盾である）として、更に空間は「曲がっている」と説くならば、私は研究者にむかって次の事を認めよと明快に言うことができる。つまり空間は「何かある物」であり、しかも空間と物質は一体で同じ物であって人間がテストを行うたびに両者の関係が異なるだけのことだと。

とにかく両者は同意語なので、互いに作用し合うにちがいない。我々はこの相互作用を創造波の変調として「創造の一体性」理論において考えてきた（本誌第6号より掲載の「宇宙・引力・空飛ぶ円盤」参照）。研究者が重力を想像するのに簡単な方法は、物質の分子は互いに「引き合う」のではないと考えればよいだろう。しかしある意味では我々はそれを、空間を「引き寄せる」物質の例、またはその逆とみなしてよい。一瞬前に空間を形成した一

放射線は、次の瞬間には別な周波数に変わって、検波し得る電磁スペクトルに生まれ変わるのである。両者は互いに引き合わないわけにはゆかないのである。（図2(a)と(b)）

さて物質は空間を「引き寄せる」し空間も物質を「引き寄せる」とすれば我々は二つの物体間の重力の状態を一体とみなしてよいし、そこにおいて二つの物体は物体の領域内のより密度の高い空間に引かれるのである。ゆえに引力を持つ空間という概念は図2(c)にみられるように新しい意味を帯びるのである。もちろん次のことを忘れてはならない。この状態を考えると、物質は空間に対して引かれるけれども分解はしないということである。なぜなら物質自体は九九・九パーセント空間にすぎないからだ。したがって物質の分子（複数）内には他の場合と同じほどの空間とすぎ間がある。正常な状態の物質は集合し合体せざるを得ないのである。

この論法からゆくと、同量の質量を形成することなしに空間の密度を局地的に高めるといふ考えを（言い替えれば重力場を作り出すといふことは）、それが高密度であれ希薄であれ、大小の如何にかかわらず、認めるのは容易となるだろう。この重要な要素を心にとどめれば、実際の質量という見地からこの考えをすすめることができる。

図3(a)は地球の上方に置かれた宇宙

船をあらわしている。この場合は1gの「下方への」加速が加わる。ただしその宇宙船の上方に位置するもう一つの地球が、宇宙船と本物の地球間と同じ距離にあるとすれば、宇宙船はやはり「上方への」1gの加速を体験するだろうが、もちろんこの場合は、相殺して空間に静止するだろう。いうまでもなく、このような状態はまずあり得ない。というのは、この場合二つの大きな惑星は等しい加速によって互いに引っ張られるからである。それで今のところは、この二つの惑星は何らかの物理的な方法によって分離されているものと仮定する。たとえばその二つは互いに回転しているものとするので

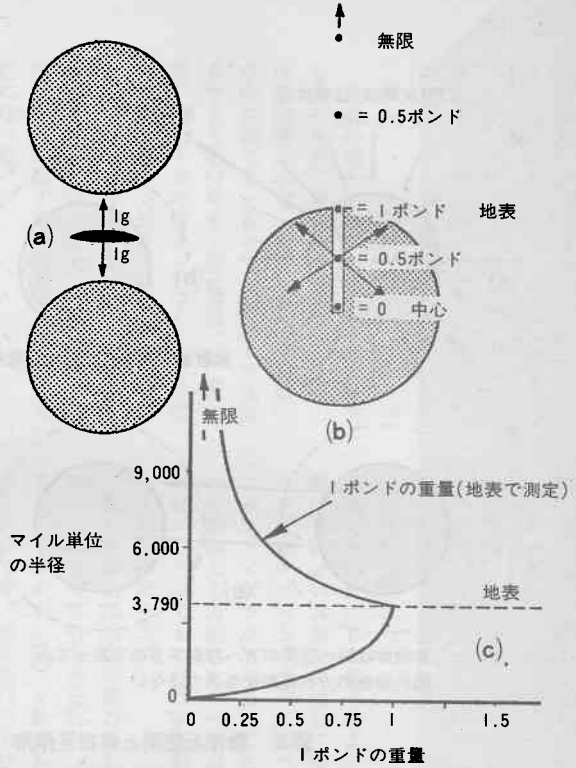


図3 引力は、各物体の中心と中心とのあいだの半径と質量との作用である。

ある。
ところで次の段階に入るために、我々は引力に関する支配的要素のいくつかを心にとどめる必要がある。たとえば我々は二個の物体間の重力場の力はそのようなニュートンの法則に従うものであるということを知っている。

$$F = K \frac{M_1 M_2}{R^2}$$

ここで M_1 と M_2 はそれぞれポンドであらわした二個の物体の重量。
 R はフィートであらわした二個の物体間の距離。

K はニュートンの重力コンスタント

$$1.09 \times 10^{-9} \text{ ft}^3 / \text{ポンド} \cdot \text{sec}^2$$

F はポンドであらわした二個の物体間に作用した引力。

また、より小なる物体に対して一惑星の及ぼす引力を考える場合、その物体が惑星に近ければ近いほど引力も増大するというのは事実だが、もしその小物体の重量が地球の中心に向かって掘られた巨大な縦坑を下降するにつれて小になるとすれば、これは真実ではないのである(図3(b))。というのは、その小物体が地表下を下降する瞬間、周囲の質量はその小物体に対してあら

ゆる方向から力を加えているのである。そして最後に地球の中心部に到着したときに、その小物体の重量はゼロになるという状態を我々は想像できるのである(図3(c))。

測定された高度の正確な引力差を見出すために、メインズのヘンリー・クラム校の科学者団がJ・T・F・クオ博士の指導下にコロンビア大学で研究しているが、このチームは最近エンパイア・ステート・ビルディングの頂上と基部を調査した。そのビルに対して比重計を調整し、そこから十マイル

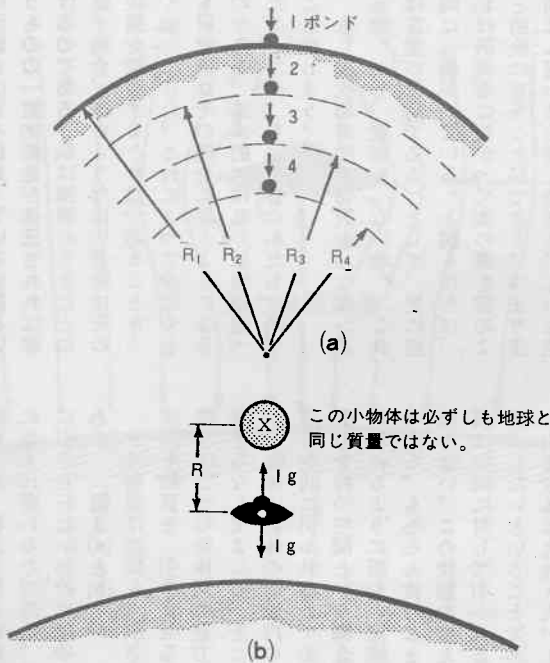


図4 質量のない原点からの展開状況

の半径内の地理的特徴や、月と太陽が及ぼす干渉効果などを補正したあとで、このチームはその一二五〇フィートのビルの重力差を〇・〇一パーセントと決定した。

さて、公式 $F = \frac{M_1 M_2}{R^2}$ に従って、もし地球が同じ質量を保ちながら縮むとすれば——すなわち更に高密度になるとすれば——地球表面の一ポンドの重量は半径が小になるに従ってますます重くなるだろう(図4(a))。したがって半径が小になるにつれて一ポンドの重量をそのまま保つためには、地球はその質量に比例した量を失わねばならないということになる。そこで我々は一個の小さな非常に密度の高い惑星が、近くに置かれた物体の表面に1gを依然として生じさせるような条件を見い出さねばならなくなる。

そこで我々は図3(a)の譬を図4(b)のように見えるように修正できる。すなわち宇宙船の上方に比較的短距離で小さな高密度の惑星Xを置いて、それにより宇宙船の表面に1gの上方加速を生ぜしめるのである。

しかし図3(a)の例で出た欠点はやはりあてはまるのである。すなわち他に支えようとするものがない限り、この二つの惑星は互いの方向に進行するのである。しかしこの場合は、小さい方が質量の多くを失っているために、その速度は等しくはない。

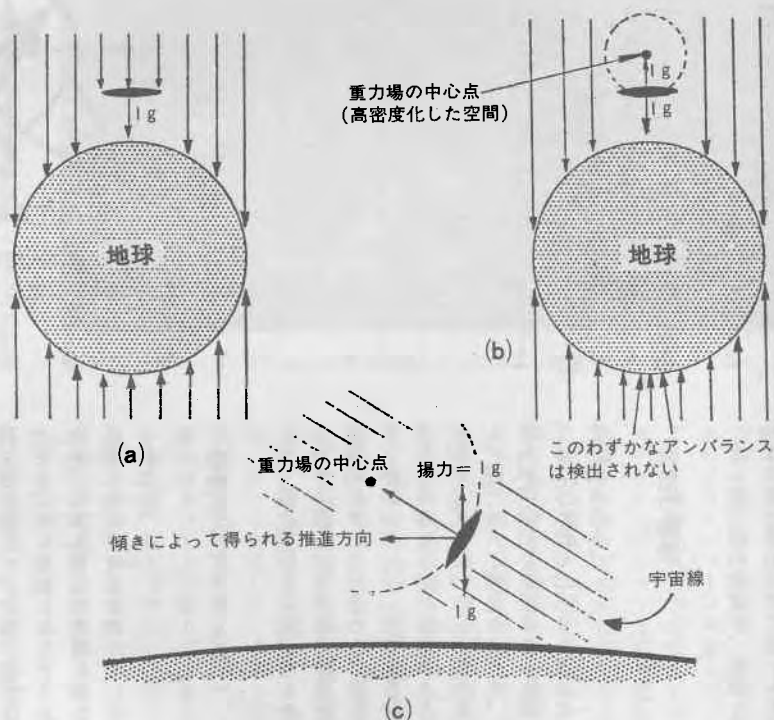


図5 「創造の一体性」原理によるコントロール可能な重力場の理論的展開。

さて、物質が変調された空間であるとすれば、高密度な惑星Xを距離Rと共に実際上存在しない状態に圧縮できることを想像するのは、簡単ではないにしても比較的容易である。私があげた譬はまず完べきであって、次のような説明により要約できる。すなわち、小惑星は今や純粋なフィールド(場)になってしまったからには、それは普通の大きさの地球の方向に引き寄せら

れないだろうということである。この状態は床の上方に持ち上げられた皿にたとえてよいだろう。この皿は何らかの方法によってその上方の空間に真空状態を生ぜしめ、そこへ急速に血が飛び上がるものとする。間隔があるとすればこの状態は繰り返されて、皿は一定の間隔をおいて浮き上がる。図5(a)(b)(c)はコントロールできる重力場の真の状態を正確に図にしたもので

ある。

この図から、もし船体が傾くとそのために焦点は一方に向いて、推力装置は船体を任意の方向に動かせることがわかる。一方、傾き角度やパワーの変化により、あらゆる方向へのヘリコプター式機動性をもたせることもできるのである。前進する場合の傾き姿勢において乗員はもちろん加速を感じない。ただし乗員にとつての「下降」は必ずしも地球の方向への垂直である必要はなくむしろ船体の水平面に対して直角となるだろう。言い替えば、船体内の床は真の水平であり、丸窓から外を見れば、下界の景色は乗員にとって傾いているように見えるだろう。その状況は図6を見ればよくわかる。この図は最も近い状態、すなわち遠心機に乗った人間に働く力を示している。ただし例外が一つある。この遠心機の場合、乗っている人は重量の増加を感じるが、一方、円盤のパイロットはそれを感じないということだ。これはあとで述べるように重量感を起こさせないような別な要素が加えられているからである。

これまで我々はある程度限定された厳密に言えば正確な重力場推進の概念ではないだろうか、これにより少なくともこの技術を応用していると思われる関連現象の調査を進め得るようになってくるのである。

七かし、今読者がエネルギー消費の



●ステイーヴン・ダービシャー少年が撮影したコニストン円盤

のである。数秒後、それは雲の中に消えていた。

この物体が盛り上がった土のうしろへ下降する直前に、ステイーヴンは写真を一枚撮ることに成功した。物体が再度出現したとき二枚目を撮影した。この例でもシューッと音と、上昇時の傾き運動がみられるが、これについてはあとで詳細に述べよう。

私はここで仮説による宇宙船の基本的な運動をとり上げることによって、

我々のケースを確立しようとしているので、読者は寛大になることが必要である。

次にステイーヴン・ダービシャーの事件に匹敵する実例がある。これはずっと後の一九六二年に発生したものが、驚くほどよく似たケースである。

●レスターシャーの円盤出現事件

深夜のドライブ中に夫の車の上空に停止した奇妙な物体についてその妻が語ったというのだが――。

この婦人はレスターシャー州(英国中部の州)モイラ市のノリスヒルに住むマイラ・ジョーンズ夫人で、それによると物体は九月十三日にレスターシャーとダービシャーとの州境にある田舎道をドライブ中に出現したという。

夫人は語る。「車の上空に一個の光体が見えました。前にかがんでフロントガラス越しに見上げました。車の真上の電話柱の高さぐらいの所に車よりも大きな灰色に輝く物体がいるんです。底部はわん曲して、頂上部には子供のコマのようにドームがありまして。底部の周辺には黒い点(複数)があり、全体が少し傾いてゐるようで、そして回転しているようでした。私はすっかり恐ろしくなって、それが車のポネット上に降りて来るのではないかと思つたんですが、そのうち物体は、ロケットみたいなシューッと音をたてて見えなくなつてしまいました」

この目撃例でも航空力学的な空気の排除の証拠を示すシューッという音が伴っているが、これは船体のかなり低いスピードと、その結果、重力場の強度が低いためであり、それがこの理論に必要なのである。この円盤の傾きとシューッという音の例は世界中に沢山ある。

次の二つの実例は、目撃者が着陸した円盤の乗員を見たと称している限りやや異なるものである。こうした典型

的な事件をあげるのには、我々が心にとどめている二重の目的が要求するからである。この事件において私が意図するのは、さまざまの目撃事件に技術的な類似性があることを指摘することに。それでもなければ懐疑論者やUFO研究者のすべてがすぐ疑つてかかるだろう。

●スコットランドの巨人出現事件

次の驚くべき事件は一九五八年十一月、スコットランドで地方守備陸軍部隊が週末の演習を行っていたときに起こつたものである。このような演習は頻繁に行われるのであって、この特殊な演習はアバーディーンから約六十マイルのターランド村より数マイルはずれた場所で行われた。ここはブリーマーとバラターの中間に位置する。

演習が始まったとき、二人の若者が数時間小さな丘の頂上に歩哨として残された。二人とも完全武装しており、横になるために壕を掘っていた。

時は早朝で、太陽の最初の光が東の地平線上に現れたとき、彼らはその位置から数百ヤード離れた樹木のうしろから、ビンから水を流し込むときのようなドクドクドクという奇妙な音を聞いたのである。

音がやまないの二人は調べることにして、樹木の方へ歩き始めた。すると突然、二人の大きな人影がよるめきながらこちらへやって来た。

若者たちは立ちどまって恐怖で動け

なくなつた。むこうの「人間」たちは身長が少なくとも二メートルないし二メートル四十センチぐらゐはあり、ドクドクという音は相手が互いに出るの奥で話し合っているために出てくるようである。奇妙な服装をして、荒れた丘の頂上を歩くのが困難らしい。

二人の若い兵士は身をひるがえして丘を駆け降り、ターランドのハイウェイにむかつて人を探そうとした。道路に着いてから二人は郵便局のエンジンアたちの臨時宿泊所になっている小屋に向かった。道路を走りながら兵士の一人が振り返ると、背後でシューッと音を立てている物を見た。二人は輝く巨大な円盤型物体が地上数フィートの空間を道路沿いに飛ぶのを見たのである。二人は一目散に走った。すると巨大な物体は二人の頭上をサーッと飛びすぎて、まもなく見えなくなったが、物体は脈動して、航跡にスパークの流れを残したのである。

兵士たちは小屋に着いて、ドアをあけさせようとしてドンドン叩いた。エンジンアたちが二人を中へ入れて、しばらく休ませた。当然のことながら二人はこの体験でひどく震えていた。

一体、世界中になにかの陰謀団がいるのだろうか？ 民衆は等しく妄想にかかっているのだろうか？ それともこうした事件は本当に発生しているのだろうか？

●ミラノの小人出現事件

次は一九六二年十二月十九日付のクリエーレ・ミラネーセ紙の記事である。「ミラノのボルタ・マグネタ付近の火星人」と題するこの事件は十二月十七日に発生したものである。

ミラノ警察の三十七歳になる夜間パトロールマンがこの問題に直面した。その名はフランセスコ・リッチで、ミラノの住人である。

事件は夜の二時二十分に起こった。このパトロールマンは夜の巡視を終わろうとしており、このときサンタ・アンブrosia広場から数歩離れたサンタ・バレリア通りの絹糸クズ処理工場の構内に入った。ここへ来るのが彼の仕事で、そのためには工場の広大な中庭を歩く必要があった。

リッチは語る。

「中庭の真ん中で私は右手にシューッと音の音を聞いた。しかもそれが次第に強くなるのだ。それであたりを見まわすと、信じられないような物が眼についた！ もちろん私は空飛ぶ円盤や火星人が地球へ来て様子を探っているとか、別な惑星から来たメッセジとかについて読んだことはある。しかしまさかこんな物体を自分の目の前で見ようとは夢にも思わなかった。だがそれがいるんだ！ すぐ前の地上約一メートルの空間に浮かんで――」

それは金属製で、たぶんアルミニウムなのか表面に銀色の反射が見えた。直径は四メートルないし四・五メートル

ルぐらいだらう。頂上部には多くの屋根窓がまわりに並んでいて輝いていた。私は全身がマヒしてわが眼を信じようとした。すると急にその音がとまった。円盤の底部のドアが開いて、そこから一人の小人が出て来た。身長約一メートルの小人である。庭が暗いので相手がよく見えなかったが、その男の頭は真つ黒のようだった。更に具合のわるいことに相手はキラキラ輝くオーパロール（上下統きの服）を着ているので、ますます相手をはっきりと見ることができなかった。

その男はどうやら敵意をもたぬよう、一本の指を私の片手に向けて、他的手で、もつと近くへ来い、恐れるなという合図をした。だが私は全く動かない。まもなく円盤から別な男が飛び降りて、青いモヤの中に入った。命令するような態度で彼は他の男の中へ入ると合図した。急に二人の背後のドアがしまり、ふたたびシューッとという音が聞こえて、円盤は白い煙状の雲の中に消えて行った」

消えてからまもなく、この警官は足の自由をとれどし、普通の状態に戻った。彼は別なパトロールマンに詳細を伝えるために中庭から走り出た。別な警官はただちに署長に報告せよと話したのでリッチはそのとおりにした。

協力するために探察隊がすぐに現場へ派遣されたが、「火星人」たちは注意深く痕跡を残さなかった。いくつもの

目撃例で、シューッと音音が船体自体から機械的に発せられるらしい点に注目する必要がある。

しかし目撃者がシューッと音音を聞いたと称するような多くの実例があるにしても、高速で飛ぶ円盤が全然無音であったという多数の例は驚くべきことで、多くの時間をかけてそのことをここに引用しても意味はない。それよりも一歩進んで、わが仮説の宇宙船を扱うことにしよう。

航空力学的効果

船体が高速で飛ぶときに推進場の強度が高くなっているとすれば、我々は同じ方式を応用できる。すなわち、高強度のフィールド、広範囲のフィールドである。ゆえに我々は船体の構造の限度を超えてそれがいぢるしく伸長することも考えてよい。したがって円盤の表面に接している周囲の空気も、船体自体と同じ「推力」を受けて一緒に進行していると考えてもよいわけである。フィールドの強さは中心点から遠ざかるにつれて弱くなるのでこの遠い位置の空気は比例して弱い推力を受ける。したがって空気の速度の傾斜度があらわれる。またこの宇宙船は摩擦による航空力学的な加熱を受けない。ただし剪断効果のために温度の上昇はあるだらう。そこでこれは超音速実験の際によく超える現象として知

られるソノルミスネンスに似た効果を起こすかもしれない。そうだとすると絶えまなく剪断されて変化する空気が熱吸収器の作用をしようと考えてよい。そこで一般的に言えば、高速でしかも無音だと言るのである。だがこれは重要なことだが、もし高速でパワーの減退が起これば、傾いた船体は実際には固い空気の壁に突きあたることになり、それを破らぬばならなくなる。この場合は大きな衝撃波が生じて、下界では数マイル以上にわたって聞こえるだろう。こうした現象は沢山ある。

一九四八年二月十八日、米キャンザス州ストックトンで、すさまじい爆発音が響き、建物の窓ガラスをこわし、住民を恐怖におとし入れた。原因は不明である。ストックトン付近の一農夫は爆発音の前に円盤を見たという。(訳注)他に類例が二つあるが省略する。

我々が感知し得るもう一つの航空力学的な運動は振り子運動である。というものは、もし円盤が無重量状態で停止してパイロットが浮揚ファクターを一g以下に落としてしまうとすれば、船体は静かに下降するが、その下降率は低下する浮揚力の価に応じて変化することである。落下するにつれて船体は航空力学的な力に従い、補整しない限りそれは「落下する木の葉」のように落ちて行くだろう。このことは次章で詳細に調べることとする。

さて、空気が船体とともに運動するとすれば、船体周辺の大気の圧力に部分的な低下が起ころはすである。温度の低下も起ころが、このことに深入りして確認するの必要はない。ここに典型的な実例がある。これは私が所有するUFO資料からとった目撃者自身の証言である。この特殊な事件に関して目撃者が興奮状態になったのは仕方がないが、我々にとつて必要な事実は存在している。

●イリノイ州の円盤追尾事件

一九六三年八月六日付のダブリン・イーヴニング・エクスプレス紙は、次のような一青年の驚くべき体験を報じた。

「一人のティーンエイジャーが言うには、昨日早朝、時速百二十マイルのスピードで不思議な白い光体が彼の車を追いかけた。イリノイ州ウェイン市のロニー・オースティン(十八)は、同州マウントバーノンのドライブイン劇場から帰る途中十マイルもその光体が彼と同乗していたフィリス・ブルース(十八)を追跡したと官憲に語った。

オースティンの話によれば、光体が車の上空を通過したとき、エンジンを停止させ、ラジオを狂わせた。いっとき光体は三十メートル近くまで接近した。それはかすかなブーンという音を出し、頭上を通過するときは「冷却効果」を起こしたという。

ウェイン市の副保安官ハリー・リー

はその現場へ行った警官の一人だが、彼も遠方にその光体を見た。それは星よりも三〜四倍大きくて、動いていたが、まばたきはしなかったと言っている」

●冷風と吸引現象

更に別な事件がある。一九五四年九月十八日、カサブランカのギユイッタ氏が沿岸道路をドライブ中、突然彼はバックミラーの中に、こちらへ向かって急降下して来る一個の灰色の物体を見た。ハンドルをしっかりと握りながら彼は本能的にかがんだ。数秒後にその灰色の物体はすごいスピードで地面すれすれに左方へ通過した。その直後激しい「冷風」が襲って、ハンドルをしっかりと握っていたにもかかわらず、車は強く吸い込まれて左方へ走ったのである。音はなかった。ギユイッタ氏は前方の地平線に消えて行く物体をチラリと見たが、それは小さな灰色の円盤のように見えたという。

トゥールーズのジャン・ピエール・ミット氏はある生産工場の技術部長だが、彼はブリアテスト付近の国道N-1六三一をかかぬのスピードでドライブしていた。突如、「私は二人の小さな人間を見た。同乗していた二人のイトコも見た。十一、二歳の子供ぐらいの大きさで、前方の道路を横断していた。私はすぐに停車したが、車から出る前に、隣の牧草地から赤く輝く円盤が飛び立って、数秒後には空中に消えたの

を一同は見たと

事件に関して警察で調べられているあいだ、ミット氏は物体がすさまじいスピードで地面から飛び立って、その下から空気を吸い上げたと言った。物体が着陸していたという牧草地の現場で、警察は得体の知れないねばねばする茶色の物体を発見した。

水中を潜水する可能性

わが宇宙船のフィールドで生じる第二次効果のいくつかを考察すると、次の疑問が出てくる。

「船体周囲の空気が船体とともに運動するとすれば、水の場合も同じと言えるのではないか。そうだとすればこれは宇宙船を潜水艦として動かせるのではないか。この証拠はあるのか？」

あるのだ。次がその好例である。

●アリューシャン列島近海の事件

一九四五年三月、アリューシャン列島近海で行動していた米攻撃用輸送船デラロフ号上の十四名の兵が、黒い球体が水中から飛び出て船の上空を旋回し、高速で飛び去ったのを目撃した。ワシントンへ送られた公式報告にはその述べてある。

疑う人はこの事件から何も意味深いものを読みとらぬだろうが、UFO研究者はそのボタンを認めるだろう。トール・ハイエルダールの「コンテッキ号探検記」には次のように述べてあ

る。

「一度だけの機会に、海がわき返って、大きな車輪のような物が上昇し、空中を回転するのを我々は見た」

(訳注Ⅱ一九五七年にバルチック海で発生した類例は省略)

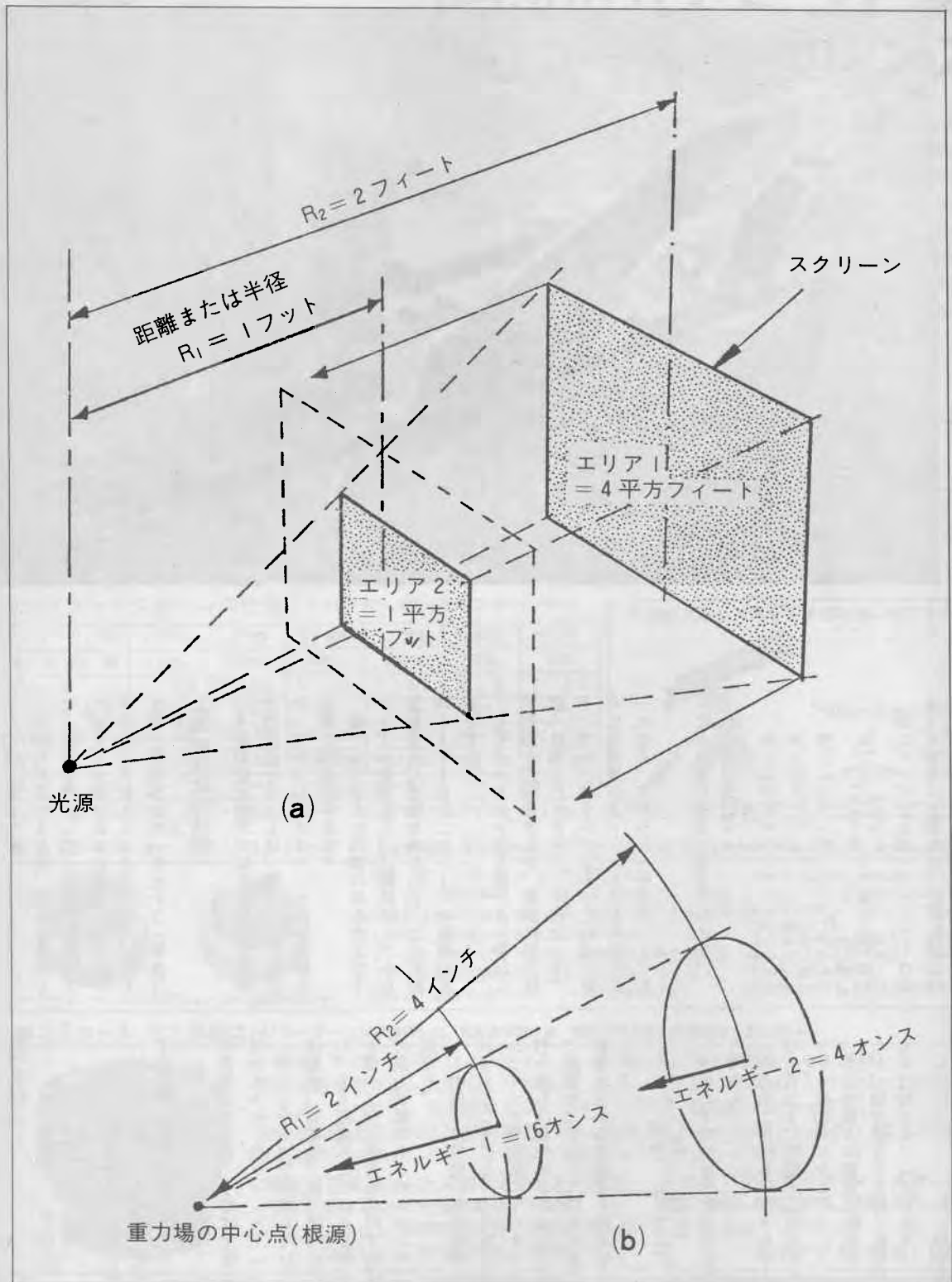
しかしこの種の事件で最も不思議なものは一九六一年九月に起こった。レバと呼ばれる場所に寄った百二十五キロほど東方の位置である。(訳注Ⅱどこから百二十五キロなのか不明)ここは快適な漁港で、広い海に面した海岸の観光地である。(訳注Ⅱ国名は記していないがポーランドと思われる)付近には沿岸湖もある。二十八歳の織物技師であるクゼスロー・K・カウエッキー氏はちょうどそこで休暇をすごしていて、その日は故郷のロッズへ帰る列車に乗る前日だった。最後に海をよく

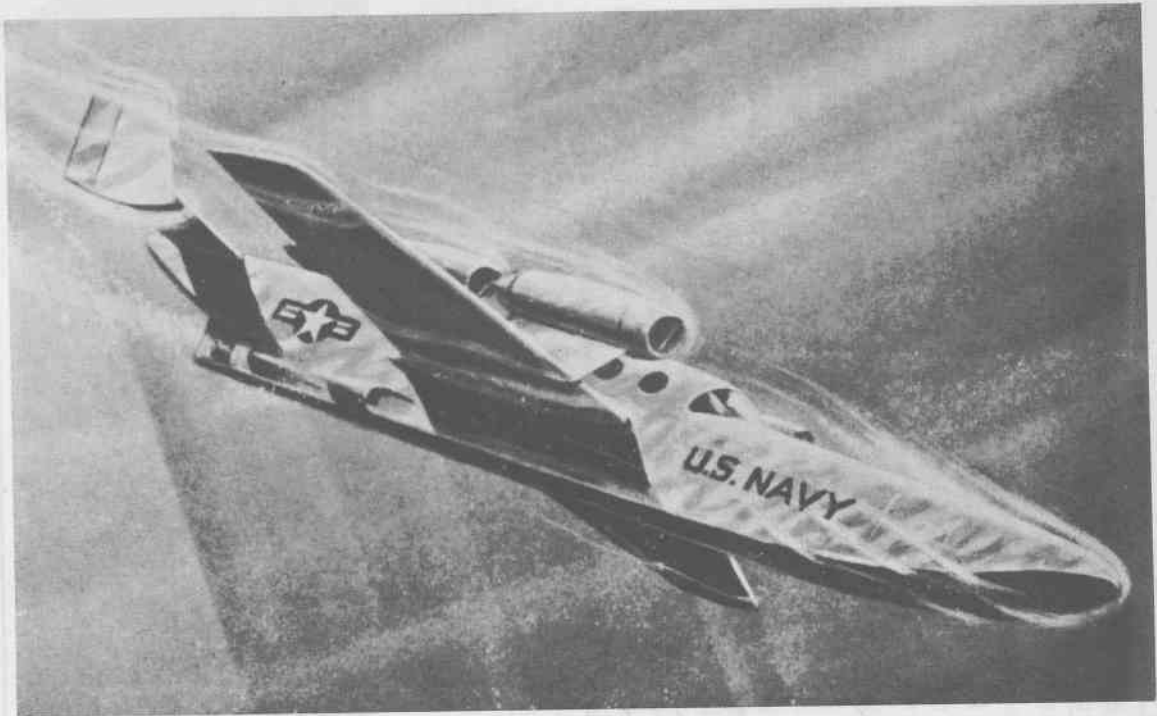
見ておこうと彼はホテルへ歩いて帰ることにした。靴とソックスを脱いで海とレプスコ湖のあいだの砂丘をぶらぶらと歩き、浜辺でしばらく立ちどまって、満月に美しく輝く海面を見つめた。腕時計の時間を見てから(午後十一時三十五分である)また歩こうとしたとき、「突然、海水が波立つ音がしたので私はふたたび海の方へ振り向いた。すると前方約三百メートルの海面の一部分が盛り上がった。下から押し上げられた丸い丘みたいだ。続いてその頂上から海水が噴流して、噴水のようには海の「穴」のまわりに落ちた。この穴から物体が出現したのだ。最初私は細長い三角形の物だと思った」

不安と興奮とに包まれてカウエッキー氏はその状況を見つめた。するとその物体は数メートル浮き上がって、同じ位置の空間に停止した。今や渦巻きがすごい音をたてて吸い込まれてゆく。物体自体は黒色で無音である。突然、沢山の凸状の黒いシマで分けられた白色光の帯が現れて、物体の下辺に反射を起こさせた。それは上辺とその他すべての部分も照射した。今やはっきりしたのは、この物体は二つの縁をもつ巨大なジョウゴ型で、この縁は分断された光の帯で離されているということだ。上方の部分の中間のあたり、他の部分よりは白い細長いスジがある。この「ジョウゴ」の細い方の先端は丸くて、そこから切り株のような物が突き出て、上方で細くなっている。

物体は約一分間静止していたが、次には下部から二番目の光が輝いた。これも白色光だが、分断された帯から放射された光よりもはるかに強烈である。ほとんど同時にこの「ジョウゴ」はゆっくりと北の方向へ傾き、底を見せた。変化なしに約三十秒間この位置にとどまったあと、物体は約五十メートル東方へ移動して停止したが、また滑空して帰り、ふたたび停止した。その間ずっと物体の底部が見えたが、それは「ジョウゴ」の大きい方の縁に対応して黒い丸い周辺から成っていた。底の中心部には強い白色光の大きな輪があり、それには多くの黒いカギ型のスジがついている。次に、三個の等間隔の三角形スパイクのついた黒い輪があり、これは光るスジのような輪の中心部から突き出ている。最後には、中心部に円盤型の物があり、これは高度に磨かれた銀または水晶で作られたかのようなだった。それは光を反射して

重力場による推進法 2





すごく輝いていた。

公的な声明によれば、空中を進行したり海中を潜水したりする航空機のアイデアが考案されており、これはジェネラル・ダイナミックス社のコンペリア部で研究されているという(写真)。

2乗の反比の法則

2乗の反比効果を知るのに最も簡単な方法の一つとして、図7のように光により一つのスクリーンへ像を投影する光学的方法がある。

まずエリア1の位置にある大きなスクリーンを考える。点線はランプから放射された光線をあらわし、この光源はエリア1から二フィートの距離があるとす。

このスクリーンを光源の方へ動かして距離を二等分すると、光線は別な位置へ移動したスクリーンにあたって、そこでエリア2ができる。これは2乗の反比効果によってエリア1の四分の一になる。すなわち一平方フットである。

これは次の公式で容易にわかる。

$$A_2 = \frac{R_1^2 R_2^2}{R_2^2}$$

$$A_1 = 4 \text{ 平方フット}$$

$$R_1 = 17 \text{ フット}$$

$$R_2 = 27 \text{ フット}$$

$$\therefore A_2 = \frac{1 \times 1 \times 4}{2 \times 2} = 1 \text{ 平方フット}$$

逆にエリア2を知ってエリア1の大きさを知らうと思えば、その距離を二

倍すればよい。

$$A_1 = \frac{R_1^2 A_2}{R_2^2} = \frac{2 \times 2 \times 1}{1 \times 1} = 4 \text{ 平方フット}$$

一例として我々はエリアと距離を用いたが、距離とエネルギーを用いても同じ法則があてはまる。

たとえば図7(b)で、ここでも放射線の根源があるが、今度は光線ではなくてエネルギーのフィールド(フォース・フィールド)を放射している。これは磁場、静電場、重力場のどれでもよい。ある距離にこのエネルギーの根源を置いて同じ法則を応用すれば、任意の別な位置にもこのエネルギーを見い出せる。

この例では根源から静電場が放射されていることにし、その根源からわずか二インチの位置に十六オンスの力で引っ張られる物体があるとす。そこで距離を二倍にして四インチとすれば物体にかかる力はどれほどになるだろうか。

$$F_2 = \frac{R_1^2 F_1}{R_2^2} = \frac{2 \times 2 \times 16}{4 \times 4} = 4 \text{ オンス}$$

ゆえに2乗の反比の法則は次のとおりである。

「距離を二倍すればエネルギーは四分の一になり、距離を二等分すればエネルギーは四倍になる」

ここで我々は便宜上距離を二等分したが、他の場合でも同じ法則があてはまるのである。(以下次号)

望遠レンズは新しい世界を発見する!!

低価格で登場 スリコール交換レンズ



一眼レフの愛用者の多くが交換レンズの価値を認めながら持っていないのは、交換レンズがあまりにも高価だからだと思います。しかし、交換レンズを使わずして何のための一眼レフでしょう。できれば交換レンズはカメラよりグリーンと安い価格であってほしいものです。それが交換レンズを手軽に買え、気楽に使える条件だと私達は思います。その要望にスリコールがお応え致します。

スリコール交換レンズはできる限り安くお届けするためにユーザーへの直接販売システムでスタートしました。スリコール交換レンズの実力をお楽しみください。

●スリコールPマウント種類(付属品)35%一眼レフ用

アサヒペンタックス用 (SP, SL, ES, SPF, フジカ, マミヤ, リコー, ヤシカに使用)・オリンパスOM1用・ミノルタ用・キャノン用 (F1, EF, FTb)・ペトリ用・ニコン用・コニカ用 (FP, FS, FMは不可)・ミランダ用

●スリコール交換レンズ仕様(プリセット絞り、絞込み測光、マウント交換式)

品番	LP135	LP200	LP300	LP400	LP500	WP35
焦点距離	135mm	200mm	300mm	400mm	500mm	35mm
明るさ	F : 2.8	F : 4.5	F : 5.6	F : 6.3	F : 8	F : 2.8
レンズ構成(群/枚)	4/4	3/4	3/4	3/4	3/4	5/6
全長mm・重量g	80・340	140・420	230・550	315・700	410・790	52・150
価格	¥13,000	¥14,000	¥18,000	¥21,000	¥24,000	¥12,000
付属品	フード・マウント・ケース					マウントケース

●マウントのみ購入することにより2種以上のカメラに使えます。マウントのみ ¥1,500

長焦点交換レンズを天体望遠鏡に利用する



アイピースアダプター
¥1,500
アイピース
¥1,500~¥3,600

写真はLP400にアイピースアダプター、アイピース付

●スリコール オートテレコンバーター (焦点距離2倍、露出倍率4倍(数値で2倍)、構成3群3枚、重量110g、寸法・長さ25%、最大径68%)



マルチコーティング・TTLメーター連動開放測光

35%一眼レフ用のコンバーターで、撮影レンズとカメラボデーの間に取付けることにより撮影レンズの焦点距離が2倍の望遠になります。手持ちレンズが標準なら望遠に、望遠なら超望遠になります。テレコンバーターにより2倍になった焦点距離は同じ焦点の望遠レンズと同様の画角、焦点深度、遠近感になります。(AEは絞り優先の電子シャッターのみ使用可能)

アサヒペンタックス用 ¥7,000
(ペンタックスSL, SP, SPF, ES)
キャノン用 ¥8,500
(F1, EF, FTb)
ミノルタ用(全機種) ¥8,000
オリンパスOM1用 ¥8,500
ニコン用(全機種) ¥8,500
コニカ用(FP, FS, FMは不可) ¥8,800

●スリコール セミ魚眼コンバーター (焦点倍率0.43、露出倍率約2倍、構成3群3枚、重量300g、長さ53cm)



標準レンズ、広角レンズのフィルターネジに取付けて超広角、セミ魚眼になります。焦点距離は標準レンズ50mmなら22mmに、広角レンズ35mmに取付ければ15mmの超広角セミ魚眼になります。焦点深度が深くなりますので一般撮影には∞で使用し、ピント調節の必要はありません。自動露出TTLは機構上変わらざり使用できますし、露出倍率は2倍程度ですので、たいへん明るい超広角セミ魚眼になります。

最短撮影距離(レンズ前面から) 3cm程度
Gアダプターサイズ(フィルター径)
写角 標準レンズ50mmの場合 113度 46%、48%、49%、52%、55%、58%、62%
広角レンズ35mmの場合 150度(タル型) ¥11,500 (Gアダプター、ケース付)
広角レンズ28mmの場合 150度(丸型) Gアダプターのみ ¥600

〒121 東京都足立区平野3-7-17

振替口座東京103033

株式会社

スリービーチ UFK係

電話照会・受付時間
平日午後1~5時迄
東京 (03)850-6110

●詳しいカタログはハガキでお申込み次第無料進呈致します。(電話申込み不可)



●阪上 清久 (画) 茨城県土浦市

世界の大変動の到来に関して様々な論議が成されるにつけ私も詳細に知り、研究したいようなムダなような、でもと、ひとりしてがいてるのです。若年の私はやるべき事とやりたい事が多過ぎて…… (やれない事も多いなあ)

ところで数年前にアメリカの地質学者チャーン・トーマスという人が次のようなことを言ったのです。彼は南極から発見された熱帯性植物の化石、北極の海底から発見されたサンゴの跡、シベリアの水に閉じ込められた姿のままのマンモス、ナイアガラ瀑布の出現、そしてその他、世界各地の天変地異、大洪水説などを調べ、それ等がすべて6500年前と11500年前のどちらかにかたまっていることを考え、その原因として彼は次のことを述べています。地殻はマグマの上のようになっていて、このマグマは液体のように動いて、それが動けば、しかし、普段は地球内部の地電流と地磁気のエネルギーがその性質を抑えているので安定しています。ところが銀河系の中心から放射線状にある銀河磁場の強い部分から太陽系が弱い部分に突入するとマグマの動きを抑えている地電流と地磁気のエネルギーが消失、そうすると途端に地殻がすべり出すのです。このため前記の大異変が起ったというのです。このことは過去、地球の誕生以来すでに300回くらいあったらしく計算すると次の時期は200年頃だそうで、その結果地球の地軸も動いて今の南米のペルーあたりが南極にインドのベンガル湾あたりが北極となり両極あたりが熱帯になるといいます。私が知っているのはこれだけで、これ以上を知る機会もなく放っておいたのですが、昨今、世界の大変動が騒がれるにつれ気がになり出し、こうして

筆をとったのです。どなたか詳細をご存知の方の中井富美子 (763) 兵庫県芦屋市松浜町十一一六〇

はじめまして、私は貴社発刊の「UFOと宇宙」を毎回興味をもつて楽しく拝見させていただいておりましたが、ここで私の意見を述べさせていただきます。本誌16号掲載の「三原市の驚異コンタクト宇宙人らしき者から聞いて書き取ったといわれる言葉は実に奇妙な理解困難なものである。私もあれこれと思考をめぐらして考察してみたのですが、ふとしたところから頭の中にビラメキが生じたのです。私の見解としてその言葉は古代インカ語ではないかと思われるのです。なぜならインカ語の語調がよく似ているように思われるからです。私はインカ語を理解しているわけではありませんが、インカ語を例に上げてみますと、「ビラコチャ」(宇宙から来た善霊)「チニパシユ」(光から来た神)などに濁音が含まれますね。北野氏の書いた言葉もひと通り読んでみますと同様感じられます。それともうひとつ大きな特徴はよく似たような語彙が似ていることにはどう思われますか？ なおインカ語についてはソ連のボルガ川中流部に住むタタール・フィン族であるチニパシユ族は、今日でも彼らによって百二十の複合したインカ語が語られていられることを確認したというラジルのインカ研究者ホルミール・ザフィロス氏が有名です。蛇足ですが、氏の住所はCaixa Postal 6063, サンペドロ、ラジルのようです (現在はいないかも知れません)。以上の事柄は自

分自身の勝手な憶測にすぎないものですが、参考になれば幸いです。投稿しました。 飯島美喜男 (18 学生) (7300) 43 茨城県筑波郡波岡町松一〇五六

皆さん、こんにちは。私は宇宙キチガイの乙女です。本誌「声」の欄を読んで皆さんの積極的な意見に私もガマンができなくなつて筆をとりました。UFO……もちろん私も見ました。一回目は小学校五年の冬、二回目は去年の夏でした。でも、友人も私もUFOのことは信じようとせず、私ひとりだけが張つております。

それはともかく、私は最近のテレビについて抗議します。今はUFOブームでテレビマンがどこでも必らずと言ってよいほど宇宙人が敵なのです。しかも、その副ボスのな役を演じている人物がおくびやうで、おどけているのです。これはテレビの人気取りのためですが、果してこれを許せるでしょうか。彼らは神聖な「宇宙」を汚したのです。そればかりならともかく、「おそろしいのはこれからの子供たちへの影響です。」「宇宙人」といえば「敵」という意識を多少なりとも潜在的にちうえつけさせてしまわないでしょうか。最近ではテレビで「UFO特集」などという番組が組まれています。見ていて腹が立ちました。司会者がUFOについて説明するのですが、その態度が笑いながらしゃべつたりして、いかにも「UFOなど信じないぞ」というような態度なのです。司会者があのような態度なので、それから視聴者が緊張の気分です。UFO番組を見て、ある種の緊張が欲しいのです。

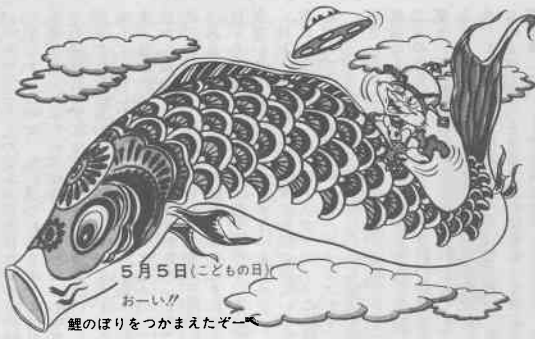
それから、もっといやな事件がありました。「私たち宇宙人が皆さんの別世界にご招待です。しかし、それには皆さんの私有財産をすべて捨ててください」というようなことがアメリカであったのです。その言葉を信じた人々はたまた何ヘタールもある牧場や財産を手放した、その人(ア)のところへ行ったそうです。しかしその真相はアメリカの暗黒組織がたくらんだ「デマ」で現在何十人も人が行方不明な状態です。(以上のことは人から聞いたものなので詳しいことは知りません。皆さんこんな事があったてもいいんじゃないですか。スペース・プラザーズがこの事を知つたら面白いと思つてしようか。私は同じ地球人として悲しく思います。現在の世界の状況がこうなのでしたらUFOの存在を信じない人がいても無理ないではありませんか。だから私は全世界の人々が一刻も早く宇宙やUFOについての正しい知識を身につけて「宇宙」の使者に友好的になつてもらいたいと祈ります。

最後にユニバーズ出版社さんへ……。本誌14号の「私は金星文字を解読した」という記事、とても良かったと思つた。そしてパル・ボーン・デン・バーグ氏が発明した反重力キータワーはどうなつたのでしょうか？ その点をもう少し詳しく載せていただきたかと思つた。さらにこれからの記事にはNASAや東大宇宙航空研究所や現在世界で活動している組織について詳しく載せていただきたい。かなり私情が入りましたが、以上が私の意見です。それでは皆さん、これからも研究に実験にがんばってください。さようなら。 匿名希望 (高2) (東京都台東区)

私は「UFOと宇宙」を13号から読み始めましたが、おもしろいので、できればUFOと古代文明の関係なるものを記事におり込んでほしいと思つているのです。ピラミッドやインカ帝国、アトランチスなどあれば切りがたいくらい謎です。なかでもエジプトのピラミッドは現代科学でも説明するのにもつづかぬといふか……。だから私としてはそのようなUFOと古代文明の関係が知りたいのです。その中で内心「UFO＝円盤＝宇宙人」と考えているので、なさらざりたくてたまりません。

話が交わります。この投稿を読んでいると、「声」が一番好きです。この投稿を読んでいると、みんながステキだと感じるのです。みんなが一つの事(UFOのこと)にいろいろな方面から意見を言い合っているから。自分自身の意見があるということもいいます。本場にステキだと思つています。私は自分が書いた文を読んでいるわけじゃなくて、他人の文を読んでいるだけだ。というのか、なんとも生意気なようなかエネルギーというのか、なんとも言えないものが伝わってくるのです。だから、みなさん、これからはいろいろな投稿をしてください。えーと、また話は変わるんですが、私は今、UFOの本格的な研究会に入会したいと思つています。でも研究会の名は知つていないし詳しいことは皆さんの中で研究会に入会している方、詳しいことを知らせていただけますか。お願いします。良い返事、待っています。

池田暢子 (756) 山口県小野田市柿山中江の内 サビエル寮 内) は、じめて便りをする者です。そのわりには生意気なを書くかも知れませんが、一読の程を!!



●阪上 清久(画) 茨城県土浦市

「UFOと宇宙」16号の「三原市の驚異コンタクト事件」に関してですが、日本列島沈没がたとえ起きるとしても我々人間を含めた生物は、この地球上で生きる権利をもって生を受けたはずで、日本列島が沈没すれば死亡する人間も生物も出ることでしょ。たとえ人口の九割が死亡しても、これからの新しい夜明けに必要な人間を含めた生物の割合は生き残れるはずで、過去の伝承としてもムー大陸の沈没か、諸々の大陸があれば、必ず浮上する大陸もあるはずで、地球の永い永い歴史をヒモとけば我々が知らないだけで、何回も異変はあったはずで、それなのに生物は今も活動しているじゃないですか。たとえ日本列島沈没が先の方で宿命として待ち構えていたとしても「明日に、新しい夜明けに希望の灯を心に明るくともして生きていけば良い」と思っています。

UFOを「真の誠の心」で追求する者のひとりとして言わせてもらおうと、今日の一連のUFOに関する事柄は、人間がUFOを通じて「何かをつかもう。何かを知ろう」としている事だと思ふ。その心の奥には何か分らないが、何かUFOにはあるというところを感している証だと思ふ。感じる力は人間みな平等にもっている。その中で強く感じる力をもっているのが我々読者であると思ふ。

だが困ったことに「UFOには何かがあるのだ」と強く感じながらも、これを人間の目に見えるもので証明できないことにある。多数の日報報告にもあるようにUFOは強い光を発する。だがその光の奥を我々は見ることができない。感じる力を強く高めていくことが、必ずやUFOの本質を正体を見ぬことができると思ふ。人間は自分の手で腕をさわると骨があることを感じるが、その骨はレントゲンでないと見えない。だがレントゲンでは見えるのだ。ここにUFOとの共通のものがあろうと思ふ。UFOを見るためのエネルギーに代わる力があれば良いのだが、今のところそれが無い。チャットには透視のできる人間がいることはある記事でも知ったが、このように我々読者の中らひとりでも感じる力を高め、UFOのことを透視できる人が出て来ることを望み、UFOの本質を見ぬことのできる人々にだけなく全人類にUFOに関して道を開き導いてもらいたい。本誌読者ならUFOは確かにいるという事は皆知れていると思ふ。ひとりではできないかも知れないが、みんながヤル気になれば必ずその中からUFOの本質を見ぬことのできる人が出て来ると思ふ。我々人間も「UFOはいるのだ」、否定はしない」というような次元でなく、次元を高めUFOの本質に近づきたいものである。

今回の投稿の機会を読者に与えて頂いたこと、いつも我々の知りたいことを記事にして下さる関係者の方々に感謝の意を表したい。ありがとうございました。

松原寿昭 (鹿児島県鹿児島市)
ニバース出版社の皆さん。並びに全国の自称宇宙人の皆さん。本誌16号を読んでもあまりのすばらしさに驚いた。UFO気遣いです。発売十日前からいから待ち切れないで、一月二十日には、本屋さんで駆け込みました。やはり、ワンダフルでした。ね。貴重な、本当に貴重な記事を私たちが読者のために手に入れて下さった編集部の皆さんに頭が下がります。言葉では言いあらわすことができないくらい感謝しています。他のUFO気遣いの人すべてが感謝していると思ひます。

私たちが読者は、貴社への感謝のしるしとして「UFOと宇宙」の読者を願っています。まずはクラスの人から……、クラスの人々を見て思うことが、やはり何となくUFOに特別の興味を抱く人が少ないのではないかと。女子も、男子さえも、私にはわからないのです。彼ら(UFOに興味のない人たち)がなぜ興味がないのか、ということが(アホみたいだけど)笑わないうで下さいます。たまたま私から彼らの前で行くいろいろなコンタクト事件を話すと「お

ま、SF小説の読み過ぎじゃないのか？」というのです。あぐくの果てに笑いとばすのです(でも、もう少しクラスを理解する人がいたらなあ)。UFOに興味のある人は、私のクラスでは特に女子の方が多いみたいです。(……といっても十四人中五人くらいです)。けれど、彼女たちの大半はあくまでもSFとしか受けとってないように思われるのです。休み時間など「UFOと宇宙」を出しているらわめいてます。彼女たちの宇宙に対する目ももっと開かせるにはやはり何となく「UFOと宇宙」が一番なのです。私は頑張ります。尊きヒューマンノイドのために。たとえ少数の心ない人たちによって嘲笑されても平気です。最後に勝つのは、もう言うまでもありません。「勝つ」という言葉は競争めいていいやなのですが、「勝つ」という言葉は、まあいっしょに、とても改めましようか。

話が変って本誌16号の「声」の欄にあったG・アダムスキー氏のイラストの隣りにあった言葉に全く同感しました。「なぜ私を信じないのだ?」真実の響きがありました。この言葉は私の胸を揺さぶります。そして私は叫びたくなりました。「信じます」と。この頃アダムスキー氏の体験をインキキだとする人がいます。とても残念に思っています。彼を見てみると、そしてとても腹が立つのです。今すぐ彼らとどう行なってきてきたいくらいです。いえ、それ以上です。彼が何とおうと私はアダムスキー氏を理解したい。理解したい。今までは以上に彼に接したのです。G・アダムスキー氏はインキキだと言いたいです。「悪質な悪事はやめなさい」と。そして「そんな事をする中で生き続けるのですから?」

以上、私の思った事です。興奮過ぎて文章があわてていますが、最後まで読んで下さってありがとうございます。これから貴社のご発展を心から祈っています。しかし、UFOに乗りたないナリ、コンタクトしたいなあ。本誌16号の例の宇宙人の言葉だれか早く解決して下さい。私も頑張ってください。……です。

早川秀代(17) (岐阜県岐阜市)
ぼくは宇宙考古学が好きです。この分野の本はいろいろ読んだが、たいへん目につくことばがある。それは「秘密」ということばである。アメリカの秘密、ソ連の秘密、そして個人の秘密。故フランク・ニドワーズがこのようなことを言っています。「極秘の命令(UFOに関する)は、政府の最高首脳部から出ているのだ。空軍は『無実の罪人』にすぎない」

これはたんなる意見にすぎない。国家はなぜ秘密にするのか。なぜ国民に知らせようとしないのか。UFOに関してアメリカでは、このような記事があつたらあつたら。上院常任調査小委員会の委員が、空軍UFO問題について調査したことがある。だが結局、それ以上の詮索はしないことと決定し、公開非公開にかかわらず、この問題についての審問はおこなわないことになった。これは国会での究明の声があるたびに、何とかしてこれをもみ消そうと必死に戦い続けている空軍の勝利であった。この新聞記事に対して空軍現象調査委員会の委員長ドナルド・E・キーホル少佐はこう言った。この新聞記事は、我々の調査委員会がすでに知り得た事実、すなわち多くの高い資格を有する観測者たちが、空軍が隠蔽は実存するものであり、知能的に操縦されていることを知っているという事実を公然と立証したものである。

そのなかだ。我々人類はレイモンド・バーナードが言っているように「その秘密がすでにジャーナリストやパイロット、その他の人々によって発表され、世間に出てしまった以上、もはや秘密と呼ぶに値しないだろう?」

国家がUFOなどに関することを秘密にしていることなどは、すでに知っているのだ。その内容も、いろいろ人間が、いろいろの方法による推測ではあるが、明らかにならわつた。それでもなおかつ国家は秘密にしたがっている。だれか言っていた。国家がそれらを秘密にするのは、人類に多大な影響を及ぼすからだと。しかし、そのうち以上、人類に悪影響を及ぼすことなど考えつづけるならば、「地球空洞説」を発表したレイモンド・バーナードは「極点のかたの未知の地域への領土権の主張をおそれ、秘密にするのだ」と、ぼくはこの意見を信じたい。領土権にかざらず、UFOなどに関することを秘密にすることは国家に対する事的好都合、不都合によることだけではないのか。

もし、そうだとしたら、こんな視野の狭いことでよいのか。地球は宇宙のゴミにもならない存在なのに。横山信一(16) (北海道石狩町)
毎日、空を見上げている親愛なる皆様、どうかおすごしですか。まあ、聞いて下さい。私ってなんでドジなんですか。私は、なんど、なんど、かの有名な「UFOと宇宙」の中、UFO専門誌というものが、このすさんだ世の中にあるな

に引きもどされて帰って行った。またその引力によって月は地球から1キロメートル程離された後、うず巻に似た軌道を描いて現在の距離まで遠ざかったが、今でもうず巻軌道のため、一年に四センチずつ遠ざかっている。そして二度目に水星がぶつかったときがノアの洪水だった。ノアが聞いた神のおつげこそ宇宙人がノアに送ったテレパシーだったのでは……?

火星の衛星は少し小さすぎるので小惑星の一つが軌道はずれて火星の引力につかまったものだったのではと考えたていじやないですか。いろいろなことを言ったけど、声というはみんなの意見を出すところだから少しオーバーでも正しいと思ったら投書するべきなのではないでしょうか。

最後に、「UFOと宇宙」11号に本田君が友の会を作らうと意見を出しましたが、ぼくも賛成です。ぜひ友の会をもとうよ。

宮野田裕 (北海道十勝中川郡)

表紙写真説明

昨年八月二十四日午後二時頃香川県高松市の高校生藤川正浩君は自宅二階のベランダで天体望遠鏡をいじっていた。そのとき、彼は空中で何かが光ったことに気づき、見上げるや近くの西徳寺の上に写真のような物体を発見した。彼は急いでポケットカメラをとり出し数枚撮影したが、実際に写っていたのはこの一枚だけであった。物体は撮影後すぐに急上昇し、視界から消えたということである。

だしがついていいることあります。それを読んだUFOや宇宙人についてあまり知らない人が「ぼくもたいして知っていませんが」「宇宙人は危険なんだ」と思い込んでしまっている。今でも全部の宇宙人が友好的なものと見えていない。小学校の頃、UFOに興味を持ったのですが、そういう記事のため「おそろしいものだ」と思い込んでしまったのです。ぼくはこれらの記事には宇宙人の美しい面などについていろいろと書いてもらいたいと思います。ぼくは最後に、「UFOと宇宙」はともすればらしいと思いがん張って下されどもより充実した内容にするため

平山秀也(へ) (青森県上北郡)

読者の皆様、はじめて「声」の欄に投稿します。吉説実はこの欄を借りまして頼みたいことがあるのです。私も皆様と同様、中学時代からUFO、あるいは宇宙に関していろいろ興味をもっていました。今でも興味をもっていますが、今のところ何ひとつとしてUFOに関する知識をもっていないのです。昨年に二月まで、いろいろな資料を購入するにも困難でした。もっとも、町でなければあつたかも知れませんが、その頃はそこまでよとは思いませんでした。しかし、こちら(川崎)に来て「UFOと宇宙」を知りびっくりしました。UFOに関するものがこんなに進んでいるのかと思いました。「UFOと宇宙」は一度目を通しましたが、今の私の知識では、まだ意味のわからないことばなどが、何か多いのです。そこで皆様の力を借りたいのです。

UFOに関する本(特にアダムスキーの体験記なんか)を貸して下さい。それからUFOに関すること、あるいは体験したことなどを聞きたいと思っています。手紙、電話の連絡をお待ちしています。出来れば東横線緑塚の方。

鈴木文義 (〒111 神奈川県川崎市中原区木月五三八 東急元住吉倶楽部 電044-411-5396)

本誌の「声」の欄を読むとUFOに対して頭迷な者の多い世代を押し流さなければならぬUFOの実在を信ずる若い世代の潮流をひしと感します。ところで最近読んだダニエル・フライヤー「私は円盤に乗った」の中の宇宙人アランの言葉は、私に非常な感銘と共感を呼び起こしました。

「我々は君の惑星の多くの国家の間にくつつかのロケットをともす努力に時間と忍耐をしているんだ。ロケットの光が輝きわたり、君らが盲目的に突き進んでいる恐ろしい底なしの穴を照らし出すことを希

望しているんだ。それなのにどうしていつまでも服の下にロケットを隠しておくのかという言葉です。UFOには乗せていたではない、いいものの(すでに乗せていた)だ。うん、ごめん、私、私たちは「UFOと宇宙」を愛読するということ、自分立派なロケットたり得るのではないのでしょうか。私は、二、三年前から経済的に許す限り人に本や雑誌を差し上げたたりしてあせらず、押しつけがましくないように読得してあります。はじめはニヤニヤしていた方や、私を気遣いだと言った方でも時間をかけたらずつづつ変身していった例もありました。皆さんも大なり小なり同様なことをなさっておられたらいいと思います。もしも服の下にロケットを隠しておいででしたら勇気を出して外に出し、周囲を照らす方ではあるまいか。

再びアランの言葉をお借りして、「真実に対して言えない者は、伝える人の状態とは関係なく、そのメッセージの価値を理解できるんだ」

こういう活動をはじめから、偶然か否かUFOを多数(少なくとも八種類)目撃しました。無言、同時目撃者や、突然の出現消失、空中停止、その他総合的に考えても幻覚や見誤りではなく、正真正銘のUFOだと思えます。これはもしもかすとの私の奉仕に対する報酬かも知れないなどと思われて、ひとり、はくそ笑っている次第です。

この文明は笑われるべきか否か、彼などの間に長い論争があったそうです。真に救われるに値する地球になるよう願っても、私ははこれくらいのことしか出来ないのが悔がゆいのです。

匿名希望 (東京都葛飾区)

私は最近、UFOすなわち未知の知的人物に会うのが怖ろしくなりました。興味はありあまるほどあるけど、怖しくてダメというところなのです。彼らは私たち地球人を私たち以上に理解しています。私たちが兄弟でも私たちが以上に理解しています。私には私たちとすんぶん違わない同種だ……と断定できれば、その抵抗は柔らくなるのですが、全然知らない変な見えない形をしているとその抵抗は最大となって私を苦しめるのです。私はおくびょうなものでしょう。

でも私は決して私ひとりだけではないと思うのです。これは思えば上がりがちもありませんけど、人間は皆ひとりでは生きていけないのではないのでしょうか。たとえどんな強い人でも、最後には何かにかすがらなければ生きていけないと思うのです。そんなところから、神が生まれたのだと思います。でも人間はその苦しみに勇気をもってあたるのです。でも私

は待っています。彼らが会いに来てくれることを……。話は変わるのですが、私たちのすべての物が言葉によって形成されています。そして、立て前というものがあつて、こうしなければいけないというようなくともあります。うしろわちでどんな事を考えているか、お世辞などごまかすことも可能なわけです。もし地球人全員がテレパシーを使って相手の気持ちを知ることができたならば、なんてすばらしいことでしょうか。

でも、表と裏にある醜い関係を知ったら……：そういうことからテレパシーを使うには、ある程度の理解がいると思うのです。そのためには、私たちのいま現在、暮している醜い世界を正常な世界にしなければならぬのではないのでしょうか。より早く。

匿名希望 (岡山県岡山市)

UFOと宇宙を読んで感激しました。近郊の方とUFOや心霊の同好会を作ることが夢です。男女は問いません。少人数でもとにかく話し合える仲間を求めています。

河野 徹(と) (〒280 千葉県千葉市貝塚一九〇一四〇二)

編集部の皆さんこんにちは。G・アダムスキーの「宇宙からの訪問者」を読みアダムスキーを信ずると共に宇宙人のすばらしさに深く心をうばわれました。

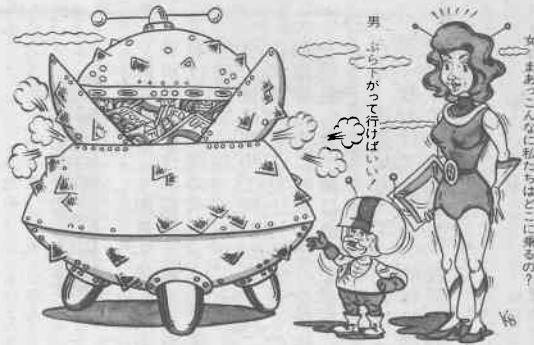
「私は編集部の皆さんにお願いです。本誌14号で「私は金星文字を解読した」とのところに載っていた宇宙文字をはっきりと写っているものを再び本誌に載せて下さい。日本中の本誌愛読者の中には金星文字を解読しようと思っている人がたくさんいるはずですよ。ぜひ載せて下さい。

私はUFOの実在を信じます。では最後に一言。「宇宙の友は、いつとも私たちを見守っています」

加利野十四春 (茨城県筑波郡)

UFOと宇宙を読み続けてきて、やはり専門誌というだけのことはありますね。私は宇宙のことには中学校のときから興味があり、宇宙に対する感心は人一倍です。でも私は、一度もUFOを見たことがありません。

しかしUFOを見たとか見ないとか言う前に宇宙から見れば、私たちの住む地球などはちっぽけな物です。そのちっぽけな地球でささいなこと争ったり、悩んだりしているのがバカバカしいと思いませんか。読者の皆さんはどうかと思ってますか。もうUFOを見たとか見ないとか言っているときではないのです。私は「UFOと宇宙」を読んできてそ



●阪上清久(画) 茨城県土浦市

その異星人と一緒に... きたらすばらしいことでしょう。人類は目を向けたら、いつか地球人類も宇宙に目を向ける時が来るでしょう、遅すぎたはダメなのです。早く宇宙に目を向け真剣にとりくまなくては... (特にUFOを信じなかつたりバカにしてる人。それからイオンクラフトについて知っている人がありましたら、ほくに手紙で教えて下さい。)

木村英貴(16) (〒351 三重県松阪市大黒田町神川一四七一)

私は「UFOと宇宙」を知って以来、以前にも増して空を見上げる回数が多くなったのですが、どうしてもUFOを見ることができません。友達に見たというのがあるのに、同じ日に私は空を見上げても見えなかったのです。よくUFOを目撃する人は何回でも、見る気がなくても見えるようですが、私は逆立ちしたって見ることができません。そこで一度でもUFOを目撃したことのある人、そのときの事を詳しく教えてください。テレパシーの成功した人は特にその事について、またUFOを目撃したことのない人でもUFOについて、まだまだ無知な私にいろいろと教えてください。ペンフレンドを捜していますのでなにか文通して下さい。

松島左知(高3) (〒730 広島県広島市比治山町二一五一〇〇五)

のこをハッキリ知らされました。 高岡忠紀(22) (大阪府泉南市)

G・アダムスキーの哲学にそって行動しようと考えている方、実行されている方で二十三歳から百歳までの英米へ住居移転可能な人を求む、「D・パブル」に腰かけ「UFO」を食べ「レノード・スキナード」を飲みながら「BTO」で語り合ひましょう。 えのきりえ()

(〒100 東京都新宿区東大久保一四二〇) 岩下

はじめまして。ぼくは「UFOと宇宙」を楽しく読ませてもらっています。ぼくは一度UFOらしきものを見ました。そして学校で友人にUFOのことについて話したら、あたかもUFOが実在しないかのようにバカにされました。ひとりだけぼくに味方してくれた友人もいました。

今や宇宙は、この地球を宇宙に導いているのです。今や地球は歴史的にいつとも転換点の時期に来ていると思えます。公害、人口爆発...etc.このような問題は地球人類の科学力だけでは解決できないと思えます。この地球も早く惑星連合に入り、

(〒601-13 京都市伏見区醍醐北西裏町一〇一三六六)

古屋市近辺にお住いのGAP会員の方、暇な折りにUFO、哲学などについて話し合いませんか。当方入会ホヤホヤの学生です。ご連絡をお待ちします。 山下耕司(24) (〒452 愛知県西春日井郡西枇杷島町南松原三五電052-55011293)

UFOと宇宙の14号に載せてもらった小野寺ですが、顕微鏡を買ってくれた石井操君の住所がわかりません。そこにお金を返すことができませんのでお知らせ下さい。 また、ぼくからトランシーバーを買ってくれた人の住所がわかりません。すみませんが、ぼくのとくらまで連絡して下さい。早目にお願ひします。 小野寺典之 (〒988 宮城県気仙沼市松崎片浜二〇〇)

二 人には、本誌16号の「譲って下さい」の欄に投稿した者です。 おかげさまで私の願ひは掲載後、数日この本をお読みのなかご好意によりかなえられました。その方は「旭2/8まで創刊号がないので差し上げます」とだけ書いた手紙をそえて、そのうえ200円もの送料まで負担してくれました。そのうえ200円には宛名と郵便局という消印が押してあるだけ直直言って、このせちがらい世の中にこんなことをしてくれる人がいたなんて...。もしかしたら、宇宙人かもしれません。とにかく私にとってこの出来事はありがたい一言でした。おそらく新刊にお住いの方だと思いますが、誌上をかり厚く御礼申し上げます。それから、私にハガキを下された方にも、一ありがとうございました。本誌愛読者の皆さんはやさしい人ばかりで、本誌にこの本を読ませ続けてよかったです。つくづく思い知らされました。

これからも「UFOと宇宙」と末長くつき合って行きたいと思ひます。 竹本弘子(16) (〒191-01 神奈川県津久井郡相模湖町小原六八五)

ぼくは、今とつてもUFOに熱がこもっていません。この五年間UFOのことを思わない日は一日もない。時間があれば屋根に上がって円盤が飛んで来ないかとワクワクしています。去年の八月一日

から同七日までは、目撃しない日はなかった。ぼくは今までに二十回の日撃に成功し、これからも努力しようと思っています。 最後に編集部の皆さんガンバッテネ! 熊沢照道(中2) (青森県黒石市)

UFOと宇宙の16号、面白く読ませて頂きました。北野恵室師のコンタクト事件の中に出てくる宇宙人の不思議な言葉、ヒョットして解説の糸口でも思ひお知らせします。木星王著「奇談」大陸書房発行の中に「失われた古代語を話す女性」という記事が出ています。この女性は神戸市に住む内橋ウ恵さん。古代ペトロナム語など大陸の言語、中心に失われた古代語を十八カ国語も話す宇宙語です。北野師が書き取った言葉が宇宙語だったとしたら、あるいは何か解説の糸口が見つかるかも。 無名 (消印田無市)

最近 ちょっと私の友人や大人たちもUFOの存在を信じるようになってきました。新聞などにも、しばしばUFOのことも書かれ、私としては「それみろ」という感じですが、もと地球だけにしか生物が、高等生物がないというのがまがまっているのです。絶対に宇宙人の存在を信じます。全国の私と同じ意見の方、お手紙待っています。 山下明美(17) (〒760 香川県高松市福岡町三二一三一一)

ぼくは、今とつてもUFO研究にとりくんでいるひとりの中学生です。「UFO新聞」なるものを編集しては学校内にはついています。しかし、みんなはそんなぼくを「なにがUFO新聞だ、あほか!」などと言っかけてきます。だけど、ぼくは必死になってその屈辱にたえ、「UFO」をバカにしていくと、いま大変なことになるぞ!」と心の中でずっと思っけて毎日そうしてはいるようなしだいです。現在は、まだ6号までしか発行していませんが、これからもどんなUFOのことを掲載して、みんなにわかってもらうために努力したいと思っています。たとえみんなバカにされても。 宮脇康彦 (兵庫県三木市)

全 国的女性UFOと宇宙ファン、私(宇宙人)と文通しませんか。 (女性とは十三、四歳の方) 木村秀樹 (〒98 北海道札幌市北八条西一六)



●清野憲男(画) 山形県山形市

★譲り下ろし

◎私のもっている超一流メーカー製ステレオプラマインアップ(出力80W)とサニョーOTTOのステレオデッキRD-4100(保証書付)の2つを超特価の6800円でお譲り致します。普通は合計96800円になります。またサニョーMR16800の3バンドラジオ付カセット(ケース・保証書・証明書付)定価36000円の品を28000円でお譲りします。すべて送料共です。詳しくはハガキでお願いします。

小野寺典之 (〒989-01 宮城県気仙沼市松崎片浜二〇)

◎ピクセン製20×40ミリ双眼鏡を適価で!

内田 信(〒251-01 神奈川県南足柄市塚原二六九六 電0465-741079)

◎本誌創刊号№11まで(美品、バイナリー付、送料別)5500円程度で譲ります。詳細は往復ハガキで。

寺久保義男(〒383 埼玉県桶川市東一七二〇)

◎本誌№3、13、本誌別冊「サービスポック」を合わせて全部求める方だけ5200円(送料)で譲ります。申し込みはハガキで。

千田秀徳(〒023 岩手県胆沢郡胆沢町南都田字五木田一六三)

◎ほくのもっている本誌№8、13までと「日本の怪奇」(松岡照夫著、大陸書房刊、定価50円)を合わせ

★譲り下ろし

せて30000円くらいで売りました。まずはハガキで。

工藤浩樹(〒879-24 大分県津久見市宮本町一九〇)

◎ルキットKT22(80ミリ、f1200ミリ)シングル天体望遠鏡、13メートル木製三脚工作キット、天頂プリズムをすべて30000円40000円くらいで譲ります。

坂本 栄(〒300-42 茨城県筑波郡筑波町神郡九二)

◎ピクセンの60×65ミリ用経緯台(架台)、地上用プリズム、ミリングラス、サンダラス、2倍パローレンズ(スリービーター製)をなるべくまとめて80000円90000円です。またユニードCタイマーリザーブ12、ユリ・ゲラーのレコード(サイン付)催眠による自己強化(テープとテキスト)、以下全部で14100円を85000円くらいで(バラ売り可)…。本誌創刊号との交換でもいいです。またUコンの模型エンジンとパーツ少々をタダで…。詳しくはハガキで連絡して下さい。

梁瀬和孝(〒381 大阪府八尾市青山町五一、三〇四)

◎「UFOと宇宙」№1、13(美本)を適価で譲ります(高価優先)。もしくは高橋製か五藤光学の小型屈折赤道儀式天体望遠鏡、またはアサヒペンタックスSLボデーかSMCタムレンズ、または各種天文、SF書との交換も可。往復ハガキで連絡の可。

木口十友(〒710 岡山県倉敷市巾島二二七〇—三〇)

◎小生の所有している本を譲りたいと思います。

「宇宙人」について「マジメな話」870円「これが空飛ぶ円盤だ」300円「宇宙の使者」750円「世界の円盤ミステリー」300円「テレパシー入門」350円「アポロと空飛ぶ円盤」500円「私は宇宙人を見た」330円「世界の四次元現象Ⅱ」530円「続・私は宇宙人を見た」480円「神秘の世界」750円「密教念力入門」400円「それでも円盤は飛ぶ」300円、以上の本を送料別の適価で譲ります。但し、テレパシー入門は1ページ破損してあります。また本誌№2、6を各2000円以上(送料共)で譲ります。これらの本で譲ってほしい本があれば希望の値段を往復ハガキに書いて送って下さい。高価優先します。

林 靖英(〒890 鹿児島県鹿児島市原良町一三〇四)

◎タック製顕微鏡(160×200×300×)を千共17000円(昨年八月購入)…。日本空飛ぶ円盤研究会のUFOスタンプシリーズ№1と2、そして宇宙現象研究会の会誌として15000円のところ千共880円で…!! かわしくはハガキで…。

★譲り下ろし

目黒義英(〒116 東京都練馬区高松六一二—一七)

◎本誌創刊号№5まで(新品同様)…。ご希望のお値段で(高価優先)。バラ売り可。一括優先。急いでいます。連絡は往復ハガキにて、TELを明記のこと。

柴野雅聡(〒306 茨城県古河市三一一—三七)

◎ドライ式コピーライトⅡ(定価3万円、ペーパー無し)を130000円です。本誌№4、13までを計35000円でお譲り致します。もちろん千共です。連絡は往復ハガキで願います。

小松隆一(〒375 群馬県藤岡市保美用六七)

◎本誌№2、11まで(バラ売り)を欲しい方はハガキに値段を書いて送って下さい。高価優先します。新品同様キズ無。また左記の本を適価で譲ります。「ノストラダムスの大予言」530円②「超能力者」リ・ゲラー「550円③「超自然の世界」750円④「超現実の世界」750円⑤「地底大文明」550円⑥「遊説の世界」550円⑦「超能力入門」950円⑧から⑩までは大陸書房刊⑪「霊感術入門」330円⑫「四次元世界の神秘」400円⑬「超物理学入門」400円⑭から⑯までは本誌別冊⑰「霊感術入門」330円⑱「UFOに希望書と補佐を書いて送って下さい。高価優先いたします。詳細はお譲りする方に直接ハガキで連絡して下さい。

吉井まゆみ(〒238 神奈川県横浜賀市汐見台一一一—一七)

◎「空飛ぶ円盤ミステリー」1「空飛ぶ円盤の秘密」1「空飛ぶ円盤実見記」1「火星からの空飛ぶ円盤」1「空飛ぶ円盤乗取」を各送料共5000円でお譲りします。一度読んだら取りたい本です。また本誌創刊号から№6のうち1冊と交換して下さい。往復ハガキで連絡して下さい。

細谷圭子(〒780 高知県高知市北八反町五一—三〇)

◎天体望遠鏡(ケンコー製、6センチ屈折WT180型(定価36000円)を20000円でお譲りします。また直接撮影用スコープ・アダプターS(定価25500円)、キヤノン用マウント・アダプター(定価10000円)を送料共3万円共の場合は22000円でお譲りします。送料当方負担。早い者勝ちではありません。連絡は往復ハガキで願います。

千葉 伸(〒989-47 宮城県登米郡石越町北郷字橋戸六一—)

◎本誌創刊号№12までを全部譲りたいと思います。60000円70000円を希望です。多少汚れはありますが、ほとんど手つかずの物もあります。まずはお手紙を…。

斎藤慶一(〒830 青森県青森市浪館泉川二五一—八)

★譲り下ろし

◎本誌創刊号№2を各10000円程度で譲って下さる方、ご連絡ください。

山際和好(〒060 北海道札幌市中央区北二〇条西一五 電011-731975)

◎私のUFOやESPなどの研究会「天ぶら研究会」で、あなたの写したUFOや心霊の写真を募集しています。1枚3000円前後で譲ってください。またUFOの写真の切り抜きも送ってください。

御代敬一郎(〒912 福島県いわき市常磐湯本町吹谷八三)

◎本誌創刊号№12まで、なるべく安く譲ってください。ハガキに希望価格を書いて連絡してください。またUFOを写したネガを持っている方、私に貸してください。必ずお返し致します。

泉 俊秀(〒538 大阪府大阪市城東区野江二一九—一九)

◎本誌№6を送料共40000円60000円の間で譲ってくれる人はいませんか? 全国共通図書券(100円券)をつけます。最初にハガキで連絡してください。

運実澄夫(〒116 東京都練馬区平和台四一—三—五)

◎UFOの写真のネガをだれか貸してください。お願いします。必ずネガはお返し致しますから。

強矢伸一(〒388-01 埼玉県秩父郡小鹿野町大字河原決一—一三八)

◎清家新一著「超相対性理論」をどなたか5000円以下でお譲りください。連絡は往復ハガキで願います。

中島裕樹(〒217 千葉県柏市十赤一—二—一五)

◎「水晶の中の未来」早川書房刊「沈没大陸アトランティス」霞ヶ関書房刊「予言」弘文堂をおもちの方、適価でお譲りください。連絡はハガキまたは電話で…。

鈴木忠男(〒073-01 北海道砂川市宮川町三五—一三) 電012-55126597

◎昔、出たUFO図書である「精神感応」「われわれは円盤に乗った」「地軸は傾く?」「宇宙人は呼ぶ?」「宇宙交信機は語る」「宇宙語・宇宙人」「宇宙の彼方より」「続・宇宙の彼方より」「土星の恋人」「金星訪問記」「UFOエイジ」「大気圏外より諸君へ」「黄金の書」「現代の新聖書」「パンピブック空飛ぶ円盤なんでも号」「地球は狙われている」以上16冊、どれでも結構です。適価で譲って下さい。またはSFマガジン(全号所有)の希望号と交換でもよいです。

平野泰敏(〒431-33 静岡県天竜市一俣町南鹿島五八—一八) 電053-921512615

◎宇宙船艦ヤマト(テレビマンガ)の音声を録音してある方、譲って下さい。お礼はレコードまたは宇宙に関する雑誌、本などで。電話で連絡を(なるべく同県の人に)。

◎内藤志(千400) 山梨県甲府市中央一―二―一〇(電話0552133124466)

◎重力研究所発行の「宇宙艇」7号15号までを譲って下さい。特に14号を。ハガキで連絡願います。

◎宝積宣至(千772) 徳島県鳴門市撫養町立岩四枚十二

◎UFOの写真を写された方、焼き増しをタダで譲って下さい。

◎山本明子(千343) 埼玉県越谷市赤山町一―五三

◎本誌創刊号、№6号まで譲って下さい。1冊ずつでも可。値段はハガキで。なるべく安く譲ってネ。

◎平松みどり(千481) 愛知県西春日井郡勝野町大字熊之庄四三(四)

◎UFOの写真を所有されている方、一枚お譲り下さい。その他、不思議な体験をした方、その体験を教えてください。

◎古川弘志(千770) 徳島県徳島市城東町二一六一―九

◎本誌創刊号、№4まで4冊2000円で譲って下さい。少々傷なら可。誠意ある人待っています。または1冊5000円で、揃いません。創刊号はどうしても欲しいです。

◎それからUFOの写真を一枚1000円カタダで譲って下さい。(トリック不可)。まずはハガキで連絡を。

◎岩下幸夫(千770) 熊本県熊本市東町一―九〇

◎UFOの写真を所有されている方、1枚お譲り下さい。その他、不思議な体験をした方、その体験を教えてください。

◎名蔵理一(千770) 徳島県徳島市城東町二一六一―九

◎「幻の書」本誌創刊号を送料共1000円でどなたかお譲り下さい。机上の伴侶として未長く大切にしますので。ハガキでご連絡願います。(1000円という金額は安いでしょうか)

◎森田 淳(千770) 44 新潟県東蒲原郡津川町大字津川 国鉄宿舎)

◎本誌創刊号、№4、6、8、9、12を送料共各4000円前後で。コピーでも構いません。また本誌別冊「UFO写真集①」を送料共10000円前後で譲って下さい。(美品を)。まずは、ハガキでお願いします。

◎熊田利秋(千611-02) 兵庫県姫路市四郷町東阿保九六一

◎本誌創刊号、№2を定価で譲って下さい。また使

ってないカメラなどがありましたらタダで譲って下さい。お願ひ。千351) 埼玉県朝霞市根岸九三(五)

◎山中義宏(千351) 埼玉県朝霞市根岸九三(五)

◎本誌創刊号、№10までお持ちの方、適個でお譲り下さい。できれば50000円以下で。連絡は往復ハガキでお願いします。

◎荻原恵子(千427) 静岡県島田市稲荷町三三二(二)

◎本誌創刊号、№4を1冊20000円以内で譲って下さい。少しいの傷でも可。まずは、ハガキでお願いします。いつまでも待つ。

◎山口弘記(千310-11) 福井県吉田郡松岡町春日三三)

◎UFOが写っている写真の焼き増しを送って下さい。しかし先着5名様まで1枚1000円で。それからは12枚くらい。石川浩幸(千811-42) 宮城県加美郡中新田町字矢越二九一―六 電02296134341)

◎本誌№6をもっている人7000円前後でお譲り下さい。(破れ、落書き、切り抜き、折り目のない美品を)。折目待ちます。往復ハガキで電話で連絡して下さい。

◎中川浩之(千531-02) 奈良県北葛城郡広陵町寺戸四四二―二 電07455164914)

◎本誌創刊号、№6を定価で譲ってくれる親切な方ハガキでご連絡ください。なるべく美品をお願いいたします。もちろん送料は当方で負担いたします。

◎柳沼重則(千302-01) 福島県若槻郡長沼町大字堀入一四〇

◎ハイ、全国のUFOファンの皆さん、こんにちは。私はUFO狂いの16歳の女の子です。この「UFOと宇宙」以前から知っていたのデス。でもお金がなくて買えなかつた。本誌は№11から読み始めたけど、創刊号、№10が欲しいのデス。読者の皆様、どうか1冊でも、いっすから譲って下さい。ご希望の価格で結構です。お願いしますネ。これからも毎号買います。

◎萩原恵子(千427) 静岡県島田市稲荷町三三二(二)



●阪上清久(画) 茨城県土浦市

◎本誌創刊号、№3までを20000円前後で譲って下さい。それからUFOの写真を集めた人は1000円以上で譲って下さい。できれば手紙でお願いします(撮影年月日を明記して下さい)。希望の値段もお忘れなく。よろしくお願ひ下さい。

◎赤松徹郎(千381-42) 宮城県加美郡中新田町字南町一八〇 電022961312026)

◎本誌№2、4まで譲って下さい。3冊まとめて20000円くらいで譲って下さい。若干の汚れ鉛筆の書き込みは構いません。ハガキで連絡を下さい。送料当方負担。

◎角田宗雄(千333) 埼玉県野市八王子三〇六一―二)

◎私は本誌別冊「UFO写真集①」を買わないうでしまいました。ユニバース社に注文するお金もないためどなたか無料でお譲り下さい。どなたかお願いします(見おわたったので美品 期待してマス。

◎石橋 裕(千309-17) 茨城県西茨城郡友部町柴町一四七(〇―九〇)

◎本誌ファンの方でUFOの写真を写された方、焼き増しを次の項目を書き添えてお譲り下さい。送料共1500円をお願いします(一枚につき)。

①目撃者(氏名・年齢・住所など)

②場所(地名・時刻・できれば略地図)

③飛行状態(方向など)

④観測機器および撮影用具(できるだけ明確に)

◎塚本宗太郎(千470) 愛知県豊田市大野町桶高四四四)

◎UFOの写真的ネガをもっている方、必ず責任をもってお返し致しますから、ネガを貸して下さい。幅野和之(千160) 東京都新宿区南元町7 電35116015)

◎UFOの写真を写された方、ネガを貸して下さい。責任をもって返します。もし、だめならば、焼き増しを一枚譲って下さい。送料共1600円。ハガキの連絡を待。

◎豊田義明(千550) 北海道室蘭市水元町七五五 明

◎徳家A(4002)

◎UFOの写真を譲り下さい。お礼はします。(トリック不可)。またどなたか文通しましょう。

◎大口喜代美(千180-04) 東京都清瀬市中里四一―一三〇)

◎本誌創刊号、№6までを30000円以下で譲って下さい。バラ売りなら1冊5000円で連絡を待っています。

◎薬 精志(千318-57) 秋田県大館市下川原堤(一)希望)

◎SFマガジン、手塚治虫の漫画を適個で。美品希望)

◎古藤浩美(千690) 鳥根県松江市大海崎町一四七)

◎あなたの写したUFO写真を焼き増しして送って下さい。カラ12000円(一枚)、白黒15000円(一枚)。また、あなたのもっている「UFO写真集」を割増して譲って下さい。送料はこちらがもちます。まずはハガキで連絡して下さい。

◎中村一人(千482) 愛知県一宮市千秋町浅野羽根四九九)

◎UFOの写真を写された方、同じ写真を2、3枚焼き増して送って下さい。白黒は10000円以下、カラ1は20000円以下、よく撮れているものは、カラ1でも白黒でも20000円以上で買います(すべて1枚につき)。

◎半田一也(千352) 埼玉県新座市野火止五一―三二四六)

◎本誌創刊号および№2の2冊を譲って下さい。完全保存版であれば2冊で40000円(送料別)以内で。少々傷であれば、それ相応の価格を考慮します。なお譲って下さった方は当地方の新聞に載ったUFO記事のコピーもサービスします。連絡は往復ハガキに傷の有無や程度と希望価格を書いて送って下さい。よい連絡をお待ちします。

◎塩原 毅(千691-14) 北海道恵庭市末広町二二九)

◎天体望遠鏡に関する説明書(初心者向き)と星図の本をもっている方、適個で譲って下さい。古い物でも読める本が。まずは往復ハガキで、あなたのもっている本の説明を加えて下さい。

◎また本誌創刊号、№4、6を譲って下さい。1冊なら6000円で、5冊まとめてなら35000円(送料共)をお願いします(美品希望)。アダムスキーが書いた本。アダムスキーについて書いてある本などをもっている方、10000円以内(送料共)で譲って下さい。往復ハガキで連絡して下さい。なお、「謎のバニダ海城」について切り抜きなどありましたらタダで下さい(送料当方負担)。

◎竹本弘子(千199-01) 神奈川県津久井郡相模湖町小原八五)

◎UFOファンの君たちが考えたUFOの形やUFOの重力モーター想像でも結構ですから説明をつけ

で私に譲ってください。

津尾忠宏(〒114-12 岡山県小田郡矢掛町東三成二八四〇)

◎マイキット100(ラジオ)かそれ以上のマイキットを譲って下さい。連絡はハガキか電話で。こずかいが少ないので、できるだけ安くして下さい。

有田和樹(〒340 埼玉県草加市中央二一三六六一七 電0489-281-1738)

◎本誌創刊号を15000円。No.2,3,4,6を各5000円で譲って下さい。遠い方はハガキまたは電話をお願いします。まとめて譲ってくれる人は、必ずお礼します。まとめて譲ってくれる人は、必ずお礼します。

新井千秋(〒190 東京都立川市柴崎町二一三一七 電0425-2514394)

◎手塚治史の昭和二十年代の作品おもちの方、なんでも結構ですので1冊5000円以上で譲って下さい。保存状態の良いものは1冊1万円以上でも可。数冊以上まとめて譲ってくれる方は、希望価格とは別に「本誌創刊号」を無料で差し上げます。作品名・発行年・出版社名・希望価格などを書いてハガキで連絡して下さい。また同作家の昭和三十年代の作品も扱っていますので、おもちの方は希望価格を書いて連絡して下さい。

清水 桜(〒160 東京都新宿区北新宿四一三三一八〇)

◎本誌創刊号、No.6を4000円、5000円(送料共)くらいで譲って下さい。往復ハガキまたは電話でご連絡下さい。

石本博徳(〒855 長崎県島原市三合町 電0357614-1508)

◎本誌No.1、4と6を5冊まとめて送料込みで3000円以内でお願します。ただし、ばくばく貧乏学生ですので2000円以上で譲って下さる方は、2回払いでお願いします。1冊でも結構ですが、送料込み6000円です。できれば美本を...

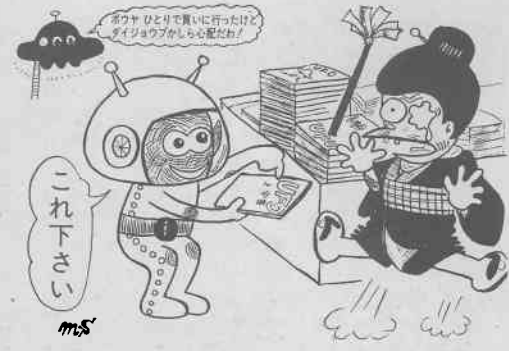
松田博樹(〒020 岩手県盛岡市上米内字米内沢八九)

◎UFOの写真を募集しています。焼き増しを一種類1枚ずつ送ってください。2枚1組とし、白黒なら1組200円、カラーは1組2000円、2300円で買います。ただし、UFO写真とわからないものはおとわりします。封筒に写真と希望の値段を書いてこちらへ。送料はこちらからお支払いします。

川島秀一(〒989-25 福島県郡山市湖南町福良字浦町前八四三三)

◎UFOの写真焼き増ししたいのですが、だれかネガを貸して下さい。どんなに写りが悪くてもよいのです。お願いします。隠している人はTEL031-953-0704へ連絡して下さい。

九七二一県営今宿里地五(四〇三) ◎本誌No.1(創刊号)の6の全部を30000円くらいで希望。近県の方ご連絡を待っています。今城行雄(〒933 宮城県仙台市旭ヶ丘三三〇二二 電0222-733-12890) ◎本誌創刊号を送料込み10000円で譲って下さい。UFOに関する資料や写真をお持ちの方、適価で譲っていただけませんか。まずハガキにてご連絡下さい。生駒清輝(〒223 神奈川県横浜市港北区日吉本町一五三三 NEC日吉製) ◎本誌別冊「UFO写真集」第1集を送料共8000円を譲って下さい。美品は値上げ可。また本誌No.6を送料共8000円で。両方譲って下さる方はUFOに関する資料進呈。金子貞彦(〒166 東京都杉並区高円寺北一一一七 電389-3471) ◎本誌創刊号、No.4までを2000円、25000円(送料共)で、No.6を5000円前後(送料共)で譲って下さい。できるだけ美本を、全部まとめて譲って下さり、美品であれば、記念切手を差し上げます。希望の値段を書いてハガキで連絡して下さい。沢口哲弥(〒514-01 三重県津市一身田豊野一四〇六二九一) ◎本誌創刊号、No.4までをまとめて80000円で譲って下さい。まずは往復ハガキで。細井 哲(〒665 京都府京都市東山区林下町山内四〇二)



●白井通恵(画) 静岡岡静岡岡

★交換して下さい

連絡を至急ハガキで下さい。

萬西新一(035-01 青森県南郡平賀町大字新屋字柴館八二)

◎本誌No.6が3冊あります。本誌創刊号、No.4のうち各1冊ずつと「続、恐怖の心霊写真集」50円をあなたの本誌No.3のうち2冊と「謎のパミューダ海域」をあなたの本誌No.2,3の2冊とをそれぞれ交換して下さい。また、UFOの写真、資料や書籍をUFO研究会の皆さん譲って下さい。送料は当方で負担します。それに私の「天文ガイド」10月号と「天文と現象」10月号を譲りますので、欲しい方は希望する値段を書いて連絡して下さい。

鈴木 篤(〒987-22 宮城県栗原郡築館町新田東三二二)

◎本誌創刊号、No.4,6が手元ありません。そこで私の本と交換して下さい。「惑星直列」50円「謎のパミューダ海域」60円もっていますが、本誌1冊に私の本1冊とお願しますが、3冊以上譲って下さる場合、1冊600円、800円で譲って下さい。送料は当方も。また交換を希望しない場合は1冊600円、800円で譲って下さい。送料は当方も。連絡は往復ハガキかハガキをお願いします。譲ってくれる号数と、交換希望か譲るかを明記して下さい。

中川康之(〒633-22 奈良県宇陀郡葛田町宇賀志)

◎宇宙人の謎とタロット・カードを交換して、竹内隆久(〒647-18 和歌山県東牟婁郡本宮町九鬼) 交換して下さい。ばくばくのUFO資料全部(本誌No.2と6、日本宇宙現象研究会会報四十九年度1年分、UFO写真集など)と、あなたの手塚治史マンガ現在絶版のもの。連絡はなるべく往復ハガキで。林 卓司(〒489 愛知県瀬戸市西一里塚町六九)

◎「新約聖書外典」「諸世紀原書」「宇宙意識の哲学的研究(山本佳人著)」を私の本と交換して下さい。3冊のうち1冊でも2冊でも結構。こちらにあるのは「宇宙人・謎の遺産」「仮説宇宙文明」「旧新約聖書」目で見ると中国史」など、まずは往復ハガキで連絡を。

田村広司(〒989-35 福島県郡山市麻郷町赤星) ◎講談社刊のトビー・ヤンソン全集第1巻「たのしみムーミン家」をおもちの方、本誌創刊号と交換して下さい。ハガキでの連絡を待っています。

河野一雄(〒884 宮城県栗原郡高鍋町東平原)

◎私のもっているタロット・カード(23000円のスイス製)と本誌創刊号、No.2,3,4,6のうちどれか2冊以上と交換して頂けませんか。まずは封書で連絡を！よろしく！

中野泰子(〒654-24 兵庫県津名郡淡路町岩屋片浜一四三二)

◎本誌No.2と4を高文社の「空飛ぶ円盤発見記」か「空飛ぶ円盤の秘密」と交換希望。まずは往復ハガキをお願いします。狩野俊晴(〒300-21 茨城県筑波郡谷田部町太字境田一八〇〇三 版泉方) ◎橋本健著「超物理学入門」と本誌No.1、4までと交換。また本誌No.5、No.13とエリック・ホフマン・デニケン著「未来の記憶」と交換して下さい。平野里使(〒470-03 愛知県豊田市東保見町 日本革新科学会) ◎本誌創刊号、No.12(切り抜き、汚れない美品)のどれでも結構ですから、日本・沖繩切手シート有り、と交換して下さい。詳しくはハガキで連絡して下さい。

加坂隆彦(〒729-43 広島県双三郡三良坂町九一〇) ◎ほかのもっている本誌創刊号、No.6(特製バイナリー付)と君のもっている昔のTVマンガのレコード6枚以上(できるだけ多く)と交換して下さい。まずはハガキで連絡をお願いします。

藤原 保(〒376 群馬県桐生市桜木町一三八八) ◎私の所持する「お化けの住所録」念力入門「超能力入門」「短波放送入門」(木星王のサイン入り)を「悪魔学入門」「西洋占いの術秘伝」と交換して下さい。少しくらい汚れていても構いません。ハガキで連絡して下さい。

国沢 拓(〒780 高知県高知市中奏泉寺二九二一) ◎大変あつかましいようですが、どなたかUFO資料、体験記、また写真UFOのネガがあったらタダで貸して下さい。送料は当方で払います。

鈴木 洋(〒883-56 宮城県栗原郡志波姫町北郷古戸二〇 電02282-21512230) ◎「超能力入門」末広辛幸郎60円「世にも不思議な物語」中岡俊哉著50円「世界の幽霊」スージーミス著50円「世界の怪奇ミステリー」庄司浅水著50円いずれも全くの良品なのです。「世界の幽霊」だけ表紙カバーが破れています。このうちのいずれかと、YOUのもっている本誌のどれかと交換しましょう。UFOの写真でも可。往復ハガキでね。TELもお忘れなく！

丸山順子(〒522 滋賀県彦根市金亀町九一五 電07492-218713) ◎ソニー・スカイセンサー6000と私のもっている本誌No.3, No.5, 15, 「UFO写真集」大陸書房の「古代電と円盤人」少しの資料と交換して下さい。本誌は切り抜き、書き込みなしの良品。まずは

UFOs & SPACE

No. 18 May-June, 1976

Price ¥390

Published by Universe Publishing Co., Ltd.

© 1976 All rights reserved

**Captions for Color Photographs****FLYING SAUCER HOVERS OVER TAKAMATSU CITY****Cover**

At around 2:00 p.m. of August 24 last year, Masahiro Fujikawa, a high school student of Takamatsu City, Kagawa Prefecture, had been tampering with his own astronomical telescope at the upstairs veranda of his house. When, he noticed that something flashed in the sky above Saitokuji Temple near his house. In an instant, he picked up his pocket size camera and took several pictures. The object first wound its way and, a moment later, it zoomed and got out of his sight, according to him.

UFOs AGAIN PHOTOGRAPHED OVER MT. KONGO-SAN**page 2-3**

For the past few years, the inhabitants in the area around Mt. Kongo-san, Nara Prefecture, have often seen orange luminous objects flying over their neighbouring mountains. One of the witnesses is Takeshi Yuba, 31-year-old schoolteacher of Nishi-Yoshino Village. He had taken many pictures of them since last summer. The picture on page 2, which was taken at 7:50 p.m. of November 3 last year, shows two luminous bodies coming down over the East side of the village. The other two pictures were taken at about 8:10 p.m. of March 27. The bodies, which had first hovered from the west to the east, circled halfway to the north and got out of sight, he added.

TRACE OF A STRONG LIGHT CAUGHT THROUGH CLOUDS**page 4-5**

At around 8:00 p.m. of October last year (the date obscure), Shoji Mukohyama, 37, sighted a strong light in the sky of Hachioji, suburban city of Tokyo where his resident is. Though the sky had been covered with thick clouds, he could see the light moving and caught it on a colour film. But, nothing else is known to him.

"IT ASCENDED VERTICAL FROM THE HILLSIDE OF MT. AOBA"**page 5**

Akio Akama, 28-year-old office worker of Sendai City, has sighted UFO-like objects ten times or more for the past several months. He had photographed one of them for the first time on the night of November 2, 1975. He said that the object had first ascended vertically from the hillside of Mt. Aoba and next flew horizontally to the south sometimes giving a strong luminescence. It took about two minutes from his first sighting of the object to the vanishing point. The white dot just under the trace of light on the picture appears to be Mars, he said.

A STAR SUDDENLY BEGAN TO MOVE**page 6-7**

At about 11:50 p.m. on March 7, 1976, Hideo Itoh, a technical high school student and also an astronomy enthusiast of Kiryu City, found an unfamiliar star when he was looking up at the midnight sky with his friend. When, suddenly, the star began to move giving off an orange light which means it was not really a star. Fortunately, he could catch it on a film as he had carried his own small size camera at that time.

UFO FLIES OVER KINKAKUJI TEMPLE OF KYOTO**page 6-7**

You may find a very similar orange object at upper left of each of these two pictures. Satoru Masuda, 26-year-old worker of an electric power company in Nagoya, took these pictures on November 2 last year during his trip to Kyoto. He said, "It might be an airship. But, I doubt if an airship flies inclined like these."



天体観測のテクニックを駆使してUFOに挑戦しよう!!

君の天体に対する強烈な好奇心・知識欲を満足させる地人書館の天文図書

月面の地図

小島修介編・村山定男監修・A全判
¥400・〒200

位置観測も研究してね!!

パロマ天体写真集

迫力ある宇宙の姿。①・わが銀河系、②・100億光年のかなた
大沢清輝解説 B4判・60頁・①¥750・②¥700・〒160

天体望遠鏡入門

天体望遠鏡を上手に使うために性能や機構をやさしく解説した
望遠鏡の手引き 太田健太郎著 B5判・128頁・¥700・〒160

'76年天文観測年表

観測するということから天体の運行をくわしい数値で記録した
天体の時刻表。観測必携の書 B5判・190頁・¥1,000・〒160

彗星の観測ガイド

天文ファンが知りたい新彗星の発見法を発見者の体験から詳しく
解説 天文と気象編集部編 B5判・104頁・¥580・〒160

おはなし天文学(1)(2)(3)

天文学の裏ばなしをユニークな筆致で描いた学校図書館協議会
選定図書 斉田博著 各巻・B6判・260頁・¥1,000・〒160

ほしぞらの探訪

望遠鏡をのぞき星や星雲星団を探がす楽しさを育てる日本図書
館協会選定図書 山田卓著 A5判・320頁・¥1,800・〒200

■天体写真講座／広瀬秀雄監修

夜空の星を美しく写し、また天体観測に使える写真にするため、
天体写真に役立つすべてを徹底的に追求してまとめた全4巻星の探し方から、天体望遠鏡の据付け方など天体写真の基礎知
識を総て集めた 下保茂著 A5判・240頁・¥1,500・〒200

天体写真の基本

日周運動から星野写真まで、天体の観測と関連して天体の写し
方を解説する 香西洋樹著 A5判・244頁・¥1,500・〒200

天体写真の写し方

写真を生かすも殺すも暗室しだい。天体写真は自分で仕上げな
ければ意味がない 秦茂著 A5判・240頁・¥1,500・〒200

天体写真のDPE

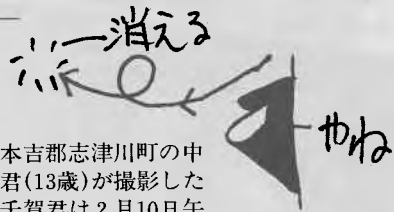
天体写真の高度な技術と天体写真の撮影にかかせない付属品の
作り方 香西洋樹・秦茂著 A5判・240頁・¥1,500・〒200

天体写真の応用と工作

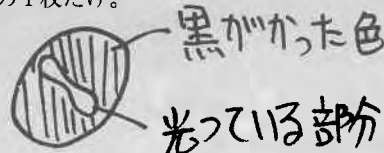


UFO、上空で一回転

—宮城県—



これは宮城県本吉郡志津川町の中
 学生・千賀崇之君(13歳)が撮影した
 UFOである。千賀君は2月10日午
 後1時頃、自宅の二階で円形のUF
 Oを発見。この物体は目の前で一回
 転したあと空中に消えてしまった。
 カメラで何枚か撮影したが成功した
 のはこの1枚だけ。



★本誌バックナンバー

(第9号までの旧題号は「コスモ」)

★わが国唯一の《空飛ぶ円盤》専門誌「UFOと宇宙」は今や世界のトップクラスを行く専門誌！ 全国のUFOファンに大反響！ ★バックナンバーは貴重な記事と写真の宝庫！ 品切れ後はすべて絶版となる。在庫あるうちにぜひ入手し、UFO研究資料として保存しよう！ 今すぐユニバース出版社業務部へ直接に注文しよう！ ★1・2・3・4・6号は売切れ、絶版。5号・7号・8号は残部僅少！

送料1冊¥160 2~3冊¥200 4~6冊¥240

※5号を倉庫の奥より200部発見！ 早いものがち！

第10号(1975年1月発売) ¥360

●銀色の服を着た宇宙人高梨純一 ●科学を曲げる男、ユリ・ゲラーゴードン・クレイトン ●月世界の謎を探る宮本正太郎 ●NASAの活動とその未来中村政雄 ●UFO情報 ●UFO目撃レポート ●宇宙・引力・空飛ぶ円盤(5)レナード・クランプその他

第11号(1975年3月発売) ¥360

●月面は円盤の中継基地か 藤沢潤一郎 ●ニューヨーク州の着陸事件 テッド・フリーチャー ●UFO情報 ●UFO目撃レポート ●1980年代の宇宙連絡船 河島信樹 ●アダムスキー型円盤、尾道市に出現！ ●宇宙・引力・空飛ぶ円盤(完)レナード・クランプその他

第12号(1975年5月発売) ¥360

●甲府市にUFO着陸！ ●オーストリアの光るカタツムリ状物体E・ベルガー ●古代の天空人 エーリッヒ・フォン・デンケン ●UFO情報 ●UFO目撃レポート ●科学ニュース ●重力波とは何か 千葉二郎 ●ソ連圏のUFO現象(1)シベリアの謎の大爆発 その他

第13号(1975年7月発売) ¥360

●千葉市にアダムスキー型円盤出現！ ●円盤に乗った宇宙人を見た！ ●炎をふく不思議な物体 ●UFO情報 ●UFO目撃レポート ●宇宙交通のためのテレパシー 通信市村俊彦 ●中学生にもわかる微分積分(1)三好要市 ●ソ連圏のUFO現象(2)ルーマニアのUFO出現事件 その他

第14号(1975年9月発売) ¥390

●円盤をよく見る人 ●私は金星文字を解読した！ ●マールセル・オム教授の不思議な発見物 ●大気圏外生命体とのコンタクト？ ●実在する超感覚と念力 ●中学生にもわかる微分積分(2) ●ソ連圏のUFO現象(3)「ユーゴスラビアのUFO出現騒動」 その他

第15号(1975年11月発売) ¥390

●ステラ・ランシング夫人の不思議な写真 ●ドラギニヤンの怪事件 ●ワルヌトンの奇怪なロボット ●UFO情報 ●聖書の予言とスペース・プログラム(1) ●原子エネルギーの秘密 ●中学生にもわかる微分積分(3) ●ソ連圏のUFO現象(完)(続)ルーマニアのUFO出現事件 その他

第16号(1976年1月発売) ¥390

●三原市の驚異コンタクト事件 日本列島は沈没する？ ●(写真)月面の人エトンネル？ ●テレポーションとテレパシー 平野威馬雄 ●名古屋上空に円盤大挙出現！ ●聖書の予言とスペース・プログラム(完) ●中学生にもわかる微分積分(完) ●X博士の怪UFO事件 その他

第17号(1976年3月発売) ¥390

●(口説写真)月面の謎 ●巨大円盤、横須賀に出現！ ●ロジャース声明の真相 ●UFOは地球の救済に来るのか ●アポロの飛行士は月で地球外文明を見た？ ●井原西鶴の作品に現れるUFO ●奇蹟を起こす方法 テッド・オーウェン ●ピーター・フルコスの驚異的大発見！ その他

豪華版 変わりが国最初の(空飛ぶ円盤)写真集

UFO写真集

絶賛発売中！ カメラでとらえた
 驚異の記録！
 ¥1300 千300

戦後世界各地で目撃され、日本にもひんぱんに出現して重要問題となった神秘の飛行物体の正体は？ 全国のUFOファンの要望にこたえてUFO研究界の第一人者久保田八郎が和英両文で解説 ★世界のめずらしい貴重な写真の集大成 ★カラー写真21点、白黒写真33点・大画面 ★ワイドな画面からグーッとくる迫真感！ ★A4版(21cm×29.7cm)・極上アート紙使用 ★美麗カバー付き豪華版・長期保存可能

バインダー

荷造1~2個 ¥350
 送料3~4個 ¥700

●1カ年6冊分一括保存用必需品
 ●極厚手表紙、布装、表面背共金文字箔押。本社宛直接ご注文下さい。

■当社刊行物が書店にない場合は、振替・現金書留・小為替・低額切手等で当社宛直接ご注文下さい(収入印紙は不可)。代金あと払いの注文はおことわりします。 ■最近、住所不明で返送される郵便物が増えています。ご注文の際は必ず郵便番号・住所(アパート名なども記入のこと)・氏名・電話番号・注文品名・号数・冊数を明記して下さい。ユニバース出版社

高性能精密器 均等10ヵ月払 初回金1/10でおてもとへ ニコルス

たしかな品質 / 合理的良心価格
ご不満のときは交換・解約・返金自由



高級対物主鏡
大口径114mm
の人気機種

決定版114mm
反射赤道儀

注文番号82-001

ニコルスMS-1149

注文番号82-002

ニコルスMK-1149

【定 格】

対物主鏡114mmアルミナ
イズ済、斜鏡短径25mm
アルミナイズ(二本足取
付)、焦点距離900mm、分
解能1.00秒、集光力265
倍(肉眼)、極限等級12.0
等星、鏡筒内径138mm、
鏡筒全長940mm、フタ付
【付属品】
接眼レンズHM6mm(150
倍)、HM12.5mm(72倍)、
ファイナダー5×24mm、
サングラス、木脚(2段
式)、三角板、フレキシ
ブルハンドル

初回金3,000円 円1,500円
分割払金(円)3,000円×9回
分割払価格30,000円
現金価格26,000円

【定 格】

対物主鏡 114mmアルミ
ナイズ済、焦点距離900
mm、集光力265倍、分解
能1.00秒、極限等級12
.0等星

【付属品】

接眼レンズHM6mm(150
倍)、HM12.5mm(72倍)、
HM20mm(45倍)、写真
雲台、ムーングラス、
ファイナダー5×24mm、
サングラス、木脚(2段
式)、ウエイト2個、フ
レキシブルハンドル(2
個)、三角板

初回金5,500円 円1,500円
分割払金(円)5,500円×9回
分割払価格55,000円
現金価格49,500円

二光カタログハウスチェーン
営業時間 AM10:00-PM7:00

ビバ店

（印鑑をご持参下さい）
帰りのOK！
来店下さい。初回金でお持ち
示販売中！お急ぎの方は、こ
告の商品はビバ店にて展



ビバ光電店秋葉原店
年中無休

TEL03(832)0713

今すぐのご注文は

- ご注文番号か品名を紙に書いて、月賦は初回金と送料を現金書留封筒でお送り下さい。
- 一時払いは同じ方法で現金価格と送料をお送り下さい。

あて先

〒133・東京都小岩局48号
ニコー技研(株)
74係

カタログのお申込は

只今無料進呈中
商品を選びくわしく知りたい方は、カタログをお申込み下さい。
下記のカタログ進呈券をハガキのうらにはってお送り下さい。無料でお送りいたします。



カタログ進呈券74係

〒133 東京都江戸川区南小岩 3-7-10 **ニコー技研 74係** 03(650)0405

〈苦情相談〉この広告についての商品未着や商品苦情は、ご遠慮なくお申し出下さい。東京都江戸川区西小岩3-31-11 新井ビル2Fニコー消費者相談室 ☎03(672)8558

初回金 **1** でおて **均等** **10**ヵ月払



ご不満のときは交換・解約・返金自由

使いやすく手軽な価格
赤道儀式の標準機

注文番号82-617

ニコルスRK-609IA

いま注目の
短焦点、視野が広く
明るい赤道儀式

注文番号82-606

ニコルスRK-6050

【定 格】

対物レンズ60mmアクロマート(セミコート)、焦点距離900mm、集光力73倍(肉眼)、分解能1.93秒、極限等級10.7等星、鏡筒径63mm、全長890mm(接眼部除く)、赤道儀歯数138枚、赤緯と赤経目盛付

【附属品】

接眼レンズHM6mm(150倍)、HM12.5mm(72倍)、HM20mm(45倍)、写真雲台、ムーングラス、ファインダー5×24mm、サングラス、木脚(2段)、天頂プリズム、フレキシブルハンドル(長短2個)、バランスウェイト(0.5kg2個)

初回金4,400円 円1,000円
分割払金用4,400円×9回
分割払価格44,000円
現金払価格38,800円

【定 格】

対物レンズ60mmアクロマート(セミコート)、焦点距離500mm、集光力73倍(肉眼)、分解能1.93秒、極限等級10.7等級、鏡筒径63mm、全長490mm(接眼レンズ除く)、赤道儀歯数140枚、赤緯及び赤経目盛付

【附属品】

接眼レンズHM6mm(83倍)、HM12.5mm(40倍)、HM20mm(25倍)、写真雲台、サングラス、ファインダー5×24mm、ムーングラス、フレキシブルハンドル2個(長短)、ウェイト2個、木脚(2段式)

初回金4,500円 円1,000円
分割払金用4,500円×9回
分割払価格45,000円
現金払価格39,800円

今すぐのご注文は

- ご注文番号か品名を紙に書いて、月賦は初回金と送料を現金書留封筒でお送り下さい。
- 一時払いは同じ方法で現金価格と送料をお送り下さい。

あて先

〒133・東京都小岩局48号
ニコー技研(株)
74係

カタログのお申込は

只今無料進呈中
商品をよりくわしく知りたい方は、カタログをお申込み下さい。
下記のカタログ進呈券をハガキのうらにはってお送り下さい。
無料でお送りいたします。



カタログ進呈券74係

〒133 東京都江戸川区南小岩 3-7-10 ニコー技研 74係 03(650)0405

(苦情相談) この広告についての商品未着や商品苦情は、ご遠慮なくお申し出下さい。東京都江戸川区西小岩3-31-11 新井ビル2Fニコー消費者相談室 ☎03(672)8558

高性能精密器ニコルス

お求めやすい均等/分割クレジット

たしかな品質・合理的良心価格



上下水平微動の最高級機

注文番号82-615

ニコルスRS-6091A

上下微動装置の
ついた初心者向
きの決定版

注文番号82-613

ニコルスRJ-6092A

【定 格】

対物レンズ60mmアクロマート(セミコート)、焦点距離900mm、集光力73倍(肉眼)、分解能1.93秒、極限等級10.7等星、鏡筒径63mm、全長890mm(接眼レンズ除く)

【附属品】

接眼レンズHM6mm(150倍)HM12.5mm(72倍)、ファインダー5×24mm、天頂プリズム、サングラス、木脚(2段式)、フレキシブルハンドル

初回金2,300円 円900円
分割払金月2,300円×9回
分割払価格23,000円
現金払価格20,000円

【定 格】

対物レンズ60mmアクロマート(セミコート)、焦点距離900mm、集光力73倍、分解能1.93秒、極限等級10.7等星、鏡筒径63mm、全長890mm

【附属品】

接眼レンズSR4mm(225倍)、HM12.5mm(72倍)、ファインダー5×24mm、天頂プリズム、サングラス、木脚(2段式)、上下微動機

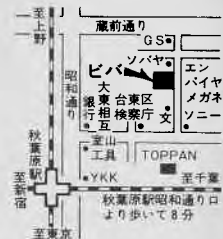
初回金1,950円 円900円
分割払金月1,950円×9回
分割払価格19,500円
現金払価格16,500円

二光カタログチェーン
営業時間 AM10:00-PM7:00

ビバ店 ビバ光電秋葉原店
年中無休

●TEL03(832)0713

広告の商品はビバ店にて展示
発売中!お急ぎの方は、ご来店
下さい。初回金でお持帰りOK!
(印鑑をご持参下さい)



●本書はユニバース出版社国内独占販売のため一般書店
ではお求めできません。ご購入の場合は、代金を現金書
留または振替で直接当社業務部までお送り下さい。なお
5日間無料で本書をご覧になれる方法もあります。ご希
望の方は当社業務部まで資料(無料)をご請求下さい。

国内総販売元

株式会社 **ユニバース** 出版社

〒110東京都台東区上野5-1-6ヤマトビル 振替東京1-119478



最大の冒険

ADVENTURE

BRM SELAH 社版

月面と宇宙

●世紀の大偉業“アポロ計画”の全貌公開。アメリカ航空宇宙局(NASA)提供による驚異のカラー写真119点、モノクロ写真11点がある。あなたを未知の大宇宙へご案内します。

●本書(BRMセラー社版)は横25.5cm、タテ34.3cmの特大版で本文極上アート紙使用、極厚手表紙・カバーつき、総頁数128の豪華写真集です。詳細な英文解説に別冊日本語版(全訳)がつきます。

●科学研究者・天文ファン、学校・図書館等の公共施設はもちろん、ご家庭の教養図書としてもぜひ一冊おそなえ下さい。

定価11,000円(梱包送料600円)

米国直輸入

MAN'S
GREATEST
超豪華版



会員募集

★UFOと宇宙哲学の研究グループ★

日本GAP

わが国UFO研究界の先駆者久保田八郎はジョージ・アダムスキー研究者としても著名であるが、1961年よりアダムスキー主宰の世界GAP（知らせる運動）の組織網の日本代表となり、日本GAPを設立。以来あらゆる困難と障害を乗り越えて、アダムスキーの特別な体験と宇宙の哲学の促進活動を展開してきた。異機機誌「GAPニュースレター」をすでに58号まで発行。毎月上野公園の東京文化会館で月例研究会を開催。『テレパシー』講義、テレパシー練習、研究発表などを行い、宇宙の法則と人間の真の生き方を探求。月例会終了後は夕會を開催して会員の親睦を図る等、奉仕的個人活動として啓蒙運動を続行中である。真剣な探求者のご参加を歓迎いたします。

不定期刊機機誌
GAPニュースレター ●本格的活版印刷・B5版・横上アート紙40ページ ●UFOに関連して、他の惑星の偉大な人類存在(第58号発行中)の認識と宇宙の法則の探究専門誌(主要記事)(第57号までは品切れ絶版)
 想念観察
 進歩した思索家のために(未公開遺稿)(2)・・・ジョージ・アダムスキー(連載)米国GAP訪問記「きらめくビスタの星」(2)(写真多数掲載)・・・久保田八郎「青きパロマーの空」

その他
 入会希望者は50円切手付宛名明記返信用封筒を同封の上、「UFOと宇宙」18号で見たと書きそえてます案内書をお申し込み下さい。高度な哲学的研究グループにつき、入会は高校生以上に限ります。非会員に機機誌の1冊売りはしません。
 〒133東京都江戸川区本一色町365-818 **日本GAP**(代表)久保田八郎

UFO探知機

超高感度 国産唯一の本格的磁気探知機!

現在150台が全国で活躍中!!
既にUFO探知成功8件!!



T-3b型

T-5型.....¥9,000
 T-3a型.....¥18,000
 T-3b型.....¥19,000

■その他、連続観測用のACアダプター及び、補助電池ボックス(新製品)があります。

申込先: 〒213 神奈川県川崎市高津区長尾1606
折田 至
 Tel. 044-866-8347

●カタログ請求は100円切手をお送り下さい。

TAMA SOUL BOOKS

念力スプーン 真実だ

グラー効果はトリックか真実か。日本の超能力少年達による実験証明 市村俊彦 内田秀男 芝山輝共著 六八〇円 二一〇

宇宙折哲学 新版 上製

地球人類より数万年も進化した他惑星人から伝えられた宇宙の真実 アダムスキー 著 久保田八郎訳 七五〇円 二一六〇

ソ連圏の四次元科学

80億円の国家予算でUFOテレパシー、念力の研究を軍事や宇宙開発に応用しようとする共産圏アカデミー上巻(ソ連前編)下巻(ソ後ブルガリア・チェコ編)オストラランダー他著 照洲みおの訳 各巻1150円 二200

ノストラダムス大予言原典

大地震、パニック、第三次大戦への宇宙人の介入など世界三大予言者の未来を集約。西暦3000年までの予言書「諸世紀」の全訳と解説ノストラダムス著 ロバート編 内田秀男監修 大乗和子訳 保存版2400円 二200

162 東京都新宿区納戸町33 **たま出版** 電話03-260-4367 振替東京94804

異色考証

キリストは日本で死んでいる

日本の古代遺跡に刻まれた神代文字が物語る驚異の歴史。神武天皇以前の太古の記録。シヤカ、キリストの来日、古代大陸文明の世界的交流を多数の遺跡写真で解説する。宇宙考古学の原典復刻。 山根ギク著 九五〇円 二一六〇

最新刊絶賛発売中!!

超能力クロアゼ 捜査官

世紀の千里眼能力者の記録。迷宮入犯罪の解決、古代遺跡の過去透視、大学での未来予知実験等 Jポラック著 山下仁訳 九五〇円 二一六〇

思念力百科

セルフコントロールやテレパシーをエンブレト秘術から現代心理学などあらゆる超能力開発法で新方式図解 佐々木浩一著 九五〇円 二一六〇

エドガー・ケイシー秘密シリーズ

超能力の秘密

超能力開発の原理と実践法 二一〇〇円 二一六〇

転生の秘密

二五〇〇の生まれ変わり例 一三〇〇円 二一六〇

夢予知の秘密

夢でああなたの未来を知る! 一三〇〇円 二一六〇

5年間品質保証書付

◆MOP高性能天体望遠鏡 (通産省光学検査合格品)
 ◆MOP本格派双眼鏡 (通産省光学検査合格品)

発売元「INTEL」株式会社インテル
 製造元 武蔵光学株式会社

UFOをとらえるのはここだ!

MOP607型

入門用60%屈折型

規格・性能 焦点距離
 700mm 有効径60mm(ア
 クロマートレンズ使用)
 分解能1.9秒 極限等級
 10.7等星 集光力73倍

付属品 サングラス
 6×24mmファインダー
 天頂プリズムHM6mm
 H20mm 木製2段伸縮
 三脚



特価15,000円
 (送料1,400円)

MOP610型

規格・性能 焦点距離 研究観測用高級機
 1,000mm 有効径60mm 60%屈折赤道儀式

(アクロマートレンズ
 使用) 分解能1.9秒 極
 限等級10.7等星 集光
 力73倍

付属品 サングラス
 6×30mmファインダー
 天頂プリズムHM6mm
 HM12.5mm K20mm
 バランスウェイト2 フ
 レキシブルハンドル2
 木製2段伸縮三脚



特価41,000円
 (送料2,000円)

MOP M108型

アクティブな入門用
 100%反射型

規格・性能 焦点距離
 800mm 主鏡レンズ有
 効径100mm(主鏡アルミ
 ナイズメッキ) 分解能
 1.16秒 極限等級11.8
 等星 集光力204倍

付属品 サングラス
 6×24 ファインダー
 HM6mm H20mm 木
 製1段三脚



特価21,000円
 (送料1,500円)

MOP M109型

研究観測用高級機
 100%反射型赤道儀式

規格・性能 焦点距離
 900mm 主鏡レンズ有
 効径100mm(主鏡アルミ
 ナイズメッキ) 分解能
 1.16秒 極限等級11.8
 等星 集光力204倍

装置 直進ヘリコイド
 式繰出(接眼レンズ口
 径24.5mm用) 赤道儀兼
 経緯台 微動装置ウォ
 ームギヤ使用 赤経
 ・赤緯目盛環付



特価42,000円
 (送料2,000円)

MOP双眼鏡

規格・性能 倍率20倍
 対物レンズ有効径50mm
 実視界3度 ひとみ径
 2.5mm 重さ1,050g
 付属品 ハードケース
 保証書 使用説明書

全機種特価

- 6×30 8,500円
- 8×30 8,800円
- 7×35 9,300円
- 7×50 10,500円
- 10×50 11,000円
- 12×50 11,300円
- 16×50 11,500円
- 20×50 12,600円
 (送料800円)

高倍率で明るく!



20×50

特価12,600円
 (送料800円)

●ミクロンシリーズ

MOP双眼鏡

ポケットにピッタリ!

8×20()内は10×40

規格・性能 倍率8倍
 (10倍) 対物レンズ有
 効径20mm(40mm) 実視
 界5.5度(7.1度) ひと
 み径2.5mm(4mm) 重さ
 265g(500g) 付属品ソ
 フトケース(ハードケース)



8×20 特価13,000円(送料800円)
 10×40 特価16,800円(送料800円)

カタログ無料送呈

当社全製品満載のカタ
 ログを無料で差し上げま
 す。切手100円を同封し
 下の請求券をはって
 お申し込み下さい

ご注文方法

あて先

〒198東京都八王子市小比企町2957-9 TEL0426-26-7041(代)

(株)インテル 光学事業部 UFO係

当社製品の販売代理店を募集します。当社まで資料をご請求下さい。またこの広告につ
 いてのお問い合わせは当社調査室(TEL0426-25-7941)までお電話でお願い致します。

カタログ請求券
 UFO18

読者の皆さまへ

当社移転のご案内

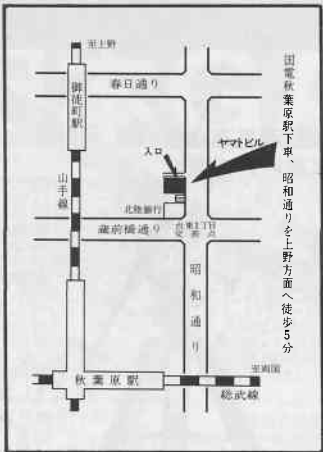
日頃「UFOと宇宙」をご愛読いただきありがとうございます。

さて、当社は四月一日より左記へ移転いたしました。業務内容は従来通りです。今後とも当社刊行物にご愛顧をたまわりますよう、よろしくお願い申し上げます。

旧所在地 〒110 東京都台東区秋葉原三二三 アキバビル
新所在地 〒110 東京都台東区上野五―一―六 ヤマトビル
新電話番号 ○三(八三二)一三四一

〒110 東京都台東区上野五―一―六 ヤマトビル
株式会社 ユニバース出版

代表取締役社長 久保田八郎



● UFO目撃報告と写真を募集
UFO(未確認飛行物体)の目撃報告と写真を募集します。左に掲げた各項目を参考にして、なるべく正確な詳細な報告をお送り下さい。掲載された分には薄謝を呈しします。写真の場合はできればネガもいっしょにお送り下さい。ただし本誌に掲載後に偽作であることが判明してトラブルが生じた場合、本誌は一切の責任を負いませんので、その点をあらかじめご了承下さい。その他、各種新聞雑誌などに掲載されたUFO関係の記事・写真類の切抜きも歓迎します。

● UFO目撃報告用参考事項

(1) 目撃者 住所氏名(できれば本人の写真を添える)、年齢、職業(学生の方は学校名・学年)、電話番号(匿名を希望の場合は本名明記の上、その旨を付記すること)、同時目撃者の有無、その他。

(2) 目撃場所 地名、付近略図、時刻、天候、目撃継続時間、その他。

(3) 物体 飛行物体の形(スケッチを添えること)、大きさ、色、その他。

(4) 飛行状態 仰角、方向、飛行中の形態の変化、飛行中の色の変化、飛行中の光度の変化、推定速度及び高度、その他。

(5) 観測機器 使用の場合はその機器名、性能その他を付記する。

(6) 撮影用具 カメラを使用の場合はカメラ名、使用フィルム、レンズ名、絞り、シャッタースピードその他のデータを付記する。

注意 ① UFO目撃報告に添付された図面は、信憑性を高めるためにそのまま掲載しますから、原目の白い紙に黒インクで黒鉛(黒ペン)を使用して描いてください。(ペンの入った便箋紙は不可)

送り先 〒110 東京都台東区上野五―一―六 ヤマトビル

ユニバース出版社 UFO資料調査部

● UFO関係記事の原稿も募集

四百字詰原稿用紙(○枚)四〇枚まで。

採用分には稿料をさしあげます。

Across the Editor's Desk

★ 近来の大不況の波には抗しがたくな本誌も本号より紙質を変えてオフセット印刷に踏み切らざるを得なくなりました。しかしこれにより今後の永続発行の基盤が確立されましたので、内容充実に一段と拍車をかけて名実共に世界のトップクラスをゆくUFO専門誌の地位を確保します。ご期待ください。

★ 本号よりレナード・クランプの名著「宇宙・引力・空飛ぶ円盤」の続編を連載します。これは昨年のアンケートにより支持記事のトップにはいたもので、今回より具体的な推進法の解説が展開します。科学派の方には絶好の資料になるでしょう。

★ 今回から有名人のUFOインタビューを連載することにし、岡崎友紀さんにトッパをきっていただきました。彼女がUFO問題にくわしいのにおどろいた次第です。

★ ユニバースUFOシリーズ第二弾「宇宙からの訪問者」は大好評裏に初版が売り切れてご迷惑をおかけしましたが、増刷第二版が出ていますので、入手できなかつた方はこの機会にお求めください。書店にない場合は本社へ直接ご注文ください(急送いたします)。(R)

UFOと宇宙 一九七六年六月号

第18号

編集発行人 久保田八郎

発行所 株式会社ユニバース出版

〒110 東京都台東区上野五―一―六

電話(832)1341(代表)

振替・東京1119478 ヤマトビル

印刷所 三晃印刷株式会社

昭和五十一年六月一日発行

(隔月刊・奇数月二十日発売)

定価三九〇円・送料一六〇円

年ごめ講読料・送料共三二〇〇円

(地方の書店で入手できない場合は本社へ直接ご注文下さい)

● 本誌掲載記事・写真の無断転載を禁じます。

● 海外の記事はすべて翻訳転載権取得済。

スリーピーチUFOシリーズ

・ UFOシリーズは正立像です。天体用(倒立像)はUFOシリーズより価格が安く成ります。

<p>No.MTZ40S アクロマートレンズ 口径 40mm 倍率 ズーム変倍 15×~40× ¥9,000 送料 ¥600 (¥7,200)</p>  <p>〔天体地上兼用〕</p> <p>性能 1.93秒・10.7等星・73倍</p>	<p>No.ST60A-UFO アクロマートレンズ D60mm F800mm 倍率 100× 44× 上下微動装置 特價 ¥18,000 送料 ¥1,000</p>  <p>〔天体地上兼用〕</p> <p>性能 1.93秒・10.7等星・73倍</p>	<p>No.ST63A-UFO アクロマートレンズ D60mm F1,000mm 倍率 125× 55× 上下微動装置 特價 ¥19,500 送料 ¥1,000</p>  <p>〔天体地上兼用〕</p> <p>性能 1.93秒・10.7等星・73倍</p>	
<p>ビクトリー701-UFO アクロマートレンズ D60mm F700mm 倍率 114× 56× 上下微動装置 水平微動装置 特價 ¥25,800 送料 ¥1,200</p>  <p>〔天体地上兼用〕</p> <p>性能 1.93秒・10.7等星・73倍</p>	<p>No.ST67A-UFO アクロマートレンズ D60mm F1,000mm 倍率 125× 50× 上下微動装置 水平微動装置 特價 ¥30,500 送料 ¥1,200</p>  <p>〔天体地上兼用〕</p> <p>性能 1.93秒・10.7等星・73倍</p>	<p>グレートビクトリー700-UFO 屈折赤道儀 アクロマートレンズ D60mm F700mm 倍率 117×56× 経緯微動装置 経緯目盛環 特價 ¥35,800 送料 ¥1,200</p>  <p>〔天体地上兼用〕</p> <p>性能 1.93秒・10.7等星・73倍</p>	
<p>No.ST1000-UFO アクロマートレンズ 屈折赤道儀 D60mm F1000mm 倍率 167× 80× 40× 経緯微動装置 経緯目盛環 特價 ¥43,800 送料 ¥1,500</p>  <p>〔天体地上兼用〕</p> <p>性能 1.93秒・10.7等星・73倍</p>	<p>No.SST600 アクロマートレンズ 屈折赤道儀 D60mm F910mm 倍率 150× 73× 45× 経緯微動装置 経緯目盛環 特價 ¥42,000 送料 ¥2,000</p>  <p>〔天体地上兼用〕</p> <p>性能 1.93秒・10.7等星・73倍</p>	<p>No.SST76 アクロマートレンズ 屈折赤道儀 D76mm F910mm 倍率 151× 73× 36× 経緯微動装置 経緯目盛環 特價 ¥55,000 送料 ¥2,000</p>  <p>〔天体地上兼用〕</p> <p>性能 1.5秒・11.2等星・118倍</p>	
<p>No.SST80 アクロマートレンズ 屈折赤道儀 D76mm F1,250mm 倍率 208×100× 50× 経緯微動装置 経緯目盛環 特價 ¥62,000 送料 ¥2,000</p>  <p>〔天体地上兼用〕</p> <p>性能 1.5秒・11.2等星・118倍</p>	<p>プリズム双眼鏡(アクロマートレンズ・ケース付)</p> <p>← No.SB1030 倍率10× D30mm 特價 ¥8,000 送料 ¥500</p> <p>← No.SB1050 倍率 10× D50mm 特價 ¥11,000 送料 ¥600</p> <p>← No.SB2050 倍率20× D50mm 特價 ¥12,000 送料 ¥600</p> <p>← No.KB3070 特大型高さ26cm 倍率30× D70mm 特價 ¥33,000 送料 ¥1,000</p>   		<p>くわしくは 切手300円 同封の上、総合</p> <p>カタログNo.12</p> <p>お申込み下さい</p> <p>屈折式望遠鏡 反射式望遠鏡 望遠鏡部品 双眼鏡 顕微鏡</p> <p>〒121東京都足立区 平野3-7-17</p> <p>K.K.スリーピーチ サービスセンター UFO係</p>

特選光学機器通信販売のお知らせ

マニアに朗報! 自宅でお好きな機種が選べる

下記5大メーカーの光学器を、お手元のカタログで比較検討し
ご注文いただくシステム、ぜひ93年の伝統と信用を誇る

東京メガ本を
ご利用ください。

〈取扱メーカー〉

アストロ
ニコン
五藤
ミザワ
ビコー
光学
ザール
ン

〈取扱商品〉

天体望遠鏡
地上望遠鏡・双眼鏡
顕微鏡・拡大鏡

他付属品及部品類など、
多数取り揃えております。

●カタログ(5大メーカーカタログ)ご希望の方は切手380円を同封してお申し込みください。なお、お買上げ商品は、どこでも無料配送いたします。いま当社通信販売にて10,000円以上お買上げの方に限り全員に「彗星を追う」「'76天文観測年表(天文気象年鑑)」「新天体写真技術」のうちご希望の専門書を一冊無料進呈致します。



お問い合わせは
株式会社 東京メガ本 光学通販B係

〒154 東京都世田谷区若林1-20-11
TEL 東京03(413)8711 (大代表) 郵便振替口座 東京134345・私書函世田谷局第33号

メガネは顔の一部です…だから
東京メガ本

支店 = 国内24・海外 = 香港店、九龍店 工場 = 東京・群馬

編集発行人 久保田八郎 発行所 株式会社ユニバース出版社 千田東京都台東区上野五のの六ヤマトビル 電話(八三三)二二四二(代表)